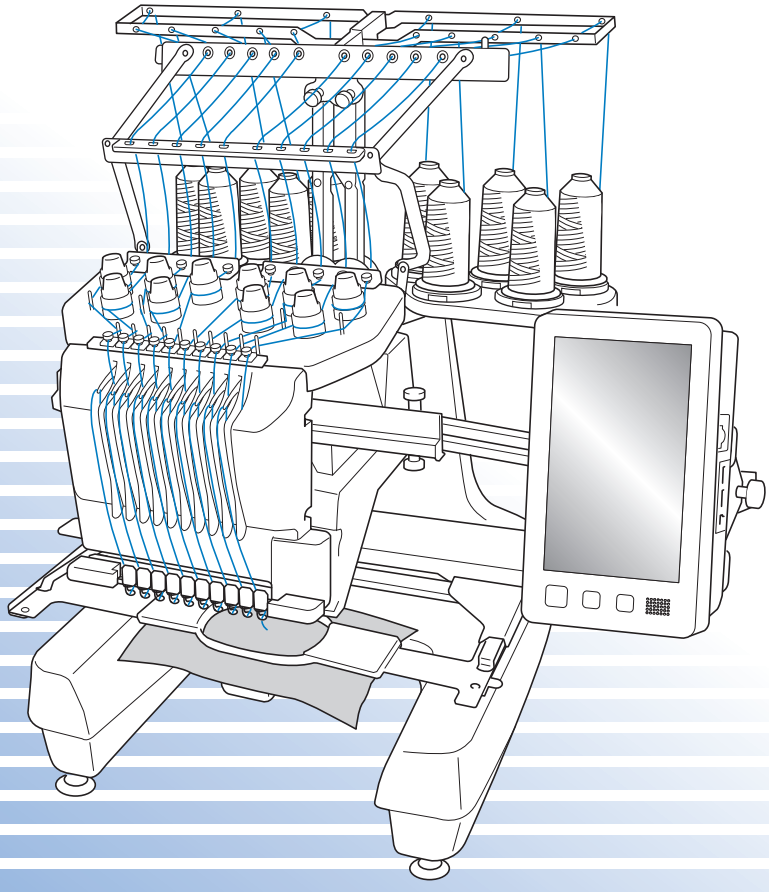
取扱説明書

職業用刺しゅうミシン

PRT13 シリーズ



● ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
● 取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

商標について

IBM は International Business Machines Corporation の登録商標または商標です。
Microsoft、Windows および Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびそのほかの国における登録商標または商標です。

本製品および本取扱説明書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。
ただし本文中には® および ™ 等のマークは明記しておりません。

オープンライセンス公開

オープンライセンスに関する記述は、弊社サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（http://support.brother.co.jp/）の製品マニュアルをご覧ください。

はじめに

このたびは、当社の製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
お使いになる前に「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、本取扱説明書で機能や使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。
また、お読みになった後はいつでもご覧になれるところに保証書とともに保管してください。

安全にお使いいただくために

取扱説明書および本製品で使われている表示や絵文字は、本製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。その表示や意味は次のとおりです。

⚠ 警告	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

取扱説明書で使用している絵文字の意味は次のとおりです。


特定しない禁止事項


特定しない危険通告


針の下に指を入れないでください


感電の危険があります


分解してはいけません


火災の危険があります


水にぬらしてはいけません


特定しない義務行為


電源プラグを抜いてください

本製品を安全にお使いいただくために、以下のことがらを守ってください。

⚠警告



- 一般家庭用電源AC100Vの電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
  - ミシンのそばを離れるとき
  - ミシンを使用したあと
  - 運転中に停電したとき
  - 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
  - 雷が鳴りはじめたとき

⚠注意



- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。



- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。



- 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。傷んだプラグ・緩んだコンセントは使用しないでください。



- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お買い上げの販売店または「PR/VR専用ダイヤル」にご連絡ください。



- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

⚠注意

	● 直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は5～40℃です。ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの被膜が溶けて火災・感電の原因となります。
	● 火気（火の消えていないたばこ、ろうそくなど）の近くでは使用しないでください。刺しゅう枠の移動によって縫製物へ引火し、火災の原因となるおそれがあります。
	● 野外でのご使用は避けてください。雨などが降り、本体がぬれて感電の原因となります。また、ぬれたときはお買い上げの販売店または「PR/VR専用ダイヤル」にご連絡ください。
	● 以下の場所に設置、保管をしないでください。故障の原因になります。 • 温度が著しく高くなる場所 • 温度が著しく低くなる場所 • 急激に温度が変化する場所 • 湿気、湯気の多い場所 • 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所 • 屋外や直射日光の当たる場所 • ほこり、油煙の多い場所
	● スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。 スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。
	● ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてケガをする原因となります。ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。
	● ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から30 cm以上離してお使いください。また、換気口に糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。
	● ミシン本体の上に花びんや水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買い上げの販売店または「PR/VR専用ダイヤル」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	● 換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお買い上げの販売店または「PR/VR専用ダイヤル」にご連絡ください。

⚠注意

	● ミシン本体の重さは約42.5kgあります。ミシン本体を持ち運びする際は急激、または不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。
	● ミシン本体は、必ず底部の指定箇所を持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落としたりして、ケガの原因となります。
	● ミシンを移動させるときは、操作パネルや糸案内、その他の部品に接触しないように注意してください。ケガをするおそれがあります。
	● ミシン本体には取扱説明書に記載されている正規の部品を使用してください。他の部品を使用するとケガ・故障の原因となります。
	● お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電・ケガの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お買い上げの販売店または「PR/VR専用ダイヤル」にご依頼ください。
	● 取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。ケガ・感電の原因となります。
	● **ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針、プーリー、キャリッジなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。**ケガの原因となります。
	● 縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。ケガ・針折れの原因となります。
	● **針の下などに指を入れないでください。**ケガをするおそれがあります。
	● 上糸、下糸等に関する操作については、取扱説明書の指示に従って正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみ等が発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
	● 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
	● 万一、ミシン本体が水に浸かったり、誤って落としたりして破損または故障した場合は、ただちに使用をやめてお買い上げの販売店または「PR/VR専用ダイヤル」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	● 万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または「PR/VR専用ダイヤル」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。
	● ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。
	● 同梱のはさみやリッパーは、本来の目的以外で使用しないでください。また、リッパーで穴を開ける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにケガをするおそれがあります。

⚠注意

	● 針などの交換およびそのほかの機能に関する使用については、取扱説明書の指示通りに正しく行ってください。
	● 上糸、下糸などに関する操作については、取扱説明書の指示通りに正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみなどが発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
	● お子様の玩具として使用しないでください。お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するときは、お子様がけがをしないよう十分注意してください。
	● ミシンとパソコンを接続するときは、本製品に付属のUSBケーブルを使用してください。
	● ミシン稼動中は、針棒ケースや針棒ケース周辺の動く部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。
	● ミシンとマウスを接続するときは、本製品専用のマウスを使用してください。



お願い

- このミシンは日本国内向け、職業用です。日本国外では使用できません。
  This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたらお買い上げの販売店または「PR/VR 専用ダイヤル」にご連絡ください。
- 本機をご使用になる方（お子様を含む）が、身体／知覚／精神的能力になんらかの障害を持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には安全を保証できる責任者の監視の下でのみ本機を使用してください。
- お子様が使用するときは、玩具として使用しないよう、十分な監視の下で使用してください。

ライセンス契約書

重要！： 必ずお読みください

本製品に含まれている刺しゅうデータ（以下、「刺しゅうデータ」）に関する著作権は、ブラザー工業株式会社（以下、「ブラザー」）もしくはそのライセンサーが保有しています。ブラザーは、下記契約条件に従い、お客様に刺しゅうデータの使用を許諾致します。
なお、お客様は、刺しゅうデータを使用することにより、下記契約条件に同意されたものとみなされます。

1. ブラザーはお客様に対し、お客様が保有する一台の刺しゅうミシン上で、刺しゅうデータを使用して刺しゅうを縫製する権利を許諾致します。なお、お客様は、一度に複数台の刺しゅうミシン上で刺しゅうデータを使用することはできません。

2. お客様は、別途ブラザーから許諾を受けない限り、刺しゅうデータについて以下を行うことはできません。

- バックアップ目的以外の目的のために複製すること。
- ネットワークサーバーにアップロードすること。その他第三者に提供、貸与等すること。
- 逆コンパイル、逆アセンブルその他リバースエンジニアリングすること。
- 営利目的で改変すること。
- ブラザー以外の者が著作権者として表示されている刺しゅうデータ（例：©Disney）を使用して創作された刺しゅう製品を販売等すること。

お客様は、本契約に基づき刺しゅうデータを使用する権利を取得しますが、刺しゅうデータに関する著作権そのものを取得するものではありません。

本契約は日本国法を準拠法とします。

本契約に関する問い合わせは郵便にて直接お送り願います。
〒467-8562　名古屋市瑞穂区河岸 1 丁目 1-1
ブラザー工業株式会社
パーソナル・アンド・ホーム事業　営業企画部

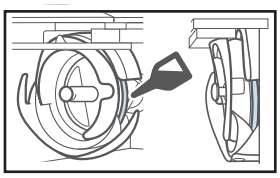
警告ラベルについて

ミシンには下記の警告ラベルが表示されています。
各警告ラベルの内容を十分理解し、記載事項を守って作業を行ってください。
また、警告ラベルは、はがれたり、傷ついたりしないよう十分注意してください。
万一ラベルがはがれていたり、読みとれなくなった場合は速やかに弊社にご連絡ください。

1

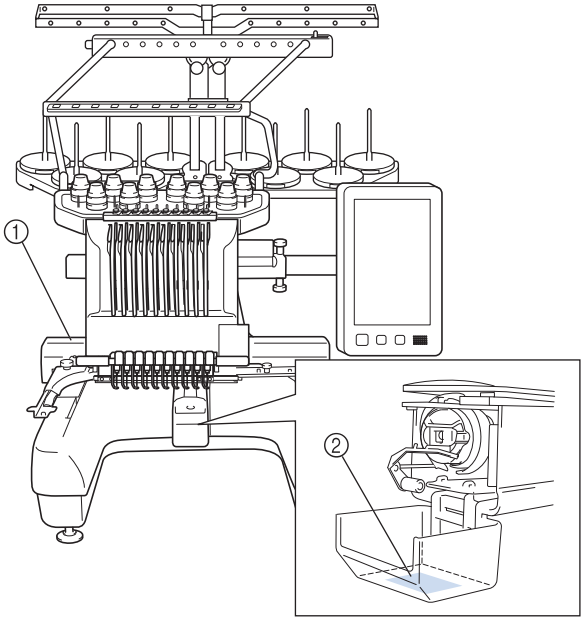
	⚠VOORZICHTIG	⚠ATTENZIONE	⚠ОСТОРОЖНО!	⚠注 意	⚠注 意
	De borduurarm kan verwondingen veroorzaken. Houdt uw handen buiten bereik van de borduurarm.	Il carrello potrebbe ferirvi. Non appoggiate la mano nel percorso del carrello.	Движущаяся каретка может быть причиной травмы. Не кладите руки на пути движения каретки.	刺しゅう機のキャリッジや刺しゅう枠が動いているときに、手や物を近づけないでください。 ケガの原因になります。	在绣花机的导轨或绣花框移动时，为避免造成伤害，请不要将手或物品靠近。

2



毎日１回、釜のレース面に注油をしてからお使いください。

ラベルの場所



取り扱い上の注意

著作権について

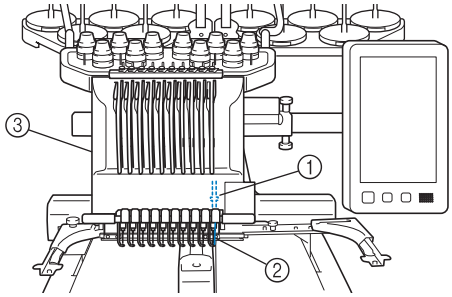
ミシンまたは別売の刺しゅうカードに内蔵されている刺しゅうデータのうち、当社が著作権を有するもの（「© Disney」等の他社著作権表示が付されているものを除きます）については、これらのデータを用いて縫製された刺しゅう模様を一般家庭用としてのみならず、営利用または業務用としても、自由にご利用（販売・譲渡等を含みます）いただけます。
ただし、これら刺しゅうデータ自体に関する著作権は弊社が留保し、（縫製された刺しゅうではなく）このデータ自体を、複製・改変・譲渡・公衆送信・送信可能化することは許諾いたしません。
また、当社以外の第三者の著作権表示が付されたもの（特に人気キャラクター）については、営利用または業務用としてご利用いただくことはできません。ご注意ください。

さらに、有名ブランド品の図案、ロゴ、名称、マーク等については、無許諾での複製は法律上罰せられます。これらについては、勝手に複製、縫製しないようご注意ください。

製品のしくみと特長

10 本針ミシンの縫製について

このミシンは、それぞれ違う色の糸を通した 10 本の針を替えながら自動的に糸色を替え、刺しゅうをぬいます。
針を上下に動かす機械部分を「針棒」と呼び、それらは針棒ケースに収められています。針棒は右から順に 1 番針棒、2 番針棒、3 番針棒、4 番針棒、5 番針棒、6 番針棒、7 番針棒、8 番針棒、9 番針棒、10 番針棒と呼びます。



① 1 番針棒
② 1 番の針
③ 針棒ケース

糸色の割り当て方は、2 通りあります。
自動割り当て（購入時の設定）では、ミシンが自動的に糸色を針棒へ割り当てます。すでに糸がかけられている場合は、糸のかけ替えが最小限ですむように、次の模様でも同じ糸色は現在かけられている針棒に割り当てられます。
手動糸色割付機能を使うと、どの糸色をどの針棒へ割り当てるか、手動で設定できます。針棒設定画面で糸色順表示の糸番号を確認しながら、針棒と糸色の組み合わせを簡単に管理でき、よりプロフェッショナルな刺しゅう作業をすることができます。(P. 140「各針棒の糸色を選択する／管理する（手動糸色割付）」参照)

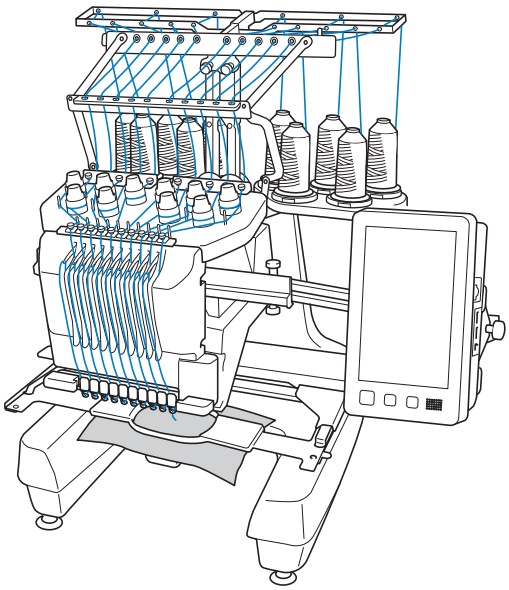
お知らせ
● 1 番針棒から 2 番、3 番と順にぬうとは限りません。

糸色の針棒への割り当ては、液晶画面上で指示されます。その指示に従って、糸をかけます。

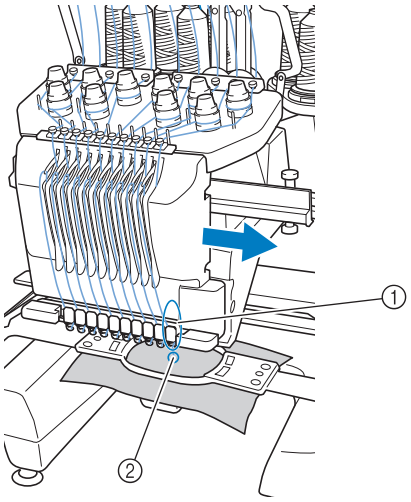


① このようにかける糸が指示されます。

各針棒番号によって、上糸をかけるときに指定されている糸立棒、糸調子つまみ、天びん、糸道があります。



縫製は、10 本の針で同時にぬうのではなく、縫製位置にある 1 本の針でぬいます。ぬい順に従い、針棒ケースが左右に動いてその色がかけられた針棒・針が縫製位置に移動します。



① 縫製位置の針
針が ② 針板の針穴の上に位置します。

ミシンをスタートすると、自動的に押えが下がり、ぬい始め／ぬい終わりの糸の処理や糸替え（縫製する針を交替）をしながら縫製し、ぬい終わると止まります。11 色以上の糸色が使われている模様の場合は、糸こま交換が必要になったときにミシンは止まり、その指示が表示されます。

（ただし、手動糸色割付を「ON」に設定している場合は、糸こま交換時にミシンは自動的に止まりません。詳しくは、P.140「各針棒の糸色を選択する／管理する（手動糸色割付）」参照してください。）

1 本針ミシンとの違い

■ 10 色以下の刺しゅう模様は糸こま交換不要

1 本針ミシンは、糸色が変わるごとに糸こまを交換し、上糸をかけ直す必要があります。このミシンは、10 色以下の刺しゅう模様は糸こま交換も上糸のかけ直しも必要ありませんし、糸替回数が 11 回以上でも 10 色以内であれば、前にぬった針に自動的に戻ってぬいます。

■ 自動縫製で縫製時間を短縮

11 色以上の刺しゅう模様の糸こま交換を除くと、ミシンをスタートした後は、押えの上げ下げやぬい始め／ぬい終わりの糸の処理、糸交換を、ミシンが自動的に行います。糸交換や糸始末をミシンがしてくれるので、縫製時間が短くなります。

■ ぬい始め／ぬい終わりの糸処理不要

ぬい始め／ぬい終わりの余分な糸端が出ないようにぬえるので、めんどうな糸の始末はしなくてすみます。

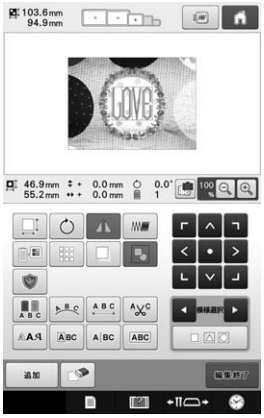
■ 縫製位置は枠を移動して決定

1 本針ミシンでは、多くの場合、刺しゅう模様を刺しゅう枠の中心に配置し、縫製したい位置の中心を刺しゅう枠の中心に正確に合わせて布地に張る必要がありました。10 針刺しゅうミシンでも、同じ方法で希望する位置にぬうことができますが、刺しゅう枠を移動して縫製位置を決めると、より容易に位置決めができます。また、位置を気にせずに布地を枠に張ることができ、枠をミシンにセットした後でも、カメラによる位置合わせ機能と同様に手動で自由に位置を合わせることができます。

その他の特長

■大きな液晶画面を活用してスピーディーに模様の位置合わせをする

一般的なタブレット PC と同じくらい大きな 10.1 インチ LCD ディスプレイを搭載しました。
選んだ模様と、実際の針落ち位置のイメージが、大きな LCD 画面に表示されるので、模様の位置が、より合わせやすくなりました。

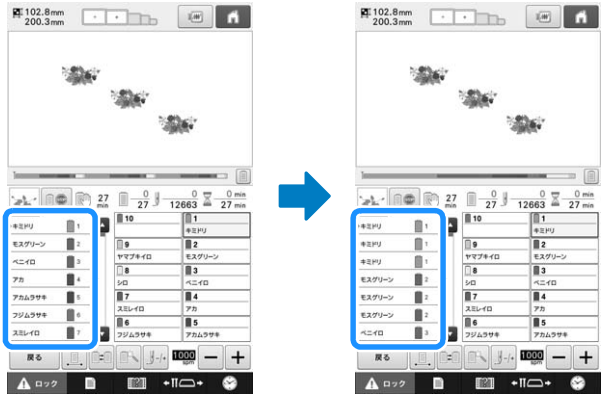


■Link 機能（双方向通信）

刺しゅう PRO NEXT/10 などの Link 機能対応の刺しゅうデータ作成ソフトで編集した模様データを、パソコンからミシンへ転送することができます。
同時に 4 台までのミシンを 1 台のパソコンに接続して、模様を送ることができます。
(P. 178「Link 機能～パソコンからミシンへ刺しゅうデータを転送する～」参照)

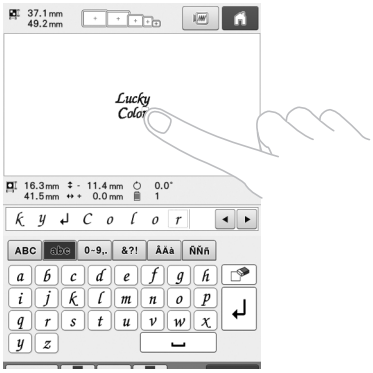
■最小限の糸こま交換で刺しゅう

刺しゅうを始める前に、糸色並べ替えキー（）を押してぬい順を糸色で並べ替えます。
例えば、同じ模様を繰り返し並べて刺しゅうする場合、模様をぬうたびに糸こまを交換する必要があります。糸色並べ替え機能を使うと、同じ色を一度にぬうように糸色が並べ替えられ、糸こま交換が最小限で済みます。
糸色並べ替え機能は、模様が重なっている場合は使用できません。



■進化した文字入力でさらにデザインが自由になりました

文字模様の種類が増え、入力方法もさらに進化しました。これまでのモデルではできなかった、入力中の途中文字追加が可能になり、さらに直感的でスムーズな操作により、思い描いたとおりの作品を作ることができます。



■縫製プログレスバー

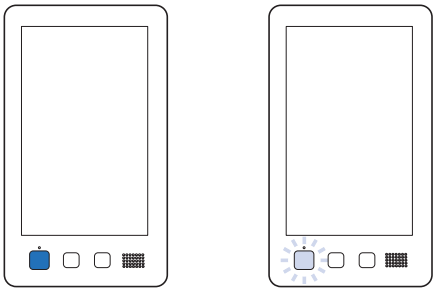
新規搭載の縫製プログレスバーにより、刺しゅうの残り時間をひと目でイメージできるようになりました。



■ 安全設計

ミシンロック機構の採用で、誤操作によるケガを防ぎます。通常、ミシンはスタートできない（ロックされた）状態になっており、ロック解除キーを押して、ロックを解除するとミシンをスタートできる状態になります。ミシンロックの状態は、スタート／ストップスイッチが色を変えてお知らせします。

赤色点灯　　緑色点滅



ミシンロック中　　スタート可能

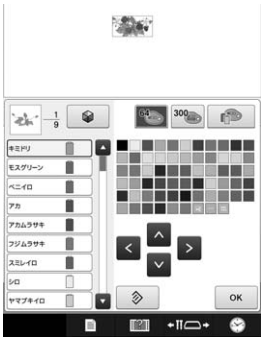
■ 内蔵糸色情報の選択

内蔵された糸色情報を見ることができるので、目的に合った糸色を簡単に選ぶことができます。

1848	Madeira Poly	1	1049	Madeira Rayon	1
1770	Madeira Poly	2	1369	Madeira Rayon	2
1986	Madeira Poly	3	1081	Madeira Rayon	3
1637	Madeira Poly	4	1037	Madeira Rayon	4
1177	Sulky	1	5622	R-A Poly	1
1176	Sulky	2	9091	R-A Poly	2
1511	Sulky	3	5561	R-A Poly	3
1037	Sulky	4	5678	R-A Poly	4

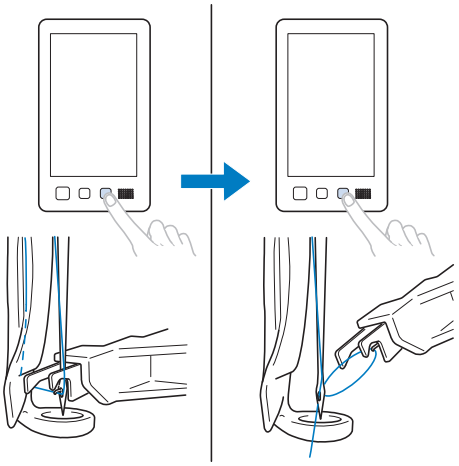
■ 糸色情報表示機能採用で、より実際の色に近い色で表示

他社糸メーカーの糸色と糸番号がミシンに記憶されており、その糸ライブラリーから、自由に選んで自分の色パレットを作ることができます。このパレットを使って模様の色を変えれば、お手持ちの糸色だけでの糸色表示が可能になります。また刺しゅう模様の表示も、より実際の色に近い色で表現されます。



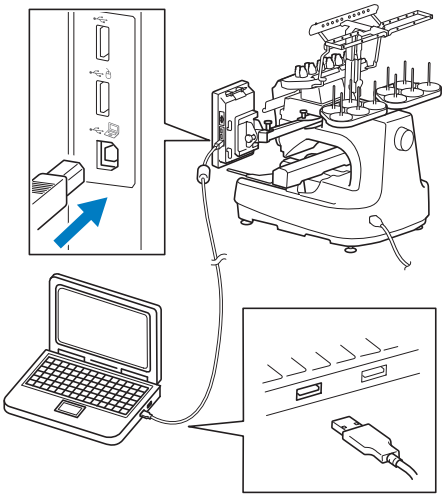
■ 自動針穴糸通し装置

自動針穴糸通し装置で簡単に糸を針に通すことができます。
また、特定の針棒だけ糸通しを禁止する設定もできます。

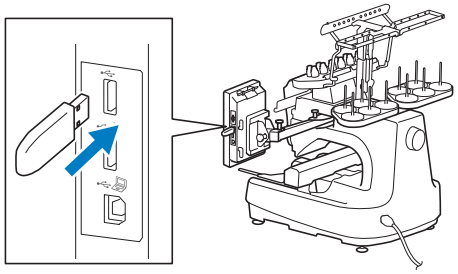


■ USB ポートを標準搭載

付属の USB ケーブルでパソコンと接続すれば、パソコンから模様を呼び出したり、パソコンに保存したりすることができます。(P. 170「刺しゅう模様をパソコンに記憶する」参照)



ミシンがパソコンから遠く、USB ケーブルで接続することができない場合など、USB メディアや SD カードに一時的に模様データを保存して、ミシンに接続して模様を送ることができます。(P. 169「刺しゅう模様を USB メディア／ SD カードに記憶する」参照)



■ いつでも指定した針棒を移動／糸通しできる

模様を選択中、編集中、縫製中など操作中いつでも、指定した針棒を縫製位置に移動したり、糸通ししたりすることができます。

を押して「針棒選択画面」を表示させ、移動／糸通ししたい針棒番号を選択してください。
(P. 70「糸通しをする針棒を縫製位置に移動する」参照)

こんなことができます

最大ヨコ 360mm× タテ 200mm の刺しゅうができます。

■ 手動糸色割付 - よりプロフェッショナルにミシンを使う

ミシン側で糸色を指定したり、DST ファイルを頻繁に使う場合は、手動糸色割付機能を使うと便利です。
(P. 140「各針棒の糸色を選択する／管理する（手動糸色割付)」参照)

■ 内蔵模様の充実

文字やワンポイント模様、枠模様などいろいろな模様の刺しゅうがミシンに内蔵されていますので、購入後、すぐに刺しゅうができます。



■ 刺しゅうの編集

文字や模様を組み合わせたり、文字の配列を変えたりして自由にアレンジできます。
同じ模様を繰り返してぬうこともできます。



この本の読み方

この本は次のような構成になっています。第 2 章の章目次（P. 35）の番号付きタイトルの説明は、基本的な操作手順です。ミシンを使用する前に、この手順を確認してください。

必ずお読みください

第 1 章　ミシンの準備
ミシンの設置のしかたや必要な準備について説明します。

第 2 章　使ってみましょう 【チュートリアル】
電源を入れるところから、1 つの模様をぬい上げ、作業を終了するまでの基本的な操作を、順を追って説明します。実際に操作しながら読んで、使い方をマスターしましょう。

第 3 章　その他の基本操作
11 色以上の模様をぬう場合など 2 章とは違う想定での操作や、針を交換したいときなど状況に応じた操作を、ケースごとに説明します。

必要に応じてお読みください

第 4 章　縫製設定
縫製設定について説明します。知っておくと便利な機能です。

第 5 章　模様の選択／編集／記憶
刺しゅう模様の選び方、編集のしかた、記憶のしかたについて説明します。

第 6 章　基本設定とヘルプ機能
設定キー、ミシンの使い方キーの使用方法を説明します。ミシンの基本設定の変更をしたり、画面上で操作のしかたなどを調べたりできます。

第 7 章　付録
刺しゅうのいろいろなテクニックや、きれいな刺しゅうに仕上げるためのポイント、ミシンのお手入れ、困ったときの対処方法などを紹介します。

知りたいことを調べるには

■ 取扱説明書で調べる

タイトルから
各章で説明されている内容を左記で確認し、目次で調べます。

キーワードから
巻末に索引があります。キーワードを探して、参照ページをご覧ください。

画面から
P. 78 からは、液晶画面に表示される主な画面の表示やキーを、一覧でまとめて説明しています。

状況から
P. 87 からは、いろいろな場合を想定し、その対応方法を示しています。

■ ミシンで調べる

このミシンにはヘルプ機能があります。

使い方がわからないとき
ミシンの使い方キーを押して、調べます。ミシンの使い方キーの使用方法は、P. 240 をご覧ください。

目次

商標について
オープンライセンス公開
はじめに **1**
安全にお使いいただくために **1**
ライセンス契約書 **6**
警告ラベルについて **7**
取り扱い上の注意 **8**
著作権について 8
製品のしくみと特長 **9**
10 本針ミシンの縫製について 9
1 本針ミシンとの違い 10
その他の特長 11
こんなことができます 13
この本の読み方 **14**
必ずお読みください 14
必要に応じてお読みください 14
知りたいことを調べるには 14

第 1 章 ミシンの準備 19
各部の名前とはたらき **20**
前面 20
右側面・背面 21
操作パネル 21
付属品を確認してください **22**
付属品 22
下糸巻き装置と付属品 24
別売品 **25**
ミシンの設置のしかた **27**
設置・移動に関する注意 27
設置に適した場所 28
ミシンを据え付ける 29
固定板を外す 30
操作パネルの位置を調整する 30
糸案内を準備する 31
糸立台を準備する 32
台枠をセットする 33

第 2 章 使ってみましょう【チュートリアル】 35
使用上の注意 **36**
電源に関する注意 36
針に関する注意 37
正しい針の見分け方 37
ボビンに関する注意 37
上糸に関する注意 38
布地に関する注意 38
画面に関する注意 38
基本手順 **39**
1. 下糸をセットする **40**
ボビンケースを取り出す 40
下糸巻き装置の準備 41
電源と接続する 41
下糸を巻く 42
ボビンをセットする 45
ボビンケースをセットする 45
2. 電源を入れる **46**
ミシンを初めて使うとき 47
画面の見方 48
操作画面の流れ 49
3. 模様を選ぶ **51**
刺しゅう模様を選ぶ 52
4. 模様の編集 **53**
5. 仕上がりイメージを確認する **54**
仕上がりイメージの見方 54
6. 刺しゅう枠に布地を張る **56**
布地の張り方 56
7. 刺しゅう枠をミシンにセットする **58**
刺しゅう枠のセットのしかた 58
縫製設定画面に進む 59
8. 縫製設定 **60**
9. 縫製範囲を確認する **61**
枠の移動を止めながら確認する／確認を中止する 61
縫製画面に進む 61
10. 上糸をセットする **62**
針棒と糸色を確認する 62
上糸をかける 64
糸を針穴に通す 68
11. 刺しゅうをぬう **72**
ミシンをスタートする 72
途中でミシンをストップするには 74
12. 刺しゅう枠、布地を外す **76**
刺しゅう枠の外し方 76
布地の外し方 76
13. 電源を切って終了する **77**
画面早見一覧 **78**
キー表示について 78
模様選択画面の見方 78
模様一覧画面の見方 79
編集画面の見方 80
縫製設定画面の見方 82
縫製画面の見方 85
わからないことがあるときの参考 **87**
専門用語 87
模様 87
刺しゅう 87
便利な外部接続機能 88
USB マウスの使い方 90

第 3 章 その他の基本操作 93
針を交換する **94**
針を交換する 94
刺しゅう枠を上手に使うには **96**
台枠について 96
刺しゅう枠が取り外しにくいときは 96
刺しゅう枠／台枠の種類と用途 97
布地に接着芯を貼る **100**
布地の張り方 **101**
特大枠、LL 枠、L 枠の布地の張り方 101
刺しゅうシートを使う 102
布地が大きい／小さいときは 103
刺しゅう枠の位置と動きについて **104**
思い通りの位置にぬうには **105**
角度を調整する 106
縫製位置を合わせる **109**
布地を表示して縫製位置を合わせる 109

内蔵カメラを使う 112
付属の刺しゅう位置合わせシールを使う 115
液晶画面上で糸色を交換する 117
11 色以上の模様をぬうときは..... 119
糸こま交換が必要かどうかを確認するには.... 120
11 色以上の模様で糸こま交換を指示されたときは..... 121
糸こま交換表示と糸立台 LED ライトについて 121
簡単な糸こま交換のしかた..... 122
途中で糸が切れた／下糸がなくなったときは 123
上糸が切れたとき 123
下糸が切れた／なくなったとき..... 125
始めまたは途中からぬいたいときは..... 126
停止後、途中からぬうときは 129
下糸と上糸の糸調子を調整する..... 131
下糸の調子を調整する 131
上糸の調子を調整する 132

第 4 章 縫製設定 135

刺しゅうのしつけぬい 136
アップリケピースを作る 137
アップリケピースを作る 137
各針棒の糸色を選択する／管理する(手動糸色割付)..... 140
手動糸色割付の利便性..... 140
手動糸色割付モードにする..... 140
手動糸色割付を使う..... 141
手動糸色割付の注意点..... 141
自動止めぬい設定..... 142
ぬい始め／終わり位置設定 143
斜めに繰り返しぬいをする..... 144
文字をつなげて刺しゅうする 145
縫製最高速度設定..... 147
糸替え時停止設定..... 148
次の糸替え時に停止する 148
縫製前にポーズ位置を指定する..... 148
一時的針棒設定..... 150
連続した刺しゅう（1 色の場合）..... 150
手動針棒／縫製速度設定 151

第 5 章 模様の選択／編集／記憶 155

刺しゅう模様の記憶..... 156
刺しゅうデータに関する注意 156
USB メディア（市販品）について..... 157
刺しゅう模様を選ぶ..... 158
基本的な模様の選び方..... 158
刺しゅう模様 159
枠模様 160
モノグラムと枠デザイン 161
文字模様..... 163
装飾アルファベット..... 167
刺しゅう模様をミシンに記憶する 168
刺しゅう模様を USB メディア／ SD カードに記憶する..... 169
刺しゅう模様をパソコンに記憶する 170
USB コードクランプを使用して USB 接続する 171
ミシンに記憶した刺しゅう模様を呼び出す.... 173
USB メディア／ SD カードから刺しゅう模様を呼び出す 173
パソコンから刺しゅう模様を呼び出す 174
呼び出した模様を他の記憶先に記憶する..... 176
Link 機能～パソコンからミシンへ刺しゅうデータを転送する～..... 178
Link 機能を使ってできる操作 178
Link 機能を使って刺しゅうする..... 179
Link 機能を解除する..... 181
刺しゅう模様を個別に編集する(編集画面)..... 182
画面の模様を拡大表示する 182
模様を組み合わせる 182
編集する模様を選ぶ..... 183
複数選択した模様をグループ化する 184
位置を移動する 184
左右反転する 185
大きさを変える（通常モード）..... 185
糸密度を保持したまま大きさを変える(針数再計算モード) 186
回転する 188
文字の配列を変更する 188
文字間隔を変更する 189
組み合わせた文字模様を分割する 189
文字間で糸を切る..... 190
文字模様を結合する 190
一文字ずつ色を変える 191
文字フォントを変更する..... 191
個別に文字のサイズとフォントを変える..... 191
糸密度を変える（文字・枠模様の一部のみ).... 192
模様の色を変える..... 192
カラーシャッフル機能を使って、新しい配色を設定する 194
糸色並べ替え..... 196
繰り返し模様（ボーダー模様）を作る 197
ユーザーパレットを作る..... 201
ユーザーパレットから色を選ぶ..... 203
ユーザーパレットを保存する／呼び出す..... 203
模様を複製する 205
模様を削除する 205
刺しゅう模様全体を編集する(縫製設定画面)..... 206
すべて回転する 206
組み合わせの編集 207
カメラを使って模様をつなぐ..... 211
3 つの模様をつなげる 211
位置合わせシールの位置を変更する 217
回転した模様をつなぐ 219
辺にそって模様をつなぐ..... 221
レジューム機能 223

第 6 章 基本設定とヘルプ機能 225

設定キーの使い方 226
設定画面の見方 226
ガイド表示を切り替える 229
糸色表示を切り替える 231
「PES」形式データの糸色情報を優先させる.... 232
縫製エリアの表示色／模様キーの表示色を変更する 233
渡り糸切り／ DST 設定..... 233
小ピッチのステッチを削除する 234
糸残り量を設定する 234
刺しゅうしつけ距離を変更する 234

エコモードまたは電源オフサポートモードを設定する 235
スクリーンセーバーの設定を変更する 235
オープニング画面を設定する 237
糸立 LED を設定する 237
針もとライトの明るさを調整する 237
スピーカー音量を変更する 238
糸センサーを設定する 238
USB マウス使用時のポインターの形を変える 238
長さの単位を切り替える 238
画面の明るさを調整する 239
言語を切り替える 239
ミシンの使い方キーの使い方 240
使い方を見る 240
操作説明の動画を見る 241
MPEG-4（MP4）動画を再生する 242

第 7 章 付録 245

アップリケぬい 246
アップリケ模様のぬい方 246
枠模様を使ってアップリケをするには（1） 247
枠模様を使ってアップリケをするには（2） 248
分割模様をぬう 249
豆知識 252
内蔵模様で糸調子を確認する 252
布地のラインに合わせて模様をぬう 253
色パレットについて 254
タジマフォーマット（.dst）の刺しゅうデータの色について 255
きれいな刺しゅうに仕上げるために 256
糸 256
接着芯 256
枠張りのテクニック 257
布／接着芯の適合表 258
付属のテーブルを取り付ける 259
テーブルの取り外し方 261
別売のジャンボ枠で刺しゅうする 262
帽子枠（別売）を使う 266
帽子枠と付属品 266
帽子の種類 267
布地に関する注意 268
帽子枠を使うための準備 268
帽子枠のセットのしかた 273
台枠の取り付け方 279
刺しゅうデータ作成上の注意 280
お手入れ 282
画面の汚れの掃除 282
本体表面の掃除 282
釜の掃除 282
針板まわりの掃除 283
ボビンケースの掃除 284
上糸の糸道の掃除 285
ミシンに注油する 286
メンテナンスメッセージについて 287
困ったとき 288
トラブルチェック機構 288
トラブルチェック 289
エラーメッセージ 297
キーを押しても反応しないときは 304
仕様 305
本体仕様 305
ミシンのソフトウェアをアップグレードする ... 306
USB メディアを使用したアップグレード手順 306
パソコンを使用したアップグレード手順 307
索引 309

第 1 章
ミシンの準備

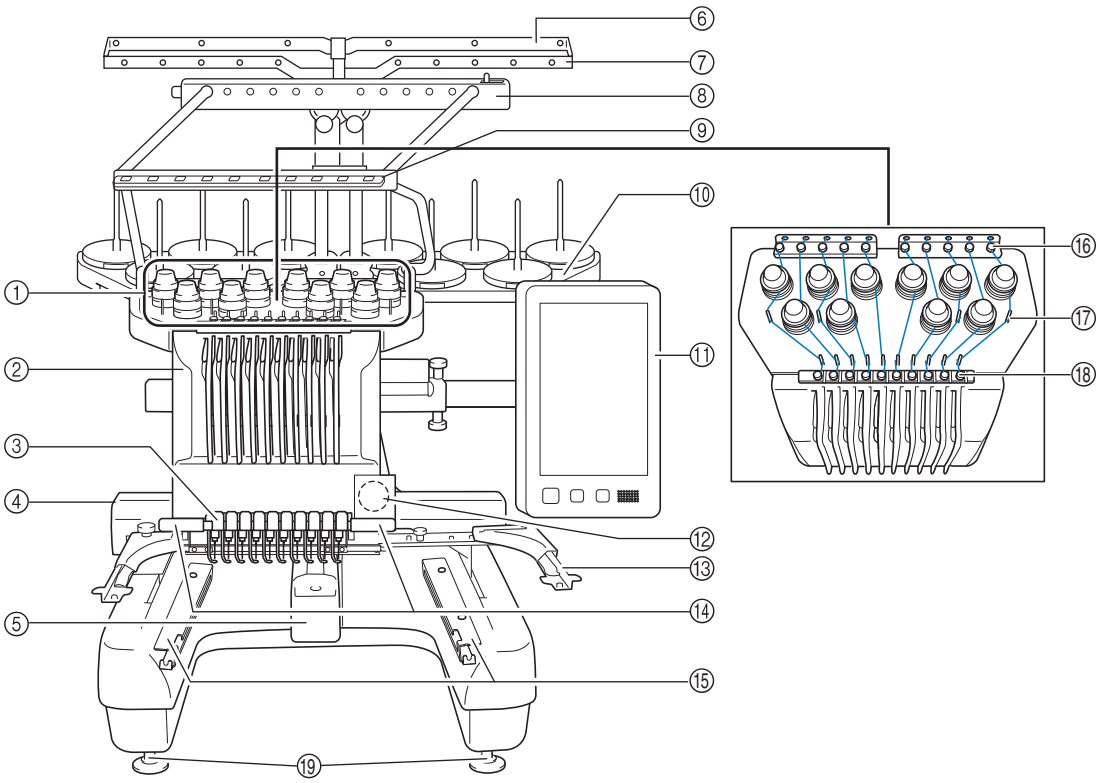
箱を開けたら、まず P. 22 の「付属品を確認してください」をご覧になり、付属品が揃っているか確認してください。すべて揃っていることが確認できたら、ミシンを準備します。
ここでは、ミシンの設置のしかたや必要な準備について説明します。

各部の名前とはたらき 20
前面 20
右側面・背面 21
操作パネル 21
付属品を確認してください 22
付属品 22
下糸巻き装置と付属品 24
別売品 25
ミシンの設置のしかた 27
設置・移動に関する注意 27
設置に適した場所 28
ミシンを据え付ける 29
固定板を外す 30
操作パネルの位置を調整する 30
糸案内を準備する 31
糸立台を準備する 32
台枠をセットする 33

各部の名前とはたらき

ミシンの各部の名前とはたらきを説明します。ミシンを使用する前に、名前を覚えておきましょう。

前面



① **糸調子つまみ**
上糸の糸調子を調整します。

② **針棒ケース**
左右に動いて、針を縫製位置に移動します。

③ **下糸案内**

④ **キャリッジ**
ここに刺しゅう枠をセットします。電源を入れたときや縫製中、左右前後に動きます。

⑤ **釜カバー／釜**
ここを開けて、釜にボビンの入ったボビンケースをセットします。

⑥ **糸案内 A**

⑦ **糸案内 B**

⑧ **糸案内 C**

⑨ **糸案内 D**

⑩ **糸立台**
糸こまを 10 本立てます。

⑪ **操作パネル**

⑫ **内蔵カメラ**

⑬ **台枠**

⑭ **針もとライト**
設定画面で針もとライトの明るさを調整できます。(P. 237 参照)

⑮ **テーブル支え板**

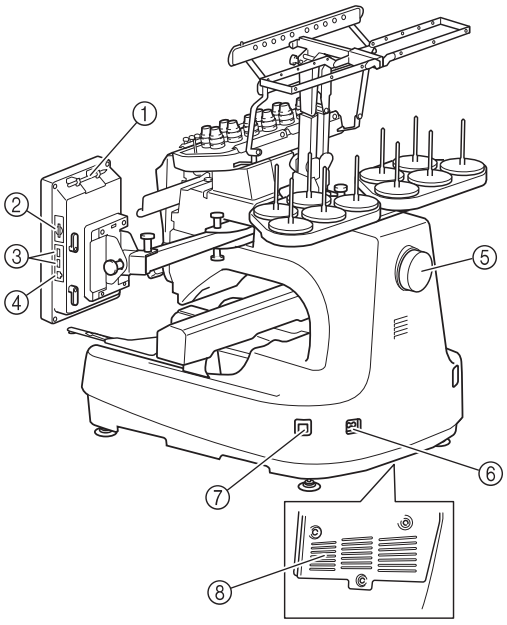
⑯ **糸道上**

⑰ **糸案内ピン**

⑱ **糸道中**

⑲ **レベル座**
ここで脚の高さを調節します。

右側面・背面



底面

① **タッチペンホルダー**
タッチペンを使用していないときは、タッチペンホルダーに収納してください。

② **SD カードスロット**
SD カードを SD カードスロットに差し込んで、刺しゅう模様データをやりとりできます。

③ **USB メディアポート**
USB メディアを USB ポートに差し込んで、刺しゅう模様データをやりとりできます。

④ **パソコン接続用 USB ポート**
USB ケーブルを USB ポートに差し込み、ミシンとパソコン間での刺しゅう模様データのやりとりが可能です。

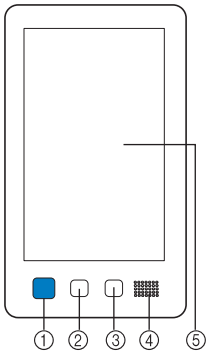
⑤ **プーリー**
回すと針が上下に動きます。プーリーは操作パネルの方向（反時計回り）に回してください。

⑥ **電源コードジャック**
電源コードを差し込みます。

⑦ **電源スイッチ**
電源を入れたり （I 側）切ったり （O 側）するスイッチです。電源を切った後はすぐに電源を入れないでください。5 秒待ってから電源を入れてください。

⑧ **換気口**

操作パネル



① **スタート／ストップスイッチ**
ミシンをスタートまたは停止します。ミシンの状態によって、スイッチの状態・色が変わります。

赤色の点灯	： スタート不可能な状態のとき
緑色の点滅	： スタート可能な状態のとき
緑色の点灯	： 縫製中
オレンジ色の点滅	： 糸切り可能な状態のとき
消灯	： 電源が入っていないとき

② **糸切りスイッチ**
上糸と下糸を切るときに押します。

③ **自動針穴糸通しスイッチ**
針に糸を通すときに押します。

④ **スピーカー**

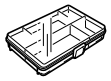
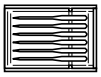
⑤ **液晶画面（タッチパネル）**
ここに表示されるキーを押して模様選択、編集をしたり、情報の確認をします。

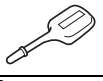
付属品を確認してください

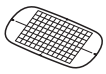
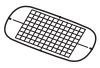
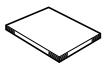
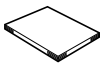
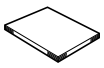
このミシンには以下のものが付属されております。付属品は必ずこのミシン専用の付属品を使用してください。

付属品

箱を開けたら、まず以下の付属品が揃っているか確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

	部品名
1. 	付属品ケース
2. 	ミシン針セット（2 セット）
3. 	ボビン（6 個）
4. 	糸こまネット（10 個）
5. 	リッパー
6. 	糸切りはさみ
7. 	ピンセット
8. 	タッチペン
9. 	糸通し
10. 	針交換ツール
11. 	針板カバー
12. 	針板スペーサー（ミシンに取り付けてあります）
13. 	プラスドライバー
14. 	小型ドライバー

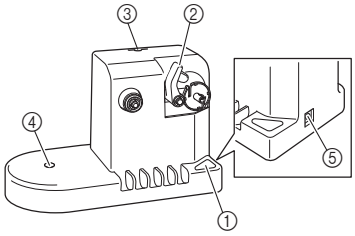
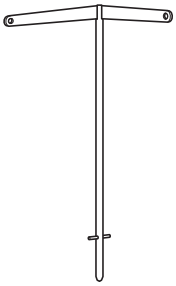
	部品名
15. 	針交換ドライバー
16. 	Z 型ドライバー
17. 	丸型ドライバー
18. 	スパナ
19. 	油差し
20. 	ミシンブラシ
21. 	下糸おもり（L タイプ）
22. 	USB コードクランプ（2 個）
23. 	糸こまフェルト（10 個）
24. 	糸こま押え（10 個）
25. 	USB ケーブル
26. 	刺しゅう枠（特大枠） ヨコ 360mm× タテ 200mm

	部品名
27. 	刺しゅう枠（L 枠） ヨコ 180mm× タテ 130mm
28. 	刺しゅう枠（M 枠） ヨコ 100mm× タテ 100mm
29. 	刺しゅう枠（S 枠） ヨコ 60mm× タテ 40mm
30. 	刺しゅうシート（特大） ヨコ 360mm× タテ 200mm
31. 	刺しゅうシート（L） ヨコ 180mm× タテ 130mm
32. 	刺しゅうシート（M） ヨコ 100mm× タテ 100mm
33. 	刺しゅうシート（S） ヨコ 60mm× タテ 40mm
34. 	刺しゅう位置合わせシール
35. 	台枠 A（白いカバー付）
36. 	台枠 B（薄いグレーのカバー付）
37. 	取扱説明書
38. 	操作早見表
39. 	模様一覧
40. 	テーブル
41. 	ミシン本体用フェライトコア付き電源コード

お知らせ

●付属のタッチペンは、操作パネルの裏側上部にあるタッチペンホルダーに収納できます。(P. 21 参照)

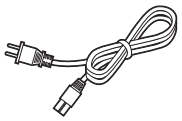
下糸巻き装置と付属品

42.	部品名
42-1.  ① 電源スイッチ　④ 糸立棒用穴 ② ボビン押え　⑤ DC 入力端子 ③ 糸案内用穴	下糸巻き装置
42-2. 	下糸立棒
42-3. 	糸こまクッション
42-4. 	糸案内
42-5. 	AC アダプター
42-6. 	下糸巻き装置用電源コード
42-7. 	金属ボビン（5 個）
42-8. 	糸こま押え
42-9. 	下糸おもり（L タイプ）
42-10. 	下糸おもり（S タイプ）

● 下糸巻き装置に付属している電源コードは、下糸巻き装置専用です。ミシン本体に使用しないでください。誤って、ミシン本体に下糸巻き装置用の電源コードを使用すると、ミシンが誤動作したり、他の機器の動作に影響を及ぼしたりするおそれがあります。



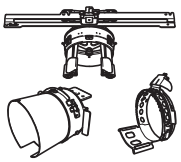
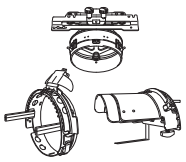
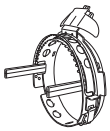
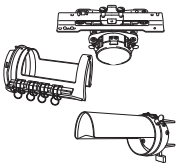
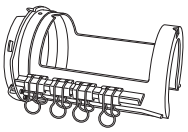
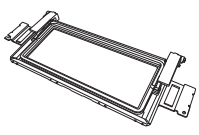
ミシン本体用フェライトコア付き電源コード（フェライトコアは電磁波ノイズを抑制するための部品です。）

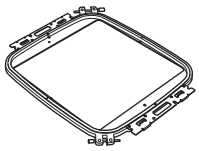
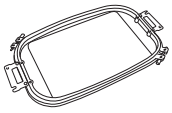
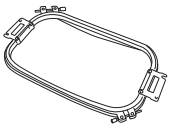
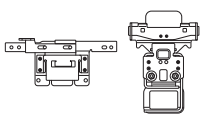
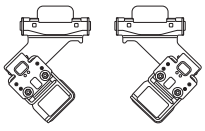


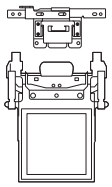
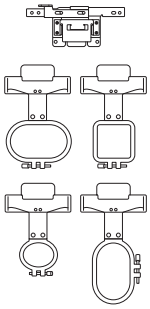
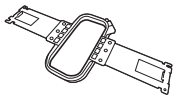
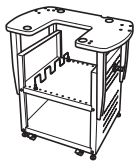
下糸巻き装置用電源コード

別売品

別売品として、以下の製品を用意しています。

	部品名 モデル名
1. 	ワイド帽子枠セット (P. 266 参照) PRPCF1
2. 	ワイド帽子枠 ヨコ 360mm× タテ 60mm PRPCFH4
3. 	帽子枠 2 セット PRCF3J
4. 	帽子枠 2 ヨコ 130mm× タテ 60mm PRCFH3J
5. 	シリンダー枠セット PRCL1J
6. 	シリンダー枠 ヨコ 90mm× タテ 80mm PRCLH1J
7. 	キルト枠 ヨコ 200mm× タテ 200mm PRPQF200
8. 	ボーダー枠 ヨコ 300mm× タテ 100mm PRPBF1

	部品名 モデル名
9. 	ジャンボ枠 ヨコ 360mm× タテ 360mm PRPJF360
10. 	丸枠セット PRPRFK1
11. 	丸枠 (100mm 径) PRPRF100
12. 	丸枠 (130mm 径) PRPRF130
13. 	丸枠 (160mm 径) PRPRF160
14. 	台枠 C (濃いグレーのカバー付) PRPARMC
15. 	平枠 ヨコ 300mm× タテ 200mm PRF300J
16. 	刺しゅう枠（LL 枠） ヨコ 300mm× タテ 200mm PRH300
17. 	金属ボビン MBN:5 個入り B013:1 個
18. 	クランプ枠キット 1 PRCLP45BAP
19. 	クランプ枠キット 2 PRCLP45LRAP

	部品名 モデル名
20. 	クランプ枠セット M PRCLPM1AP
21. 	ネーム枠キット PRHCK1AP ネーム枠と台枠 E は単品でもご購入頂けます。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
22. 	縦長枠 PRHSL200AP
23. 	専用スタンド VRPRNSTD
24. 	下糸おもり (S タイプ) XC6631-051
25. 	刺しゅう位置合わせシール EPS2

お知らせ

- 別売品については、モデル名をご確認の上、販売店にお問い合わせください。
- 付属品や別売品は、指定のもの以外は使用しないでください。
- 仕様は、改良のために予告無く変更することがあります。

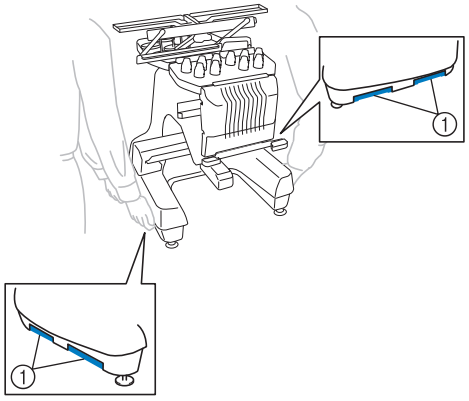
ミシンの設置のしかた

ミシン本体を設置します。正しく設置しないと振動や騒音が大きくなったり、刺しゅうがきれいにぬい上がらないことがあります。別売の専用テーブルもあります。

設置・移動に関する注意

⚠ 注意

- ミシンの使用温度は5～40℃です。低温や高温はミシンの誤動作の原因となります。
- 直射日光の当たらない環境で使用してください。直射日光はミシンの誤動作の原因となります。
- しっかりとした机や台の上にレベル座を接地させて、ミシンがガタつかないように設置してください。
- ミシンの下に物を入れて、ミシン底面後方の換気口をふさがないでください。また、換気口に糸くずやほこりがたまらないようにしてください。ミシン内部の温度が上がり故障・火災の原因となります。
- ミシン本体の重さは約42.5kgあります。運搬や設置は、必ず2人以上で行ってください。
- ミシンを持ち運ぶ際は、必ず底部の指定箇所（①）を持ってください。他の部分を持つとこわれたり、手がすべって落としたりして、ケガの原因となります。

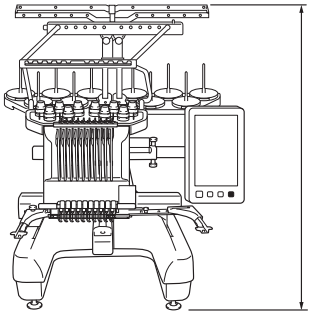


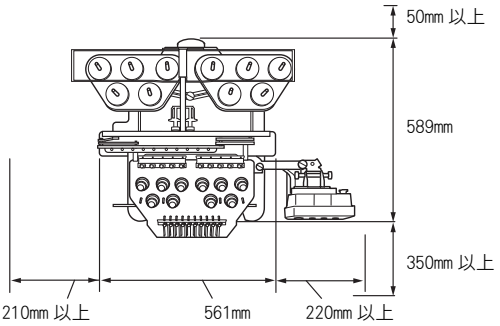
- 雷が発生しているときは電源を切り、電源プラグを抜いてください。雷はミシンの誤動作・故障の原因となります。
- 設置が完了するまで、電源プラグを接続しないでください。誤ってスタート／ストップスイッチを押すと、ミシンが作動してケガの原因となります。
- 潤滑油やグリスを扱うときは、保護眼鏡や保護手袋等を使用し、目や皮膚に付かないようにしてください。炎症を起こす原因となります。また潤滑油やグリスを飲んだり食べたりしないでください。下痢・おう吐することがあります。お子様の手の届かないところに置いてください。
- 刺しゅう枠や付属品の取り付け、取り外し時や、ミシンのお手入れ時は、指や体がミシンに当たらないよう注意して行ってください。

設置に適した場所

ミシンは、次のような場所に設置してください。

- ●本体と壁の間に 50mm 以上のすき間をあける
- ●ミシン本体が十分置けるスペースのある場所
- ●刺しゅう枠の稼動範囲には物を置かない
- ●コンセントから直接電源をとれる場所
- ●机や台の上など、水平で安定した場所
- ●ミシン本体の重さ（約 42.5kg）に耐えられる場所
- ●底面後方の換気口をふさがない





⚠ 注意

● 誤動作や故障の原因となるため、次のような場所には設置しないでください。

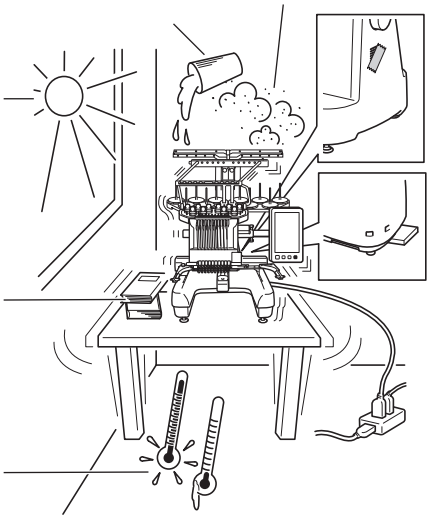
水などの液体のかかる場所　　ほこりの多い場所

直接日光の当たる場所

十分なスペースがない場所

刺しゅう枠の稼動範囲に物が置いてある

極端に高温または低温になる場所
(使用環境は 5 ℃から 40 ℃の間に限られます)



底面後方の換気口をふさいでいる

ぐらついた台

タコ足配線はしない
延長コードを使用しない

お願い

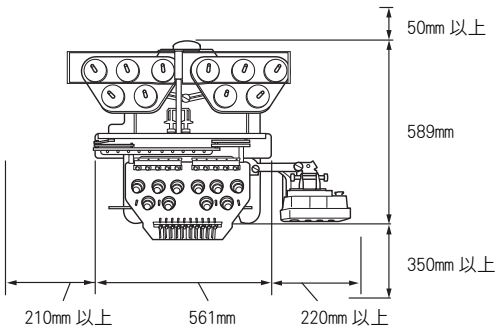
●安全のために：ミシン本体の重さは約 42.5kg あります。不安定な台や机には設置しないでください。

ミシンを据え付ける

脚を調節し、ガタつかないようにミシン本体を据え付けます。

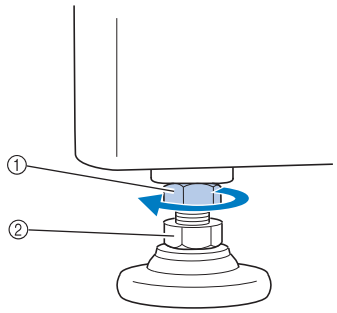
1 **ミシンに取り付けられている保護テープや保護材が、すべて取り外されていることを確認します。**

2 **設置スペースを確保して、ミシンを設置します。**



3 **ガタつかないよう脚を調節します。**

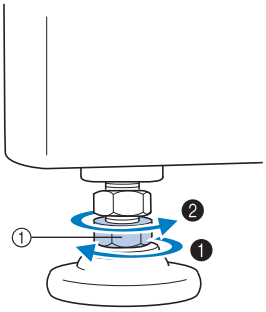
調整したい脚のナットを、付属のスパナでゆるめます。



① ナット
② レベル座のナット
→ レベル座が回るようになります。

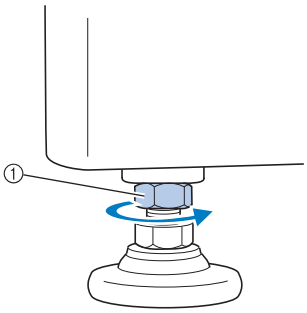
4 **レベル座のナットを、付属のスパナで回します。**

脚は、❶ の方向に回すと伸び、❷ の方向に回すと縮みます。



① レベル座のナット
- 4 本の脚のレベル座がしっかりと接地し、ミシンが水平になるように調節します。

5 **脚の長さが調節できたら、ナットを付属のスパナで締めます。**



① ナット

6 **角を押してみて、ガタつきがないか確認します。**

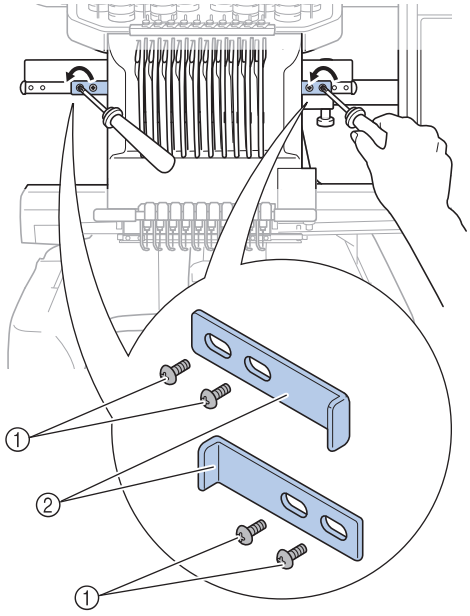
ガタつくときは、再度手順 3 から 5 を行い、脚を調整します。

固定板を外す

⚠ 注意

- ミシンの電源を入れる前に、固定板を外してください。固定板が取り付けられたまま電源を入れると、故障の原因になります。

1 付属のプラスドライバーを使って、固定板の 4 本のネジを外します。



① ネジ
② 固定板

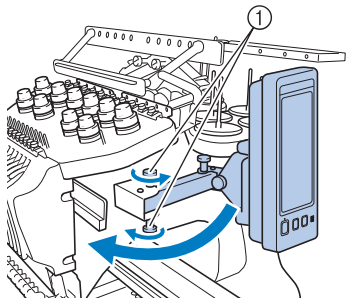
お知らせ

- 固定板とネジはミシンの輸送時に使用しますので、廃棄せずに保管してください。輸送時は、お買い上げの販売店にご相談ください。

操作パネルの位置を調整する

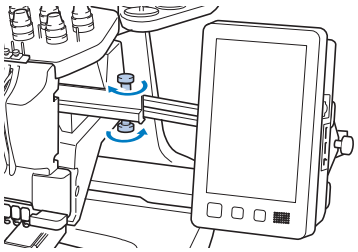
操作パネルの向きや角度を調整して、使いやすい位置にします。

1 上下 2 本のつまみボルトをゆるめて、操作パネルを手前に引き寄せます。



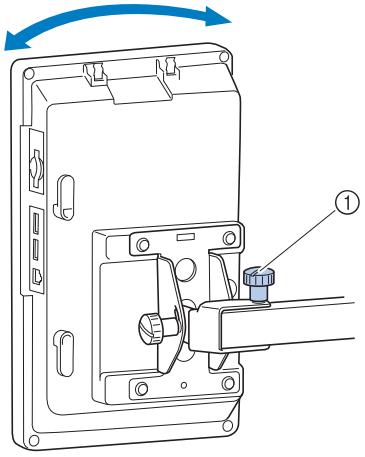
① つまみボルト

2 使いやすい位置に操作パネルを合わせたら、つまみボルトを締めます。



3 向きを調整します。

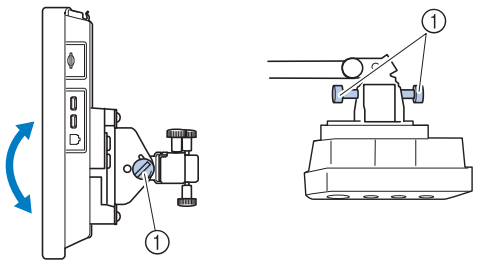
つまみボルトをゆるめて使いやすい向きに調整し、つまみボルトを締めます。



① つまみボルト

4 **角度を調整します。**

左右のつまみボルトをゆるめて使いやすい角度にし、つまみボルトを締め付けます。



側面　　上面

① つまみボルト

お願い

●つまみボルトをゆるめたり締めたりするときは、付属の丸型ドライバーを使用してください。

糸案内を準備する

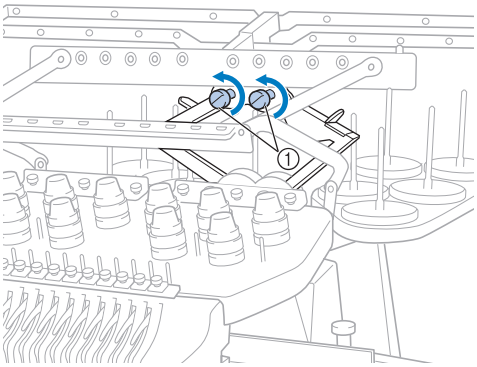
糸案内を立てます。

⚠ 注意

● 次回から糸案内を立てるときは、6番針棒を縫製位置に移動してから行ってください。他の針棒が縫製位置にあると、故障の原因となります。（針棒の移動については、P.70「糸通しをする針棒を縫製位置に移動する」を参照してください。）

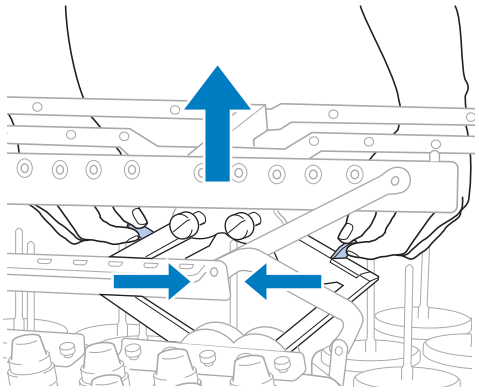


1 **糸案内支持棒上部の 2 本のつまみボルトをゆるめます。**

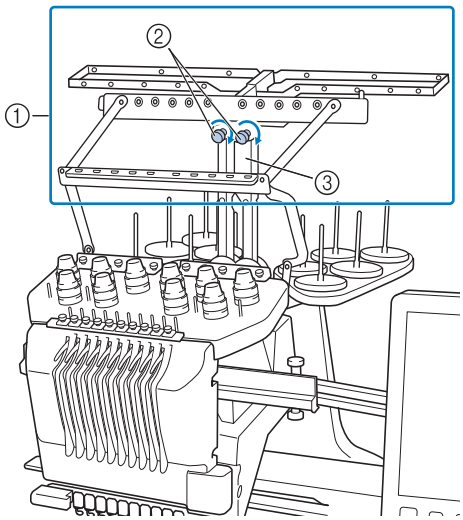


① つまみボルトを 3 ～ 4 回、左に回してゆるめます。

2 糸案内支持棒のグリップを持ち、中心方向に押します。



3 糸案内支持棒を伸ばし、糸案内が最上位置に上がったら、2本のつまみボルトを締め、糸案内を固定します。



① 糸案内
② つまみボルト
③ 糸案内支持棒

お願い

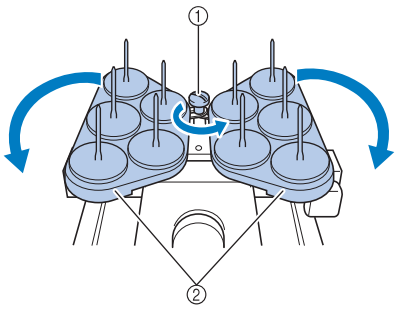
- 各つまみボルトのゆるめ方が弱いと、糸案内支持棒を動かすことができません。無理に動かさないで、つまみボルトを十分ゆるめてから動かしてください。
- 各つまみボルトを締めるときは、糸案内支持棒が固定されるよう、確実に締めてください。

糸立台を準備する

糸立台を縫製位置で固定します。付属の丸型ドライバーを用意します。

1 つまみボルトを2～3回、回してゆるめ、糸立台を外側に開きます。

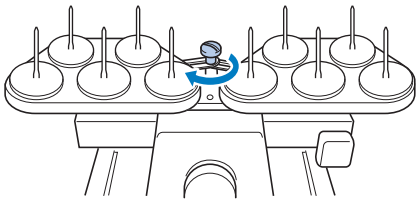
＊後ろから見た図



① つまみボルト
② 糸立台

2 いっぱいまで開いたら、つまみボルトを締め付けます。

＊後ろから見た図



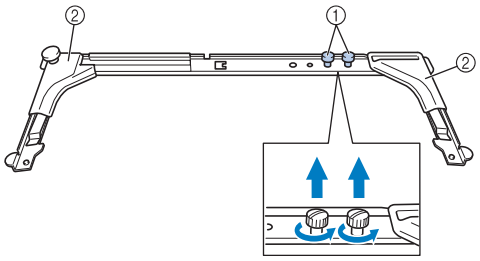
→ 糸立台が開いた状態で固定されます。

台枠をセットする

キャリッジに台枠をセットします。

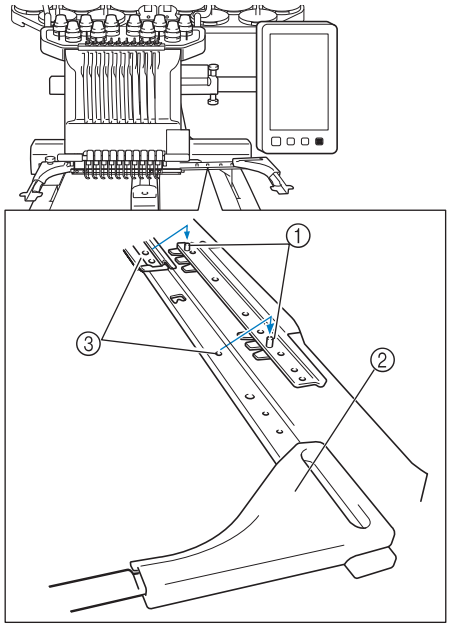
1 使用する刺しゅう枠用の台枠を用意します。（P. 96 ～ 98 参照）

2 台枠の 2 本のつまみボルトを外します。



① つまみボルト
② カバー

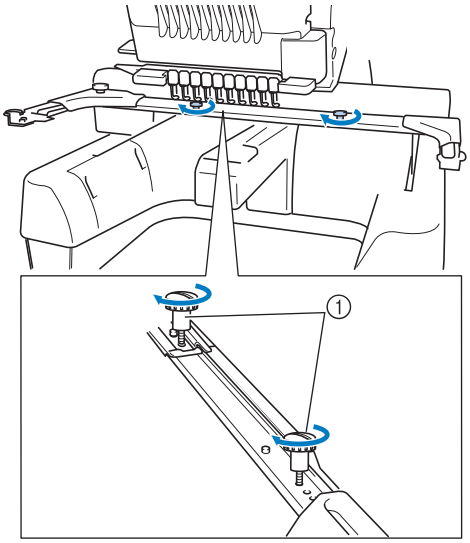
3 台枠の穴を X キャリッジのピンに差し込みます。



① 台枠の穴
② X キャリッジのピン
③ カバー

お願い
●各台枠は、カバーの色が異なります。
台枠 A: 白
台枠 B: 薄いグレー
台枠 C（別売）：濃いグレー

4 手順 ❷ で外したつまみボルトを使用し、台枠を固定します。



① つまみボルト

お願い
●つまみボルトをゆるめたり締めたりするときは、付属の丸型ドライバーを使用してください。
●本製品には、2 種類の台枠が付属されています。付属の 4 つの刺しゅう枠を使用するときは、台枠 A を使用してください。（詳しくは、P.96「刺しゅう枠を上手に使うには」を参照してください。）

これで、ミシンの準備は完了しました。

第 2 章

使ってみましょう【チュートリアル】

電源を入れるところから、1 つの模様をぬい上げ、作業を終了するまでの基本的な操作を、順を追って説明します。実際に操作しながら、使い方をマスターしましょう。

使用上の注意 36
電源に関する注意 36
針に関する注意 37
正しい針の見分け方 37
ボビンに関する注意 37
上糸に関する注意 38
布地に関する注意 38
画面に関する注意 38
基本手順 39
1. 下糸をセットする 40
ボビンケースを取り出す 40
下糸巻き装置の準備 41
電源と接続する 41
下糸を巻く 42
ボビンをセットする 45
ボビンケースをセットする 45
2. 電源を入れる 46
ミシンを初めて使うとき 47
画面の見方 48
操作画面の流れ 49
3. 模様を選ぶ 51
刺しゅう模様を選ぶ 52
4. 模様の編集 53
5. 仕上がりイメージを確認する 54
仕上がりイメージの見方 54
6. 刺しゅう枠に布地を張る 56
布地の張り方 56
7. 刺しゅう枠をミシンにセットする 58
刺しゅう枠のセットのしかた 58
縫製設定画面に進む 59
8. 縫製設定 60
9. 縫製範囲を確認する 61
枠の移動を止めながら確認する／確認を中止する 61
縫製画面に進む 61
10. 上糸をセットする 62
針棒と糸色を確認する 62
上糸をかける 64
糸を針穴に通す 68
11. 刺しゅうをぬう 72
ミシンをスタートする 72
途中でミシンをストップするには 74
12. 刺しゅう枠、布地を外す 76
刺しゅう枠の外し方 76
布地の外し方 76
13. 電源を切って終了する 77
画面早見一覧 78
キー表示について 78
模様選択画面の見方 78
模様一覧画面の見方 79
編集画面の見方 80
縫製設定画面の見方 82
縫製画面の見方 85
わからないことがあるときの参考 87
専門用語 87
模様 87
刺しゅう 87
便利な外部接続機能 88
USB マウスの使い方 90

使用上の注意

このミシンを正しく使っていただくために守っていただきたいポイントを説明します。

電源に関する注意

電源について気をつけなければいけないことを説明します。



⚠ 警告

- 一般家庭用AC100Vの電源以外では、絶対に使用しないでください。
  火災・感電・故障の原因となります。
- 電源プラグは、コンセントやミシンの電源ジャックにしっかりと差し込んでください。火災・感電・故障の原因となります。
- コンセントが壊れていたり、ぬれているなど、問題がある場合は、電源プラグを差さないでください。
- 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
  - ミシンのそばを離れるとき
  - ミシンを使用したあと
  - 運転中に停電したとき
  - 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
  - 雷が鳴りはじめたとき



⚠ 注意

- 必ずミシンに付属の電源コードを使用してください。
- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。
  火災・感電の原因となります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または 「PR/VR専用ダイヤル」にご連絡ください。
- 長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。
- 長時間ミシンから離れる際には、電源スイッチを切るか、あるいは電源プラグを抜いておいてください。
- ミシンの点検を行う際や、外装を取り外すときは、電源プラグを抜いてから行ってください。

針に関する注意

針を取り扱うときの注意を説明します。以下の注意を守らなければ、針が折れて飛び散るなど大変危険です。よく読んで必ず守ってください。

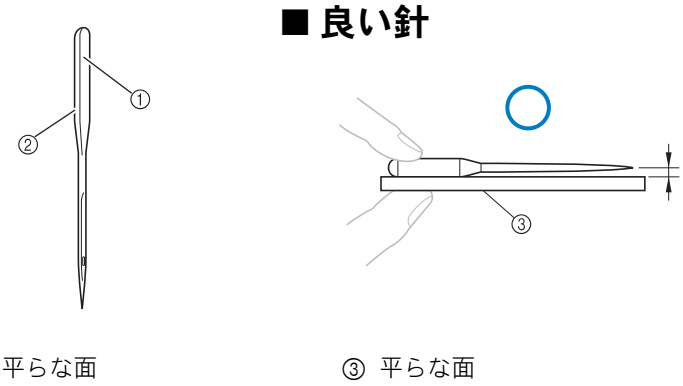
⚠ 注意

- このミシンは一般の刺しゅう針を使用するように設計されています。メーカー推奨針はオルガン社製の“HAX 130 EBBR”です。その他の針を使用すると、針折れや糸切れ、自動針穴糸通し装置などの故障の原因となるだけでなく、ケガの原因にもなります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となるだけでなく、ケガの原因にもなります。

正しい針の見分け方

針が曲がった状態で使用すると、途中で折れてしまうことがあり非常に危険です。
針の平らな面を平らな板に合わせ、針と板のすき間が平行である針を使用してください。曲がったり、針先がつぶれた針は、新しい針と交換してください。(P. 94「針を交換する」参照)

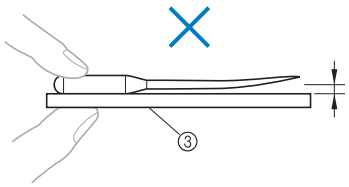
■ 良い針



① 平らな面
② 針の種類が刻印されています。
③ 平らな面

■ 悪い針

すき間が平行でない場合は、針が曲がっています。その針は使用しないでください。

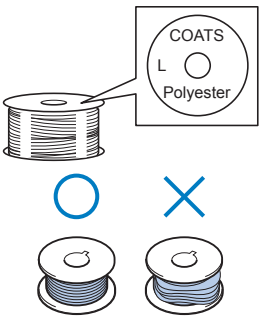


ボビンに関する注意

ボビンに関して気をつけなければいけないことを説明します。

⚠ 注意

- 必ず、金属ボビン（MBN: 5個入り、B013: 1個）または使い捨てボビン（推奨: COATS社製、Lタイプ）を使用してください。他のボビンを使用すると、ケガ・故障の原因となります。



- 下糸は正しく巻かれたものを使用してください。糸の巻き方が悪いと、針折れや糸調子不良の原因となります。

- 下糸を巻くときは、必ず付属の下糸巻き装置を使用してください。(P.24「下糸巻き装置と付属品」、P.41「下糸巻き装置の準備」、「電源と接続する」、P. 42「下糸を巻く」参照)
- 下糸を巻くときは、綿またはポリエステルの糸（＃90～120）を使用してください。

上糸に関する注意

上糸に関して気をつけなければいけないことを説明します。

お願い

- 糸は、刺しゅう用のレーヨン糸またはポリエステル糸（den 120 x 2、#50）を使用してください。
- 糸によっては、糸切れ、糸調子不良が発生する場合があります。そのような場合は、糸を交換してください。

布地に関する注意

布地に関して気をつけなければいけないことを説明します。

お願い

- 刺しゅうができる布地の厚さは 2mm 程度までです。それ以上の厚さのものをぬうと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
- 刺しゅうの重ねぬいは、針が布地にささりにくくなり、針が折れたり、曲がったりするおそれがありますのでご注意ください。
- 薄地、伸びる布地などぬいにくい布地には、接着芯を貼ってください。（P. 100「布地に接着芯を貼る」参照）
- 大きな布地に刺しゅうするときは、布地がキャリッジに巻き込まれないように注意してください。

画面に関する注意

液晶画面の取り扱いに関する注意を説明します。

お願い

- 画面は指、または付属のタッチペンで押してください。シャープペンシル、ドライバーなど先のとがったものや硬いもので押さないでください。また、画面に無理な力をかけないでください。故障の原因となります。

基本手順

刺しゅうの基本手順は次のとおりです。
操作を始める前に、どのような手順を踏んでいくか、全体の流れを確認してください。

手順	操作	チュートリアル参照ページ	使用上の注意参照ページ
1	下糸をセットします。	P. 40	P. 37
2	電源を入れます。	P. 46	P. 36
3	刺しゅう模様を選びます。	P. 51	–
4	刺しゅう模様を編集します。	P. 53	–
5	仕上がりイメージを確認します。	P. 54	–
6	刺しゅう枠に布地を張ります。	P. 56	P. 38
7	刺しゅう枠をセットします。	P. 58	–
8	縫製のしかたを設定します。	P. 60	–
9	縫製範囲を確認します。	P. 61	–
10	上糸をセットします。	P. 62	P. 38
11	スタート／ストップスイッチを押してぬいます。 (ぬい終わると、自動的にミシンは停止します。)	P. 72	–
12	刺しゅう枠・布地を外します。	P. 76	–
13	電源を切って終了します。	P. 77	–

次のページから各手順を説明します。
ただし、模様の編集や縫製のしかたの設定はしないで進めます。模様の編集は P. 182 を、縫製のしかたの設定は P. 135 を参照してください。
P. 78 からは、液晶画面に表示される主な画面の表示やキーの説明を一覧でまとめて説明しています。ご活用ください。

P. 36 からは、基本操作に関する使用上の注意をまとめて記載してあります。ミシンを正しく使っていただくための重要な注意事項です。必ず読んでください。

1. 下糸をセットする

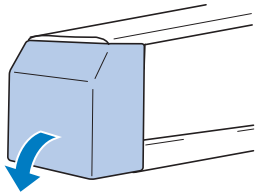
購入時は、ボビンケースのみが釜にセットされています。刺しゅう用の下糸を巻いたボビンをセットしてください。ボビンに関する注意については、P. 37 を参照してください。

お願い
- 下糸の残量はミシンに表示されません。ぬい始める前に、下糸の量が十分かを確認してください。
- ボビンを交換する度に、ボビンケースを掃除してください。(P. 284「ボビンケースの掃除」参照)

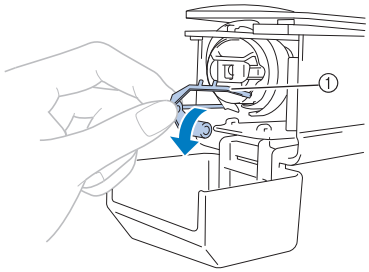
ボビンケースを取り出す

1 **釜カバーを開けます。**

手前に引きます。



2 **ピッカーが手前に引き出されていない場合は、手前に引きます。**



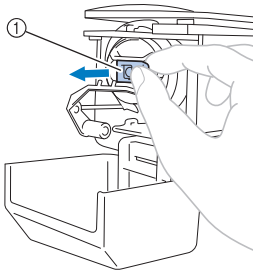
① ピッカー

ボビンが取り出しやすくなるように、ピッカーを釜から離します。

お知らせ
- ピッカーはぬい始めるときや糸を切るときに、糸を固定するための装置です。

⚠ 注意
- **ピッカーが動く範囲は決まっています。無理に動かさないでください。**

3 **ボビンケースのつまみを持って、ボビンケースを取り出します。**



① つまみ

■ ミシンに注油する

ボビンケースを取り出したら、ここで注油をしてください。レース部に注油が必要です。注油のしかたについては、P.286「ミシンに注油する」を参照してください。

お願い
- 毎回ミシンを使い始める前に、必ず注油をしてから動かしてください。

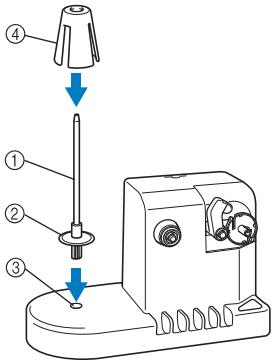
次に、下糸巻き装置を使用して、金属ボビンに下糸を巻きます。

下糸巻き装置の準備

下糸立棒、糸こまクッション、糸案内を下糸巻き装置に取り付けます。

1 下糸立棒と糸こまクッションを立てます。

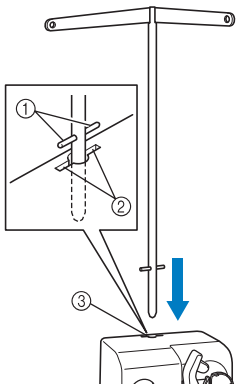
受皿側を下にして、糸立棒用穴へ垂直に差し込んだ後、糸こまクッションを差し込みます。



① 下糸立棒
② 受皿
③ 糸立棒用穴
④ 糸こまクッション

2 糸案内を立てます。

糸案内のピンと糸案内用穴の切り欠きを合わせて、垂直に差し込みます。



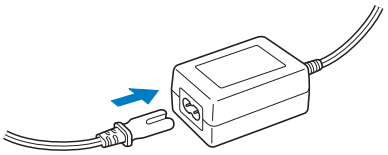
① 糸案内のピン
② 糸案内用穴の切り欠き
③ 糸案内用穴

- 奥までしっかりと差し込み、ふらつきがないことを確認してください。

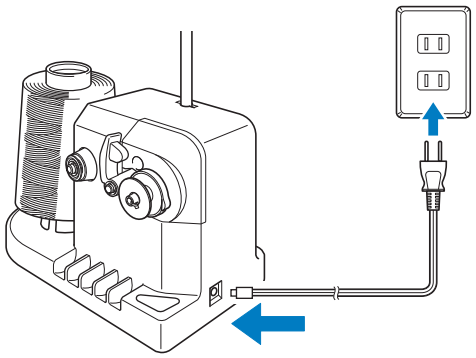
電源と接続する

電源についての注意は、P. 36 を参照してください。

1 電源コードのジャックを AC アダプターに差し込みます。



2 AC アダプターのプラグを下糸巻き装置の DC 入力端子につなぎ、電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。



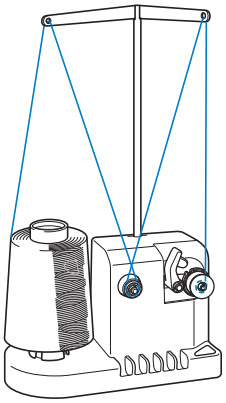
- AC アダプターのプラグは、下糸巻き装置の DC 入力端子にしっかりと差し込んでください。

⚠ 注意

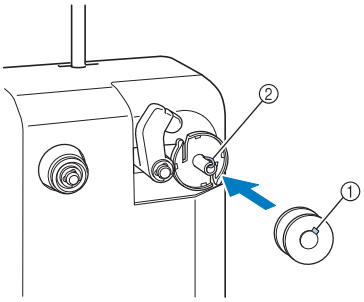
- 必ず、付属のACアダプターを使用してください。他のACアダプターを使用すると、故障の原因となります。
- ACアダプターを接続したり、外したりするときは、下糸巻き装置が作動していないことを確認してから行ってください。
- ご使用にならないときは、電源プラグを抜いてください。

下糸を巻く

下糸用の糸こまと金属ボビンを用意します。下糸は、綿またはポリエステル糸（#90 ～ 120）を使用してください。

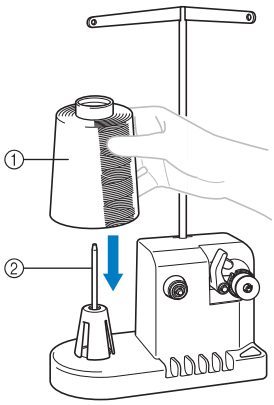


1 ボビンのミゾを下糸巻き台のバネに合わせ、ボビンを取り付けます。



① ボビンのミゾ
② 下糸巻き台のバネ

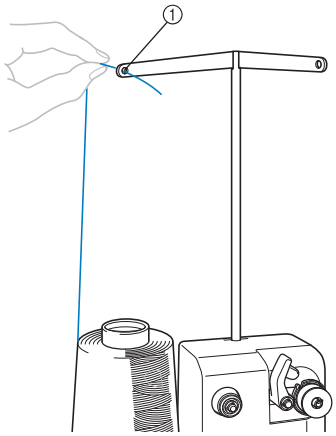
2 下糸立棒に糸こまを立てます。



① 糸こま
② 下糸立棒

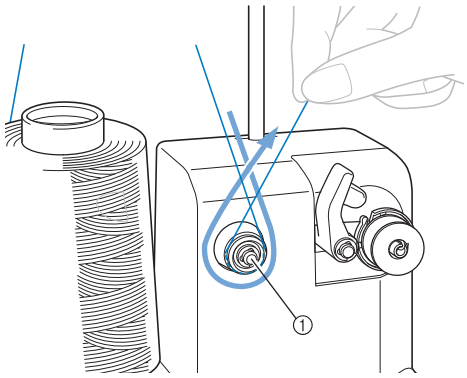
お願い
●小さい糸こまを使う場合は、糸こまクッションを取り外してから糸こまを立て、糸こま押えを差し込んでください。

3 糸案内の左の穴に、後方から手前に向かって糸を通します。



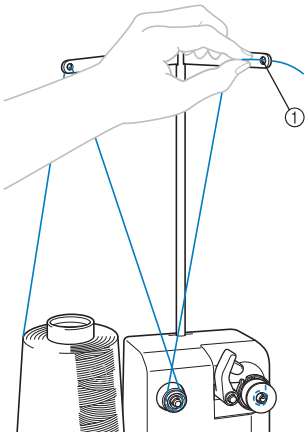
① 糸案内の穴

4 図のように、糸を調子皿に巻きつけます。糸が調子皿にきちんとかかっていることを確認します。



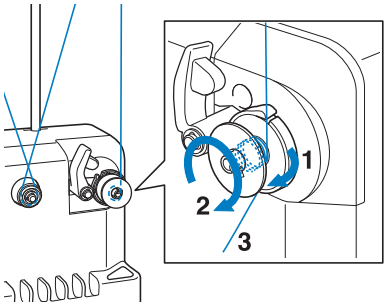
① 調子皿

5 糸案内の右の穴に、手前から後方に向かって糸を通します。

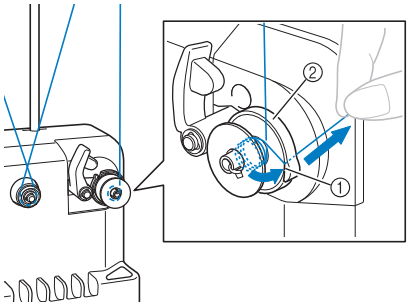


① 糸案内の穴

6 図のように、時計回りに 4 ～ 5 回、糸を巻きつけます。



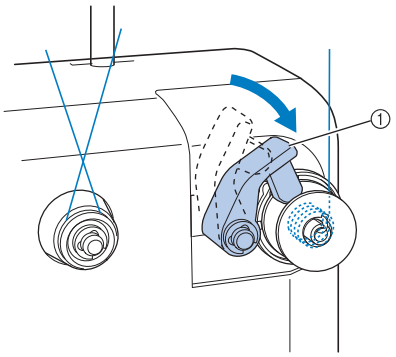
7 下糸巻き台の案内ミゾに糸の端を通して渡し、糸を引きます。カッターが糸を切ります。



① 案内ミゾ
② 下糸巻き台

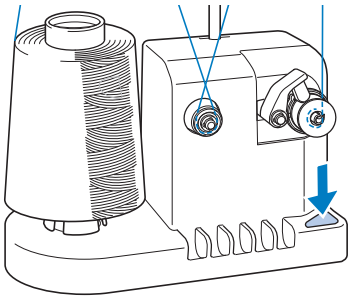
お願い
●必ず手順に従ってください。糸がカッターで切られずにボビンが巻かれると、縫製時にボビンがゆっくりと動いているとき、下糸がボビンのまわりでもつれ、針が折れることがあります。

8 ボビン押えをカチッと音がするまでスライドさせます。



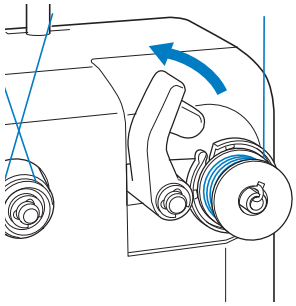
① ボビン押え

9 電源スイッチを押し、下糸を巻きます。

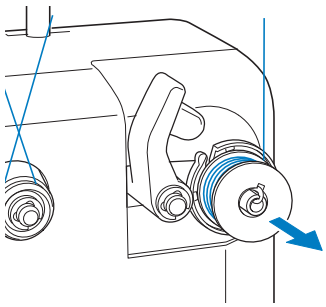


→ 下糸を巻き始めます。

10 巻き終わると、自動的にボビンの回転が止まり、ボビン押えが元の位置へ戻ります。

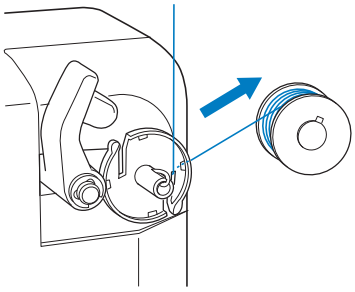


11 ボビンを外します。



お願い
●ボビンを外すときは、下糸巻き台を引っ張らないようにしてください。下糸巻き台がゆるんだり外れたりして、下糸巻き装置が破損するおそれがあります。

12 糸を下糸巻き台の案内ミゾに通して引き、カッターで糸を切ります。

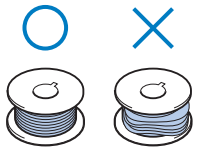


■ 巻いている途中で止まってしまったら

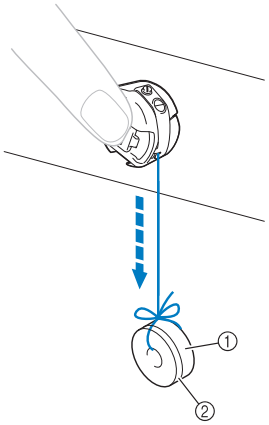
下糸立棒にからむなどして糸が送られなくなると、下糸巻き装置は自動的に止まります。このようなときは、糸を正しくかけ直して巻き直してください。

⚠ 注意

- 下糸がボビンにきちんと巻かれたことを確認してください。正しく巻かれていないボビンを使うと、針が折れたり糸調子がおかしくなったりする原因となります。



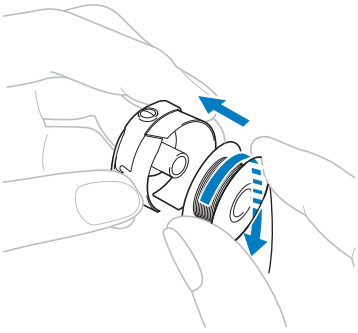
- ボビンを交換するときは、毎回必ずボビンケースを掃除してください。ボビンケースの調子バネの糸穴の周囲に、糸のワックスやゴミがたまると、糸調子不良の原因となります。掃除のしかたは、P.284「ボビンケースの掃除」を参照してください。
- ボビンを入れ替えたときは、毎回下糸の糸調子を確認してください。
- ボビンを交換するときは、毎回必ず糸調子を確認してください。金属ボビンを使用する場合は、下糸おもりのLタイプとSタイプの両方を使って確認してください。下糸の調整のしかたは、P.131「下糸の調子を調整する」を参照してください。



① 下糸おもり（L タイプ）
② 下糸おもり（S タイプ）

ボビンをセットする

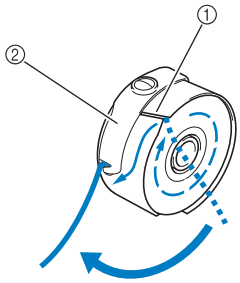
1 ボビンをボビンケースに入れます。



お願い

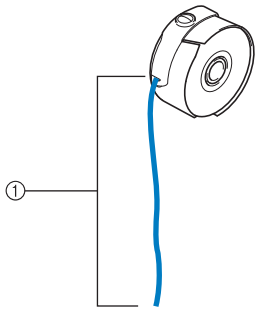
●巻き方向が図のようになっていることを確認してください。逆向きにボビンを入れると、下糸の空転が増え、縫製に不具合が生じることがあります。

2 糸を切りミゾから調子バネの下へ、すべり込ませます。



① 切りミゾ
② 調子バネ

3 糸を調子バネの糸穴から引き出します。



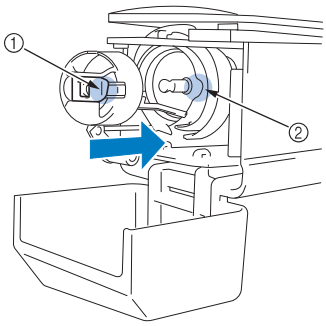
① 糸端を 5cm ほど引き出します。

● 下糸調子の調整のしかたは、P.131「下糸の調子を調整する」を参照してください。

ボビンケースをセットする

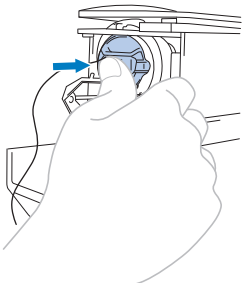
1 ボビンケースを釜に取り付けます。

図のように、釜の凹部とボビンケースの凸部を合わせて、押し込みます。

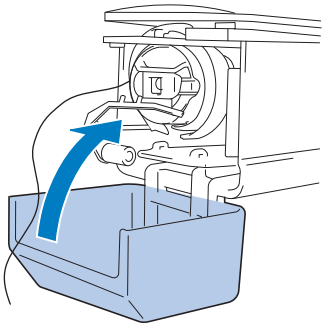


① 凸部
② 凹部

● カチっと音がするまで、奥まで押し込んでください。



2 釜カバーを閉めます。



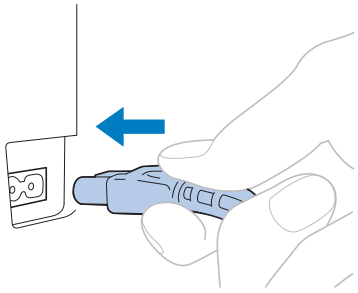
2. 電源を入れる

電源コードを用意し、電源を入れます。電源に関する注意については、P. 36 を参照してください。

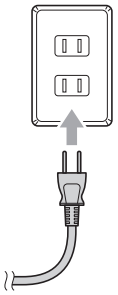
⚠ 注意

- 付属のミシン本体用フェライトコア付き電源コードを使用してください。その他の電源コードを使用すると、故障の原因になります。

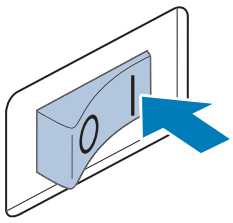
1 電源コードを電源コードジャックに差し込みます。



2 電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。



3 本体右側面の電源スイッチの右側（I 側）を押します。



→ 液晶画面が点灯します。

4 液晶画面にオープニング画面が表示されたら、液晶画面を押してください。液晶画面のどこを押しても、次の画面に変わります。

5 OK を押します。



→ 模様選択画面が表示され、スタート／ストップスイッチが赤く点灯します。

6 キャリッジが初期設定の位置に移動します。

- 1 番針棒が縫製位置にない場合は、針棒ケースが動いて、1 番針棒が縫製位置に移動します。

⚠ 注意

- キャリッジに手や物を近づけないでください。ケガの原因となります。

お知らせ

- このミシンは、縫製途中で中断し電源を切っても、次に電源を入れたときに続きからぬうことができます。その場合は電源を入れたとき、続きをぬうか、新しく操作を始めるかを選択できます。(P. 129「停止後、途中からぬうときは」参照)

ミシンを初めて使うとき

初めて本機の電源を入れたときは、言語と日時を設定してください。以下の手順に従って設定を行ってください。

1 ◂と▸を押して、言語を設定します。

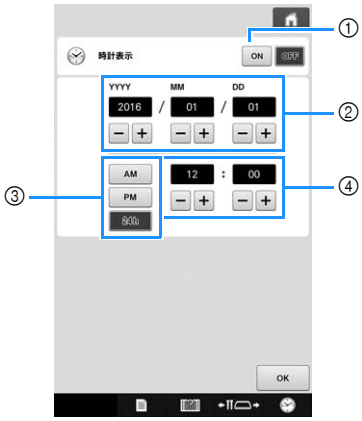


2 OKを押します。

→ キャリッジが初期設定の位置に移動します。

3 日時設定を行うかどうかの確認メッセージが表示されます。日時設定を行う場合は、OKを押し、設定をしない場合は、キャンセルを押します。

→ 日時設定の画面が表示されます。



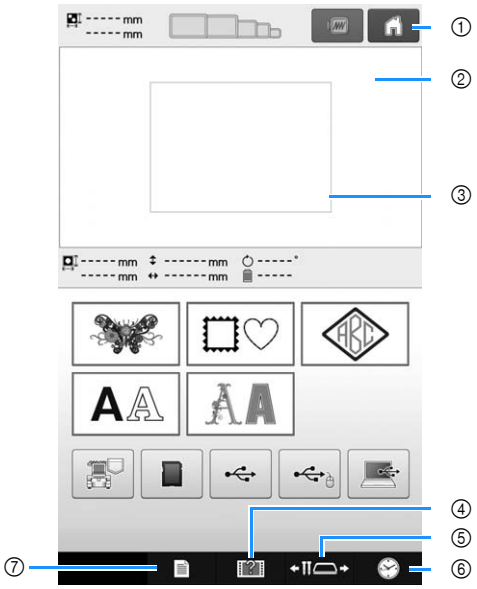
① 押して ON にすると、時刻が画面に表示されます。
② 年（YYYY）、月（MM）、日（DD）を設定します。
③ 24 時間表示／ 12 時間表示を選択します。
④ 現在の時刻を設定します。

4 OKを押してミシンをスタートします。

お願い
- 長期間ミシンを使用しなかった場合は、設定した日時がクリアされます。
- 時刻設定は、液晶画面の右下にある を押してもできます。

画面の見方

電源スイッチを入れ、OK を押すと、模様選択画面が表示されます。ここからは、操作パネル上での操作に入ります。液晶画面の取り扱いに関する注意は、P. 38 を参照してください。



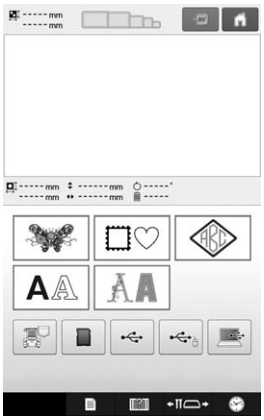
番号	画面表示	名称	説明	参照ページ
①		ホームキー	今までの作業を取り消し、最初の模様選択画面に戻るときに押します。	―
②	―	模様表示エリア	選択した模様が表示されます。	P. 229
③	―	刺しゅう範囲表示	装着している刺しゅう枠の縫製範囲を示します。刺しゅう枠の表示やグリッドライン、その他のディスプレーの設定をミシンの設定画面で設定できます。	P. 229
④		ミシンの使い方キー	使い方を確認するときに押します。	P. 240
⑤		針棒／枠移動キー	選択した針棒を移動し、糸通しするときに押します。また、刺しゅう枠の取り付け、取り外しがしやすくなるよう、キャリッジを移動するときや、注油をするときにも押します。	P. 70、96
⑥		時計キー	時刻を設定するときに押します。	P. 47
⑦		設定キー	ミシンの設定を変更するときに押します。	P. 226

＊　ここで説明しているキーは、これから説明する画面で常に表示され、その機能を使うことができます。

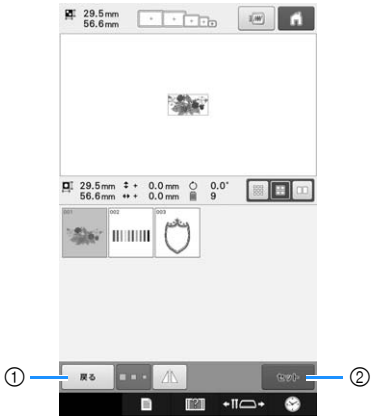
操作画面の流れ

基本的な操作画面の流れは次のとおりです。

模様選択画面で、模様の種類を選びます。
(P. 51、78 参照)

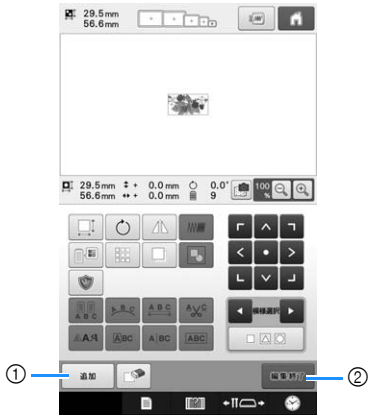


模様一覧画面で、模様を選びます。
(P. 51、79 参照)



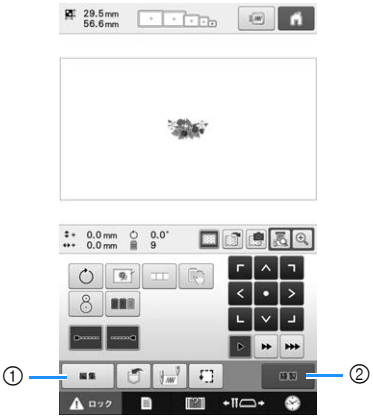
① **模様選択画面**に戻ります。
② **編集画面**に進みます。

編集画面で、個々の模様の編集をします。 (P. 53、80 参照)



① **模様選択画面**に戻り、模様を追加できます。
② **縫製設定画面**に進みます。

縫製設定画面で、組み合わせをしている場合の模様全体の編集や縫製設定、縫製範囲の確認などをします。 (P. 60、82 参照)



① **編集画面**に戻ります。
② **縫製画面**に進みます。

縫製画面で、針棒にかける糸色を確認し、上糸をかけます。
ロック解除キー（ ⚠ ロック ）を押すと、スタート／ストップスイッチが緑色の点滅に替わり、ミシンがスタートできる状態になります。(P. 62、85 参照)



① **縫製設定画面**に戻ります。
② ロック解除キー

縫製後、「(刺しゅう模様を) ぬい終わりました。」とメッセージが表示されます。 OK を押すと、縫製設定画面に戻ります。(P. 60、82 参照)

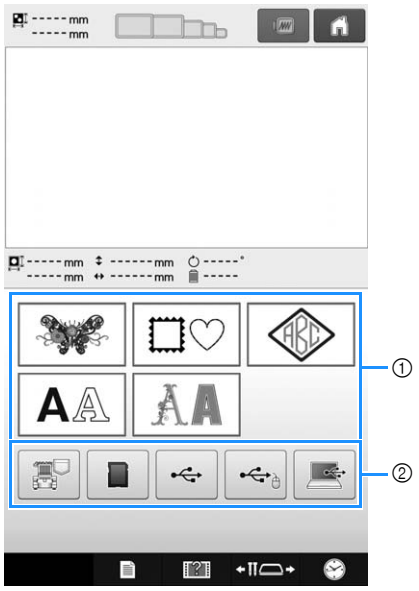
3. 模様を選ぶ

ここでは、右図の模様を選びます。



模様選択画面で模様のカテゴリー（種類）を選びます。

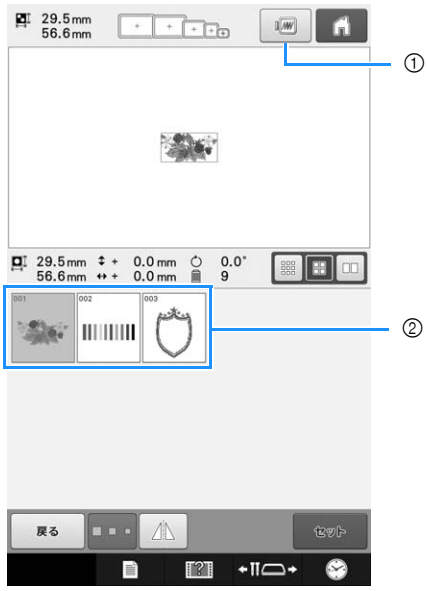
模様選択画面（画面の見方は P. 78 参照）



① カテゴリーキー
② 保存されている模様を呼び出すことができます

模様一覧画面で目的の模様を探し、模様を選びます。

模様一覧画面（画面の見方は P. 79 参照）



① 仕上がりイメージを確認するときに押します。
② 模様キー

■ 模様の仕上がりイメージを確認する

を押します。

閉じる を押すと、模様選択画面に戻ります。

刺しゅう模様を選ぶ

1 を押して、刺しゅう模様を選びます。

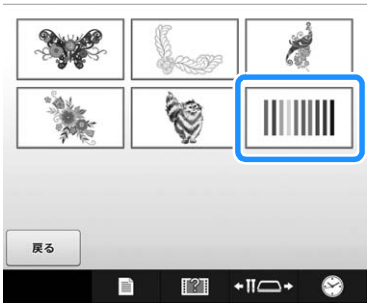


→ 刺しゅう模様のサブカテゴリー一覧が表示されます。

- 模様カテゴリーによっては、サブカテゴリーキーがあります。目的の模様が含まれているサブカテゴリーキーを押します。

2 カテゴリーを選びます。

選びたいカテゴリーキーを押します。

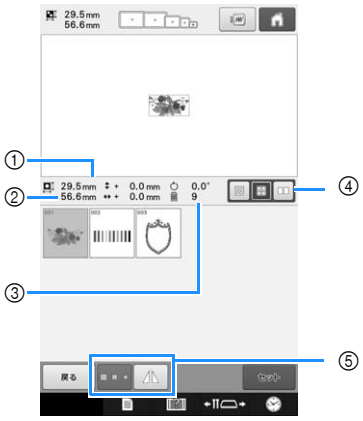


→ 模様一覧が表示されます。

3 選びたい模様を押します。

ここでは、を押します。





模様を選ぶと、以下の内容が表示されます。

① 模様の縦の長さ

② 模様の横の長さ

③ 色替え数

④ サムネイルサイズ選択キー
模様のサムネイルサイズが大・中・小の三種類から選択できます。

⑤ 模様の大きさを変更したり、反転したりすることができます。模様の種類によって、できることが異なります。(P. 185「左右反転する」参照)

- まちがえて模様を選んだときや模様を選び直したいときは、選びたい模様キーを押し直します。

4 セットを押して、次の画面に進みます。

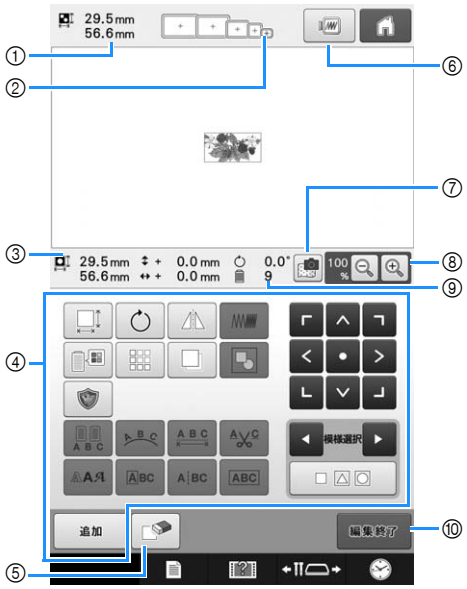
これで模様の選択が確定されます。

→ 編集画面が表示されます。

4. 模様の編集

この画面で模様を編集することができます。

編集画面 (画面の見方は P. 80 参照)



① 全体の大きさを示します。
上段が縦の長さ、下段が横の長さです。複数の模様を組み合わせている場合は、すべての模様を含めた大きさが示されます。

② 選んだ模様をぬうことができる刺しゅう枠を示します。

お知らせ

● 台枠がミシンに取り付けられていない場合は、正確な刺しゅう枠の大きさを示すことができません。 (P. 58 参照)

③ 選択している模様の大きさを示します。
上段が縦の長さ、下段が横の長さです。

④ 編集する場合はこれらのキーを使います。

⑤ まちがえて模様を選んでしまった場合など、模様を削除したいときに押します。模様が何も選ばれていない状態になると、模様選択画面に戻ります。

⑥ 仕上がりイメージを確認するときに押します。

⑦ 刺しゅう枠に張った布地の画像を内蔵カメラで読み込み、模様の背景として表示できます。

⑧ 拡大キーを押すと、模様表示エリアの模様の表示サイズを変更できます。

⑨ 選んだ模様の色替え数を示します。

⑩ 次の画面に進むときに押します。

このチュートリアルでは、模様の編集は行いません。編集操作は何もしないで、模様の確認に進みます。

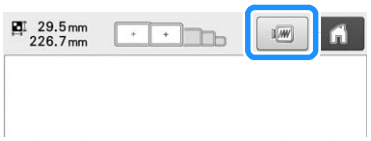
5. 仕上がりイメージを確認する

模様の仕上がりイメージを、よりぬい上がりに近い画像で確認します。

仕上がりイメージの見方

希望通りのぬい上がりになるか、刺しゅうしたときのイメージで見てみます。

1 を押します。



→ イメージが表示されます。

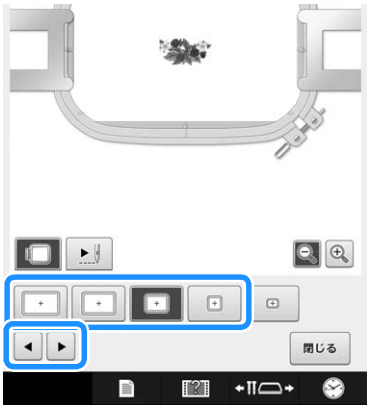


① を押すと、模様を拡大してみることができます。を押すと、模様が縮小表示されます。

お知らせ

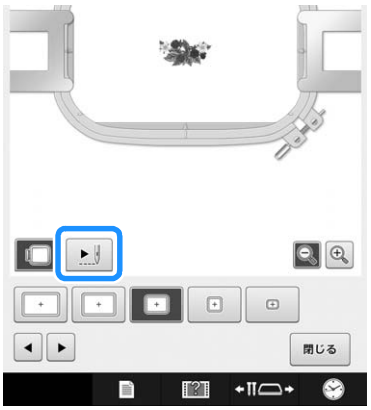
●仕上がりイメージが横向きに表示されたとき、上下に余白があっても、表示方向を縦向きに変えることはできません。

2 または を押して台枠の種類を選び、刺しゅう枠を選びます。

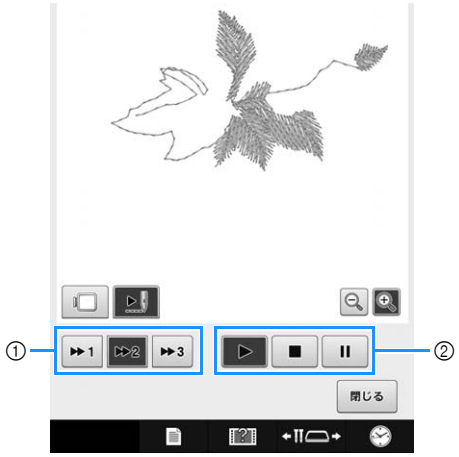


● 枠表示を変更してみて、模様に最適な台枠や刺しゅう枠の大きさを決めたら、台枠や枠を交換してください。ミシンが自動で台枠と枠の種類を認識して画面表示が変わります。

3 を押すと刺しゅうの順番を確認できます。



→ ステッチシミュレーター画面が表示されます。



① シミュレーションの速さを選べます。▸▸1 ▸▸2 ▸▸3 を押すと、速度が変わります。再生途中でも速さは変更できます。

② 再生操作キー

▶：設定した速度で再生スタートします。

⏸：再生中に押すと、シミュレーションが一時停止します。▶を押すと、一時停止したところから続けて再生できます。

■：再生中、または一時停止中に押すと、シミュレーションが終了し、スタート前の状態に戻ります。

- を押すと、台枠・枠表示選択画面に戻ります。

4 閉じる を押して、元の画面に戻ります。



お知らせ

●縫製画面では、仕上がりイメージを表示したまま刺しゅうを開始することができます。縫製画面以外で仕上がりイメージを表示したときは刺しゅうを開始できません。

6. 刺しゅう枠に布地を張る

ぬう模様が決まったら、使用可能な刺しゅう枠を確認し、その枠に布地を張ります。
刺しゅう枠に布地を張る前に、薄い布地や伸びる布地は刺しゅう芯を貼っておいてください（P. 100「布地に接着芯を貼る」参照）。布地に関する注意については、P. 38 を参照してください。

お願い
●布地の張り方がゆるいと、模様くずれやぬい縮みの原因となります。次の手順に従い、布地にたるみがないよう、しっかりと張ってください。また、布地を張るときは平らな場所で行ってください。

布地の張り方

1 刺しゅう枠を選びます。

画面に表示されている刺しゅう枠を確認し、使用できる刺しゅう枠を選びます。



使用できる刺しゅう枠は濃く（ ）、使用できない刺しゅう枠はグレー（ ）で表示されます。

お知らせ
●台枠がミシンに取り付けられていない場合は、正確な刺しゅう枠の大きさを示すことができません。（P. 58）

■ 刺しゅう枠の種類

4 種類の大きさの刺しゅう枠が同梱されています。これらの刺しゅう枠は、付属の台枠 A をミシンに取り付けて使用します。それぞれの用途については、P.96「刺しゅう枠を上手に使うには」を参照してください。

画面表示	名称
縫製範囲（ヨコ × タテ）	
	特大枠
360mm×200mm	
	LL 枠（別売）
300mm×200mm	
	L 枠
180mm×130mm	
	M 枠
100mm×100mm	
	S 枠
60mm×40mm	

別売の刺しゅう枠を使うときは、画面に次のアイコンが表示されます。

：台枠 B
：台枠 C
：台枠 D
：台枠 E

⚠ 注意

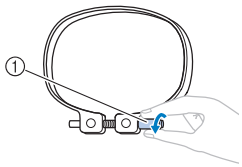
● 当社指定以外の刺しゅう枠や、誤った大きさの刺しゅう枠を使用すると、刺しゅう枠が押えに当たり、ケガ・故障の原因となります。（刺しゅう枠について詳しくは、P.96「刺しゅう枠を上手に使うには」を参照してください。）

お願い
●ミシンの使用可能刺しゅう枠表示では、これからぬう刺しゅう模様が入る大きさの刺しゅう枠がすべて表示されますが、できるだけ刺しゅう模様の大きさに合った刺しゅう枠を使ってください。大きすぎる刺しゅう枠を使うと、模様くずれやぬい縮みが起きることがあります。（P. 96「刺しゅう枠を上手に使うには」参照）

■S 枠に布地を張る

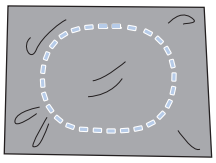
ここでは、S 枠に布地を張ります。
M 枠に張る場合も、同様の手順で布地を張ってください。
特大枠、LL 枠、L 枠に張る場合は、P.101「布地の張り方」を参照してください。

2 刺しゅう枠の外枠調節ネジをゆるめます。



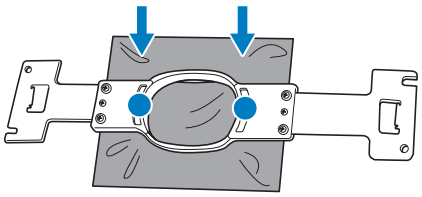
① 調節ネジ

3 外枠の上に、布地をピッと伸ばしてのせます。



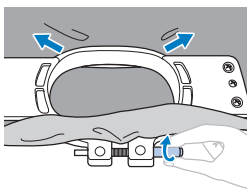
- 外枠の表裏はありません。どちらの面が表になっても構いません。
- ぬい縮みや模様くずれを防ぐため、刺しゅう用接着芯の使用をお勧めします。(P. 100「布地に接着芯を貼る」参照)

4 内枠ではさみます。

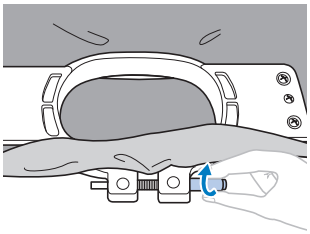


- 刺しゅう枠の内側に、はさみしわができないよう注意してください。

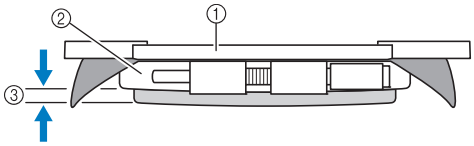
5 調節ネジを軽く締め、布地の端を引っ張ります。



6 調節ネジをしっかりと締め、布にたるみのないことを確認します。

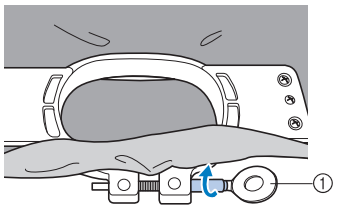


- 布地を張った後、布地を軽くたたくと太鼓のような音がするくらいが目安です。
- 内枠の下部が外枠より下がるように、できるだけしっかりとはめてください。



① 内枠
② 外枠
③ 内枠の下部

- 調節ネジは付属の丸型ドライバーで、しっかりと締め付けることもできます。



① 丸型ドライバー

布地の種類によって、その布地に適した張り方や刺しゅう芯の使い方があります。ちょっとした工夫が、刺しゅうをきれいに仕上げます。いろいろ試してみましょう。(P. 257「枠張りのテクニック」参照)

7. 刺しゅう枠をミシンにセットする

刺しゅう枠に布地を張ったら、ミシンにセットします。台枠は、台枠Aと台枠Bの2種類が付属されています。付属の刺しゅう枠を使用する場合は、台枠 A を取り付けてください。（台枠について詳しくは、P.96「刺しゅう枠を上手に使うには」を参照してください。）

⚠ 注意

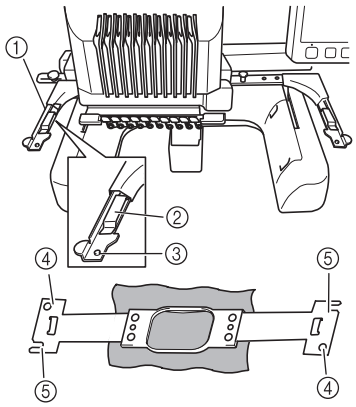
- 刺しゅう枠を正しくセットしないと、刺しゅう枠が押えに当たり、ケガ・故障の原因となります。
- 刺しゅう枠をセットするときは、スタート／ストップスイッチが赤色で点灯していることを確認してから行ってください。スタート／ストップスイッチが緑色で点滅しているときは、ミシンはスタートできる状態です。誤ってミシンが作動すると、ケガの原因となります。
- 刺しゅう枠をセットするときは、刺しゅう枠がミシンの各部品に当たらないように注意してください。

お願い

●刺しゅう枠をセットする前に、下糸残量が十分あることを確認してください。

刺しゅう枠のセットのしかた

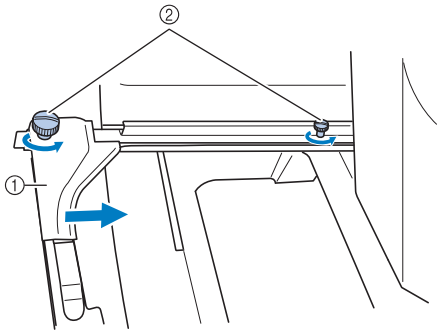
セットする刺しゅう枠の大きさに台枠の幅を合わせてから、刺しゅう枠をセットします。ここでは、S枠をセットします。



① 台枠の左アーム
刺しゅう枠の大きさに合わせて、左右に調整します。
② 台枠の受金具
ここに刺しゅう枠の取付部を挟み込みます。
③ ピン
④ 穴
⑤ 切り欠き

1 台枠の 2 本のつまみボルトをゆるめます。

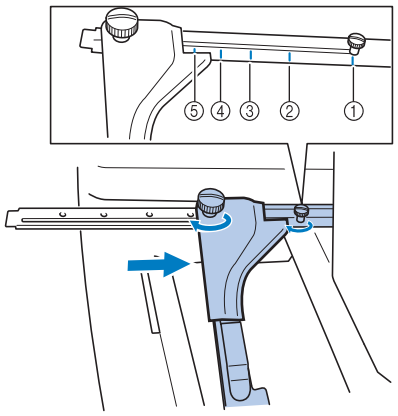
つまみボルトがきつすぎるときは、付属の丸型ドライバーを使用してください。



① 左アーム
② つまみボルト
→ 台枠の左アームが移動できるようになります。
● つまみボルトは、2 ～ 3 回、回してゆるめるだけで、外さないでください。

2 左アームを移動し、セットする刺しゅう枠のマークを右のネジに合わせ、つまみボルトを締めます。

ここでは、⑤のマークを合わせます。

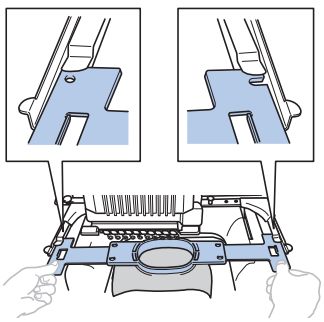


① 特大枠のマーク
ヨコ 360mm× タテ 200mm
② LL 枠のマーク
ヨコ 300mm× タテ 200mm（別売）
③ L 枠のマーク
ヨコ 180mm× タテ 130mm
④ M 枠のマーク
ヨコ 100mm× タテ 100mm
⑤ S 枠のマーク
ヨコ 60mm× タテ 40mm

お願い
●付属の丸型ドライバーで、2 本のつまみボルトをしっかりと締め付けてください。つまみボルトが締まっていないと、次のようなトラブルが発生するおそれがあります。
・ ミシンが枠のサイズを誤って認識する
・ 刺しゅう枠の原点位置がずれる
・ 刺しゅう模様がくずれる

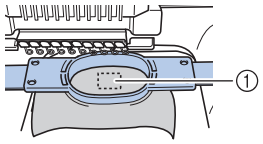
→ 台枠の準備ができました。

3 刺しゅう枠を水平に持って、刺しゅう枠の取付部を左右同時に台枠の受金具に合わせ、挟み込ませます。



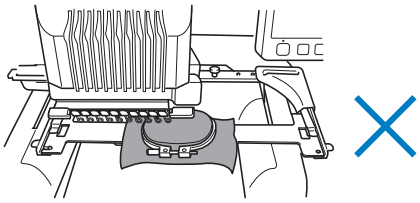
● 刺しゅう枠は内枠面を上にします。

お願い
●縫製範囲の下に針板が位置するように、刺しゅう枠をセットしてください。ずれていると、刺しゅう枠が針板に接触します。

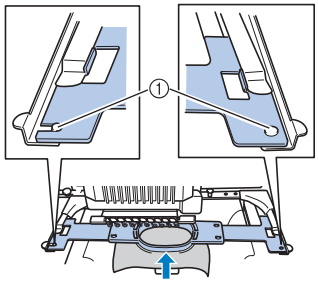


① 針板

●外枠面を上にセットしないでください。



4 そのまま奥へ刺しゅう枠を押し込みます。



① 左右のアームのピンが、刺しゅう枠の取付部の穴に入っていることを確認してください。

縫製設定画面に進む

1 編集終了 を押します。

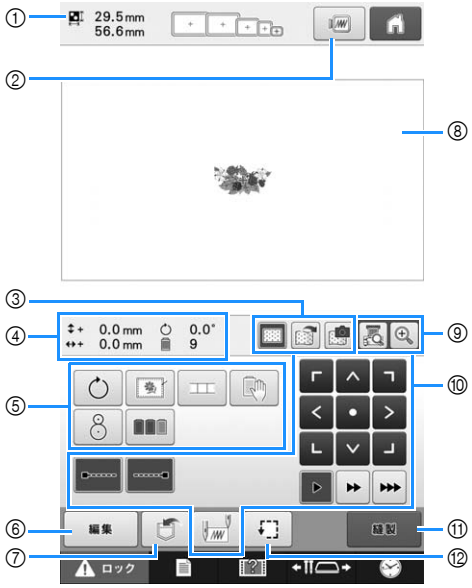


→ 縫製設定画面に進みます。

8. 縫製設定

この画面で模様全体の編集と縫製のしかたの設定をすることができます。また、縫製位置の確認、模様の記憶も、この画面で行います。

縫製設定画面（画面の見方は P. 82 参照）



① 模様表示エリアの模様の大きさを示しています。
② 仕上がりイメージを確認するときに押します。
③ 刺しゅう枠に張った布地の画像を内蔵カメラで読み込み、模様の背景として表示できます。スキャン後は背景を非表示にしたり、外部メモリーに保存したりできます。
④ 模様の中心からの移動距離、回転角度、色替え数を示しています。
⑤ 追加編集機能を使う場合はこれらのキーを使います。
⑥ 編集画面に戻る場合に押します。
⑦ 模様を記憶する場合はこのキーを使います。
⑧ 模様表示エリアの刺しゅう範囲表示は、実際に装着されている枠の大きさで表示されます。
⑨ カメラ機能を使って、液晶画面で針落ち位置を確認するときに押します。
⑩ 縫製のしかたを設定する場合はこれらのキーを使います。
⑪ 次の画面に進むときに押します。
⑫ 縫製範囲を確認するときに押します。

このチュートリアルでは、縫製設定は行いません。次の手順に進みます。

お願い

●設定画面で手動糸色割付を「ON」に設定すると、使用可能なキーが変更されます。キーやその他の画面説明について詳しくは、P. 84 を参照してください。

お知らせ

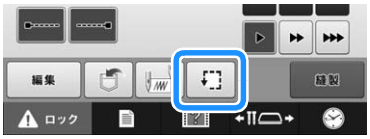
●縫製設定画面に進んだときに刺しゅう枠が正位置にない場合、縫製設定画面が表示されると同時に刺しゅう枠が動き、正位置に移動します。（P. 104「刺しゅう枠の位置と動きについて」参照）

9. 縫製範囲を確認する

刺しゅうしたい場所とずれていないか、押えが枠に当たらないか、縫製範囲を確認します。
刺しゅう枠が正位置にない場合は、刺しゅう枠が正位置に移動してから縫製位置が示されます。

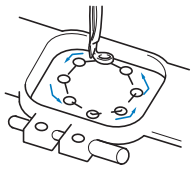
お願い
- 平枠、キルト枠、ジャンボ枠を使用して、ジャケットやカーテンなど大きな布地に刺しゅうする場合、使用しない針棒の押えが模様のまわりの布地に引っかかり、刺しゅうを中断させる場合もあります。その場合、針棒 3 番～ 7 番を使用し、刺しゅう枠の中央付近で刺しゅうしてください。（針棒の選択については、P. 117 または P. 140 を参照してください。）

1 **[ ]を押します。**



→ 押えが下がり、刺しゅう枠が動いて、縫製範囲を示します。

2 **刺しゅう枠が動き、縫製位置にある針の下に模様が内接する 8 角形の角が順次示されます。**



刺しゅう枠の動きをよく見て、刺しゅうしたい場所とずれていないか、刺しゅう枠と重なっていないか、確認してください。

枠の移動を止めながら確認する／確認を中止する

しっかり確認したい位置で刺しゅう枠を一時停止したり、縫製確認を中止したりすることができます。

1 **刺しゅう枠を止めたい位置で、再度[ ]を押します。**

→ 動作は一時停止し、次の画面が表示されます。



① 押すと、動作を再開します。
② 押すと、縫製確認を中止します。

2 **動作を再開するときは、[OK]を押します。**
中止するときは、[キャンセル]を押します。

縫製画面に進む

縫製設定画面で必要な操作が終わったら、縫製画面に進みます。

1 **[縫製]を押します。**



→ 縫製画面が表示されます。

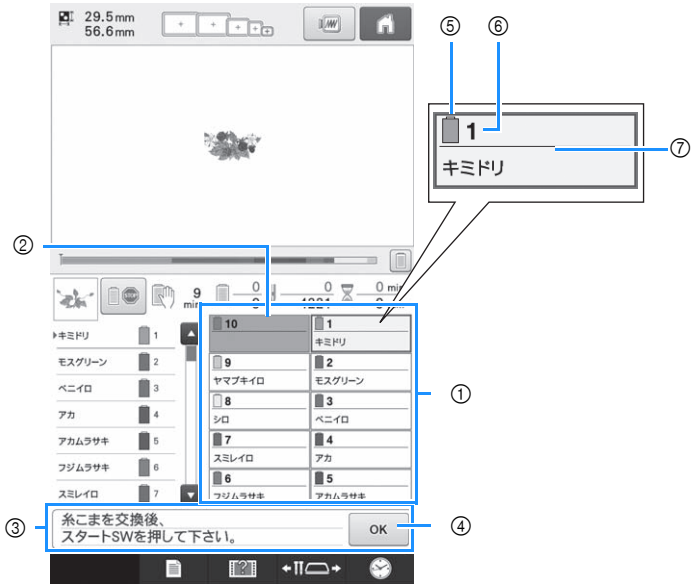
10. 上糸をセットする

縫製画面で、何番の針棒にどの糸色を通すか確認し、上糸を通します。

針棒と糸色を確認する

縫製設定画面で 縫製 を押すと、縫製画面が表示されます。糸こま交換が必要なときは、糸こまを交換するように指示画面が表示されます。
設定画面で手動糸色割付を「ON」に設定している場合は、糸こま交換が必要なときでもこの指示画面は表示されません。(P. 140「各針棒の糸色を選択する／管理する（手動糸色割付）」参照) ここで、糸色を確認します。

縫製画面（画面の見方はP. 85 参照）



① 1 番針棒から 10 番針棒の糸替え表示

② 糸色名が表示されていない場合は、その針棒は使われません。
また、前回の縫製で使用された糸色がすでに針棒に割り当てられていて、同じ色を次も使用する場合、前回の針棒に引き続いて同じ糸色が割り当てられます。

③ 糸こま交換指示画面（P. 121 参照）
この画面が表示されたときは、糸こま交換が必要です。OK ④ を押してこの画面を閉じるまで、縫製に進むことはできません。

お知らせ

●糸こま交換が必要な針棒キーは、赤枠で囲まれます。糸通しボタンを押すと枠が消えます。

⑤ 糸色

⑥ 針棒番号

⑦ 糸色名や糸色番号
設定画面で糸色番号（#123）が選択されている場合は、ブランド名も表示されます。(P. 231「糸色表示を切り替える」参照)

各針棒番号の下に示されている糸色名の糸を、その番号の針棒にかけます。ここでは、

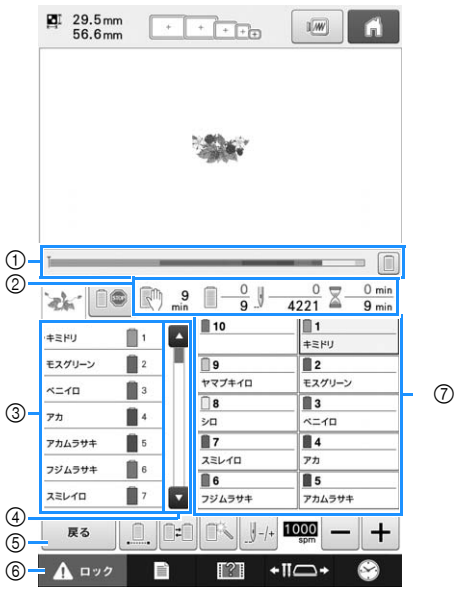
1 番針棒にキミドリ
2 番針棒にモスグリーン
3 番針棒にベニイロ
4 番針棒にアカ
5 番針棒にアカムラサキ
6 番針棒にフジムラサキ
7 番針棒にスミレイロ
8 番針棒にシロ
9 番針棒にヤマブキイロ

の糸をかけます。糸色名が表示されていない場合は、その針棒は使われません。この場合、10 番針棒は使われません。

1 OK を押します。

→ 現在の糸色割り当てがミシンに記憶され、糸こま交換指示画面が閉じます。

● 縫製画面では糸色の確認のほかに、総針数や縫製時間などの確認や、縫製に関する設定ができます。



① 縫製がどこまで進んだかをゲージに表示される赤い目盛りで確認できます。 を押すと、ゲージに縫製中の糸色のみが表示されます。

② 色替え数、針数、縫製時間、次にミシンが停止するまでの時間を示します。

③ 糸の色、糸色のぬい順、糸色が割り当てられている針棒番号を示します。縫製をするところには赤い三角が表示されます。また、縫製が終了したところはグレーになります。

④ 、 を押すと、画面に表示できない糸の色、ぬい順、針棒番号を見ることができます。

⑤ 縫製設定画面に戻る場合に使います。

⑥ ミシンをスタートするときや糸切りを行うとき、このキーを押してミシンロックを解除してから、スタート／ストップスイッチや糸切りスイッチを押します。

⑦ 押すと、その番号の針棒が縫製位置に移動します。自動針穴糸通し装置で糸や糸切りスイッチを通すときに使います。

お願い

●設定画面で手動糸色割付を「ON」に設定している場合は、使用可能なキーが異なります。（画面のキーとその他の情報について詳しくは、P. 85 を参照してください。）

⚠ 注意

● **縫製画面で ロック（ロック解除キー）を押すと、スタート／ストップスイッチが緑色の点滅に変わり、ミシンはスタートできる状態になります。上糸をかけているときや針穴に糸を通しているときは、誤ってミシンを作動しないよう注意してください。ケガの原因になります。**

上糸をかける

刺しゅう用の糸を使用し、１番針棒から順に糸をかけていきます。

⚠ 注意

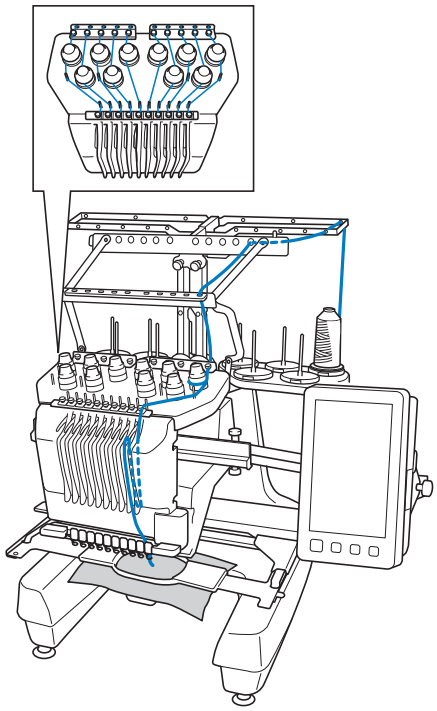
- **上糸通しは指示に従って、正しく行ってください。糸が正しく通されていない場合、糸が切れたり、糸がからんで針が折れたり、曲がったりするおそれあります。**

お願い

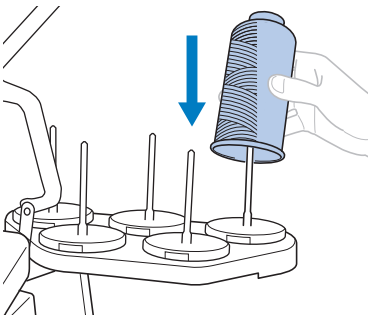
- 糸は、刺しゅう用のレーヨン糸またはポリエステル糸（den 120 x 2、＃ 50）を使用してください。

お知らせ

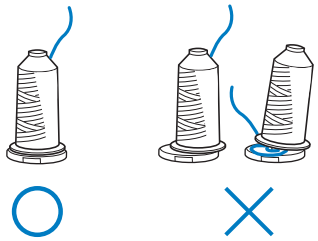
- 上糸を通す順番は、ミシン本体に線（−）で示されています。そちらも併せて見ながら糸を通してください。



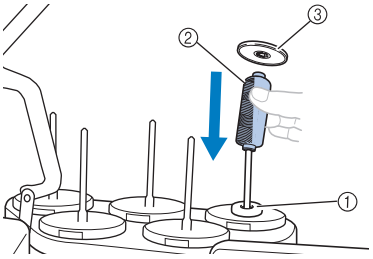
1 針棒に指定された糸色の糸こまを、糸立棒に立てます。



- 糸立台が完全に開いていることを確認してください。
- 小さい糸こまを使用する場合、糸立棒に糸こまを立てる前に、糸立棒に付属の糸こまフェルトを取り付けてください。
- 糸こまから糸が正しく送られるように、また、糸が糸立棒にからまないよう、糸こまは糸立台の中心に立ててください。



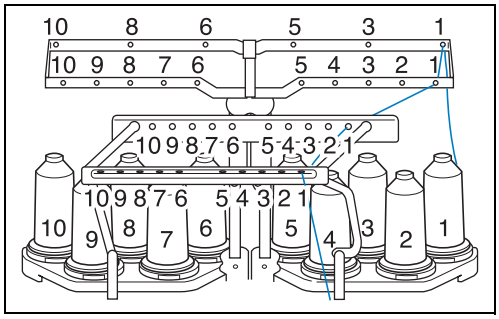
- 糸立棒より低い糸こまを使用する場合、付属の糸こま押えを取り付けてください。



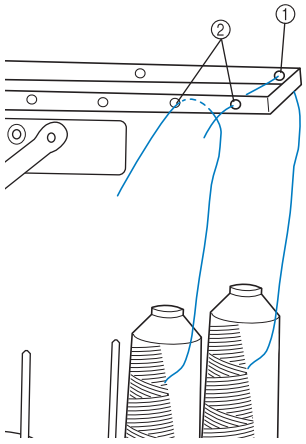
① 糸こまフェルト
② 小さい糸こま
③ 糸こま押え

- 両つば付きの糸こまを使用する場合、糸立棒に糸こまを立てた後に、糸こまの上から糸立棒に付属の糸こま押えを取り付けてください。

下図の番号は、その針棒番号の糸が通る場所を示しています。まちがえないように注意して糸をかけてください。

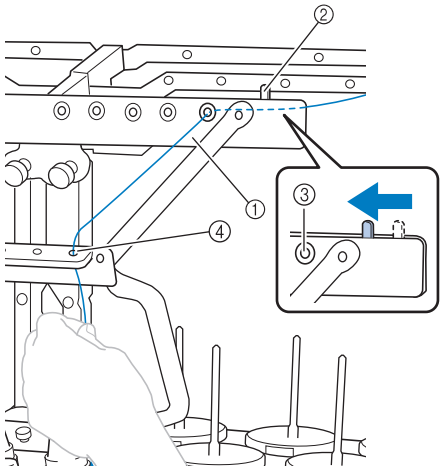


2 各針棒の糸道に指定されている穴を確認しながら、糸を糸案内の穴に通します。
1、3、5、6、8、10 番糸立棒からの糸は、糸案内 A と B の両方の穴に通します。
2、4、7、9 番糸立棒からの糸は、糸案内 B の穴のみに通します。



① 糸案内 A（穴は 6 個あります）
② 糸案内 B（穴は 10 個あります）

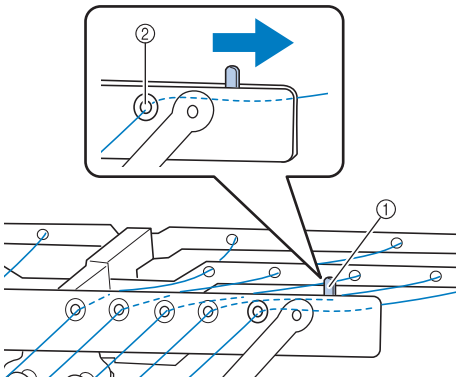
3 糸を糸案内 C の穴に通してから、糸案内 D の穴に通します。各針棒番号の糸道に指定されている穴にそれぞれ通します。
1 番糸立棒からの糸の場合は、図のように通します。



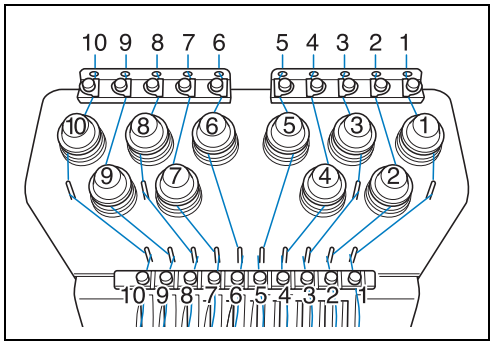
① 糸案内 C
② 糸調子レバー
③ 糸案内 C の穴
④ 糸案内 D

お願い

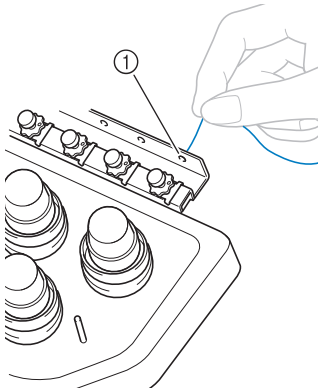
- 糸を通す前に、糸調子レバーを左へスライドして糸案内 C の穴を全開にしてください。
- 上糸をかけ終わったら、糸調子レバーを右へスライドしてください。糸案内 C の穴が開いたまま縫製すると、糸がらみや糸切れを起こすことがあります。



① 糸調子レバー
② 糸案内 C の穴

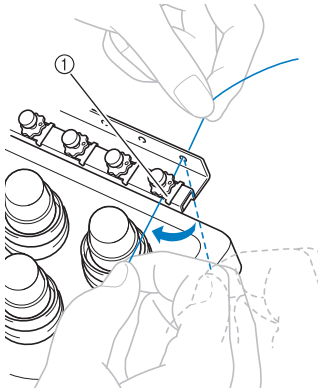


4 1番の糸道上の穴に通し、手前側に糸を引きます。



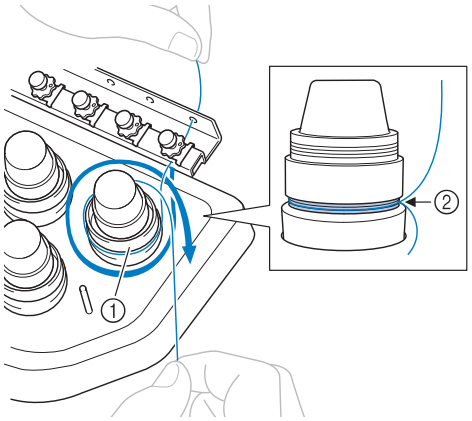
① 糸道上の穴

5 糸を両手で持ち、糸道上の金具の下に右側から糸を通します。



① 糸道上の金具

6 1番の回転調子皿に右回りに1回巻きつけます。



① 回転調子皿

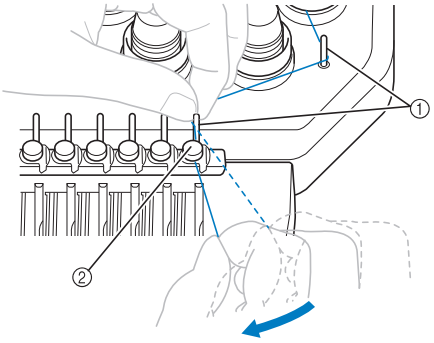
② 回転調子皿のこの部分に、時計回りで糸を巻く

- 糸が回転調子皿にきちんとかかっていることを確認してください。

お願い

●回転調子皿には、糸を時計回りに巻きつけてください。

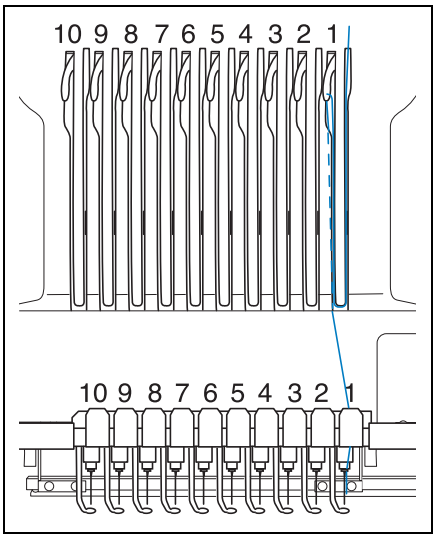
7 ミシン本体に示されている糸道に沿って、糸案内ピンに正しくかけながら糸を通し、1番糸道中の金具に右側から通します。



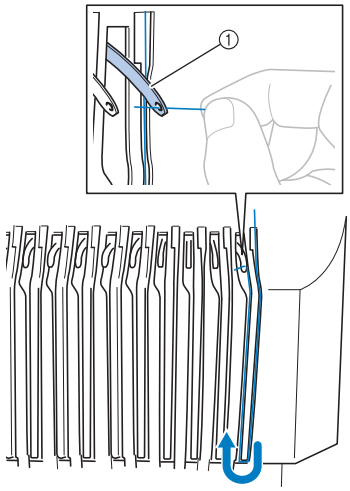
① 糸案内ピン

② 糸道中

- 手順 6 から 7 の糸道上から回転調子皿に巻きつけ、糸道中までの糸の通り道は番号によって異なります。糸案内ピンの左右を通すことで、糸がからまないように設計されています。ミシン本体に示されている糸道に従ってそれぞれの糸を通してください。

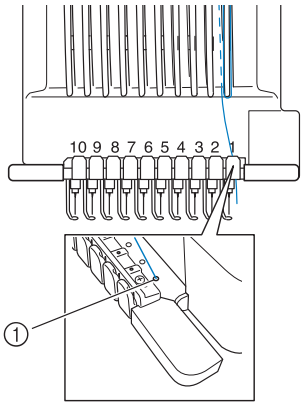


8 1番のミゾに沿って糸を通し、1番の天びんの穴へ右から通します。



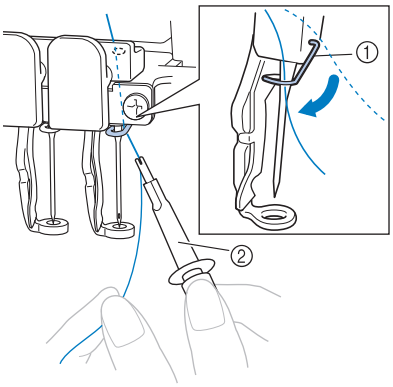
① 天びん

9 糸案内ミゾに沿って糸を通し、1番の糸道下の穴に糸を通します。



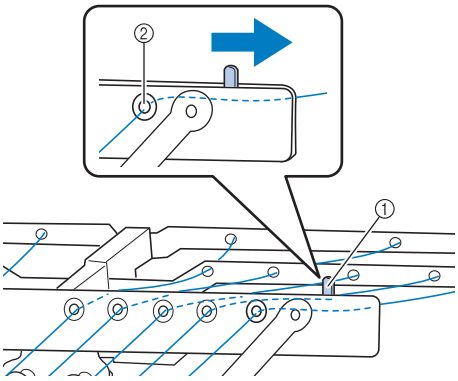
① 糸道下の穴

10 付属の糸通しを使って、1番の針棒糸かけに糸をかけます。



① 針棒糸かけ
② 糸通し

11 上糸かけが完了したら、糸案内Cの糸調子レバーを右にスライドして、糸案内の穴を閉じます。

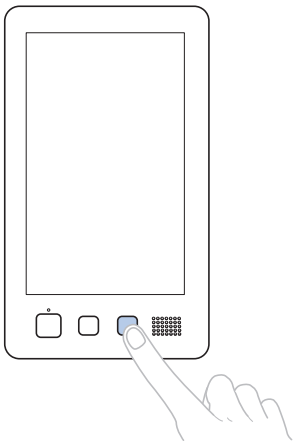


① 糸調子レバー
② 糸案内Cの穴

糸を針穴に通す

自動針穴糸通し装置を使って、糸を通します。

1 **自動針穴糸通しスイッチを押します。**



→ 自動針穴糸通し装置のフックが針穴に入ります。

→ 糸立台の LED ライトは消灯します。

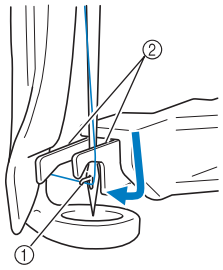
⚠ 注意

- **針が正確に取り付けられていないと、自動針穴糸通し装置を使って糸を通すときに、フックが針穴に入ることができず、フックが折れるなどして針に糸を通すことができません。**
- **自動針穴糸通し装置のフックが折れたり破損したときは、お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。**
- **自動針穴糸通し装置のフックが針穴に入っているときは、絶対にプーリーを回さないでください。自動針穴糸通し装置が破損します。**

お願い

- 破損を避けるため、プーリーを回すと自動針穴糸通し装置が後ろに戻ることがあります。
- 自動針穴糸通し装置は、縫製位置にある針 1 本に糸を通すことができます。使用するときは、糸通しをする針棒が縫製位置にきていることを確認してください。縫製位置にきていないと自動針穴糸通し装置は使えません。その場合は、針棒を移動します。(P. 70 参照)

2 **糸を 15cm ほど引き出します。図のように、糸を右側から自動針穴糸通し装置のふたまた部へ通して、針穴から出ているフックに引っかけます。**



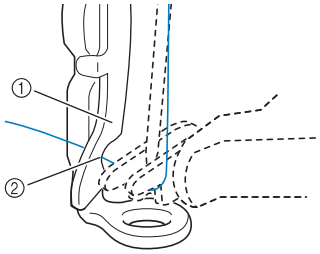
① フック

② ふたまた部

お願い

- フックに引っかけるときに、糸がたるまないよう注意してください。

3 **押えの糸かけに糸を引っかけます。**

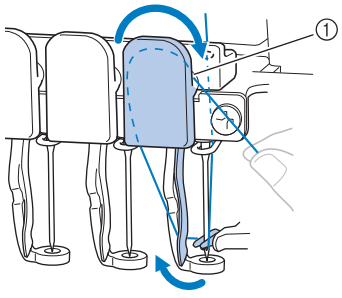


① 押えの糸かけ

② 押えの糸かけの溝

- 押えの糸かけの溝に、確実に糸がかかっていることを確認してください。

4 **糸切り糸かけの溝にしっかりと糸を通し、糸を軽く引っ張って切ります。**

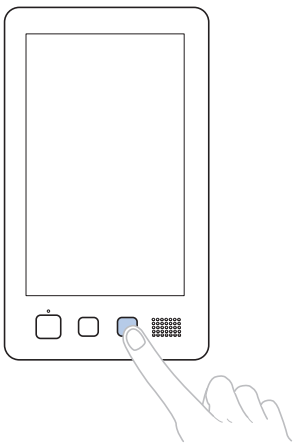


① 糸切り糸かけの溝

お願い

- 糸が、糸切り糸かけの溝を正しく通っていないと “ ワイパーエラー ” 画面が表示され、針穴に糸を通すことができません。溝にしっかりと糸を通してください。
- 糸が十分に引き出されていないと、糸切り糸かけに引っかかりません。

5 自動針穴糸通しスイッチを押します。



- 糸通しが針から後ろへ下がります。針穴を糸が通り、糸通しが後ろで待機します。
- ワイパーが出て、針と糸通しの間の糸をつかみます。
- 糸通しが元の位置に戻ります。

これで、1 番針棒の上糸がセットできました。

同様に、残りの針棒に上糸をセットします。

お願い

●糸通しをする針棒が縫製位置にきていないと、自動針穴糸通し装置で糸を通すことはできません。2 番針棒からは、次の手順で糸を針穴に通す前に、針棒を縫製位置に移動してください。

■ 糸通しをする針棒を縫製位置に移動する

どの操作画面でも、縫製位置に針棒を移動して糸通しすることができます。

1 を押します。



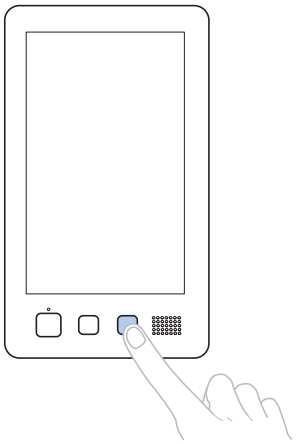
→ 針棒を移動させる画面に移動します。

2 移動、あるいは糸通しをしたい針棒の針棒番号キーを押します。



→ 選んだ針棒が縫製位置に移動します。

3 針棒移動画面を表示したまま、自動針穴糸通しスイッチを押します。



4 OK を押すと、元の画面に戻ります。

お知らせ

●縫製画面では、糸情報が青い枠で囲まれ、その針棒が選択されていることを示します。



■ 糸通しをする針棒を縫製位置に移動する

縫製画面で、選んだ針棒を縫製位置に移動できます。

1 針に糸を通したい針棒の番号を押します。



→ 針棒が縫製位置に移動します。

お願い

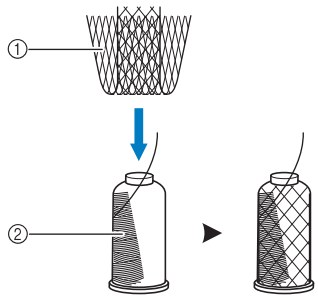
●糸だるみがあると、回転調子皿から糸が外れていることがあります。糸をかけ終わったら、回転調子皿にきちんと糸がかかっているか、再度確認してください。(P. 66 手順 6 参照)

お知らせ

●上糸の 1 色を変える場合、現在かかっている糸を糸こまと糸案内の間で切ると、簡単に糸をかけ直すことができます。糸立棒に新しい糸こまをセットし、新しい糸の端と前の糸の端を結びます。そして、針の方向に糸を引きます。(P. 122 参照)

■ 糸こまネットを使う

メタリック糸や強い糸を使用する場合、ぬい始める前に、糸こまに付属の糸こまネットを取り付けてください。糸こまネットが長すぎるときは、糸こまに取り付ける前に、一度糸こまのサイズに合わせて折り曲げてください。また、糸こまネットを使用するときは、糸調子を調整する必要がある場合があります。



① 糸こまネット
② 糸こま

11. 刺しゅうをぬう

それでは、ぬってみましょう。
ミシンをスタートすると、自動的に押えが下がり、ぬい始め・ぬい終わりの糸の処理や糸替えをしながら縫製し、ぬい終わると止まります。

⚠ 注意

- 安全のため、縫製中はミシンから離れないでください。
- 縫製中は、針の動きに十分注意してください。また、針、針棒ケース、天びん、キャリッジなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。

■ ミシンロック機構について

安全のため、このミシンはミシンロック機構が採用されています。
通常、ミシンはスタートできない（ロックされた）状態になっています。ロックを解除しないと、ミシンをスタートすることができません。ロック解除の状態は 1 回の操作につき約 10 秒間で、その間にミシンがスタートされなかった場合は自動的にロック状態に戻ります。
ロック状態かロック解除状態かは、スタート／ストップスイッチで見分けることができます。赤色の点灯はロック状態を、緑色の点滅はロック解除状態をそれぞれ示しています。

ミシンをスタートする

お願い
●刺しゅう枠が動く範囲に、物を置かないようにしてください。刺しゅう枠が当たり、模様くずれの原因となります。

1 ⚠ ロック を押し、ミシンロックを解除します。

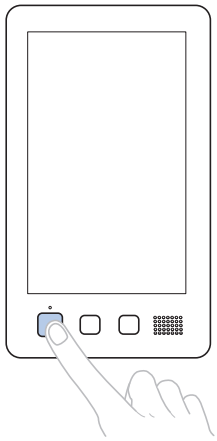


→ スタート／ストップスイッチが緑色の点滅に変わり、ミシンをスタートできる状態になります。

- ロック解除後、約 10 秒以内にスタート／ストップスイッチを押さないと、ミシンはロック状態に戻ります。

❷ スタート／ストップスイッチを押します。

スタート／ストップスイッチが緑色に点滅している間に押します。赤色の点灯に戻ってしまった場合は、手順 ❶ からやり直してください。



→ スタート／ストップスイッチが緑色の点灯に変わり、1 色目をぬい始めます。

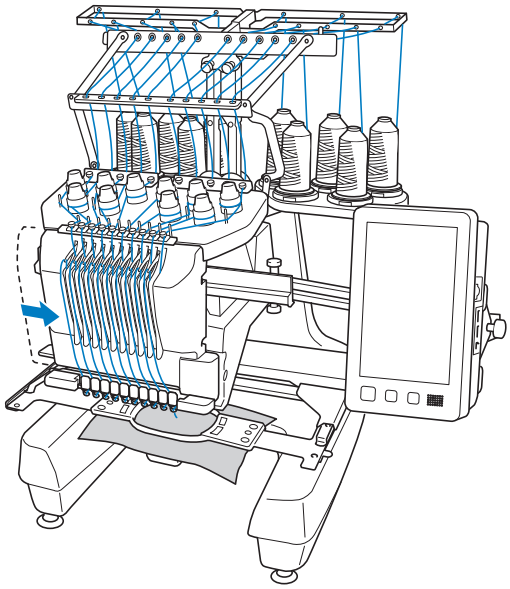


① 現在縫製中あるいはすぐ後に縫製される針棒の糸色が、ぬい順表示の先頭に表示されます。残りの糸色は、ぬい順に上から並んで表示されます。

② 糸情報が青い枠で囲まれ、その針棒で縫製していることを示します。

● 縫製中は、模様表示エリアの緑色の十マークが現在ぬっているぬい目を示します。また、針数、時間はカウントされていきます。

❸ 1 色目がぬい終わると、自動的に止まって糸を切ります。針棒を移動して、2 色目をぬい始めます。



→ 画面のぬい順表示が 2 色目に進み、2 番針棒の糸替え表示が青い枠で囲まれます。

❹ 同様に最後の色までぬい、ぬい終わると自動的に止まります。

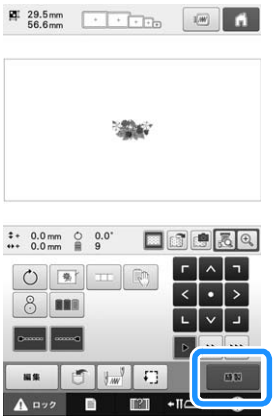
→ 画面は、その模様をぬう前の縫製設定画面に戻ります。

→ スタート／ストップスイッチは、赤色の点灯に変わります。

● ぬい始めやぬい終わりの糸の処理は、必要ありません。

■ 続けて刺しゅうをするときは

もう 1 度同じ模様をぬいたい場合は 縫製 を押します。



→ 縫製画面が表示され、続けて同じ模様をぬうことができます。

新しい模様を選びたい場合は を押します。



→ 模様選択画面が表示されます。

お願い

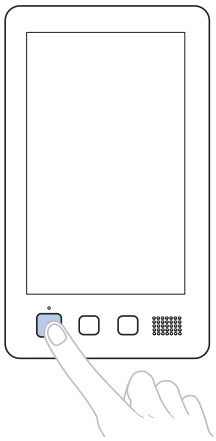
- 模様のぬい始めや色替え後のぬい始め、糸切り時に、自動止めぬいの設定ができます。(P. 142「自動止めぬい設定」参照)
- ぬっている最中でも、縫製スピードを変えることができます。(P. 147「縫製最高速度設定」参照)

途中でミシンをストップするには

縫製中にミシンをストップすることができます。

■ 一時停止する

1 スタート／ストップスイッチを押します。



→ ミシンが止まり、スタート／ストップスイッチが赤色の点灯に変わります。

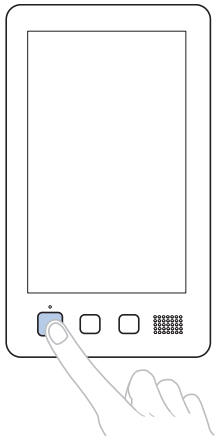
- 模様が表示されているエリアを押しても、縫製をストップすることができます。
- 自動糸切りはされません。
- 続きをぬうときは、上糸がたるんでいないか確認をしてから、ロック解除キー、スタート／ストップスイッチを押します。

お知らせ

- 縫製中に次の色替え時停止キーを押すと、次の色をぬう直前でミシンを停止することができます。(P. 148「次の糸替え時に停止する」参照)
- 縫製前に、色替え時に停止するよう設定することもできます。(P. 148「縫製前にポーズ位置を指定する」参照)

■一旦電源を切ってから続きをぬう

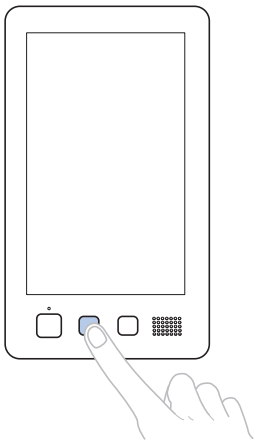
1 スタート／ストップスイッチを押します。



→ ミシンが止まり、スタート／ストップスイッチが赤色の点灯に変わります。
- 糸は切れていません。

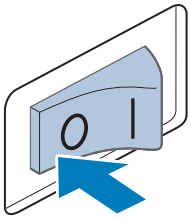
2 ロック を押し、ミシンロックを解除します。

3 糸切りスイッチを押します。



→ 上糸と下糸が切れます。
- 一旦電源スイッチを切る場合は、必ず糸を切ってください。

4 電源スイッチの “〇” 側を押します。



→ 電源が切れ、画面表示とスタート／ストップスイッチの点灯が消えます。
- 次に電源スイッチを入れたとき、続きからぬうことができます。ただし、ぬい目を少し戻す必要があります。（詳しくは、P.129「停止後、途中からぬうときは」を参照してください。）

お知らせ
- 縫製中でもミシンはいつでも停止することはできますが、色替え時に停止すると次にぬい始めるときにぬい目を戻す必要はありません。色替え時にミシンを停止するよう設定もできます。（P. 148「縫製前にポーズ位置を指定する」参照）

■途中で糸が切れてしまったら

糸切れなどの不具合が発生すると、ミシンは自動的に止まります。
切れた糸をセットし直し、ぬい目を戻し、続きをぬいます。（詳しくは、P.123「途中で糸が切れた／下糸がなくなったときは」を参照してください。）

12. 刺しゅう枠、布地を外す

ぬい終わったら、刺しゅう枠を外し、布地を刺しゅう枠から外します。

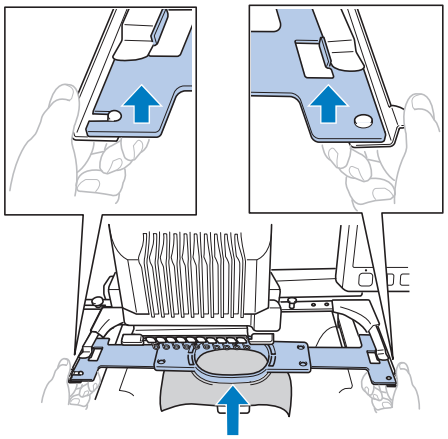
刺しゅう枠の外し方

⚠ 注意

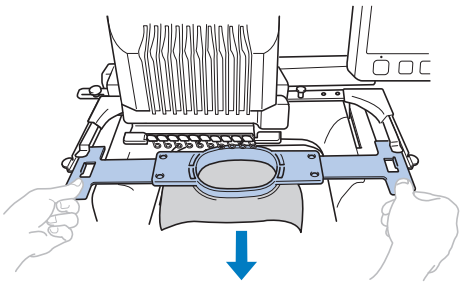
- 刺しゅう枠を外すときは、スタート／ストップスイッチが赤色で点灯していることを確認してから行ってください。スタート／ストップスイッチが緑色で点滅しているときは、ミシンはスタートできる状態です。誤ってミシンが作動すると、ケガの原因となります。
- 刺しゅう枠を外すときは、刺しゅう枠がミシンの各部品に当たらないように注意してください。
- 台枠を無理に持ち上げないでください。破損の原因となります。

1 刺しゅう枠の左右の取付部を両手で持ち上げ、少し浮かせます。

取付部の穴を台枠のアームのピンから外します。

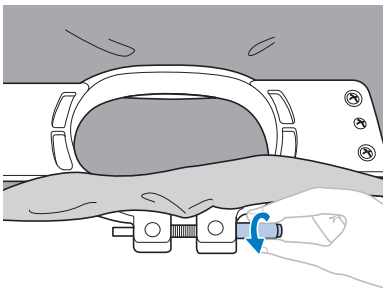


2 そのまま、刺しゅう枠を手前に引いて取り外します。



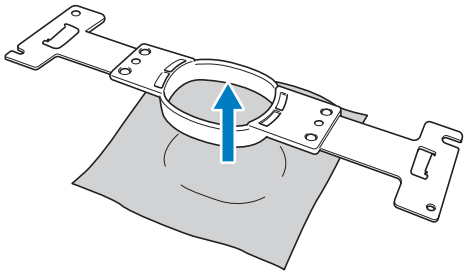
布地の外し方

1 外枠調節ネジをゆるめます。



→ 調節ネジを丸型ドライバーで締め付けた場合は、丸型ドライバーでゆるめます。

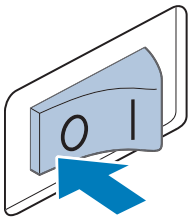
2 外枠を外し、布地を外します。



13. 電源を切って終了する

ミシンを使い終わったら、電源を切って作業を終了します。

1 **電源スイッチの左側（○側）を押します。**



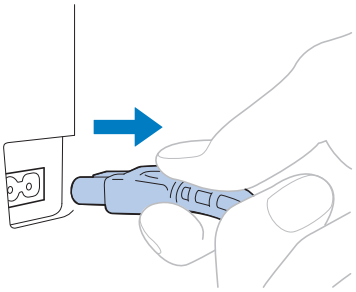
→ 電源が切れ、液晶画面とスタート／ストップスイッチの点灯が消えます。

2 **電源プラグをコンセントから抜きます。**

電源プラグを持って抜いてください。

3 **必要に応じて、電源コードをミシンから抜きます。**

電源コードはなくさないように保管してください。



お願い

●運転中に停電が発生したときは、電源スイッチを切ってから電源プラグを抜いてください。再度ミシンを動かす場合は、手順に従って正しく操作してください。(P. 46「2. 電源を入れる」参照)

お知らせ

●縫製が一旦終了しミシンが休止しているときに電源を切った場合、電源を再び入れると縫製の続きを行えます。(P. 129「停止後、途中からぬうときは」参照)



休止中に
電源を切る

↓

電源を入れる

↓

オープニング画面の後に



↓



画面早見一覧

各画面の表示やキーの説明を一覧にしています。

キー表示について

キーの色は、次の意味を表しています。

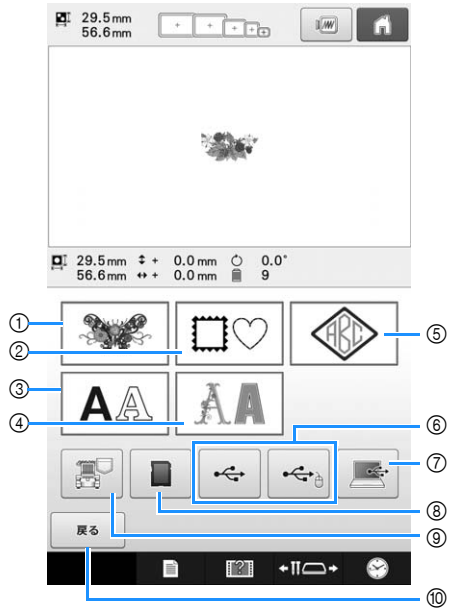
(通常表示)　：選ばれていません。(選ぶことができます。)

(濃い色の表示)　：このキーは選ばれています。

(グレー表示)　：このキーは選ぶことができません。

模様選択画面の見方

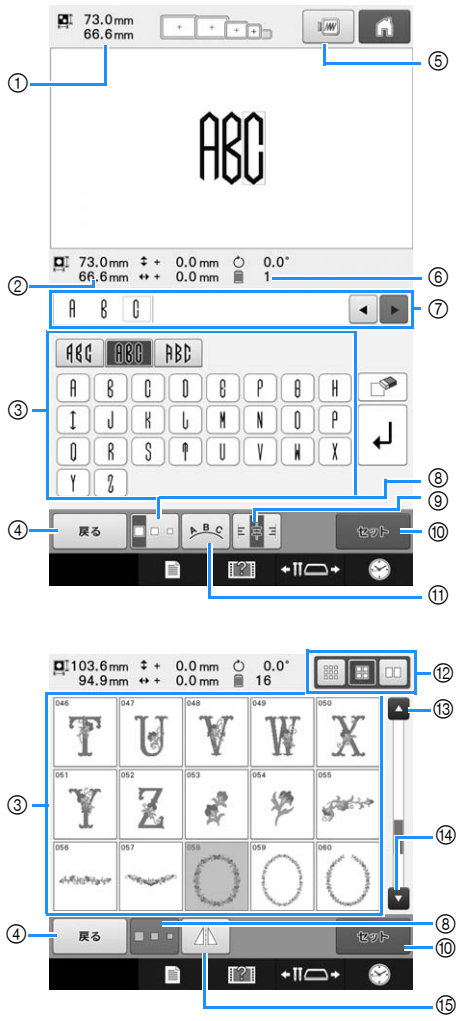
「模様選択画面」で、模様の種類を選びます。



番号	画面表示 名称		説明	参照ページ
①	刺しゅう模様キー	内蔵模様	内蔵されている絵柄の刺しゅう模様が選べます。	P. 159
②	枠模様キー		○型や□型など 10 種類の枠型に 14 種類のステッチを組み合わせて選ぶことができます。	P. 160
③	文字模様キー		37 書体あり、大文字、小文字、数字、記号、欧文文字をそれぞれ大・中・小の大きさから選ぶことができます。日本語フォントは大・小の大きさから選ぶことができます。	P. 163
④	装飾アルファベットキー	内蔵模様	花アルファベット、アップリケアルファベットなど、様々な文字模様が選べます。	P. 167
⑤	モノグラム模様キー		2 ～ 3 文字の文字模様を組み合わせたモノグラム模様です。	P. 161
⑥	USB メディアキー		USB メディアから模様を呼び出します。	P. 173
⑦	パソコン (USB) キー		付属の USB ケーブルでパソコンとミシンを接続し、パソコンから模様をミシンに転送して呼び出します。	P. 174
⑧	SD カードキー		SD カードから模様を呼び出します。	P. 173
⑨	ミシンに記憶した刺しゅう模様キー		ミシンに記憶した模様を呼び出します。	P. 173
⑩	戻るキー		模様を追加するために模様選択画面に戻ったときに、追加をやめる場合に押します。編集画面に進みます。模様を選んでいないときは、表示されません。	P. 182

模様一覧画面の見方

「模様一覧画面」で、模様（模様データ）を選びます。



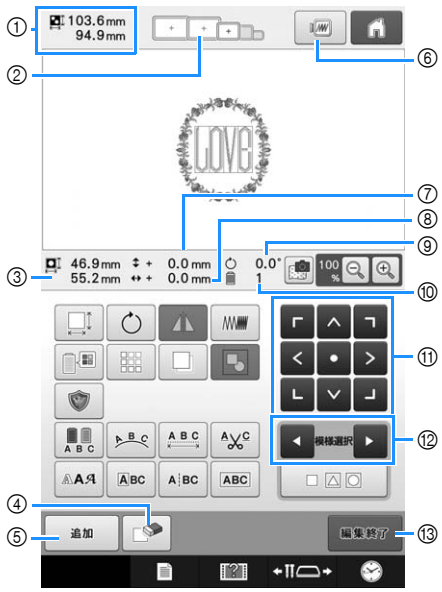
番号	画面表示 名称	説明	参照ページ
①	73.0mm 66.6mm 大きさ	模様表示エリアに表示されている模様の大きさを示します。上段が縦、下段が横の長さです。複数の模様を組み合わせている場合は、すべての模様を含む全体の大きさを示しています。	－
②	73.0mm 66.6mm 大きさ	模様キーを押して選んだ模様の大きさを示します。上段が縦、下段が横の長さです。	－
③	A 模様キー	模様の絵柄がキーに表示されます。このキーを押して、模様を選びます。 また、このエリアを押しながらスライドさせるとページが移動できます。	P. 158
④	戻る 戻るキー	現在選んでいる模様のカテゴリーをやめて、他のカテゴリーを選び直す場合に押します。模様選択画面に戻ります。	P. 158
⑤	 イメージキー	模様のイメージ画像が表示され、仕上がりイメージを見ることができます。	P. 54

番号	画面表示 名称	説明	参照ページ
⑥	1 色替え数	模様キーを押して選んだ模様の色替え数を示します。	－
⑦	A B C チェックエリア	文字模様を入力した際、入力した文字情報を確認できます。赤いカーソルの後から文字が入力されるので、◀ ▶を使って入力位置を変更することができます。	P. 165
⑧	 大きさキー	模様キーを押して選んだ模様の大きさを選ぶことができます。	P. 164
⑨	 段落揃えキー	1行以上の文字模様の段落を左揃え・中心揃え・右揃えのいずれかに揃えられます。	P. 166
⑩	セット セットキー	模様を選んだら押します。模様の選択を確定して、編集画面に進みます。	P. 158
⑪	 配列キー	押すと、編集対象となっているアルファベット模様の配列を変更することができます。	P. 166
⑫	 サムネール切り替えキー	サムネール表示を大・中・小に切り替えることができます。	P. 159
⑬	 前のページへキー	押すと、前のページが表示されます。	P. 159
⑭	 次のページへキー	押すと、次のページが表示されます。	P. 159
⑮	 左右反転キー	選択している模様を左右に反転することができます。	P. 185

＊ ⑧、⑨、⑪、⑮は、模様によっては編集できるものとできないものがあります。

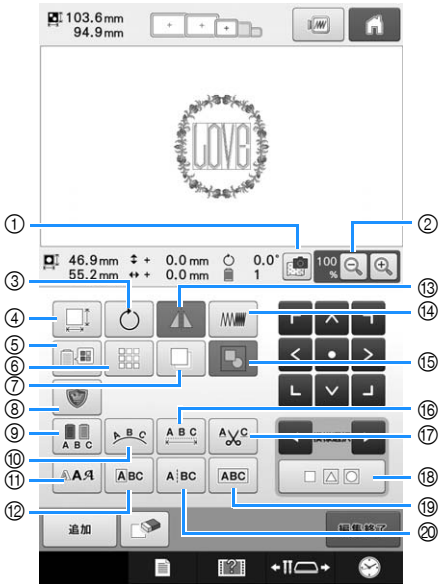
編集画面の見方

「編集画面」で、模様を個別に編集します。（ここでは模様全体を編集することはできません。）模様表示エリアに表示され、選択されている模様の配置、大きさの変更、左右回転、配列の調整、配色の変更等を編集することができます。また、複数の模様を選択して模様を組み合わせることができます。入力した文字模様にも、様々な編集をすることができます。



番号	画面表示 名称	説明	参照ページ
①	103.6mm 94.9mm 大きさ	模様表示エリアに表示されている模様の大きさを示します。上段が縦、下段が横の長さです。複数の模様を組み合わせている場合は、すべての模様を含む全体の大きさを示しています。	－
②	適応枠表示	模様表示エリアに表示されている模様をぬうことができる刺しゅう枠を示します。	P. 56
③	47.0mm 55.2mm 大きさ	編集対象となっている模様の大きさを示します。上段が縦、下段が横の長さです。	－
④	削除キー	模様を削除します。押すと、編集対象となっている模様が削除されます。	P. 205
⑤	追加 追加キー	模様を追加します。押すと、模様選択画面が表示されます。	P. 182
⑥	イメージキー	模様のイメージ画像が表示され、仕上がりイメージを見ることができます。	P. 54
⑦	+ 0.0 mm 中心からの距離（縦）	編集対象となっている模様を移動したときの縦の移動距離を示します。	P. 184
⑧	+ 0.0 mm 中心からの距離（横）	編集対象となっている模様を移動したときの横の移動距離を示します。	P. 184

番号	画面表示 名称	説明	参照ページ
⑨	0.0° 回転角度	編集対象となっている模様を回転したときの回転角度を示します。	P. 188
⑩	1 色替え数	編集対象となっている模様の色替え数を示します。	－
⑪	移動キー	矢印の方向に編集対象になっている模様のぬい位置を移動することができます。（● を押すと、ぬい位置が刺しゅう範囲の中心に戻ります。）	P. 184
⑫	模様選択 模様選択キー	複数の模様を組み合わせている場合に、編集する模様の対象を変えることができます。	P. 183
⑬	編集終了 編集終了キー	編集が終了したら押します。次の縫製設定画面に進みます。	P. 59

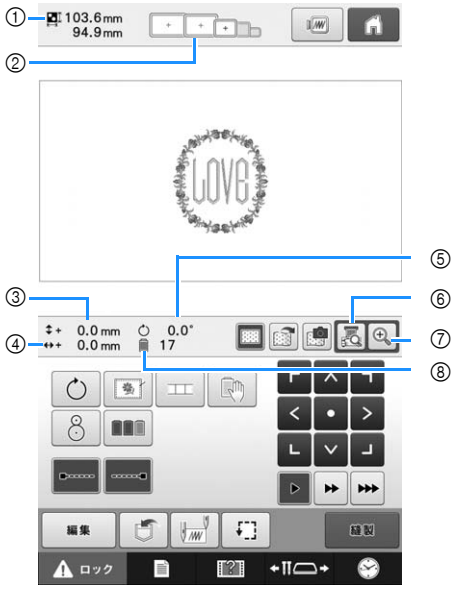


番号	画面表示 名称	説明	参照ページ
①	 背景画像表示キー	刺しゅう枠に張った布地の画像を内蔵カメラで読み込み、模様の背景として表示できます。	P. 109
②	 拡大キー	100%、125%、150%、200%から選択して、編集中の模様を拡大縮小表示できます。	P. 182
③	 回転キー	編集対象となっている模様を回転することができます。	P. 188
④	 大きさキー	編集対象となっている模様の大きさを変えることができます。	P. 185
⑤	 配色キー	模様の色を変えることができます。	P. 192
⑥	 繰り返しキー	繰り返し模様（ボーダー模様）を作ったり、編集したりできます。	P. 197
⑦	 コピーキー	模様をコピーできます。	P. 205
⑧	 アップリケキー	編集対象となっている模様をアップリケ模様に変えることができます。	―
⑨	 色替えキー	アルファベット模様を 1 文字ずつ色を変えることができます。アルファベット模様を選んでいる場合のみ使えます。	P. 191
⑩	 配列キー	押すと、編集対象となっているアルファベット模様の配列を変更することができます。	P. 188

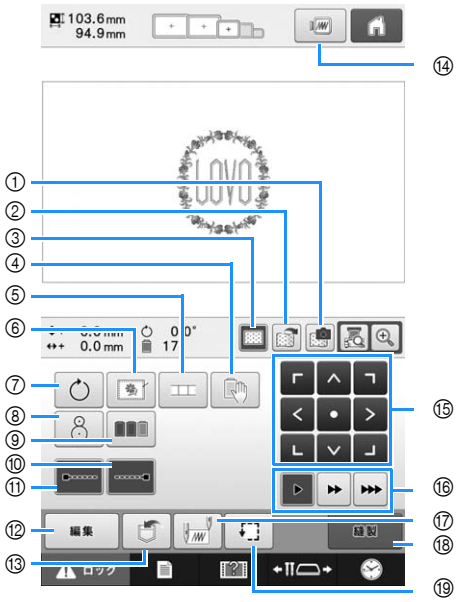
番号	画面表示 名称	説明	参照ページ
⑪	 書体切り替えキー	編集対象となっている文字模様のフォントタイプを再度選択しなおせます。	P. 191
⑫	 文字編集キー	編集対象となっている文字模様の、一文字ずつの大きさやフォントタイプを変更できます。	P. 191
⑬	 左右反転キー	編集対象となっている模様を左右に反転することができます。	P. 185
⑭	 糸密度キー	編集対象となっている模様の密度を変えることができます。アルファベットと枠模様を選んでいる場合のみ使えます。	P. 192
⑮	 グループ化キー	選択した複数模様をグループ化します。	P. 184
⑯	 文字間キー	編集対象となっている文字模様の間隔を変えることができます。	P. 189
⑰	 糸切り設定キー	アルファベット模様の文字間の渡り糸を、自動的に切る設定ができます。	P. 190
⑱	 複数模様選択キー	1 つ以上の模様を同時に選択できます。	P. 183
⑲	 文字列結合キー	選択した文字模様同士を結合させることができます。	P. 190
⑳	 文字列分割キー	選択した文字模様を分割することができます。	P. 189

縫製設定画面の見方

「縫製設定画面」で、模様全体を編集します。（ここでは模様を個別に編集することはできません。）模様表示エリアに表示されている模様全体の配置、回転角度等を編集することができます。また、模様表示エリアに表示されているデザインを記憶することができます。設定画面で手動糸色割付を「ON」に設定しているときは、使用できるキーが異なります。(P. 84 、140 参照)



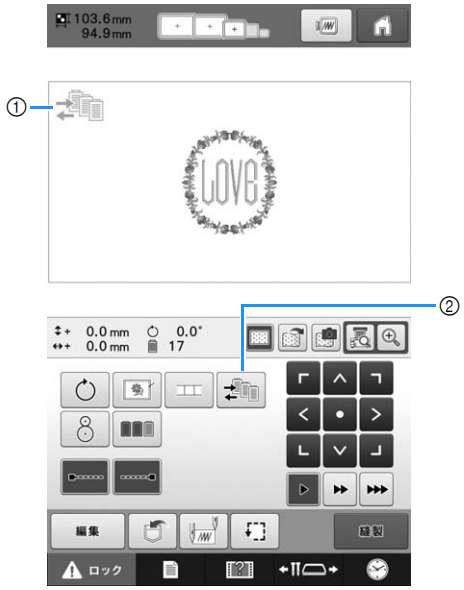
番号	画面表示 名称	説明	参照ページ
①	103.6mm 94.9mm 大きさ	模様表示エリアに表示されている模様の大きさを示します。上段が縦、下段が横の長さです。複数の模様を組み合わせている場合は、すべての模様を含む全体の大きさを示しています。	－
②	適応枠表示	模様表示エリアに表示されている模様をぬうことができる刺しゅう枠を示します。	P. 56
③	0.0 mm 中心からの距離（縦）	枠移動したときの縦の移動距離を示します。	P. 105
④	0.0 mm 中心からの距離（横）	枠移動したときの横の移動距離を示します。	P. 105
⑤	0.0° 回転角度	編集した模様全体を回転したときの回転角度を示します。	P. 106 、206
⑥	カメラ画像キー	液晶画面に針元の映像が表示され、編集した刺しゅう模様の透過イメージが実際の縫製位置に表示されます。	P. 112 、115
⑦	カメラズームキー	カメラ画像キーを押したときのイメージが、2 倍に拡大されて表示されます。 カメラ画像キーは押さなくても、表示されます。	P. 113
⑧	12 色替え数	編集した模様全体の色替え数を示します。	－



番号	画面表示 名称	説明	参照ページ
①	 背景画像表示キー	刺しゅう枠に張った布地を内蔵カメラで読み込み、模様の背景画像として表示できます。	P. 109
②	 背景画像外部保存キー	内蔵カメラで読み込んだ背景画像を USB メモリに保存することができます。	P. 110
③	 背景画像表示切り替えキー	内蔵カメラで読み込んだ背景画像を表示 / 非表示にすることができます。	P. 109
④	 ポーズキー	縫製前にミシンを一旦停止する糸色を設定することができます。	P. 148
⑤	 模様つなぎキー	内蔵カメラを使って模様をつなぐことができます。	P. 211
⑥	 しつけぬいキー	布に接着芯が貼られていない場合、模様の周囲にしつけぬいをして、ぬい目が縮んだり模様がずれたりするのを防ぐことができます。	P. 136
⑦	 回転キー	複数の模様を組み合わせている場合は、模様全体を回転することができます。	P. 106、206
⑧	 位置決めキー	内蔵カメラを使って、模様の位置合わせをすることができます。	P. 115
⑨	 カラーソートキー	複数の模様を組み合わせたとき、縫製順を糸色ごとにまとめることができます。	P. 196

番号	画面表示 名称	説明	参照ページ
⑩	 止めぬい（ぬい終わり）キー	糸切り時に、自動止めぬいの設定ができます。	P. 142
⑪	 止めぬい（ぬい始め）キー	模様のぬい始めと糸替え後のぬい始めに、自動止めぬいの設定ができます。	P. 142
⑫	 編集キー	押すと、編集画面に戻ります。	―
⑬	 記憶キー	模様をミシン本体や USB メディア、パソコンに記憶することができます。	P. 168、169、170
⑭	 イメージキー	押すと、模様のイメージ画像が表示され、仕上がりイメージを見ることができます。	P. 54
⑮	 移動キー	ぬう位置を調整できます。押すと、矢印方向に枠が移動します。（  を押すと、枠の中心が模様の中心に戻ります。）	P. 105
⑯	 枠移動速度キー	枠の移動の速さを選択できます。  移動キーを押すごとに、0.1mm ずつ移動します。  移動キーを押すごとに、0.5mm ずつ移動します。  移動キーを押し続けると、最高速度で移動します。 カメラ画像の表示中は、0.2mm ずつ移動します。	P. 105
⑰	 ぬい始め／終わり位置設定キー	ぬい始めとぬい終わりの針位置を設定することができます。	P. 143
⑱	 縫製キー	縫製設定画面での操作が終わったら、押します。次の縫製画面に進みます。	P. 61
⑲	 ためしキー	押すと、刺しゅう枠が移動して、ぬう位置を確認することができます。	P. 61

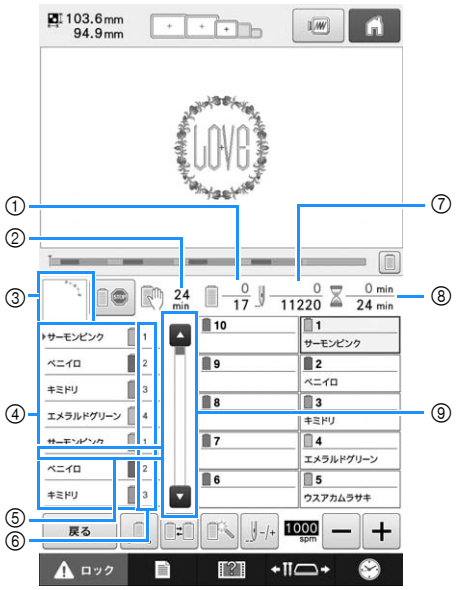
■ 手動糸色割付モード時



番号	画面表示 名称	説明	参照ページ
①	 手動糸色割付モードアイコン	手動糸色割付モードに設定されているとき表示されます。	P. 140
②	 手動糸色順キー	針棒の色設定を変更できます。設定画面で手動糸色割付を「ON」に設定しているときに表示されます。	P. 141

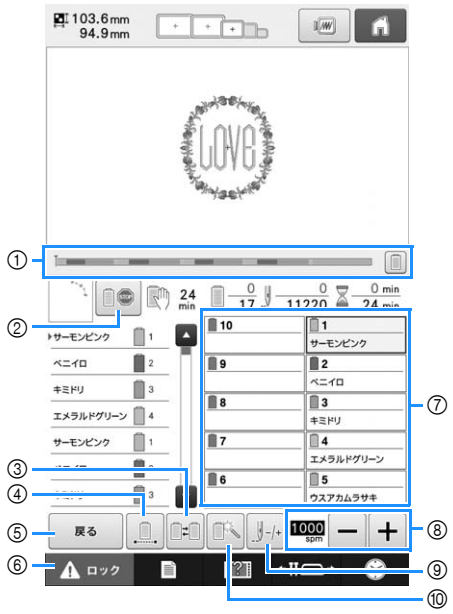
縫製画面の見方

「縫製画面」で、糸色や針数、ぬい順、縫製時間を確認します。また、一時的針棒設定や、ぬい目を戻す／進める設定をすることができます。設定画面で手動糸色割付を「ON」に設定しているときは、使用できるキーが異なります。(P. 140 参照)



番号	画面表示 名称	説明	参照ページ
①	0 / 17 ぬい順数	下段は模様の総色替え数、上段は現在ぬっている糸色の順番を示します。	—
②	24 min 次の停止までの時間	次にミシンが停止するまでの時間を示します。停止前の最後の糸色をぬっているとき、時間は赤色で表示されます。 糸色交換が必要な場合は、糸こま交換までの時間を示します。	P. 120
③	 部分表示	ぬい順表示の 1 番上の糸色でぬわれる部分の形が表示されます。	—
④	 ぬい順表示	糸色のぬい順を示します。縫製中は自動でスクロールし、現在縫製している糸色が 1 番上に表示されます。	—
⑤	———— 糸こま交換マーク	糸こま交換が必要な場所に赤い線が表示されます。	P. 120
⑥	1 2 3 針棒番号	左のぬい順表示の糸色が割り当てられている針棒番号を示します。	—
⑦	0 / 11220 針数	下段は模様の針数の総数、上段は現在ぬい終わった針数を示します。	—
⑧	0 min / 24 min 縫製時間	下段は模様をぬうのに必要な総所要時間、上段はぬい終わった時間を示します。(糸替えの時間は含みません。)	—

番号	画面表示 名称	説明	参照ページ
⑨	 スクロールバー	ぬい順表示は、7 番目までの糸色が表示されています。8 番目以降の糸色を確認したい場合に、▲ や ▼ を押すか、スクロールバーの上を押します。	—



番号	画面表示 名称	説明	参照ページ
①	 プログレスバー	縫製がどこまで進んだかをゲージに表示される赤い目盛りで確認できます。  を押すと、ゲージが縫製中の糸色のみを表示します。	−
②	 停止予約キー	縫製中に、次の色をぬう直前でミシンを停止したいときに押します。	P. 148
③	 糸こま交換キー (手動糸色割付モード時は使用不可)	ミシンにセットされている糸こまの色と合うように、画面の針棒（糸こま）の色を入れ替えることができます。	P. 117
④	 一色ぬいキー	押すと、色替えをせずに同じ色で模様をぬいます。ぬい順表示がすべて同じ色で表示されます。 ①プログレスバーと⑦糸替え表示は元の色で表示されます。	P. 150
⑤	 戻るキー	縫製を取り消して、縫製設定画面に戻りたいときに押します。	−
⑥	 ロック解除キー	約 10 秒間、ミシンをスタートできる状態にします。押すと、スタート／ストップスイッチが緑色の点滅に替わります。	P. 72
⑦	 針棒キー	押すと、その番号の針棒が縫製位置に移動します。 自動針穴糸通し装置で糸を通すときに使います。	−
	糸替え表示	隣の針棒キーの番号の針棒にセットする糸色、糸色名（糸番号）を示します。この表示に従って糸色をかけます。	P. 62
⑧	 縫製最高速度設定キー	縫製最高速度を設定することができます。	P. 147

番号	画面表示 名称	説明	参照ページ
⑨	 ぬい目戻る／進むキー	ぬい目を戻したり、進めたりすることができます。次のような場合に使います。 ● 縫製の途中で糸が切れたり、なくなったとき ● 始めからぬい直したいとき ● 一旦電源を切ってから、続きをぬうとき	P. 123
⑩	 一時的針棒設定キー	一時的に針棒設定を手動で設定できます。	P. 150

お知らせ

●ぬい順表示と糸替え表示の糸番号は、色名や他のブランドの糸番号などに切り替えることができます。(P. 231「糸色表示を切り替える」参照。)

わからないことがあるときの参考

専門用語

■ DST

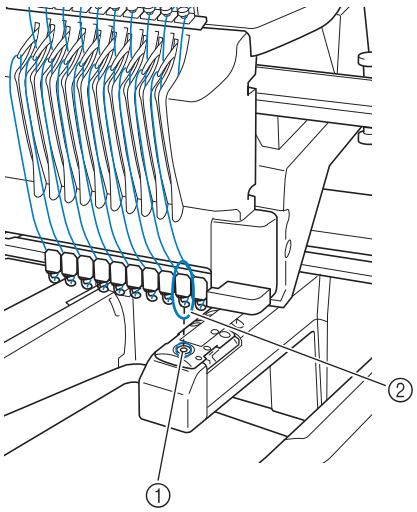
刺しゅう模様のフォーマットの 1 つ、タジマフォーマットファイルの拡張子（*.dst）です。タジマフォーマットには色情報がないので、模様呼び出し時にミシンが自動的に色を割り当てます。(P. 255 参照)

■ 針番号

針は右から左に番号が付いています。1 番右の針は 1 番針です。(P. 9 参照)

■「縫製位置」の針

針板の針穴上方にある針です。針棒ケースが移動し、次にぬう糸色の付いた針を「縫製位置」へ配置します。また、自動針穴糸通し装置を使用するときは、糸をかける針を「縫製位置」へ移動させてください。(P. 70~P. 71 参照)



① 針板の穴
② 針

■ ワイパー

糸を引くための装置です。自動針穴糸通し装置を使用するときに、ワイパーが糸を引きます。また、ミシンが糸を切るときも、ワイパーが布から糸を引きます。これで、刺しゅう後の上糸処理が不要になります。(P. 69 参照)

模様

ミシンでは次の模様を刺しゅうすることができます。

- *.pen、*.pes、*.phc、*.dst フォーマットの刺しゅうデータを USB メディアや SD カードからミシンへ転送できます。また、USB ケーブルでパソコンからミシンへデータを転送することもできます。
- 刺しゅうカード（別売）
- 刺しゅう PRO で作成した刺しゅう模様
- USB メディアに保存された模様

刺しゅう

■ 初期設定の色の替わりに、自分が刺しゅうしたい色を設定する

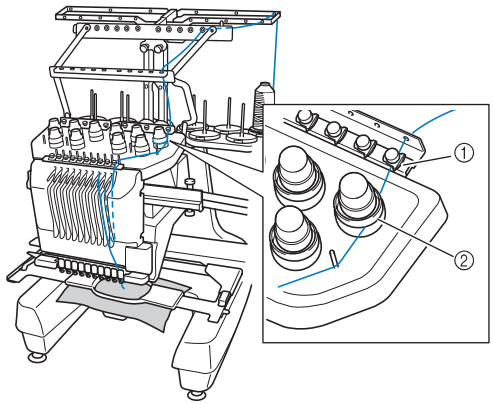
- 編集画面で 64 色パレットあるいはユーザーパレットから糸色を選べる機能があります。詳細は P. 201 と P. 203 を参照してください。
- 縫製設定画面で手動糸色割付機能が使えます。詳細は P. 140 を参照してください。
- 縫製画面で一時的針棒設定機能が使えます。詳細は P. 150 を参照してください。

■ 縫製の途中で刺しゅうを中止して電源を切り、後で刺しゅうを再開する

- ミシンは電源を切った後でも模様と位置を記憶します。そして、再び電源を入れると、ミシンは刺しゅうを再開します。(P. 129「停止後、途中からぬうときは」参照)

■ 糸切れエラーが発生する

- 上糸が糸道上を通っていることを確認します。(P. 64 参照)
- 上糸が回転調子皿の糸調子ダイヤルに 1 回巻きついていることを確認します。(P. 66 参照)
- 回転調子皿に糸くずやほこりがたまっていないかを確認し、たまっていれば取り除いてください。(P. 285「糸調子つまみを分解して掃除する」参照)



① 糸道上
② 回転調子皿の糸調子ダイヤル

■ 糸調子が突然変わった

- 糸が、上糸こまの端の粗い部分に引っかかった。
- 上糸が糸こまの下に引っかかった。
- 糸のちりや糸くずがボビンケースの調子バネの下にたまっている。
- 回転調子皿に糸くずやほこりがたまっていないかを確認し、たまっていれば取り除いてください。(P. 285「糸調子つまみを分解して掃除する」参照)

■ 枠がキャリッジから外れる

ピンが刺しゅう枠の取付部の穴に入っていることを確認します。(P. 58 参照)
刺しゅうする模様の位置を正確に調整したい場合は、ミシンの電源を一旦切った後で再び入れて、刺しゅう枠の位置をリセットする方法があります。

■ ミシンから刺しゅう枠を外せない

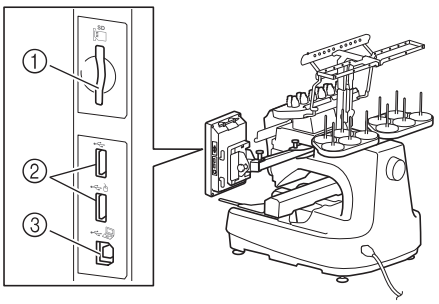
、 を押してキャリッジを移動すると、刺しゅう枠を外せるようになります。(P. 96 参照)

■ 縫製をリセットし、最初から始める

画面の右上のホームキーを選びます。模様とすべての情報が消去されます。(P. 48 参照)

便利な外部接続機能

ミシンの USB ポートや SD カードスロットを使って様々な機能を楽しめます。

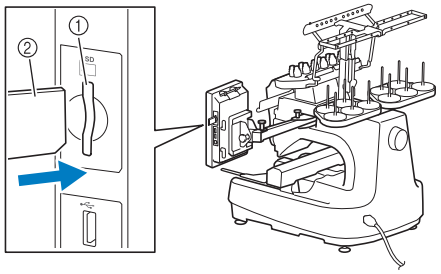


① SD カードスロット
② USB メディアポート (USB 2.0)
③ パソコン接続用 USB ポート

お願い
●USB メディアポートには、USB メディア以外のものを接続しないでください。USB メディアドライブが故障することがあります。

■ SD カードを使う場合

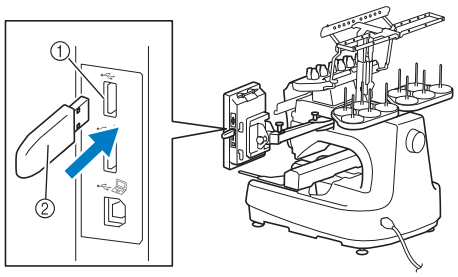
SD カードを使って模様データを書き込んだり、読み込んだりするときは、SD カードスロットに接続してください。



① SD カードスロット
② SD カード

■USB メディアを使う場合

USB メディアを使って模様データを書き込んだり、読み込んだりするときは、USB メディアポートに接続してください。



① USB メディアポート
② USB メディア

お願い

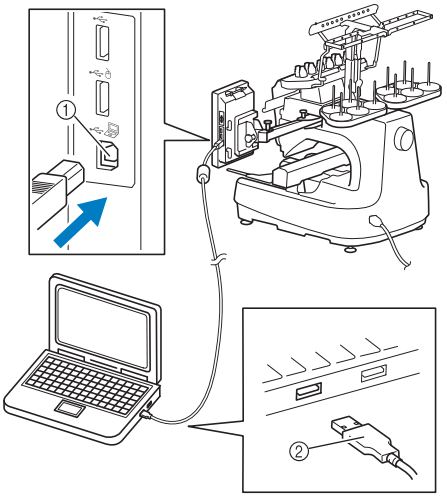
- データの容量によって、処理速度は異なります。
- USB メディアポートには、USB メディア以外のものを接続しないでください。USB メディアドライブが故障することがあります。

お知らせ

- USB メディアは広く使用されていますが、このミシンで使用できない USB メディアもあります。詳しい情報は、ブラザーミシンのウェブサイト（http://support.brother.co.jp/）にてご確認ください。
- 使用するメディアの種類によって、USB メディアポートに USB メディアを直接差し込むか、USB カードリーダー／ライターのケーブルを接続してください。

■パソコンにミシンを接続する

付属の USB ケーブルを使用すると、ミシンをパソコンに接続することができます。



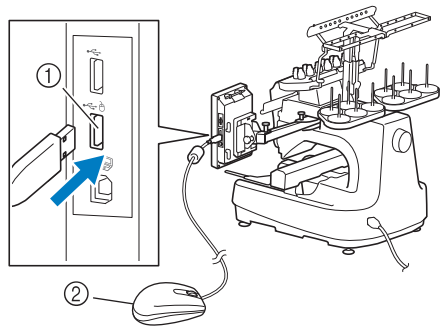
① パソコン接続用 USB ポート
② USB ケーブル接続コネクタ

お願い

- USB ケーブルの接続コネクタは決められた方向でしか接続できません。コネクタが差し込みづらいときは、無理やり差し込まずに、コネクタの方向を確認してください。
- パソコンの USB ポートの位置や、USB ハブの詳細については、それぞれ付属の取扱説明書をご参照ください。
- USB ケーブルを配線する際は、付属の USB コードクランプを使用してください。
(P. 171「USB コードクランプを使用して USB 接続する」参照)

■ USB マウスを使う

ミシンに USB マウスを接続すると、液晶画面の操作がしやすくなります。🖱マークのある USB ポートに USB マウスを接続してください。もうひとつの USB ポートに USB マウスを接続することも可能です。



① 🖱マークのある USB ポート
② USB マウス

お願い

- 指や付属のタッチペンで液晶画面を押しながら、USB マウスで同時に操作はしないでください。
- USB マウスはいつでも接続／取り外すことができます。
- USB マウスの左ボタンとホイールの操作のみ可能です。他のボタンでミシンを操作することはできません。
- スクリーンセーバーの起動中は、マウスのポインターは表示されません。

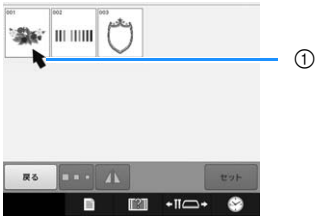
USB マウスの使い方

■ キーをクリックする

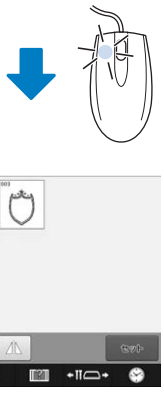
マウスが接続されている間、画面にポインターが表示されます。操作したいキーの上にマウスのポインターを動かして、左ボタンをクリックしてください。

お知らせ

- ダブルクリックによる操作はできません。



① ポインター



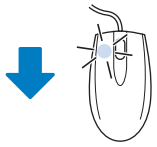
■ 他のページを表示する

マウスのホイールを回して、模様選択画面のタブを選ぶと他のページを表示させることができます。

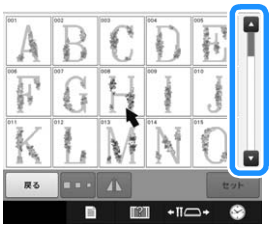
お知らせ

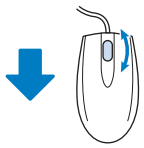
●ページ番号とスクロールバーが表示されているときは、表示されているページ以外にもページがあります。マウスのホイールを回したり、マウスのポインターを◀や▶の上で左クリックしたりして、前後のページを表示させてください。

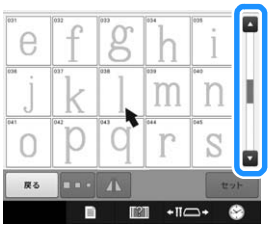












■ 模様の大きさを変える

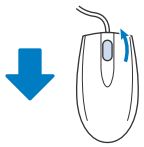
P. 185「大きさを変える（通常モード）」参照。

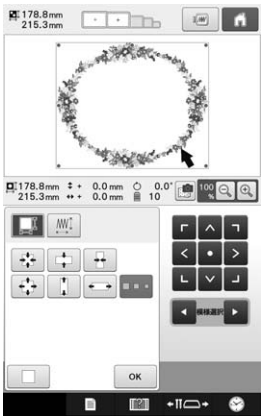
1 を押します。

2 模様の大きさを変えます。

- マウスホイールを奥へ回すと、を押したときと同じように、模様が小さくなります。
- マウスホイールを手前に回すと、を押したときと同じように、模様が大きくなります。







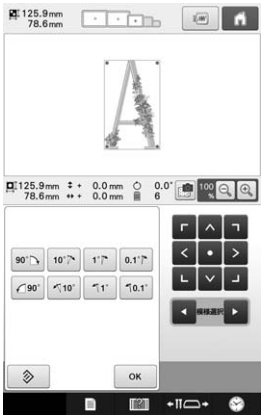
■ 模様を回転する

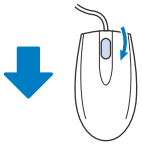
P.106「角度を調整する」、P. 188「回転する」参照。

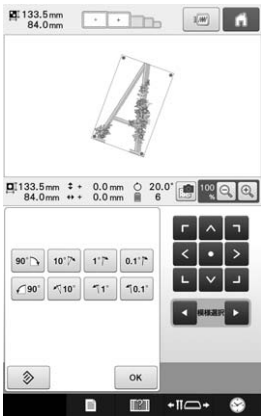
1 を押します。

2 模様を回転させます。

- マウスホイールを奥へ回すと、10° を押したときと同じように、模様が 10 度ずつ左へ回転します。
- マウスホイールを手前に回すと、10° を押したときと同じように、模様が 10 度ずつ右へ回転します。







第 3 章

その他の基本操作

11 色以上の模様をぬう場合など 2 章とは違う想定での操作や、針や糸こまを交換したいときなど状況に応じた操作を、ケース別に説明します。

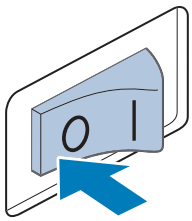
針を交換する……94
針を交換する……94
刺しゅう枠を上手に使うには……96
台枠について……96
刺しゅう枠が取り外しにくいときは……96
刺しゅう枠／台枠の種類と用途……97
布地に接着芯を貼る……100
布地の張り方……101
特大枠、LL 枠、L 枠の布地の張り方…101
刺しゅうシートを使う……102
布地が大きい／小さいときは……103
刺しゅう枠の位置と動きについて……104
思い通りの位置にぬうには……105
角度を調整する……106
縫製位置を合わせる……109
布地を表示して縫製位置を合わせる……109
内蔵カメラを使う……112
付属の刺しゅう位置合わせシールを使う……115
液晶画面上で糸色を交換する……117
11 色以上の模様をぬうときは……119
糸こま交換が必要かどうかを確認するには……120
11 色以上の模様で糸こま交換を指示されたときは……121
糸こま交換表示と糸立台 LED ライトについて……121
簡単な糸こま交換のしかた……122
途中で糸が切れた／下糸がなくなったときは……123
上糸が切れたとき……123
下糸が切れた／なくなったとき……125
始めまたは途中からぬいたいときは……126
停止後、途中からぬうときは……129
下糸と上糸の糸調子を調整する……131
下糸の調子を調整する……131
上糸の調子を調整する……132

針を交換する

曲がったり、針先がつぶれた針は、新しい針と交換してください。P.37「正しい針の見分け方」で確認したミシン専用の針、付属の針交換ドライバーと針交換ツールを用意してください。

針を交換する

1 **電源スイッチの “O” 側を押し、電源を切ります。**

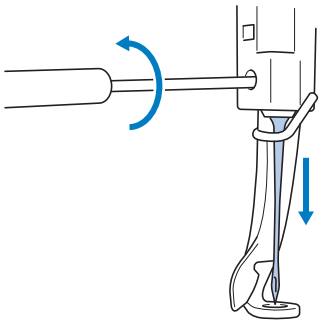


⚠ 注意

- **針の交換は、必ず電源スイッチを切って行ってください。万一、ミシンが作動すると、ケガの原因となります。**

2 **針の止めネジをゆるめ、針を抜きます。**

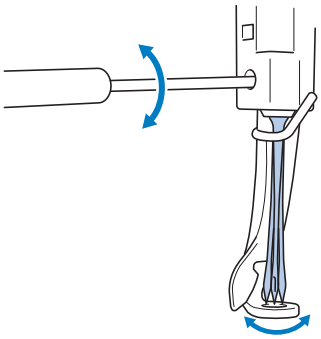
左手で針を持ちながら、右手で針交換ドライバーを左に回します。



お願い

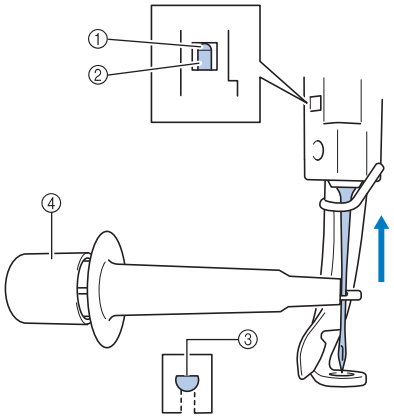
- 針を交換するときは、必ず付属の針交換ドライバーを使ってください。他の工具を使うと、針に余分な力が加わり、故障の原因となります。

- 止めネジをゆるめたりしめたりするときに、無理な力を加えないようにしてください。故障の原因となります。



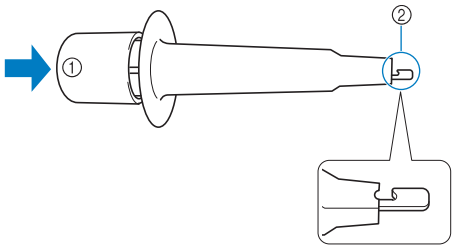
3 **新しい針の平らな面を後ろ側に向けて、針棒のストッパーにあたるまで差し込みます。**

押えの穴の下から針を通し、針交換ツールを使って持ち上げます。



① 針棒のストッパー
② 針
③ 平らな面
④ 針交換ツール

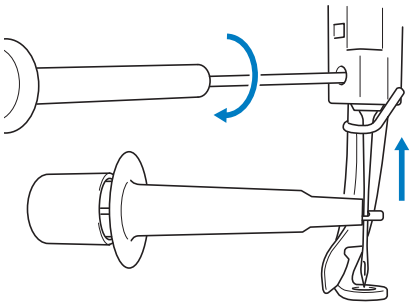
針交換ツールは、図のように ① を押すと針つかみ金具 ② が出ます。金具を針に引っかけ押していた部分を離すと、針をつかみます。針を離すときは、再度 ① を押します。



① 針交換ツールの端
② 針つかみ金具

4 針を針交換ツールで押さえたまま、止めネジを締めます。

針交換ドライバーを右に回します。



⚠ 注意

- 針は必ずストッパーに当たるまで針棒室に差し込み、止めネジを針交換ドライバーで確実に締めてください。針が十分に差し込まれていなかったり、ネジの締め方がゆるいと、針折れや故障の原因となります。
- 針が正確に取り付けられていないと、自動針穴糸通し装置を使って糸を通すときに、フックが針穴に入ることができず、フックが折れるなどして針に糸を通すことができません。
- 自動針穴糸通し装置のフックが折れたり、壊れたりした場合は、お買い上げの販売店、または「PR/VR専用ダイヤル」にご連絡ください。

刺しゅう枠を上手に使うには

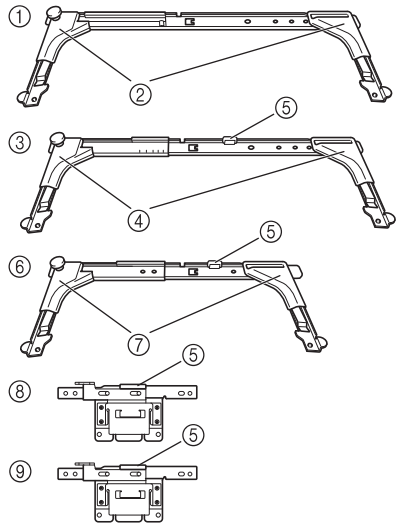
刺しゅう枠の種類や使い方について説明します。このミシンでは、様々なタイプの刺しゅう枠を使用することができます。
付属の刺しゅう枠に加え、このミシンで使用できる刺しゅう枠が多数用意されています。(P. 25「別売品」参照)

⚠ 注意

- **必ず画面に表示された使用可能な刺しゅう枠を使用してください。誤った大きさの刺しゅう枠を使用すると、刺しゅう枠が押えに当たり、ケガの原因となります。**

台枠について

2 種類の台枠（台枠 A と台枠 B）が付属されています。
台枠 A は、付属の 4 つの刺しゅう枠を使うときに使います。台枠 B は、別売の刺しゅう枠を使用するときに使います。また、別売の丸枠セット、クランプ枠セット、ネーム枠セットについては、購入時に指定の台枠 C、D または E が付属しています。各台枠へセットできる刺しゅう枠について詳しくは、P.97「刺しゅう枠／台枠の種類と用途」を参照してください。



① 台枠 A
② 白いカバー
③ 台枠 B
④ 薄いグレーのカバー
⑤ 磁石
⑥ 台枠 C（別売）
⑦ 濃いグレーのカバー
⑧ 台枠 D（別売）
⑨ 台枠 E（別売）

刺しゅう枠が取り外しにくいときは

針棒の位置によっては、刺しゅう枠が交換しにくいことがあります。このようなときは、次の手順に従って、刺しゅう枠を移動してください。

1. **を押します。**
   → 針棒移動画面が表示されます。

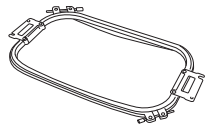
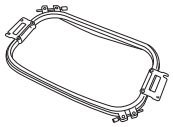
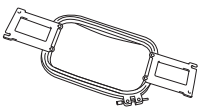
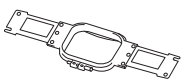
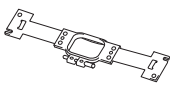
2. **を押します。**

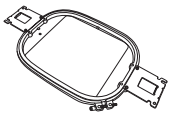
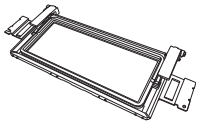
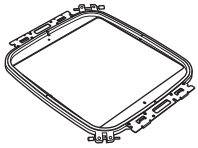
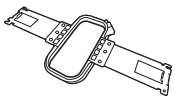
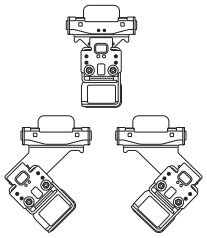
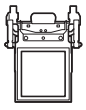
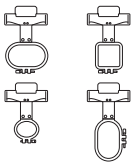


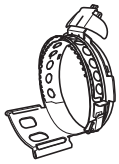
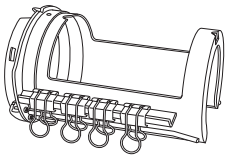
→ 刺しゅう枠を取り外しやすい場所に、自動的にキャリッジが移動します。

- OK を押すと、針棒移動画面が閉じ、キャリッジが元の位置に戻ります。

刺しゅう枠／台枠の種類と用途

刺しゅう枠の種類		刺しゅう範囲 用途		参照
台枠A	特大枠	ヨコ 360mm × タテ 200mm		（P. 101「布地の張り方」参照）
		文字や模様をつないで刺しゅうしたり、組み合わせたり、大きな刺しゅうをするときに使います。		
	LL 枠（別売）	ヨコ 300mm × タテ 200mm		
		文字や模様をつないで刺しゅうしたり、組み合わせたり、大きな刺しゅうをするときに使います。		
	平枠（別売）	ヨコ 300mm × タテ 200mm		お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。
		ジャケットなどの厚地のものを刺しゅうするときに使います。		
	L 枠	ヨコ 180mm × タテ 130mm		(P. 101「布地の張り方」参照)
		ヨコ 180mm× タテ 130mm 以下の大きさの刺しゅうをするときに使います。		
	M 枠	ヨコ 100mm × タテ 100mm		(P. 56「6. 刺しゅう枠に布地を張る」参照)
		標準サイズの模様をぬうときに使います。		
	S 枠	ヨコ 60mm × タテ 40mm		
		ネーム入れなど小さな刺しゅうをするときに使います。		

刺しゅう枠の種類		刺しゅう範囲 用途	参照
台枠B	キルト枠（別売） 	ヨコ 200mm × タテ 200mm  キルト用のピースに刺しゅうするときに使います。	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。
	ボーダー枠（別売） 	ヨコ 300mm × タテ 100mm  文字や模様が長くつながった刺しゅうをするときに使います。	
	ジャンボ枠（別売） 	ヨコ 360mm × タテ 360mm  200mm×360mm 以下の模様を組み合わせた模様や、最大 350mm×350mm のサイズの模様を刺しゅうするときに使います。	(P. 262「別売のジャンボ枠で刺しゅうする」参照)
	縦長枠 	ヨコ　70mm × タテ 200mm  シャツの袖など縦長のものに刺しゅうするときに使います。 お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。
台枠C〈別売〉	丸枠（別売） 	100mm 径 130mm 径 160mm 径  袖口に内蔵模様を刺しゅうするときなどに使用します。模様のサイズに合わせて丸枠の大きさを選んでください。	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。
台枠D〈別売〉	クランプ S 枠（別売） 	ヨコ 45mm × タテ 24mm  靴や手袋など、通常の枠では固定できない、特殊な形状の素材にワンポイント刺しゅうするときに使用します。	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。
	クランプ M 枠（別売） 	ヨコ 100mm × タテ 100mm 細身のバッグなど、特殊な形状の素材にワンポイント刺しゅうするときに使用します。 お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。
台枠E〈別売〉	ネーム枠（別売） 	70：ヨコ 70mm × タテ 41mm 50：ヨコ 50mm × タテ 50mm 44：ヨコ 44mm × タテ 38mm 縦向き：ヨコ 75mm × タテ 33mm 小さな素材に刺しゅうするときなどに使用します。 お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。

刺しゅう枠の種類	刺しゅう範囲 用途	参照
帽子枠ワイドタイプ（別売） 	ヨコ 360mm × タテ 60mm 帽子に刺しゅうをするときに使います。 この枠で刺しゅうできる帽子は、野球（ゴルフ）帽、チューリップハット、バケツ帽です。サンバイザーや赤ちゃん用の帽子など、帽子の正面の高さが 60mm 以下のものには使えません。また、ヒサシが 80mm より大きい帽子にも使えません。	（帽子枠の装着については、P. 266「帽子枠（別売）を使う」参照）
シリンダー枠（別売） 	ヨコ 90mm × タテ 80mm T シャツの袖やタートルネックなど、筒状の布地やカーブのある布地を刺しゅうするときに使います。	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。

お願い

- ミシンでの使用可能刺しゅう枠表示では、これからぬう刺しゅう模様が入る大きさの刺しゅう枠がすべて使用可能として表示されますが、できるだけ大きさに合った刺しゅう枠を使ってください。大きすぎる刺しゅう枠を使うと、模様くずれやぬい縮みが起きることがあります。
- PR シリーズで使用できる純正刺しゅう枠は、このミシンでも使用できます。
- 別売のジャンボ枠、ボーダー枠、キルト枠、平枠で刺しゅうするときは、ミシンに付属のテーブルを取り付けてください。
- 刺しゅう枠と布地の重さのよる台枠の湾曲を防ぐため、付属のテーブルを使用することをお勧めします。使用しないと、模様くずれが起きたり、ミシンが故障することがあります。

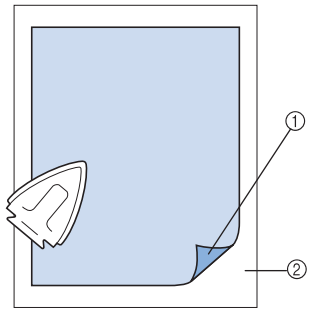
布地に接着芯を貼る

ぬい縮みや模様くずれを防ぐために、刺しゅう用接着芯の使用をお勧めします。

⚠ 注意

● **薄地や伸びる布地、目の粗い布地、ぬい縮みしやすい布地に刺しゅうをする場合は、必ず刺しゅう用接着芯を使用してください。芯を使用しないで刺しゅうをすると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。また、模様くずれの原因にもなります。**

1 布地の裏側にスチームアイロンをかけて貼ります。



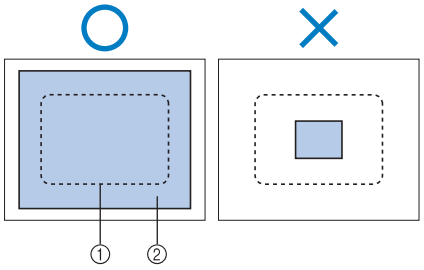
① 接着芯の接着面

② 布地（裏面）

● アイロンがかけられない布地やアイロンのかけにくい場所に刺しゅうをするときは、接着しないで、布地の下に接着芯を重ねて刺しゅう枠に張ってください。

お願い

●刺しゅう用接着芯は、刺しゅう枠よりも大きくしてください。枠に張るときは、布地のたるみを防ぐため、芯全体をはさみ付けるようにしてください。



① 刺しゅう枠の大きさ

② 接着芯

お知らせ

●オーガンジーやローンなど薄手の素材に刺しゅうをするときは、水に溶ける水溶性シートをお使いください。洗濯中にシートが溶け、固くならずきれいに仕上がります。

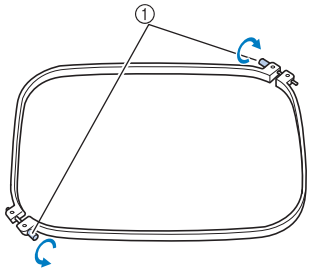
●タオル、コーデュロイなど起毛している布地に刺しゅうをするときは、接着させずに布地の上に接着芯を重ねて、刺しゅう枠に張ってください。

●その他の接着芯の使い方については、P.256「接着芯」を参照してください。

布地の張り方

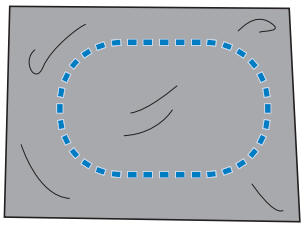
特大枠、LL 枠、L 枠の布地の張り方

1 刺しゅう枠の外枠の調節ネジをゆるめます。



① 調節ネジ

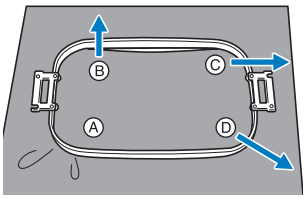
2 外枠の上に、布地をピンッと伸ばしてのせます。



- 外枠の表裏はありません。どちらの面が表になっても構いません。

3 内枠ではさみます。

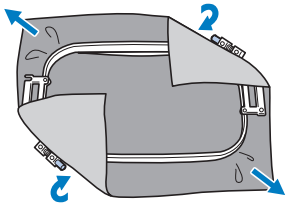
調節ネジのある角 Ⓐ、その隣の角 Ⓑ、その後に対角の角 Ⓒ。最後に調節ネジのない角の対角の角 Ⓓ の順で挟み込んでいきます。



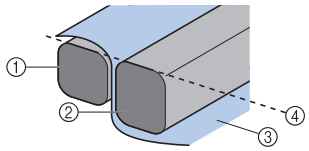
まず、Ⓐ 調節ネジのある角を合わせ、内枠を押し込みます。次に、Ⓑ の矢印の方向に布地を軽く引っ張りながらたるみが出ないようにして、Ⓑ の角に押し込みます。同様に、Ⓒ の矢印の方向に引っ張りながら Ⓒ の角に、Ⓓ の矢印の方向に引っ張りながら Ⓓ の角に押し込みます。

- 刺しゅう枠の内側に、はさみしわができないよう注意してください。

4 さらに布地を引っ張りながら、調節ネジをしっかりと締め、布にたるみのない状態にします。

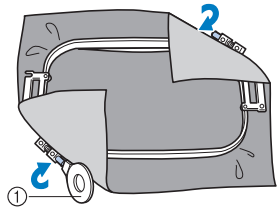


- 布地を張った後、布地を軽くたたくと太鼓のような音がするくらいが目安です。
- 外枠と内枠の天面の高さがほぼ同じになるように、しっかりとはめてください。



① 外枠
② 内枠
③ 布地の表
④ ほぼ同じ高さになる

- 調節ネジは丸型ドライバーを使うと、しっかりと締め付けることができます。



① 丸型ドライバー

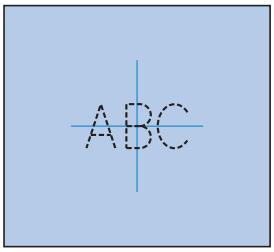
お知らせ

- 確実にきれいに布地を刺しゅう枠に張るために、枠張り台を使うことをお勧めします。
- S 枠、M 枠の布地の張り方は、P.57「S 枠に布地を張る」を参照してください。

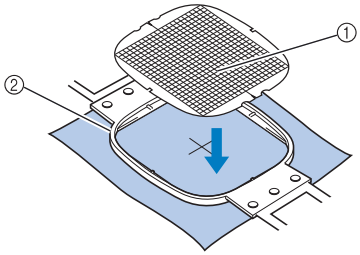
刺しゅうシートを使う

布地に対して模様が水平にぬわれるように布地を刺しゅう枠に張るには、刺しゅうシートの基準線を目安にして張ると便利です。

1 チャコペンで刺しゅうしたい範囲にしるしを付けます。

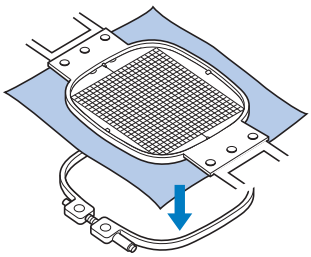


2 内枠に刺しゅうシートを置きます。布に付けたしるしと刺しゅうシートのガイドラインを揃えます。

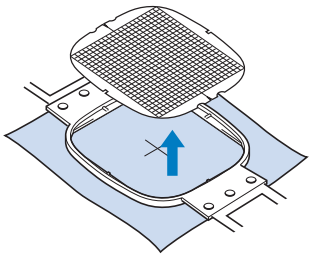


① ガイドライン
② 内枠

3 折り目やしわがなくなるように丁寧に布を伸ばし、外枠ではさみます。



4 刺しゅうシートを外します。

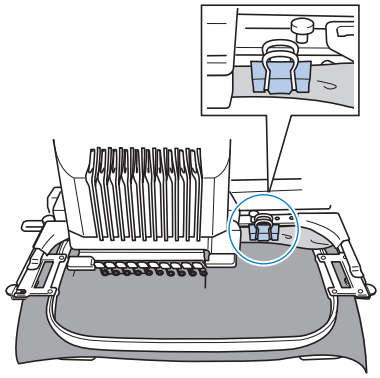


布地が大きい／小さいときは

枠に対して布地が大きかったり、小さかったりしたときの対処のしかたについて説明します。

■ 大きな布地や重い衣類の場合

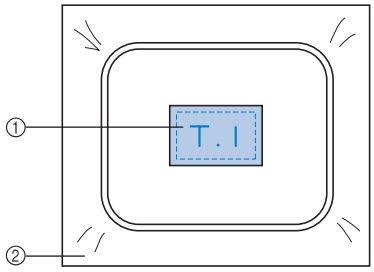
大きな布地やジャンパーなどの重い衣類をぬうときは、クリップで刺しゅう枠に留めるなどして、刺しゅう枠から布端が垂れ下がらないようにしてください。垂れ下がった状態でぬうと、刺しゅう枠の動きが悪くなり、模様くずれの原因となります。



- クリップなどで刺しゅう枠に留めます。

■ 小さい布地の場合

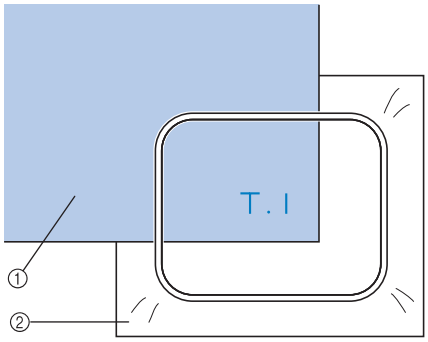
布用スプレーのりを使って、刺しゅう枠に張った芯に小さい布地を貼ります。布用スプレーのりを使いたくない場合は、しつけします。



① 布地
② 芯

■ 布地の隅にぬう場合

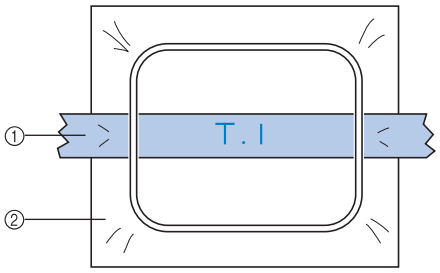
布用スプレーのりを使って芯に貼ってから、刺しゅう枠に張ります。布用スプレーのりを使いたくない場合は、しつけをします。



① 布地
② 芯

■ リボンテープのような細いものにぬう場合

布用スプレーのりを使って芯に貼ってから、刺しゅう枠に張ります。布用スプレーのりを使いたくない場合は、テープの両端を芯といっしょに刺しゅうに張ります。



① リボン
② 芯

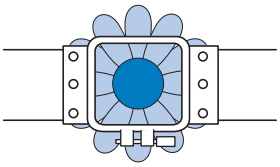
刺しゅう枠の位置と動きについて

ミシンを操作する上で、刺しゅう枠について知っておいていただきたいことを説明します。

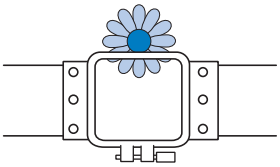
■ 縫製できない刺しゅう枠

P. 56 で説明したとおり、画面上の使用可能刺しゅう枠で表示されている刺しゅう枠が、現在選んでいる模様をぬうことができる枠です。
ぬいたい模様より小さい縫製範囲の刺しゅう枠は、使用できません。模様の大きさが縫製範囲より小さい場合でも、縫製位置がその枠の縫製範囲から外れているときもその枠は使うことはできません。

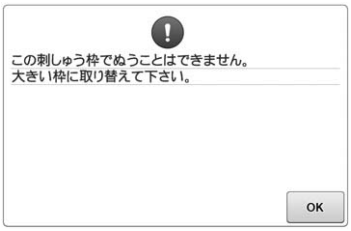
模様より小さい縫製範囲の枠



模様がその枠の縫製範囲から外れている



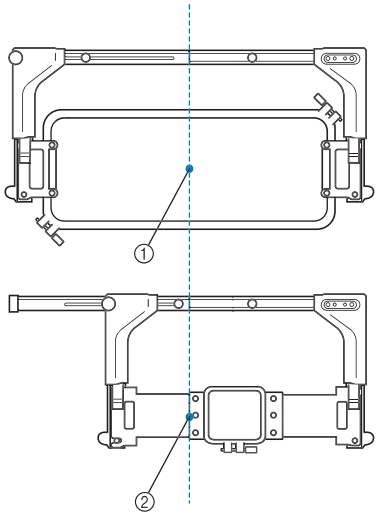
このような場合は、ミシンは刺しゅう枠を交換するようにメッセージで知らせてくれます。



刺しゅう枠をセットしていない状態でも、枠の交換が指示されることがあります。
ミシンは、台枠の左アームの位置でどの枠がセットされているか感知します。したがって、実際に刺しゅう枠がセットされていない状態でも、左アームの位置で判断します。また、台枠がセットされていない状態では、帽子枠（別売）がセットされていると判断します。

■ スタート位置への移動

縫製前の針位置は刺しゅう模様のぬい始め点（スタート位置）にあります。
刺しゅう枠を交換すると次にセットした枠はスタート位置にありません。
例えば、スタート位置が特大枠の中心であり、S枠に交換した場合は次のようになります。



① 特大枠の中心に針位置
② 刺しゅう枠を交換したときの針位置

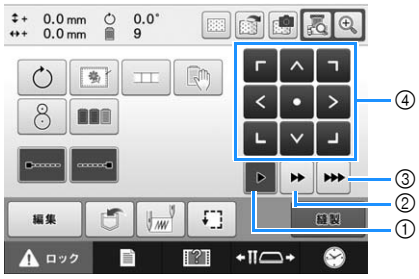
スタート位置のズレがある場合には、刺しゅう枠を自動的にスタート位置に移動します。

- **ミシンの電源が入ったとき**
  刺しゅう枠が移動します。
- **縫製設定画面が表示されたとき**
  刺しゅう枠が正位置にあれば移動しません。模様が刺しゅう枠の縫製範囲から出ている場合、刺しゅう枠を交換するようにメッセージが表示されます。刺しゅう枠を交換するか、編集画面に戻り刺しゅう位置を動かしてください。
- **縫製設定画面、縫製画面で刺しゅう枠を交換し、縫製範囲の確認・枠移動・縫製開始の各キーを押したとき**
  必ず動きます。
  正位置に移動して一旦止まりますので、もう一度目的のキーを押してください。
  移動後、模様がその枠の縫製範囲から外れている場合は、枠交換メッセージが表示されます。枠を交換するか、編集画面に戻ってサイズや縫製位置を調整してください。

思い通りの位置にぬうには

購入時は、模様の中心からぬい始めるように設定されています。したがって、縫製位置にある針の針落ち位置に模様の中心がくるように、枠を移動してぬい位置を調整します。指定した位置にぬい位置を合わせたいときは、P.109「縫製位置を合わせる」で説明する手順に従ってください。また、刺しゅう枠に対して布地を平行に張ることができず、布地に対して模様が傾いてしまう場合は、模様全体の角度を調整します。

1 縫製設定画面の▶、▶▶、▶▶▶のいずれかを押し、移動の速さを選びます。



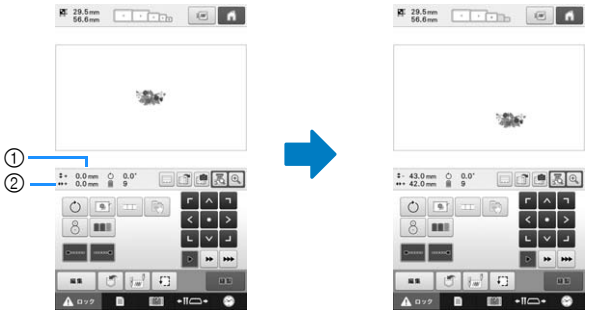
① 移動キーを押すごとに、0.1mm ずつ移動します。
② 移動キーを押すごとに、0.5mm ずつ移動します。
③ 移動キーを押している間、最高速度で移動し続けます。内蔵カメラ（P. 112 参照）使用中は、移動キーを押すごとに、0.2mm ずつ移動します。
④ 移動キー

2 ⌜、^、⌝、<、>、⌞、v、⌟を押します。

針落ち位置に刺しゅうをぬいたい位置の中心がくるように、刺しゅうを移動します。

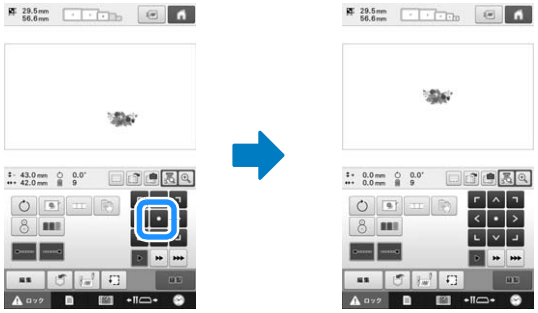


→ 模様表示エリアの模様が矢印の方向に移動します。
→ 刺しゅう枠は矢印の逆方向に移動しますので、注意してください。



① 移動したときの中心からの縦の移動距離を示します。
② 移動したときの中心からの横の移動距離を示します。

● ● を押すと、正位置（縫製位置にある針の下に刺しゅう枠の中心がある状態）に戻ります。



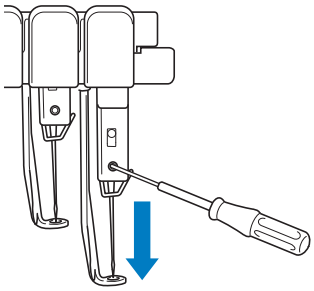
模様は、ドラッグして移動することもできます。USB マウスを接続している場合は、移動したい模様にマウスポインターを合わせ、左ボタンを押しながら、模様をドラッグします。指またはタッチペンで、画面の模様に直接触れてドラッグすることもできます。

■ 位置を合わせるコツ

針棒をロック（針と押えを下げた状態で固定）すると、針落ち位置を確認しやすくなります。

1 **図のように、針交換ドライバーを針留めの穴の中に差し込み、針棒が止まってロック位置でカチッと音がするまでゆっくりと下げます。**

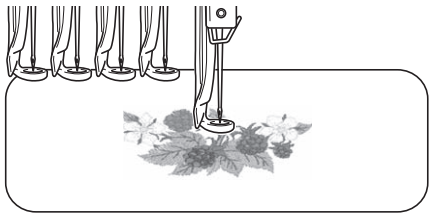
> **お願い**
> ●針はカチッと音のする位置よりも下に下げないでください。



→ 針と押えが下がった状態で固定されます。

2 **縫製設定画面の移動キーを押して、針落ち位置に刺しゅうをぬいたい位置の中心がくるように、刺しゅう枠を移動します。**

- 模様を移動したい場合は、USB マウス、指、または付属のタッチペンで、模様をドラッグします。



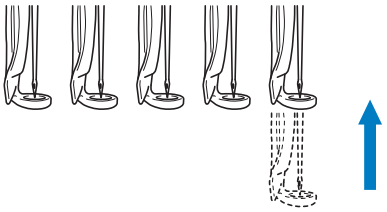
- ぬい始め位置を設定する場合は、ぬい始め位置として設定した点に針落ち位置を合わせてください。（ぬい始め／終わり位置の設定については、P. 143 を参照してください。）

■ 針棒ロックを解除するには

1 **縫製画面を表示し、ロックした針棒以外の針棒キーを押します。**



→ 針棒ロックが解除され、通常の位置に戻ります。



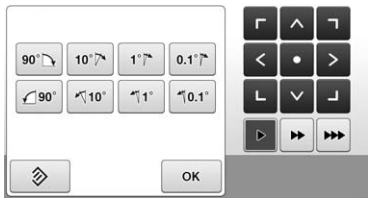
角度を調整する

布地によっては、刺しゅう枠に思い通りの角度で布地を張ることができない場合があります。このような場合は、布地に合わせて模様の角度を調整します。

1 **[ ] を押します。**



→ 次の画面が表示されます。



例／0 度



90°	右に 90 度ずつ回転
10°	右に 10 度ずつ回転
1°	右に 1 度ずつ回転
0.1°	右に 0.1 度ずつ回転
90°	左に 90 度ずつ回転
10°	左に 10 度ずつ回転
1°	左に 1 度ずつ回転
0.1°	左に 0.1 度ずつ回転
	矢印の方向に、模様を移動できます。下の 3 つのキーで、移動の速さを選択できます。
	移動キーを押すごとに、0.1mm ずつ移動
	移動キーを押すごとに、0.5mm ずつ移動
	移動キーを押している間、最高速度で移動
	押すと、0 度に戻ります。
OK	押すと、この画面を閉じます。

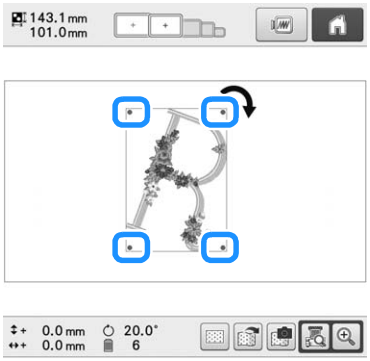
2 各キーを押して、布地に合わせて模様の角度を調整します。

キーを押すごとに、模様が回転します。



① キーを押すごとに、変更後の回転角度を示します。

模様の周りに表示される赤い点のいずれかを押しながら、回転したい方向にドラッグして調整することもできます。



- 元の角度（0 度）に戻したい場合は、 を押します。

3 必要に応じて、矢印キーを押して模様の位置を調整します。

操作のしかたは、P. 105 を参照してください。

4 必要に応じて OK 、 を押して縫製範囲の確認をします。

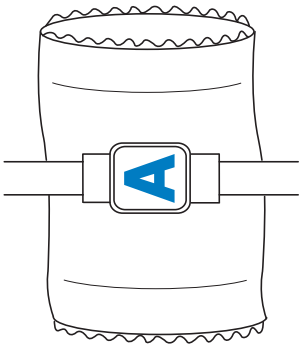
操作のしかたは、P. 61 を参照してください。

5 変更し終わったら、OK を押します。

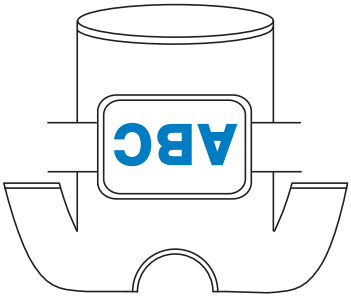
縫製設定画面に戻ります。

お知らせ

- この機能で微妙な角度調整をすることができますが、袋もの、筒ものなど刺しゅう枠の張り方が限定されるものをぬう場合にもこの機能を使うと便利です。
  例：ピローケースにぬう場合
  模様を左に 90 度回転してぬいます。



例：T シャツにぬう場合
模様を 180 度回転します。T シャツの襟ぐり側ではなく胴側からミシンベッドを通し、刺しゅう枠をミシンにセットします。刺しゅう枠の移動により襟ぐりの伸びを防ぎます。



- 模様回転中に、、や などのカメラ機能を使って縫製イメージを確認することもできます。カメラ機能については、P.109「布地を表示して縫製位置を合わせる」、P.112「内蔵カメラを使う」を参照してください。

縫製位置を合わせる

布地を表示して縫製位置を合わせる

刺しゅう枠に張った布地を液晶画面に表示して、画面上で、布地に合わせて縫製位置を調整することができます。
この機能は、編集画面と縫製設定画面で使用できます。



お知らせ

- 別売の台枠 D、台枠 E、帽子枠またはシリンダー枠を装着しているときは、内蔵カメラは刺しゅうの位置合わせに使用できません。
- 厚さが 2mm 以上の布地を使用する場合は、P.111「厚い布地をスキャンする場合」を参照してください。

1 刺しゅう枠に布地を張り、枠をミシンにセットします。

2 模様を選びます。

お願い

- 薄い布地または普通の厚さの布地を使用するときは、設定画面の 7 ページの布地厚センサーが「OFF」になっていることを確認してください。(P. 111「厚い布地をスキャンする場合」参照)

3 編集画面で、  を押します。

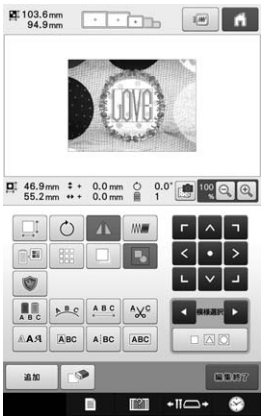


4 次のメッセージが表示されたら、OK を押します。

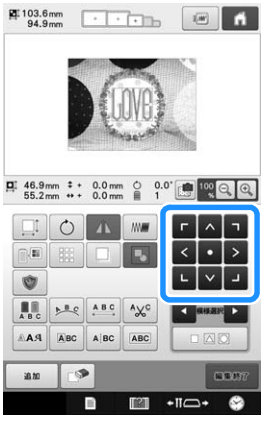


→ 刺しゅう枠が移動し、布地をスキャンします。

5 スキャンした布地が模様の背景に表示されたら、必要に応じて模様を編集します。



6  で、模様をぬいたい位置に移動します。



お知らせ

- 必要に応じて、  を押し、模様位置を仕上がりイメージで確認します。
- 縫製設定画面の  アイコンを押しても、背景の表示する / しないの設定ができます。

7 編集終了 を押して、縫製設定画面に進みます。

お知らせ
●縫製設定画面でも、模様の位置合わせを行うことができます。

8 縫製 を押します。

9 ロック を押し、スタート／ストップスイッチを押してぬい始めます。

→ ぬい終わると、背景に表示されていた布地は非表示となります。

設定画面の 7 ページで、背景に布地を表示する／しないを設定できます。また、背景画像の画質を「標準」「きれい」のいずれかから選択できます。



① 背景に布地を表示する場合は、「ON」に設定します。
② 背景に布地を表示しない場合は、「OFF」に設定します。
③ 背景画像の画質を選択できます。
④ を押すと、背景画像は消去されます。

お願い
●作業中の模様がぬい終わるまで、背景に布地が表示された状態となります。
背景画像を消去したいときは、設定画面の 7 ページで、 を押してください。

■ 背景画面を USB に保存する

アイコンを押すと、背景画面を USB に保存することができます。

1 P.109「布地を表示して縫製位置を合わせる」を参照して、背景画像をスキャンします。

2 USBポートにUSBメディアを差し込みます。

3 保存する USB ポート（ または ）を選択します。

4 保存する USB メディアを選択します。

→背景画像が USB メディアに保存されます。

■厚い布地をスキャンする場合

厚さが 2mm 以上の布地をスキャンして位置合わせをする場合、布地を正しく認識できないことがあります。正しく認識するために、はじめにミシンで布地の厚さを確認してください。

1. 刺しゅう枠に布地を張り、枠をミシンにセットします。
2. 模様を選びます。
3. 設定画面の 7 ページを表示します。
4. 布厚センサーの ON を押して、設定を有効にします。

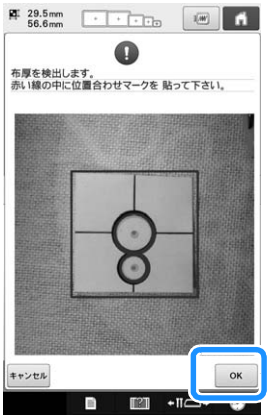


5. OK を押し、元の画面に戻ります。
6. 次のメッセージが表示されたら、OK を押します。

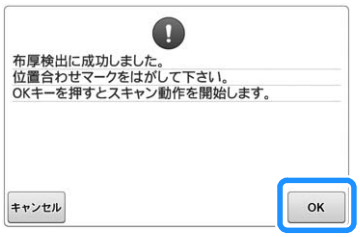


→ 刺しゅう枠が移動し、布地をスキャンします。

7. を押します。
8. 画面に、刺しゅう位置合わせシールを貼る位置が赤い枠で表示されます。画面を見ながら、赤い枠内に収まるように、シールを布地に貼り、OK を押します。



9. 次のメッセージが表示されたら、位置合わせシールを布地からはがし、OK を押します。



→ 位置合わせシールの検出が完了しました。刺しゅう枠が移動します。

10. P. 109 の手順 5 以降の手順で、模様をぬいたい位置に合わせます。

⚠ 注意

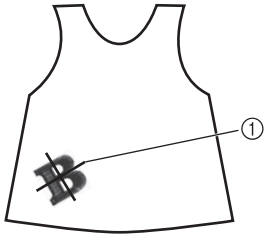
- 刺しゅうができる布地の厚さは2mm程度までです。それ以上の厚さのものをぬうと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

内蔵カメラを使う

内蔵カメラを使うと、簡単に縫製位置を合わせることができます。下図のような、位置を合わせづらい位置に刺しゅうする場合に便利です。



1 チャコペンで刺しゅうをしたい位置に印を付けます。



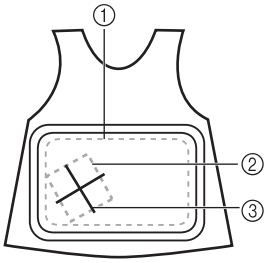
① 印

2 刺しゅう枠に布地を張ります。



お願い

●刺しゅう枠に布地を張るときは、模様が使用されている刺しゅう枠の縫製範囲に収まっていることを確認してください。



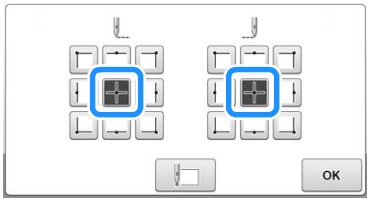
① 縫製範囲
② 模様の大きさ
③ 印

3 模様を選びます。

4 縫製設定画面で  を押します。



5  を押して、ぬい始め位置を模様の中心に設定します。

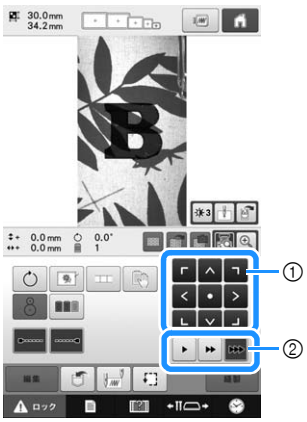


6 OK を押します。

7 を押します。

8 布に描いた印がカメラの撮影画面に表示されるまで、移動キーを押して、刺しゅう枠を移動します。

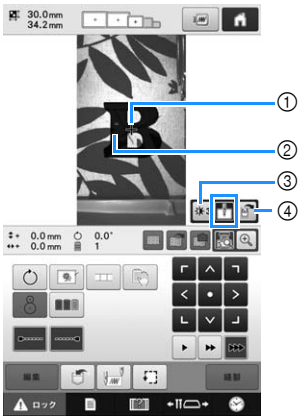
枠移動速度キーを押すと、移動の速さを選択できます。(P. 105「思い通りの位置にぬうには」参照)



① 移動キー
② 枠移動速度キー

9 を押して、針落ち点を表示します。

- を押すと、カメラ画像の明るさを調整できます。白っぽい布のときは暗く(1)、暗い色の布のときは明るく(5)すると確認しやすくなります。



① 針落ち点
② 布の印
③ 押すたびに、カメラ画像の明るさが変わります。
④ カメラ画像を外部メモリーに保存することができます。

- を押すと、縫製範囲が確認できます。

お知らせ

- を押すと、拡大表示に切り替わります。少しずつ刺しゅう枠を移動しながら、模様の中心点の位置合わせを微調整できます。

10 を押し、模様の傾きが布に描いた印の傾きと合うまで模様の角度を調整します。

(P. 106「角度を調整する」参照)



- 移動キーを押して、カメラ画像の模様と布地の印がぴったり重なるまで、刺しゅう枠を移動します。

11 を押して、模様表示に戻ります。

12 縫製 を押します。

13 ロック を押し、スタート/ストップスイッチを押してぬい始めます。

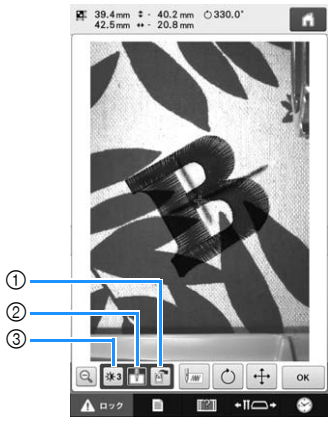
■ カメラ画像を拡大表示で見る

1 を押します。



❷ カメラ画像画面が拡大されて表示されます。

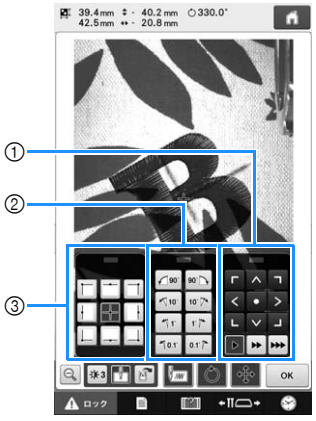
- 通常のカメラ画像表示で設定した表示設定を変更することができます。



① カメラ画像を外部メモリーに保存します。
② 針落ち位置を表示する／しないを設定します。
③ カメラ画像の明るさを変更します。

❸ を押すと、ぬい始め設定、回転、枠移動キーパネルが表示されます。

- それぞれのキーの操作については、以下を参照してください。
P.143「ぬい始め／終わり位置設定」、P.106「角度を調整する」、P.105「思い通りの位置にぬうには」参照。



① 枠移動キーで模様の位置を調整できます。
② 回転キーで模様の角度を調整できます。
③ ぬい始め設定キーでぬい始め位置を設定できます。

- これらのキーは、調整中は非表示になるため、カメラ画像を全体に表示することができ、位置合わせしやすくなります。

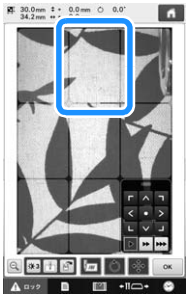
❹ を押して、通常のカメラ画像表示に戻ります。



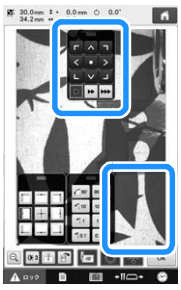
お知らせ

- ３つのキーパネルは、模様が確認しやすいように、配置を変更することができます。キーパネルの上中心部をタッチすると、配置の候補エリアが表示されます。配置したい場所をタッチすると、その場所に選んだキーパネルが移動します。





配置の候補エリアがグレーで表示されます。



選んだ位置にキーパネルが移動します。

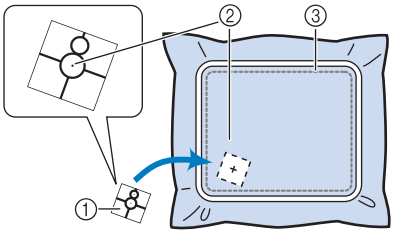
5 OK を押し、元の画面に戻ります。

お願い
●厚い布地を使ってカメラあわせをするときは、P.111「厚い布地をスキャンする場合」の手順同様に布厚センサーを利用してください。

付属の刺しゅう位置合わせシールを使う

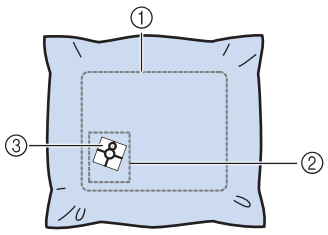
刺しゅう位置合わせシールを使うと、内蔵カメラがそのシールを検出して、簡単に縫製位置を合わせることができます。

1 布地の刺しゅうをしたい位置に刺しゅう位置合わせシールを貼ります。大きい円の中心を模様の中心に合わせて貼ります。



① 刺しゅう位置合わせシール
② 模様の中心
③ 縫製範囲

お願い
●布地を刺しゅう枠に張る際、模様が刺しゅう枠の縫製範囲に収まっていることを確認してください。



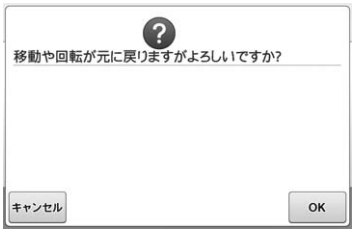
① 刺しゅう枠の縫製範囲
② 模様
③ 刺しゅう位置合わせシール

●使用する布地の種類によっては、刺しゅう位置合わせシールが簡単にはがせなくなるものがあります。貼る前に、同じ布の切れ端に貼り、簡単にはがすことができるかどうかを確認してください。

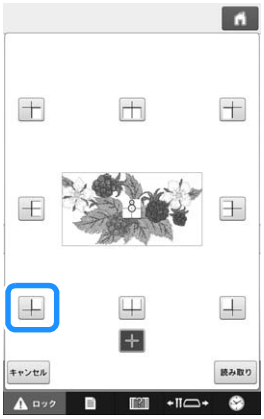
2 縫製設定画面で を押します。



3 次のメッセージが表示されたら、OK を押します。

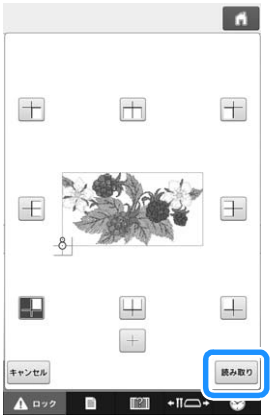


4 画面に表示されたエリアから、刺しゅう位置合わせシールを含むエリアを選んで押します。

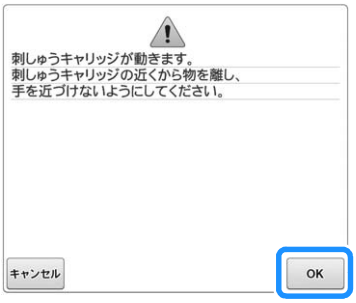


お願い
●刺しゅう位置合わせシールの四隅がきちんと布地に貼られていないと、内蔵カメラが検出できないことがあります。テープなどでしっかりと貼り付けてください。

5 読み取り を押します。



6 次のメッセージが表示されたら、OK を押します。



→ 内蔵カメラが自動的に刺しゅう位置合わせシールを検出し、模様のぬい始めの位置がシールの大きい円の中心に合うように、刺しゅう枠が移動します。

7 内蔵カメラが刺しゅう位置合わせシールの位置を検出すると、次のメッセージが表示されます。



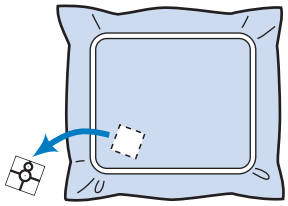
お知らせ

●  を押すと、刺しゅう位置合わせシールをはがす前に正しく位置合わせできたかどうかを確認できます。

・  を押すと、拡大表示に切り替わります。

・  を押して、元の表示に戻ります。

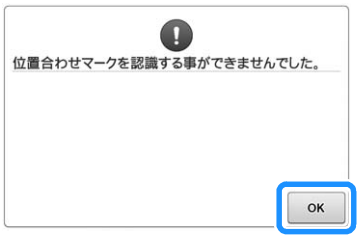
8 刺しゅう位置合わせシールを布地からはがします。



9 OK を押します。

お願い

●次のエラーメッセージが表示された場合は、OK を押し、刺しゅう位置合わせシールをはがします。縫製範囲内に収まるよう貼り直してから、もう一度 読み取り を押してください。



10 縫製 を押します。

11 ロック を押し、スタート／ストップスイッチを押してぬい始めます。

お願い

●刺しゅう位置合わせシールは別途購入できます。付属の刺しゅう位置合わせシールを使いきった後は、P.25「別売品」でモデル名を確認し、販売店にお問い合わせください。

液晶画面上で糸色を交換する

糸立て台の糸こまが、液晶画面で表示されている糸と異なる色だった場合、実際の糸立て台にセットされている糸こまと色を合わせるために、液晶画面上で糸色の表示を交換することができます。

お知らせ

- この機能は、設定画面で手動糸色割付を「ON」に設定しているときは使用できません。

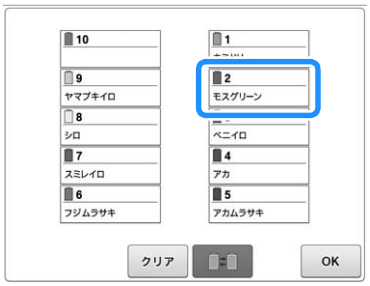
1 縫製画面で  を押します。



→ 糸こま選択画面が表示されます。

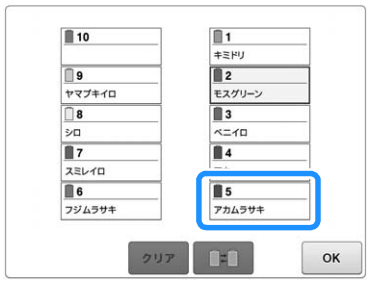
2 交換する一つめの針棒番号キーを押してください。

- 選んだ針棒番号をキャンセルするときは、同じキーをもう一度押してください。

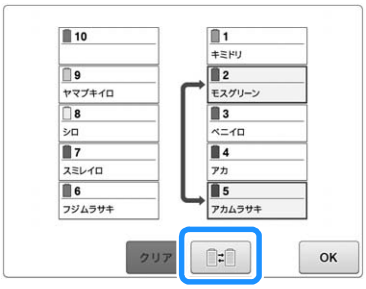


3 交換するもう一つの針棒番号キーを押してください。二つの針棒番号をつなげる矢印が表示されます。

- 選んだ針棒番号をキャンセルするときは、同じキーをもう一度押してください。



4  を押すと、二つの糸色が交換されます。

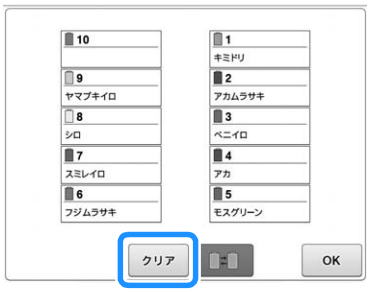


5 交換が終わったら、OKを押してください。

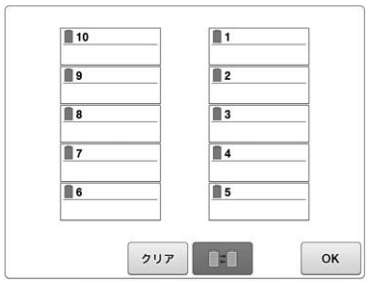
■針棒設定をクリアして新たに設定しなおす

お願い
●縫製中でも、この操作によって針棒設定は完全にクリアされます。

1 クリア を押します。



→ 針棒設定がクリアされます。



2 OK を押します。

→ 以前の針棒設定にかかわらず、糸色はミシンによって新たに割り振られます。

お願い
●設定済みの手動針棒設定は、この操作によって解除されません。(P. 151「手動針棒／縫製速度設定」参照)

11 色以上の模様をぬうときは

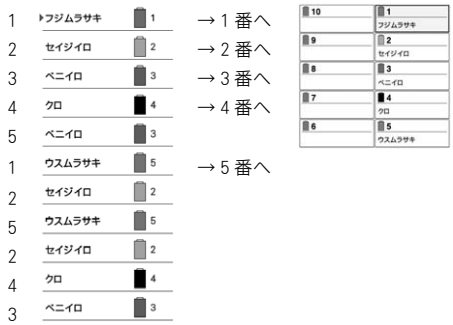
11 色以上の模様をぬうときは、糸こま交換が必要です。糸こま交換の際には、ミシンが自動的に停止して、糸こま交換指示が表示されます。

お知らせ

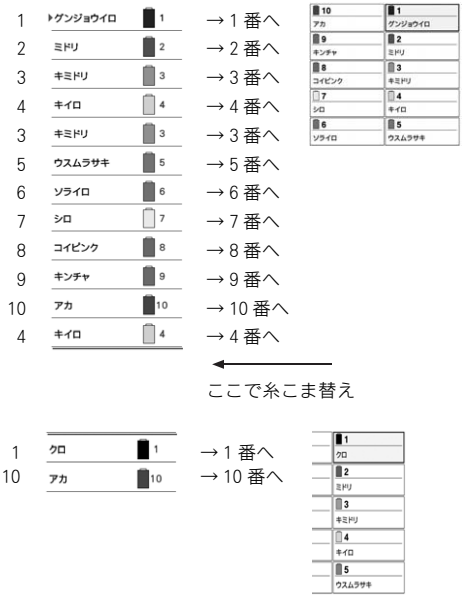
● この機能は、設定画面で手動糸色割付を「ON」に設定しているときは使用できません。

■ 針棒への糸色の割り当てのしくみ

糸色は、ぬわれる順の早い順に 1 番針棒から 10 番針棒へ、ミシンが自動的に割り当てます。（ただし、新しくぬう模様に前回ぬった模様と同じ糸色がある場合は、ぬい順に関係なく前回と同じ針棒に割り当てられます。）
例えば、色数 5 色、糸替え数 9 回の模様の場合は次のようになります。



11 色以上の模様の場合は、11 色目が必要になったときに糸こま情報が更新されます。
それ以降の糸こま交換が最小限ですむように、ミシンが糸色を割り当て直します。
例えば、色数 11 色、糸替え数 14 回の模様の場合は次のようになります。



2 番から 10 番は糸こま替え以降も使われるので交換しないで、その他の番号の針棒が割り当て直されます。

糸こま交換が必要かどうかを確認するには

模様を選ぶときに糸替回数は確認できますが、何色の糸色の模様であるかは確認できません。糸こま交換は必要かどうか、必要な場合はいつ必要か、次の表示で確認できます。

■ ミシンが刺しゅうを停止するまでの時間表示

ミシンが次に刺しゅうを停止するまでの時間が表示されます。ミシンは糸こま交換が必要なときや、その他の停止設定によって停止します。糸こま交換が必要なときは、糸こま交換表示が表れます。時間表示が赤くなったときは、そのときぬっている糸色をぬい終えたらミシンが停止することを表しています。



① ミシンが停止するまでの時間

■ 糸こま交換マーク（――――）

交換回数・時期は、ぬい目戻る／進む画面の糸こま交換マークで確認できます。

1 縫製画面でぬい順表示の右側のスクロールバーを動かします。



→ ▼を 1 回押すごとに 1 色ずつ次の色へ、ぬい順表示がスクロールします。最後の色が糸色順表示の 1 番上にきた後は、最初の色に戻ります。

- スクロールバー上を押して表示を送ることもできます。

2 ―――― の位置を確認します。



① ―――― は糸こま交換時期を示します。表示されている色と色の間で、表示回数分交換が必要です。

② 糸色順表示を戻すとき、▲を押します。1 回押すごとに 1 色ずつ前の色へ、糸色順表示がスクロールします。1 色目の色が糸色順表示の 1 番上にきた後は、最後の色に戻ります。

3 確認し終わったら、▲またはスクロールバーの一番上を押して最初の色に戻ります。

11 色以上の模様で糸こま交換を指示されたときは

簡単な糸こま交換のしかたのほかに、糸こま交換メッセージや糸立台の LED ライト表示について説明します。

お知らせ

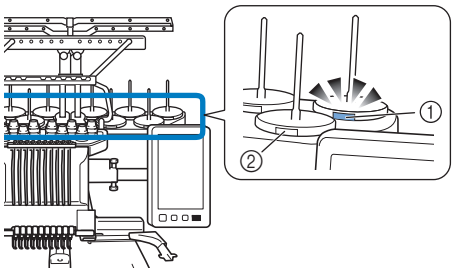
●この機能は、設定画面で手動糸色割付を「ON」に設定しているときは使用できません。

糸こま交換表示と糸立台 LED ライトについて

11 色以上の模様をぬう場合糸こま交換が必要なときは、ミシンは自動的に止まり、次の画面が表示されます。同時に、糸立台の LED ライトが白色で点滅後、次にセットする糸こまの糸色で点灯します。
新しい模様をぬう場合に糸こま交換が必要なときも、メッセージと LED ライトでお知らせします。新しい割り当てに従って、糸こまを交換してください。



① 糸こま交換が必要な針棒については、赤枠で囲まれます。
② 糸こま交換が必要ない針棒については、グレーで表示されます。
③ 押すと、糸こま交換表示が閉じます。



① 白色で点滅後、次の糸色で点灯します（糸色が黒の場合は消灯します）。
② 糸こま交換が不要な糸こまの LED は点滅しません。

● 液晶画面で実際の糸色番号を確認してください。LED ライトの色は、次の糸色に指定された色の類似色を示しています。

糸こまを交換し終えたら、OK を押して糸立台の LED ライトを消灯させ、ぬい始めます。

● 糸通しボタンを押すと、糸通しをした糸立台 LED ライトは消灯します。

お願い

●新しい糸色で糸通しするには、針棒キーを押して交換したい針棒を縫製位置に移動してください。(P. 70「糸通しをする針棒を縫製位置に移動する」参照)
●縫製画面に進むと、現在の糸色の割り当てがミシンに記憶されます。
●針棒設定が記憶され、同じ糸色を含む模様を選んだときは、前回と同じ針棒に割り当てられます。
●糸立台 LED ライトの点灯、点滅の設定を変更できます。詳しくは、P.237「糸立 LED を設定する」を参照してください。
●割り当てられた糸色をすべて消去したいときは、P.118「針棒設定をクリアして新たに設定しなおす」を参照してください。

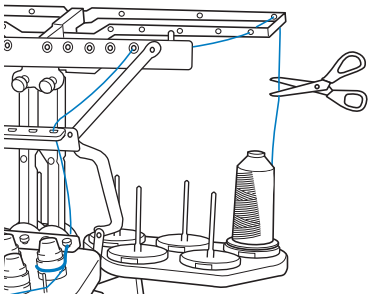
お知らせ

●使用中の糸色で代用してしまいたい場合は、縫製中に一時停止して設定を変えることができます。(P. 150「一時的針棒設定」参照)
●糸こま交換の手間を減らすため、よく使う糸色を特定の針棒に決めることもできます。(P. 151「手動針棒／縫製速度設定」参照)

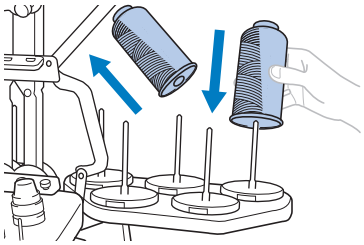
簡単な糸こま交換のしかた

糸こまを交換するときは上糸のかけ直しが必要になります。糸が正しくかけられている糸こまを交換する場合は、簡単に交換できる方法があります。

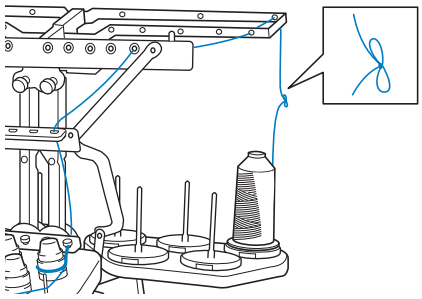
1 **糸こまと糸案内の間で糸を切ります。**



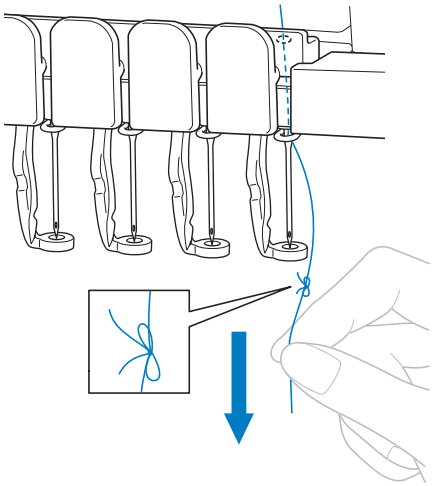
2 **糸こまを交換します。**



3 **糸の端に、交換後の糸こまの糸を結び付けます。**



4 **糸道下の穴の下と針棒糸かけの間で、糸を引っ張ります。**



糸の結び目が来るまで、引っ張ります。
結び目を切ります。

5 **糸を針棒糸かけに通し、自動針穴糸通し装置を使って針に通します。(P. 68 参照)**

→ これで糸こま交換が完了しました。

お願い

●糸を引くときに、針穴に通した先では引かないでください。結び目が針穴を通ると、針が損傷するおそれがあります。

途中で糸が切れた／下糸がなくなったときは

縫製の途中で糸が切れたり、下糸がなくなったりしたときは、ミシンは自動的に止まります。何針か空ぬいがされてしまいますので、ぬわれている部分と少し重なるようにぬい目を戻してから続きをぬいます。

お願い
- 糸センサーが「OFF」になっていると、刺しゅうが終わるまでミシンは止まりません。通常は、糸センサーを「ON」にしてお使いください。（P. 238 参照）
- ぬい目を戻したり、進めたりするときは、枠が動きますので注意してください。

お知らせ
- 縫製の途中で糸が切れたり、下糸がなくなったときは、糸立台の LED ライトが点滅してお知らせします。

上糸が切れたとき

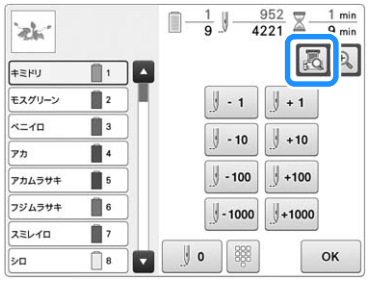
1 上糸をかけ直します。（P. 64 参照）

2 [-/+]を押します。



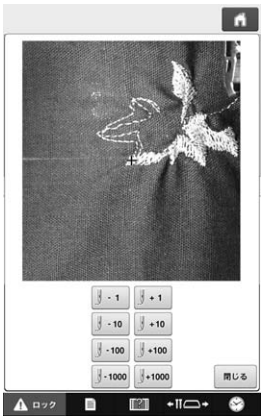
→ ぬい目戻る／進む画面が表示されます。

3 [カメラ]を押して、液晶画面で針落ち位置を確認します。

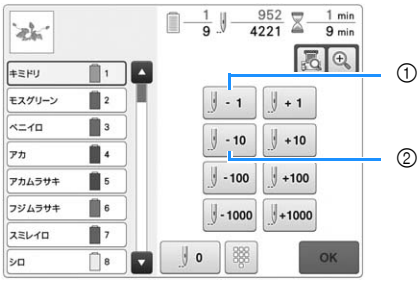


→ カメラ画像が表示されます。

- [拡大]を押すと、カメラ画像が通常表示の 2 倍の拡大表示に切り替わります。



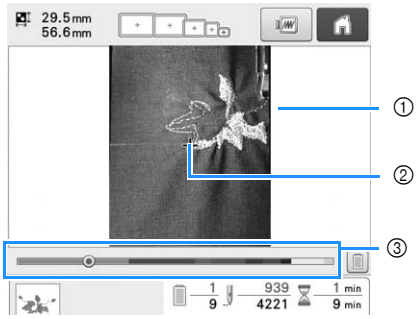
4 [-1] [-10]を押して、確実にぬわれている部分と少し重なるところまでぬい目を戻します。



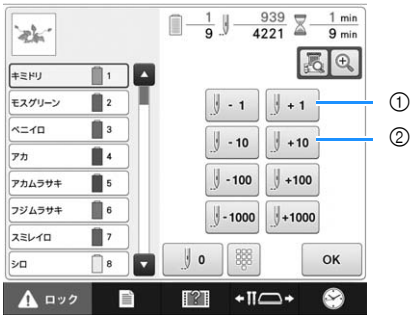
① 1 回押すごとに 1 針ずつ戻ります。
② 1 回押すごとに 10 針ずつ戻ります。

[-1] [-10]を押して最後のぬい目に戻すと、刺しゅう枠が移動し、表示されている最後のぬい目に＋マーク（針落ち位置）を直接合せることができます。

お願い
- 確実にぬい目をつなげるために、ぬわれている部分の最後ぬい目の 2、3 針前のぬい目からぬい始めてください。



① ぬい目
② ＋マーク
③ プログレスバー
プログレスバー上を押して、お望みの針数のポイントに移動することもできます。
戻しすぎてしまったときは、+1 +10 を押して、ぬい目を進めます。



① 1 回押すごとに 1 針ずつ進みます。
② 1 回押すごとに 10 針ずつ進みます。

5 を押します。

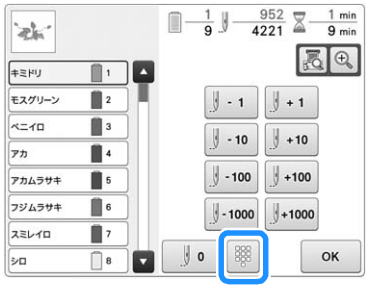
6 OK を押します。

→ 縫製画面に戻ります。

7 ロック（ロック解除キー）、スタート／ストップスイッチを押して、続きをぬいます。

■ 特定の針数を指定するとき

1 P. 123 の手順 4 で、を押します。

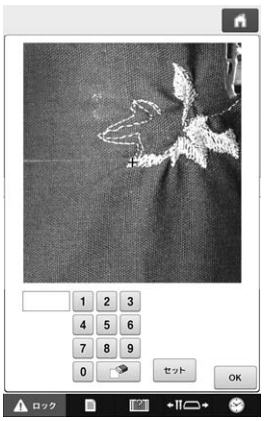


2 数字キーで指定したい針数を入力して、セット を押します。



→ 刺しゅう枠が動いて、指定の針数の位置に移動します。

→ この画面でを押して拡大画面を表示すると、そのまま数字キーで設定できます。



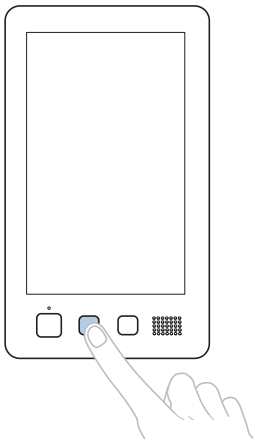
3 を押して元の画面に戻り、手順 5 から操作を続けます。

お知らせ

- 0 キーを押すと、針数がリセットされ、1 針目から縫うことができます。また、何も数字を入れずに セット を押しても、1 針目から縫うことができます。
- 針数の最後を指定したいときは、最後の糸色を選択した状態で を押します。

下糸が切れた／なくなったとき

1 画面の ロック を押し、ミシンロックを解除した後に、糸切りスイッチを押します。

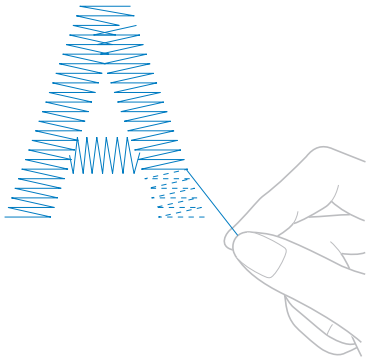


→ 上糸が切れます。

- 下糸が切れた、またはなくなったときは、一旦上糸も切ってください。

2 空ぬいされている上糸を取り除きます。

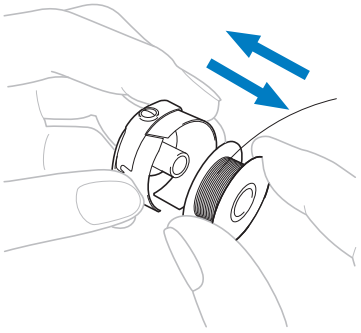
上糸の切れ端を引っ張ります。



- きれいに取り除けない場合は、はさみで切ってください。

■ 下糸がなくなった場合は、ここでボビンを交換します。

3 下糸が巻かれたボビンと交換します。(P. 40 参照)



- 釜カバーを開けることができれば、刺しゅう枠を外さずにボビンを交換できます。
- 袋状の布地などでミシンベッドをおおっていて、釜カバーを開けることができない場合は、ここで一旦刺しゅう枠を外します。(P. 76 参照) ボビンを交換した後、刺しゅう枠をセットします。(P. 58 参照)

お願い

縫製の途中で刺しゅう枠を外す場合は、次のことに注意してください。模様くずれの原因となります。

- ●張られている布地に無理な力をかけて布地をたるませない。
- ●刺しゅう枠を外したり、セットしたりする際は、キャリッジや押えに当たらないようにする。キャリッジに当たってキャリッジが動いてしまった場合は、電源を入れ直してください。ミシンを止めたときの状態をミシンが記憶しており、正しい位置に戻ります。
- ●刺しゅう枠をセットしたときは、台枠の左右のアームのピンが刺しゅう枠の取付部の穴にきちんと入っているか確認する。

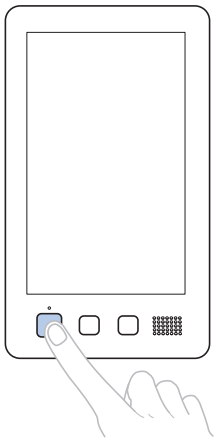
4 P.123「上糸が切れたとき」の手順 2 ～ 7 と同様にぬい目を戻して、続きをぬいます。

始めまたは途中からぬいたいときは

ぬってみて糸調子があっていなかったり、糸色をまちがえてしまったりしたときなど、始めからぬい直したいときはぬい目を戻してから新たにぬい直します。また、糸色・ぬい目を進めたり、戻したりして、ぬい始めたい糸色のぬい目からぬうことできます。

お願い
●ぬい目を戻したり、進めたりするときは、枠が動きますので注意してください。

1 スタート／ストップスイッチを押して、ミシンを止めます。



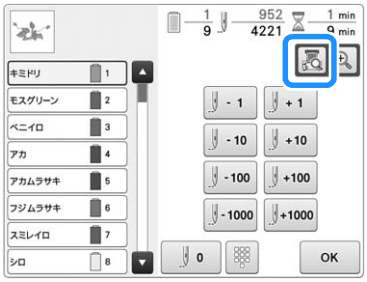
● 必要に応じて、布地を張り替えたり、ぬった刺しゅう部分をはさみで取り除いたりします。

2 を押します。

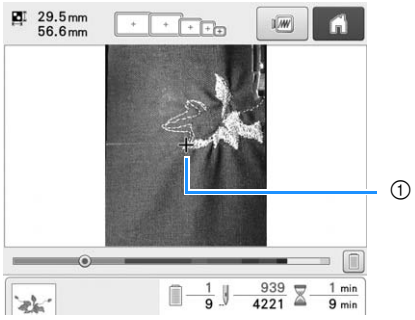


→ ぬい目戻る／進む画面が表示されます。

3 を押して、液晶画面で針落ち位置を確認します。

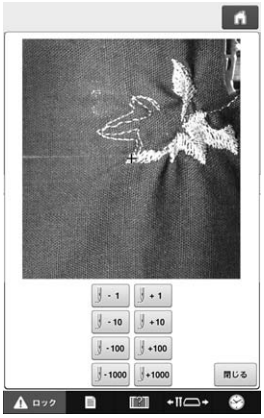


→ カメラ画像が表示され、＋マークが針落ち位置を示しています。



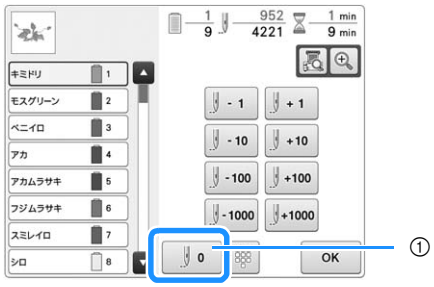
① 針落ち位置

● を押すと、カメラ画像が通常表示の 2 倍の拡大表示に切り替わります。



■ 始めからぬいたいとき

4 0 を押します。

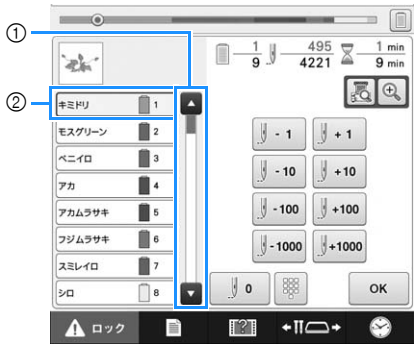


① 1 色目の部分のぬい始めに戻ります。

→ 刺しゅう枠が動いて、ぬい始めの位置に戻ります。

■ ぬい始めのぬい目を指定したいとき

5 スクロールバー上を押して、糸色を指定してから、- 1 、- 10 、- 100 、- 1000 、+ 1 、+10 、+100 、+1000 を押して細かいぬい目を指定します。



① スクロールバー上を押して、ぬい始めの針位置を指定できます。

② 糸色順表示の 1 番上に表示されている糸色が現在選ばれている色部分です。
この部分を押しても、ぬい始めの針位置を指定できます。

- 1	1 回押すごとに 1 針ずつ戻ります。
- 10	1 回押すごとに 10 針ずつ戻ります。
- 100	1 回押すごとに 100 針ずつ戻ります。
- 1000	1 回押すごとに 1000 針ずつ戻ります。
+ 1	1 回押すごとに 1 針ずつ進みます。
+ 10	1 回押すごとに 10 針ずつ進みます。
+ 100	1 回押すごとに 100 針ずつ進みます。
+ 1000	1 回押すごとに 1000 針ずつ進みます。

→ 刺しゅう枠が動いて指定された針位置を示します。針棒ケースも動いて、指定された針棒が縫製位置に移動します。

6 を押します。

7 ぬい始めのぬい目が指定できたら、OK を押します。

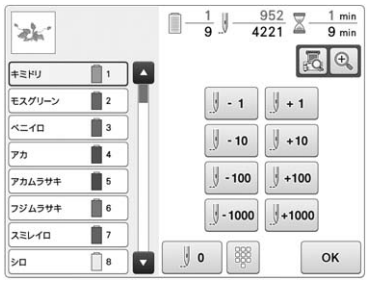
→ 縫製画面に戻ります。

8 ロック (ロック解除キー)、スタート／ストップスイッチを押してぬいます。

→ 指定したところからぬい始めます。

■ 特定の針数を指定するとき

1 P. 127 の手順 5 で、 を押します。

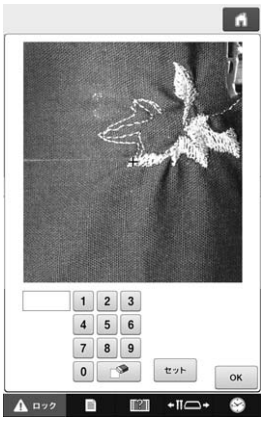


2 数字キーで指定したい針数を入力して、セット を押します。



→ 刺しゅう枠が動いて、指定の針数の位置に移動します。

→ この画面で を押して拡大画面を表示すると、そのまま数字キーで設定できます。



3 を押して元の画面に戻り、手順 6 から操作を続けます。

お知らせ

●針数を入力せずに セット を押すと、１針目からぬい始めます。

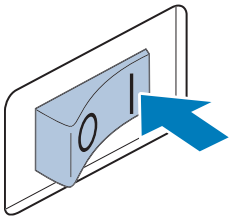
停止後、途中からぬうときは

次のようなときは、ぬい終わったところまでのぬい目をミシンが記憶しています。

- **縫製終了後に電源スイッチを切ったとき**
  電源を入れキャリッジが初期設定の位置に移動したときに、糸が引っ張られたり、引っかかったりしないよう、電源を切る前に糸を切っておきます。
- **縫製中に停電などで電源が切れたとき**
  次に電源を入れたときに続きからぬうことができますが、ぬい目を少し戻してからぬい始めます。

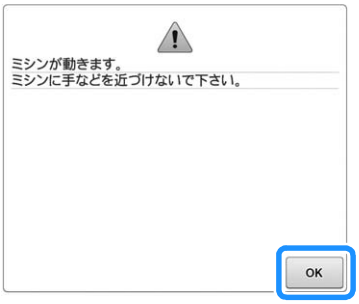
お願い
●ぬい目を戻したり、進めたりするときは、枠が動きますので注意してください。

1 電源スイッチの “I” 側を押し、電源を入れます。



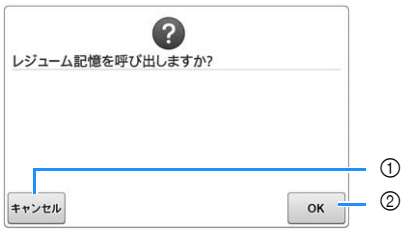
2 液晶画面にオープニング画面が表示されたら、液晶画面を押してください。液晶画面のどこを押しても、次の画面に変わります。

3 OK を押します。



→ 続きをぬうか、新しく操作を始めるかを選択する画面が表示されます。

4 OK を押します。



① 押すと、縫製をキャンセルして、新しい模様を選ぶ画面が示されます。
② 続きをぬうときに押します。
→ 前回電源を切ったときの縫製画面が示されます。

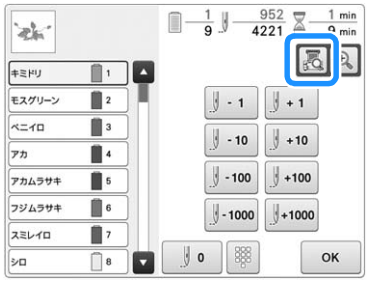


5 を押します。



→ ぬい目戻る／進む画面が表示されます。

6 を押して、液晶画面で針落ち位置を確認します。

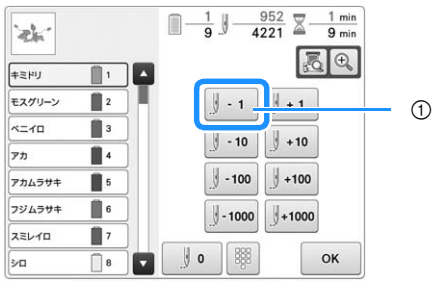


→ カメラ画像が表示されます。

- を押すと、カメラ画像が通常表示の 2 倍の拡大表示に切り替わります。



7 を 2 ～ 3 回押して、2 ～ 3 針ぬい目を戻します。



① 1 回押すごとに 1 針ずつ戻ります。

- 針落ち位置がぬわれている部分と少し重なったところになっているか、確認してください。

8 を押します。

9 OK を押します。



→ 縫製画面に戻ります。

10 ロック（ロック解除キー）、スタート／ストップスイッチを押して、続きをぬいます。

お知らせ

●縫製中などミシンはいつでも停止することはできますが、糸替え時に停止すると次にぬい始めるときにぬい目を戻す必要はありません。糸替え時にミシンを停止するよう設定もできます。(P. 148「糸替え時停止設定」参照)

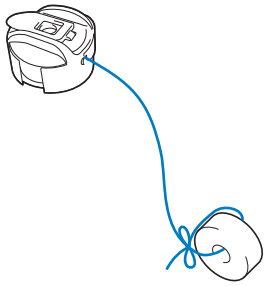
下糸と上糸の糸調子を調整する

糸調子の調整のしかたを説明します。まず下糸の糸調子を調整してから、各針棒の上糸の調子を調整します。

お願い
- ボビンを交換した後は、必ず下糸の糸調子を確認してください。
  下糸の糸調子は、下糸やボビンの種類によって異なります。例えば、紙ボビンを同種のボビンと交換したときなども、下糸の糸調子を確認し、必要に応じて糸調子を調整してください。
- 必ず下糸の糸調子を調整してから、上糸の糸調子を調整してください。

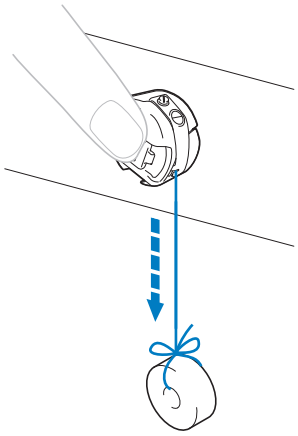
下糸の調子を調整する

1 ボビンケースから出ている下糸の端に付属の下糸おもりを結び付けます。



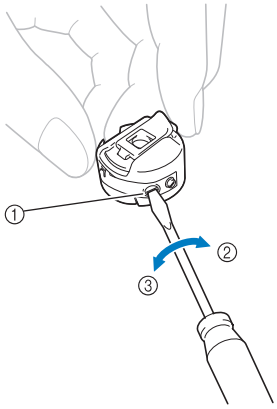
お知らせ
- 紙ボビンと金属ボビンでは、調整するときに使用する下糸おもりが異なります。
  紙ボビンの場合：下糸おもり（L タイプ）のみ
  金属ボビンの場合：
  下糸おもり（L タイプ）＋下糸おもり（S タイプ）

2 図のように、ボビンケースを滑らかな垂直面に押し当てます。



- 下糸おもりの重さで下糸が、ゆっくりと繰り出されれば正しい糸調子です。

3 糸調子ネジを付属の小型ドライバーで回して、調整します。

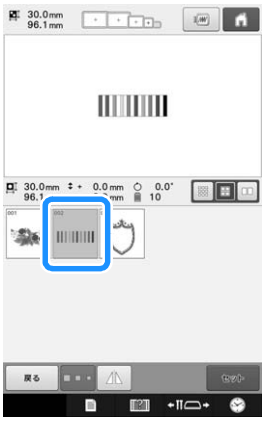


① 糸調子ネジ
② 強くします。
③ 弱くします。

4 **調整ができたら、すべての針棒でためしぬいをして糸調子を確認します。**

お知らせ

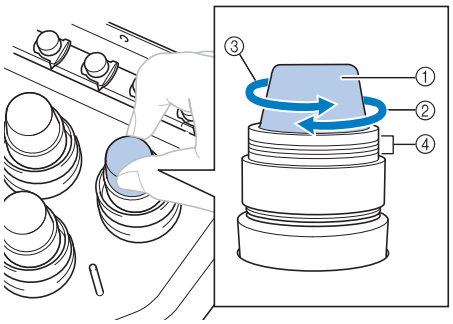
●内蔵模様の中に、糸調子確認用の模様があります。この模様をぬって糸調子を確認すると便利です。詳しくは、P. 252 を参照してください。



上糸の調子を調整する

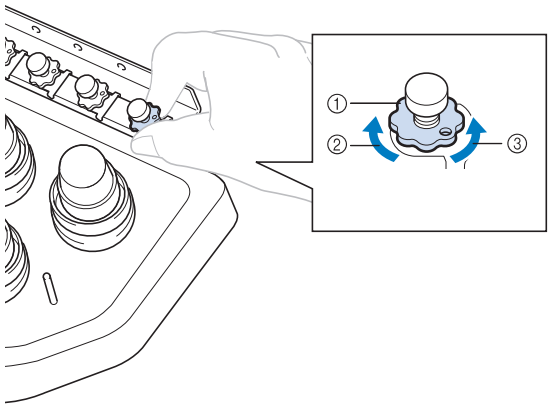
上糸のぬい目が布地の裏側から少しのぞく程度に、糸調子を調整してください。

1 **糸調子つまみを手で回します。**



① 糸調子つまみ
② 強くします。
③ 弱くします。
④ 印

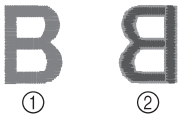
→ 糸調子がうまく調整できない場合は、糸道上糸調子つまみを回します。



① 糸道上糸調子つまみ
② 強くします。
③ 弱くします。

■ 正しい糸調子

布地の裏に上糸が少し見える状態です。糸調子が正しく調整されていなければ、布地にしわが寄ったり、目とびが起こったりして、刺しゅうがうまく仕上がりません。



① 表
② 裏

糸調子が正しく調整されていないときは、状況に応じて次の手順に従ってください。

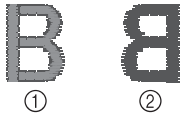
お願い

●赤い線よりも糸調子を弱めると、糸調子つまみが外れることがありますが、故障ではありません。少し糸調子を強めて、もう一度縫製を始めてください。

●糸調子つまみの組み立てについては、P. 285 を参照してください。

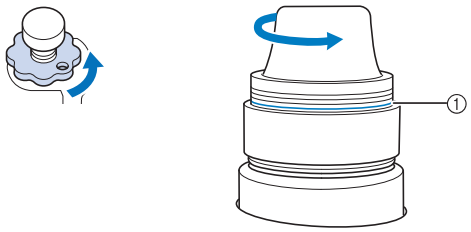
■ 糸調子が強いとき

上糸が強すぎて、表側に下糸が出ています。



① 表
② 裏

矢印の方向に回して、弱くします。



① 赤い線

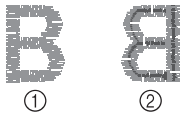
赤い線が見えたら、それ以上糸調子を弱めることができません。下糸の糸調子を強めて、調整してください。(P. 131「下糸の調子を調整する」参照)

お願い

- 赤い線が見えてからも、さらに糸調子を弱めると、糸調子つまみが外れます。
- 糸調子部分の組み立てについて詳しくは、P. 285 を参照してください。

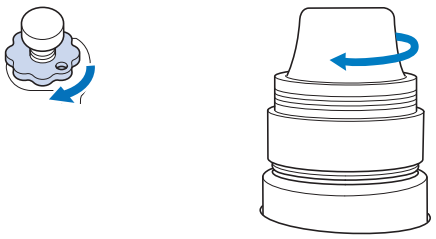
■ 糸調子が弱いとき

上糸が弱すぎて上糸がたるみ、糸の締まりがゆるくなったり、表側に糸のループができています。



① 表
② 裏

矢印の方向に回して、強くします。



第 4 章

縫製設定

縫製設定について説明します。知っておくと便利な機能です。

刺しゅうのしつけぬい 136
アップリケピースを作る 137
アップリケピースを作る 137
各針棒の糸色を選択する／管理する（手動糸色割付） 140
手動糸色割付の利便性 140
手動糸色割付モードにする 140
手動糸色割付を使う 141
手動糸色割付の注意点 141
自動止めぬい設定 142
ぬい始め／終わり位置設定 143
斜めに繰り返しぬいをする 144
文字をつなげて刺しゅうする 145
縫製最高速度設定 147
糸替え時停止設定 148
次の糸替え時に停止する 148
縫製前にポーズ位置を指定する 148
一時的針棒設定 150
連続した刺しゅう（1 色の場合） 150
手動針棒／縫製速度設定 151

刺しゅうのしつけぬい

接着芯を貼り付けられないような布地をぬうとき、模様のまわりにしつけぬいをして芯が動かないようにします。接着芯を使うと、ぬい目の縮みや模様のずれが少なくなり、刺しゅうがきれいに仕上がります。

お願い

●模様の組み合わせや編集が終わった後で、しつけぬいを設定してください。しつけぬい設定をした後で、模様を組み合わせたり編集したりすると、縫製後に模様の下にしつけぬいがされてしまい、しつけ糸を外すのが難しくなります。

1 を押して、設定画面の 2 ページを表示します。

2 − ＋を押して、しつけぬいと模様の距離を設定します。



お知らせ

●設定値が大きいほど、しつけぬいと模様の間は広がります。

●設定は、ミシンの電源を切った後も保持されます。

3 OK を押して、縫製設定画面に戻ります。

4 を押して、しつけぬいを設定します。



お願い

● を押すと、模様が画面の中央に移動します。しつけぬいを設定してから、模様をお好みの位置に移動してください。

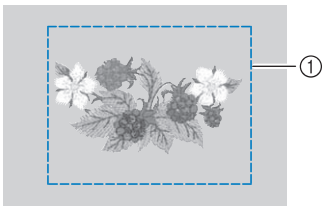
● を押すと、設定が解除されます。

→ しつけぬいは、ぬい順の最初にきます。

5 縫製 を押して、縫製画面に進みます。

6 ロック（ロック解除キー）、スタート／ストップスイッチを押して、ぬいます。

7 刺しゅうが終わったら、しつけぬいを外します。



① しつけぬい

アップリケピースを作る

内蔵模様や刺しゅうカードの模様から、アップリケピースを作ることができます。布地に直接刺しゅうできないときや、衣類にアップリケを貼りたいときに便利です。

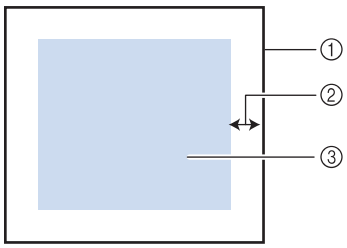
アップリケピースを作る

ここでは、次の模様を使ってアップリケピースをつくります。



お願い

- アップリケピースをつくるときは、フェルトやデニムの使用をお勧めします。軽い布地など、模様や布地によっては、ぬい目が小さくなることがあります。
- きれいに仕上げるため、刺しゅう用接着芯の使用をお勧めします。
- 模様の大きさに合った刺しゅう枠を選んでください。候補の枠が画面に表示されます。
- 模様の組み合わせや編集を終えてから、アップリケ設定をしてください。アップリケ設定をした後に模様を編集すると、アップリケのぬい目や模様がくずれることがあります。
- アップリケ設定をすると切り取り線が追加されるため、模様のサイズその分だけ大きくなります。
  次の図のように、はじめに模様の大きさと位置を調整してください。



① 縫製範囲
② 10mm 程度
③ 模様の大きさ

1 アップリケに使用する模様を選択します。

2 編集画面で、[アップリケ設定] を押します。

3 切り取り線の形を選択します。

[切り取り線] を選択した場合は、模様の周囲に切り取り線が生成されます。

→ [−] [+] を押して、模様から切り取り線までの距離を設定してください。



お知らせ

- 切り取り線として枠線を選択した場合は、枠線の拡大、縮小、移動ができます。
- [→] を押すと、隠れている切り取り線のパターンを表示できます。

4 画面に表示されたイメージを確認し、[セット] を押します。

お知らせ

- このとき、模様と切り取り線はグループ化されます。

5 模様の編集をした後、[編集終了] を押します。

6 縫製設定をした後、[縫製] を押して縫製画面に進みます。

お知らせ

- ぬい順に、次の３つのステップが追加されます。



① アップリケの切り取り線
② 布地にアップリケを配置する位置
③ アップリケのぬい目

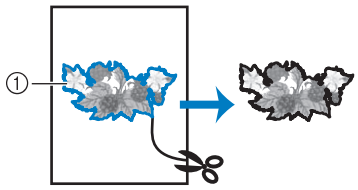
- アップリケの切り取り線（アップリケノイチ）には、布地に近い糸色を使用することをお勧めします。

7 アップリケピースとして使用する布（フェルトやデニム）の裏に、接着芯を貼ります。

8 布地を刺しゅう枠に張り、ミシンにセットして、ミシンをスタートします。

9 切り取り線（アップリケノイチ）をぬい終わったら、ミシンを止め、アップリケ布を刺しゅう枠から外します。

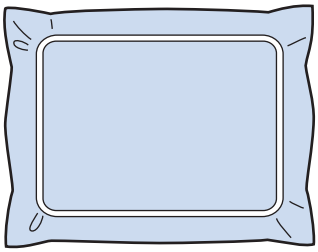
10 ぬい目の上をていねいに切り取ります。その後、糸をきれいに取り除きます。



① アップリケの切り取り線

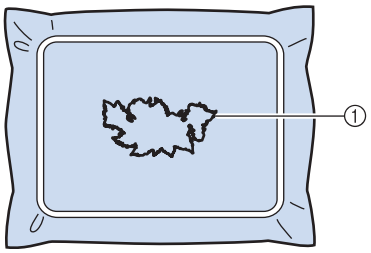
お願い
- 模様の糸密度や布地によっては、模様が縮んだり、位置がずれることがありますので、切り取り線より少し外側を切ることをお勧めします。
- 上下対称、左右対称の模様をぬうときは、切り取る前に、チャコペンで模様の向きを記しておくようにします。
- ぬい目よりも内側を切るとアップリケをぬうときに布地に糸がかからなくなりますので、必ずぬい目の上をていねいに切り取ってください。

11 2 枚の水溶性シートを、粘着面を内側にして貼り合わせ、刺しゅう枠に張ります。



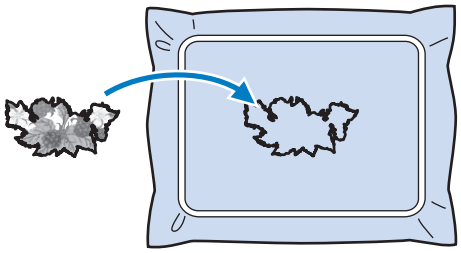
お願い
- 水溶性シートを使うと、アップリケの切り取り線をぬった後に接着芯を取り除く必要がありません。模様の縮みを軽減するために、水溶性シートの使用をお勧めします。
- 縫製中に接着芯が破れるおそれがありますので、2 枚貼り合わせて使用してください。

12 模様の配置ライン（アップリケノイチ）をぬいます。



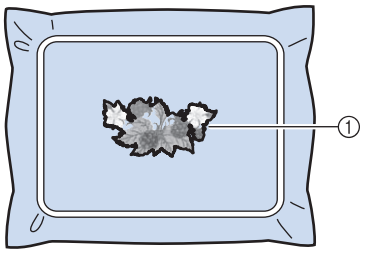
① 模様の配置ライン

13 のりまたはスプレーのりを薄くつけ、アップリケピースを配置ラインに合わせて貼り付けます。



お願い
- 配置ラインに合っているかどうか、よく確認して貼り付けてください。

14 輪郭（アップリケ）をぬいます。

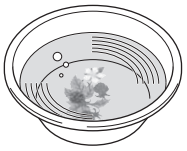


① アップリケの輪郭

15 ぬい終わったら、接着芯を刺しゅう枠から外します。

16 アップリケの輪郭からはみ出した接着芯を、はさみで切ります。

17 アップリケピースを水に浸し、水溶性シートを溶かします。



18 アップリケピースを乾かし、必要に応じてアイロンをかけます。

お願い
●アイロンで強い力をかけないでください。ぬい目が損傷するおそれがあります。

お知らせ
●輪郭のぬい目は、サテンステッチになります。
●のりが押えや針、針板などに付着することがありますので、縫製後、きれいに拭き取ってください。

各針棒の糸色を選択する／管理する（手動糸色割付）

各針棒に割り当てられている糸色は、手動で指定したり、管理したりすることができます。さらに用途によっては、糸色の再割り当てを省いたり、通常の設定より効率よく色を割り当てることができます。

手動糸色割付の利便性

次のような刺しゅうをするときは、手動糸色割付を使用すると便利です。

■ DST ファイルのような糸色情報がない刺しゅうデータを刺しゅうするとき

糸色情報を持たないデータに使う糸こまを、簡単に選択できます。（DST ファイルの糸色情報の詳細については、P.255「タジマフォーマット（.dst）の刺しゅうデータの色について」を参照してください。）

■ 同じ糸色の組み合わせを常に使うとき

特定の糸色が特定の針棒に割り当てられている場合は、模様が変更されたときでも、針棒への糸色割り当てを維持したまま糸色設定を変更することができます。同じ糸色を常に使用する場合、操作が簡略化されます。

■ 同じ針棒設定で、連続して刺しゅうする場合

通常設定の場合、ミシンの停止後に縫製設定画面が表示された時点で、針棒設定は解除されます。ただし、手動糸色割付で設定した針棒設定は、模様が削除されるか、またはミシンの電源を切るまで、適用されます。
同じ模様を連続して複数回刺しゅうするときは、この機能を使うと便利です。

手動糸色割付モードにする

お願い
●縫製画面では、手動糸色割付モードの ON／OFF を設定できません。

1 設定画面の 5 ページを表示します。

2 手動糸色割付の ON を押して、手動糸色割付モードにします。

● 購入時は「OFF」に設定されています。



3 OK を押し、元の画面に戻ります。

→ 画面に手動糸色割付のアイコンが表示されます。



手動糸色割付を使う

■ 手動ですべての針棒に特定の糸色を割り当てる

ミシンで使用する糸色を特定すると、模様を選ぶたびに針棒への割り当てを変更するだけで縫製を始めることができます。
通常、手動で糸色を割り当てることができる針棒は 9 本までですが、手動糸色割付モードにすると、10 本すべてに割り当てることができます。
(針棒の糸色割り当てについて詳しくは、P.151「手動針棒／縫製速度設定」を参照してください。)

■ 針棒番号設定

各糸色をどの針棒でぬうか、針棒を指定できます。

お知らせ

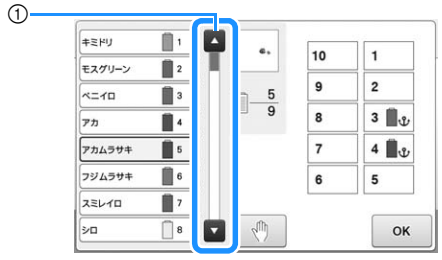
●P.151「手動針棒／縫製速度設定」の手順に従って針棒に糸色を指定しておくと、画面で指定した糸色の模様を確認できます。

1 **縫製設定画面で、[ ]を押します。**

→ 針棒番号を選択する画面が表示されます。

2 **割り当てを変更したい糸色を、糸色順表示から選んで押します。**

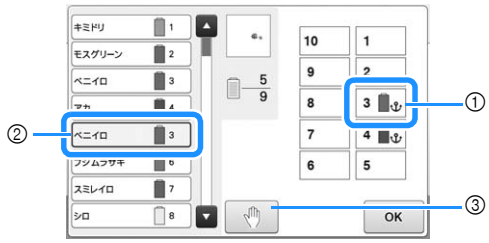
● 変更したい糸色が隠れている場合は、右横のスクロールバーで表示させます。



① スクロールバー

3 **番号ボタン（1 から 10）を押して、割り当てる針棒の番号を選びます。**

→ 手順 2 で選択した色の針棒番号が、指定した針棒番号に変更されます。
手動針棒設定で針棒に糸色が指定されている針棒を選んだ場合は、糸色順表示の糸こまと模様の該当する部分の色がその糸色に変わります。



① 手動針棒設定で糸色が指定されている針棒番号
② 針棒への割り当てを変更する糸色
(例：5 番針棒を 3 番針棒に変更)
③ 選択すると、その色部分をぬう前にミシンが停止します。

■ 糸色設定を初期化する

手動糸色割付では、新しい模様を選択するとミシンの糸色情報は初期化され、針棒に割り当てられます。前回の模様の糸色情報に関係なく、針棒が割り当てられます。

手動糸色割付の注意点

■ 11 色以上の糸色を含む模様を刺しゅうするときは

手動糸色割付では、糸こま交換の停止時期を画面で確認できません。通常の針棒設定のように、ミシンは自動的に停止せず、糸こま交換時の停止メッセージは表示されません。上記の手順 3 で設定するか、P.148「次の糸替え時に停止する」、「縫製前にポーズ位置を指定する」の手順に従って、停止時期を設定してください。

自動止めぬい設定

模様のぬい始めと糸替え後のぬい始め、糸切り前にほつれ止めのための止めぬいを自動でするように設定できます。

購入時は、模様のぬい始めと糸切り後のぬい始め、糸切り前ともに、自動止めぬいをするように設定されています。

■ 模様のぬい始めと糸切り後のぬい始めに止めぬいをする

1 を押して、にします。

（または ）を押して、設定します。



● キーを 1 回押すごとに、切り替わります。

自動止めぬいをする　⇄　自動止めぬい解除

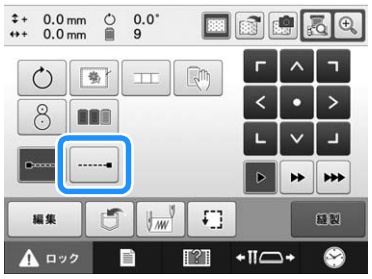
お知らせ

- ぬい始めの長さが 0.8mm より短いと、止めぬいが不要となるため、自動止めぬいはされません。
- 設定画面で渡り糸切りを「OFF」に設定した場合は、自動止めぬいはされません。(P. 233「渡り糸切り／ DST 設定」参照)

■ 糸切り前に止めぬいをする

1 を押して、にします。

（または ）を押して、設定します。



● キーを 1 回押すごとに、切り替わります。

自動止めぬいをする　⇄　自動止めぬい解除

お知らせ

- 自動止めぬい設定は、キーを押して解除するまで解除されません。電源を切っても、設定内容は記憶されています。
- 設定画面で渡り糸切りを「OFF」に設定した場合は、自動止めぬいはされません。(P. 233「渡り糸切り／ DST 設定」参照)

ぬい始め／終わり位置設定

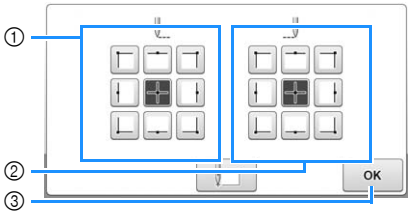
刺しゅう模様のぬい始めとぬい終わりの針位置を、模様の左上、左中央、左下、上中央、中心、下中央、右上、右中央、右下の 9 点のいずれかにそれぞれ設定できます。
この機能を使うと斜めの繰り返しぬいができます。

縫製設定画面で設定します。
購入時は、ぬい始め／終わりとも中心に設定されています。

1  **を押します。**



→ ぬい始め／終わり位置設定画面が表示されます。



① ぬい始め位置を指定します。
② ぬい終わり位置を指定します。
反転されたキーは現在選択されている設定です。

例



③ 押すと、この画面を閉じます。

■ ぬい始め位置を指定する

2 **希望のぬい始め位置のキーを押します。**

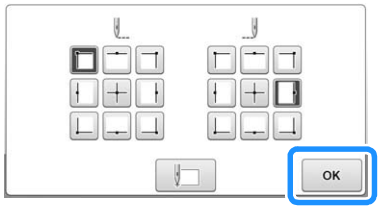
→ ぬい始め位置を指定すると、自動的にぬい終わり位置も同じ位置に指定されます。

→ 刺しゅう枠がぬい始め位置に移動します。

■ ぬい終わり位置を指定する

3 **希望のぬい終わり位置のキーを押します。**

4 **指定し終わったら、** OK **を押します。**



→ 縫製設定画面に戻ります。

お知らせ

●ぬい始め／終わり位置設定は、キーを押して変更するまで設定は変わりません。電源を切っても、設定内容は記憶されています。

斜めに繰り返しぬいをする

例



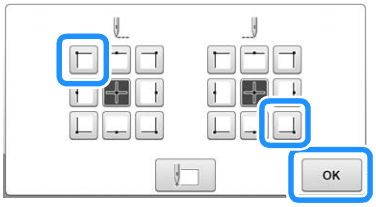
1 ぬい始め位置を左上、ぬい終わり位置を右下に指定します。

縫製設定画面で を押して、ぬい始め／終わり位置設定画面を表示します。



ぬい始めの を押して、 にします。

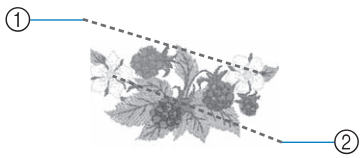
ぬい終わりの を押して、 にします。



OK を押して、ぬい始め／終わり位置設定画面を閉じます。

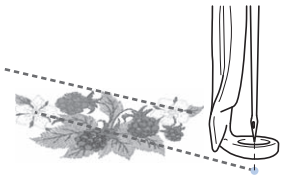
2 1つ目の刺しゅうをぬいます。

縫製 を押して縫製画面に進み、 ロック (ロック解除キー)、スタート／ストップスイッチを押します。



① ぬい始め位置
② ぬい終わり位置

3 ぬい終わると、ミシンは模様の右下の角で止まります。



4 OK を押して、手順 2 と手順 3 を 3 回繰り返します。

お願い

●繰り返し模様の続きの模様が縫製範囲の外に出ると、次の画面が表示されます。
刺しゅう枠に布をはめ直して、縫製を続けます。OK を押して、手順 2、3 を繰り返してください。



お知らせ

●一定方向だけでなく、途中でぬい始め／終わり位置の設定を変えると、バリエーションが広がります。



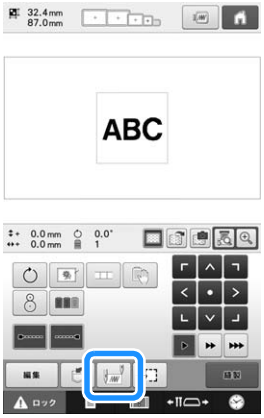
文字をつなげて刺しゅうする

刺しゅう枠からはみ出して、文字模様をつなげて刺しゅうするには、以下の手順のようにします。
例：「DEF」を「ABC」につなげる場合

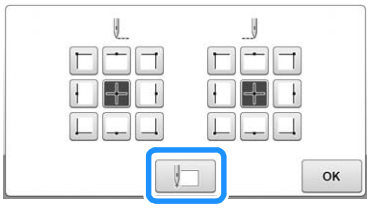
A B C D E F

1 「ABC」の文字模様を選びます。

2 縫製設定画面で、[ ]を押します。



3 [ ]を押します。



→ 針棒の位置は模様の左下隅となります。針が正しい位置にくるように、刺しゅう枠が移動します。

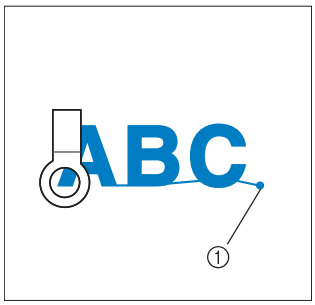
お願い
- 開始位置設定をキャンセルし、模様の中心を開始位置に戻すには、[ ]を押してください。
- [ ]を使用すると別の刺しゅう開始位置を選べます。

4 [OK]を押すと縫製設定画面に戻ります。そこで[ ]を押すと縫製画面が継続されます。

→ 開始位置が模様の左下隅に設定されているときは、[ ]が[ ]に変わります。

5 [ロック]を押し、スタート／ストップスイッチを押して刺しゅうを始めます。

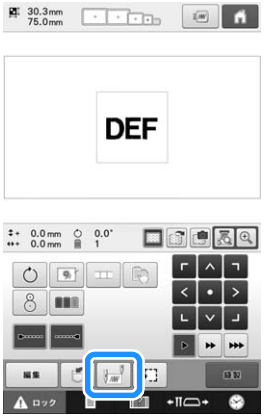
6 文字の刺しゅうが終わった後、刺しゅう枠を取り外した後、残りの文字（「DEF」）を刺しゅうするために刺しゅう枠を再度取り付けます。



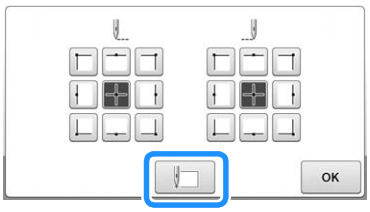
① 刺しゅうの終わり

7 手順 1 と同様に、「DEF」の文字模様を選びます。

8 縫製設定画面で、[ ]を押します。



9 [ ]を押します。

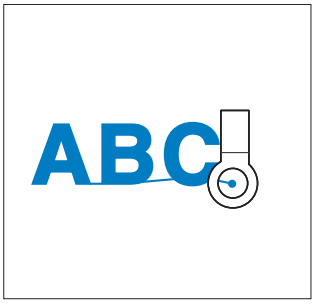


→ 針棒の位置は模様の左下隅となります。針が正しい位置になるように、刺しゅう枠が移動します。

10 [OK]を押します。

11 を使い、前の模様の刺しゅう終わり位置に針を合わせます。

- を押すと、画面で針落ち位置を確認できます。
- を押すと、カメラ画像が拡大表示に切り替わります。



お願い

●前の刺しゅうの終わり位置に直接針を落として位置を確認することもできます。P.106「位置を合わせるコツ」の説明に従って操作してください。

12 を押します。

13 ロック を押し、スタート／ストップスイッチを押して残りの文字模様の刺しゅうを始めます。



縫製最高速度設定

縫製最高速度を、1 分間に 400 ～ 1000 回転の間の 100 回転ごと 7 段階から設定できます。帽子枠、シリンダー枠、クランプ枠を使用時は 400 ～ 600 回転の間の 50 回転ごと 5 段階から設定できます。

縫製最高速度表

刺しゅう枠／平枠／丸枠／その他の刺しゅう枠		帽子枠／シリンダー枠／クランプ枠	
1	1000	1	600
2	900	2	550
3	800	3	500
4	700	4	450
5	600	5	400
6	500	–	–
7	400	–	–

縫製画面で設定します。
購入時は、1000 回転に設定されています（帽子枠、シリンダー枠、クランプ枠は 600 回転）。

枠の種類については、P.97「刺しゅう枠／台枠の種類と用途」を参照してください。

1 速くしたいときは＋、遅くしたいときは－を押します。



→ －＋の左側にある数字が変わります。

お知らせ

- 縫製最高速度は、手動針棒設定で特定の針棒に設定できます（P. 151 参照）。特定の針棒に遅い縫製速度を設定しているとき、この機能を使用して残りの針棒の縫製速度を設定することはできません。この場合、この機能では手動針棒設定で特定された針棒の縫製速度を設定することができます。
- 薄い布地や厚い布地、重い布地は遅い速度に設定してください。また速度を遅くするほど、縫製音は静かになります。
- 縫製の途中でも、ミシンを停止させずに設定を変更することができます。
- 縫製最高速度設定は、設定を変更するまで変わりません。電源を切っても、設定内容は記憶されています。
- メタリック糸のように弱い糸をお使いの場合は、縫製速度を 400 回転に設定してください。

糸替え時停止設定

ミシンはいつでも止めることができますが、縫製の途中で止めると次のぬい始めは、ぬい目を少し戻さなくてはなりません。糸替え時に止めるとぬい目の調整をしなくてすみます。

次の糸替え時に停止する

次の色をぬう前でミシンを停止することができます。

1 **ミシンを停止したい糸替え時の前の色部分をぬっているときに を押して、 にします。**



2 **現在ぬっている色の部分をぬい終えると、次の針棒に移動し、ぬい始める前にミシンが止まります。**

→ は に戻ります。

- ここで一旦電源を切って続きをぬう場合は、次に電源を入れたときにミシンが続きをぬうか、新しく模様を選ぶかを選択できます。

  OK を選ぶと、続きからぬうことができます。

  (P. 129「停止後、途中からぬうときは」参照)

縫製前にポーズ位置を指定する

を押して表示されるポーズ指定画面で設定できます。

1 **縫製設定画面で を押します。**

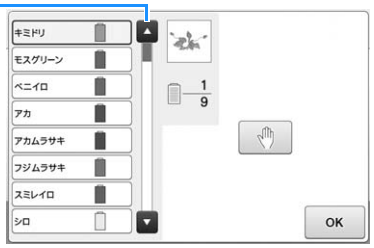


→ 糸色編集画面が表示されます。

2 **ぬう前に停止させたい糸色を、ぬい順表示から選んで押します。**

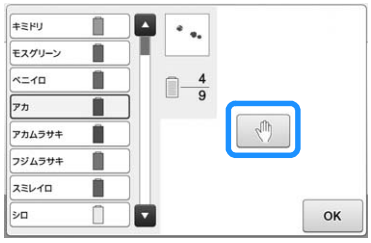
- 変更したい糸色が隠れている場合は、右横のスクロールバーで表示させます。

①

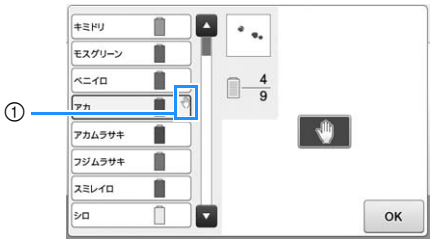


① スクロールバー

3 を押す。



→ マークが表示され、ここで停止することを示します。



① マーク

- 設定をを解除するときは、もう一度 を押します。

4 停止したい回数分、手順 2 ～ 3 を繰り返して設定します。

- 停止設定は何回でもできます。

5 設定し終わったら、 OK を押します。

- 縫製後、設定したところで停止したとき、一旦電源を切って続きをぬう場合は、次に電源を入れたときにミシンが続きをぬうか、新しく模様を選ぶかを選択できます。

  OK を選ぶと、続きからぬうことができます。

  (P. 129「停止後、途中からぬうときは」参照)

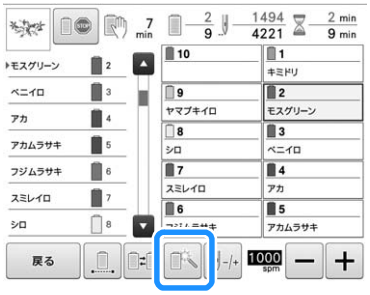
お知らせ

- 一旦電源を切っても、電源を切る前に設定した糸替え時停止設定は解除されません。新しく同じ模様を選んだ場合は、解除されます。
- 糸替え時停止設定をした模様を記憶すると、糸替え時停止設定も記憶されます。

一時的針棒設定

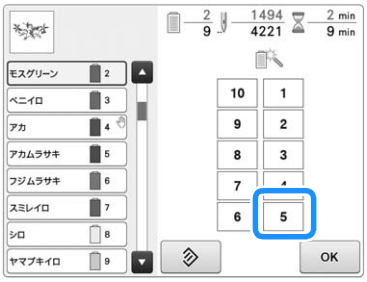
縫製開始後、糸替え時で停止して、次でぬう色部分を現在糸がかけられている別の針棒に変えてぬうことができます。
糸残量が少なくなった場合など現在かけられている上糸を代用し、糸こま交換を省きたいときにこの機能を使うと便利です。

1  **を押します。**



→ 一時的針棒設定画面が表示されます。

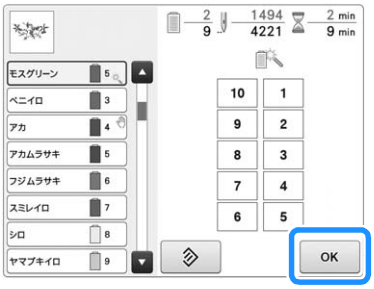
2 縫製したい糸がかかっている針棒の番号キーを押します。



→ 針棒番号が変わって、選択された針棒にが表示されます。

→ 設定を解除するときは、  を押します。

3 **を押します。**



→ 縫製画面に戻ります。

お知らせ

- 色部分の途中からの糸色（針棒）変更はできません。

連続した刺しゅう（1色の場合）

選んだ模様を複数の色ではなく1色でぬうこともできます。色替え時にはミシンの動きが遅くなりますが、そのまま止まらず、模様が仕上がるまで刺しゅうが続きます。

1 連続した刺しゅうに使いたい糸の通った針棒のキーを押します。



2  **を押します。**

- 刺しゅう中の糸替えが行われず、選んだ模様が1色で刺しゅうされます。



→ 糸色順表示と模様が、選択している針棒の糸色1色で表示されます。

- もう一度  を押すと模様の元々の設定に戻ります。

お知らせ

- 連続刺しゅうを設定した場合でも、DST糸切り機能を使用することができます (P. 233 参照)。
- 刺しゅうが終わると、連続刺しゅうがキャンセルされます。

手動針棒／縫製速度設定

通常、糸色の割り当てはミシンが自動的に行いますが、特定の針棒に任意の糸色を自分で設定することができます。設定を行うと、その針棒はミシンの自動割り当ての対象から外れ、常に設定した糸色が割り当てられます。
よく使う糸色を設定しておくと、糸こま交換の手間を省くことができ便利です。
また、縫製最高速度を特定の針棒に設定できます。メタリック糸のような弱い糸を特定の針棒にセットするときに便利です。

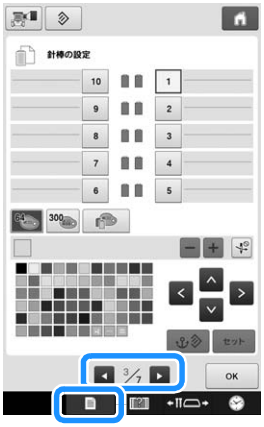
お願い

- この機能は、縫製画面では設定できません。
- 通常モードでは、糸色割り当てと縫製速度の設定ができる針棒は 9 本です。設定画面で手動糸色割付を「ON」に設定すると、10 本すべての針棒に設定できます。手動糸色割付モードで 10 本の針棒に設定してから、通常モードにしたときは、10 番針棒の設定は自動的に解除されます。

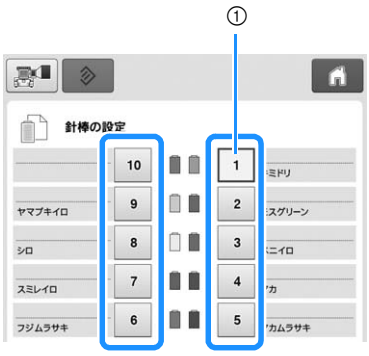
P. 140「各針棒の糸色を選択する／管理する（手動糸色割付）」参照

1 度糸色割り当てと縫製速度を設定すると、解除するまで有効です。
設定画面の 3 ページで設定します。

1 **を押し、◀または▶を押して、設定画面の 3 ページを表示します。**



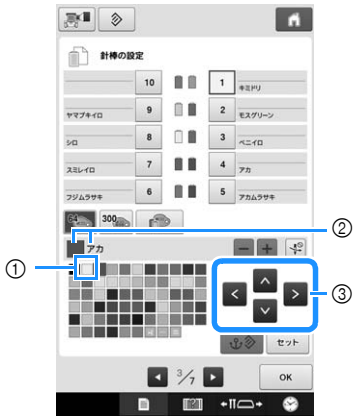
2 **1 から 10 の設定したい針棒の番号キーを押します。**



① 選択した針棒番号が青色に変わります。

3 **割り当てる色を選びます。**

▲ ◀ ▶ ▼を押すか、希望の色を直接押して、設定したい色を選びます。



① 大きく表示されている□が選ばれている色です。
② 選択した糸の色と、糸色名が表示されます。
③ キーを押すと、矢印の方向に選ばれている□が動きます。

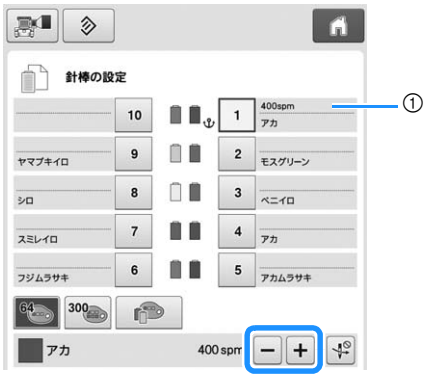
4 セット を押します。



→ 手順 3 で選んだ糸色が設定されます。

① 糸こまに糸色・⚓マークが表示されます。

5 − + を押して、色を割り当てた針棒の縫製最高速度を設定します。

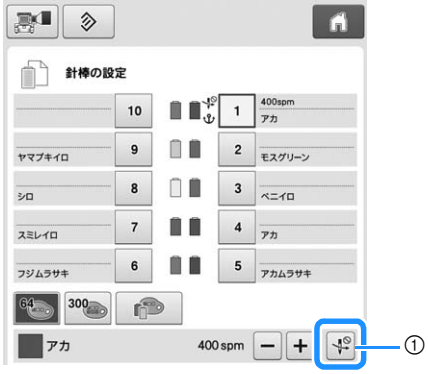


① 縫製最高速度の設定値

お知らせ

- メタリック糸のように弱い糸を針棒にセットした場合は、縫製速度を 400 回転に設定してください。
- 縫製画面で縫製最高速度を速く設定した場合（P. 147 参照）でも、常にここで設定した速度が、設定した針棒に有効になります。

6 必要な場合は、 を押して、糸通し禁止を設定します。



① 糸通し禁止キー

7 OK を押します。

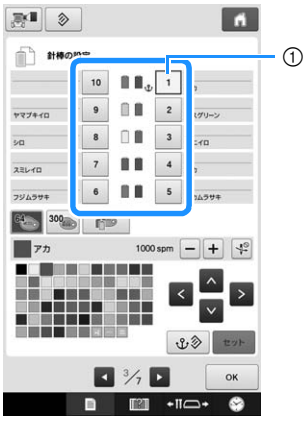
- 縫製画面では、設定された針棒には、⚓と縫製最高速度が表示されます。



■設定を解除したいときは

設定し直したいときは、一旦解除してから設定し直してください。

1 1 から 10 の解除したい針棒の番号キーを押します。



① 選択した針棒番号が青色に変わります。

2 を押します。



① が消えます。

→ これで針棒設定が解除されました。

3 糸通し禁止設定を解除する場合は、をもう一度押します。



① 糸通し禁止キー

お知らせ

●設定を解除した針棒に他の糸色を割り当てる場合は、P. 151 の手順 3 からの手順に従って設定します。

第 5 章

模様の選択／編集／記憶

刺しゅう模様の選び方、編集のしかた、記憶のしかたについて説明します。

刺しゅう模様の記憶 156
刺しゅうデータに関する注意 156
USB メディア（市販品）について 157
刺しゅう模様を選ぶ 158
基本的な模様の選び方 158
刺しゅう模様 159
枠模様 160
モノグラムと枠デザイン 161
文字模様 163
装飾アルファベット 167
刺しゅう模様をミシンに記憶する 168
刺しゅう模様を USB メディア／ SD カードに記憶する 169
刺しゅう模様をパソコンに記憶する 170
USB コードクランプを使用して USB 接続する 171
ミシンに記憶した刺しゅう模様を呼び出す 173
USB メディア／ SD カードから刺しゅう模様を呼び出す 173
パソコンから刺しゅう模様を呼び出す 174
呼び出した模様を他の記憶先に記憶する 176
LINK 機能～パソコンからミシンへ刺しゅうデータを転送する～ 178
Link 機能を使ってできる操作 178
Link 機能を使って刺しゅうする 179
Link 機能を解除する 181
刺しゅう模様を個別に編集する（編集画面） 182
画面の模様を拡大表示する 182
模様を組み合わせる 182
編集する模様を選ぶ 183
複数選択した模様をグループ化する 184
位置を移動する 184
左右反転する 185
大きさを変える（通常モード） 185
糸密度を保持したまま大きさを変える（針数再計算モード） 186
回転する 188
文字の配列を変更する 188
文字間隔を変更する 189
組み合わせた文字模様を分割する 189
文字間で糸を切る 190
文字模様を結合する 190
一文字ずつ色を変える 191
文字フォントを変更する 191
個別に文字のサイズとフォントを変える 191
糸密度を変える（文字・枠模様の一部のみ） 192
模様の色を変える 192
カラーシャッフル機能を使って、新しい配色を設定する 194
糸色並べ替え 196
繰り返し模様（ボーダー模様）を作る 197
ユーザーパレットを作る 201
ユーザーパレットから色を選ぶ 203
ユーザーパレットを保存する／呼び出す 203
模様を複製する 205
模様を削除する 205
刺しゅう模様全体を編集する（縫製設定画面） 206
すべて回転する 206
組み合わせの編集 207
カメラを使って模様をつなぐ 211
3 つの模様をつなげる 211
位置合わせシールの位置を変更する 217
回転した模様をつなぐ 219
辺にそって模様をつなぐ 221
レジューム機能 223

刺しゅう模様の記憶

刺しゅうデータに関する注意

このミシンで作成・記憶したデータ以外の刺しゅうデータを扱うときは、次の点に注意してください。

⚠ 注意

- **当社正規の模様以外の刺しゅうデータを使用する際は、糸密度が細かすぎる場合や3回以上の重ねぬいをする場合があり、糸切れや針折れが発生するおそれがあります。そのような場合は、当社正規のデータ作成装置（刺しゅうPROなど）で、刺しゅうデータを修正してご使用ください。**

■ 使用可能な刺しゅうデータの種類

- このミシンで扱える刺しゅうデータは、.pen、.pes、.phc、.dst ファイルのみです。当社正規のデータ作成装置およびミシンで記憶された模様以外のデータを扱うと、ミシンが誤作動するおそれがあります。

■ 使用可能な USB メディアの種類

模様データを USB メディアへ記憶したり、USB メディアへ記憶した模様データを呼び出したりすることができます。使用できる USB メディアの種類は次のとおりです。

- USB フラッシュドライブ（USB フラッシュメモリー）
- USB フロッピーディスクドライブ

呼び出しのみが可能な刺しゅうデータ

- USB CD-ROM、CD-R、CD-RW ドライブ

また、市販の USB メモリーカードリーダー／ライターで、次の USB メディアを使用することもできます。

- SD カード
- コンパクトフラッシュ
- メモリースティック
- スマートメディア
- マルチメディアカード（MMC）
- xD ピクチャーカード

お願い

- 処理速度は、保存されているデータ容量によって異なることがあります。
- USB メディアの種類によっては、このミシンで使用できないことがあります。使用可能な USB メディアについての詳細は、ブラザーソリューションセンター（http://support.brother.co.jp）でご確認ください。
- USB メディアを差し込むと、アクセスランプが点滅します。認識するまでに 5 ～ 6 秒かかります。（USB メディアの種類によって、認識するまでの時間は異なります。）

お知らせ

- フォルダーを作成する場合は、パソコンを使用してください。
- フォルダー名、および模様データのファイル名には、英数字、またはダッシュ（-）、アンダーバー（_）を使用することができます。

■ ミシンとパソコンの接続

接続するパソコンが、以下の動作環境を満たしていることを確認してください。

- 対応機種：
  USB ポート標準装備の IBM-PC またはその互換機
- 対応 OS：
  Microsoft Windows 7、Windows 8.1、Windows 10

■ パソコンでデータを作成・保存するときの注意

- フォルダー名、および模様データのファイル名には、特殊記号やコンマ（,）、ピリオド（.）を使用しないでください。フォルダー、または模様データを正しく識別できないおそれがあります。フォルダー名およびファイル名には、英数字、またはダッシュ（-）、アンダーバー（ _ ）のみを使用してください。
- ヨコ 360mm× タテ 200mm より大きな刺しゅうデータは扱うことができません。（デザインはすべて、デザイン領域ヨコ 360mm× タテ 200mm 内にしてください。）
- 針数、色数の制限を超えて記憶した .pes ファイルは模様が表示されません。当社正規のデータ作成装置で、制限内（針数 50 万針、色替え 127 回まで）の模様に修正してご使用ください。
- USB メディア内に作成されたフォルダーに格納された模様データは、本機で読み込むことができます。
- リムーバブルディスクにはフォルダーを作成しないでください。フォルダーを作成し、フォルダー内に刺しゅうデータを記憶した場合、ミシンで模様データを表示することはできません。

■ タジマフォーマット（.dst）の刺しゅうデータについて

- .dst データのファイル名に全角文字を使用すると、ミシンが模様データを正しく認識できないおそれがあります。
- タジマフォーマット（.dst）には、模様の色情報がありませんので、どの模様を選択しても当社指定の糸色順で表示されます。画面上で、でき上がりを確認しながら、糸色変更でお好みの色に変更してください。

USB メディア（市販品）について

- 分解したり改造しないでください。
- 無理に曲げる、落とす、傷つける、上に重いものを載せることはしないでください。
- 水・溶剤類・飲み物など、液体でぬらさないでください。
- 強い静電気、電気的ノイズの発生しない環境で使用、保管してください。
- 振動や衝撃が加わる場所、直射日光の当たる場所、糸くず等のほこりっぽい場所、高温多湿の場所、温度差の激しい場所、スピーカー等の強い磁気の近くで使用、保管しないでください。
- 刺しゅうデータの呼び出し中は、振動や衝撃を与えたり、ミシンから取り出さないでください。
- USB メディア内のデータは、誤操作や事故などで消失・破損することがあります。重要なデータは、バックアップをお勧めします。
- USB メディアの種類によっては、このミシンで使用できないことがあります。使用可能な USB メディアについての詳細は、ブラザーソリューションセンター（ http://support.brother.co.jp ）でご確認ください。
- USB メディアは、必ず USB メディアのアクセスランプが点滅していない状態で抜いてください。
- USB メディアは、差し込んだ後 5 秒以上経過してから抜いてください。
- USB メディアについては、お買い求めの USB メディアに付属の取扱説明書もよく読んで取り扱ってください。

刺しゅう模様を選ぶ

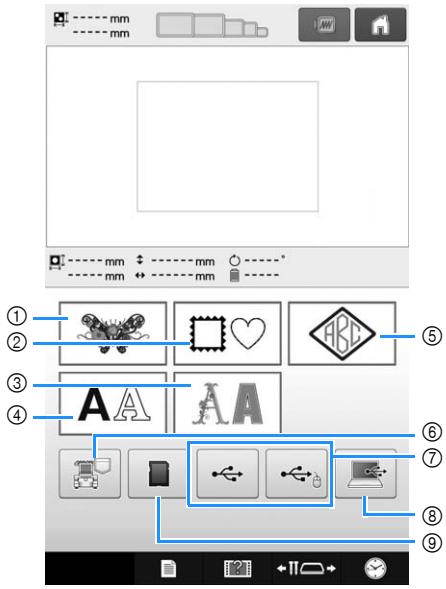
このミシンには、刺しゅう模様が内蔵されています。それらの模様のほか、刺しゅうカード（別売）やUSB メディア（市販品）、SD カード（市販品）、パソコンから模様を呼び出すことができます。

基本的な模様の選び方

模様の種類によって多少違いがありますが、基本的には次の手順で選びます。

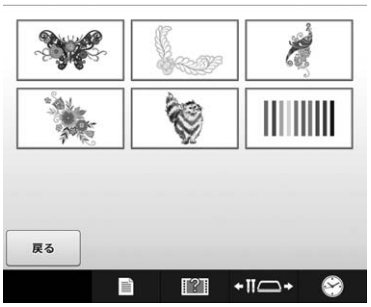
1 **模様選択画面で希望するカテゴリーキーを押します。**

■ 模様選択画面



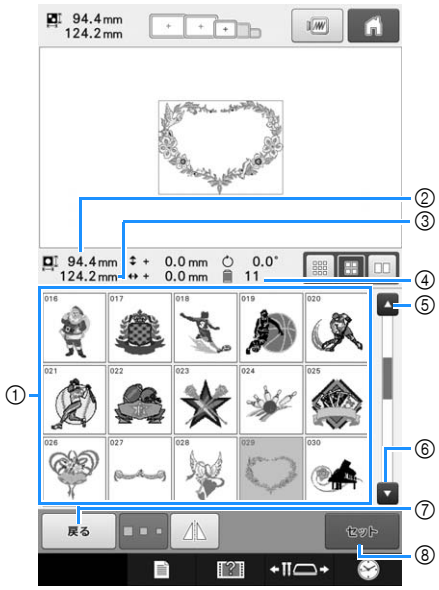
① 刺しゅう模様
② 枠模様
③ 装飾アルファベット
④ 文字模様
⑤ モノグラムと枠デザイン
⑥ ミシンに記憶した刺しゅう模様
⑦ USB メディアに記憶した刺しゅう模様
⑧ パソコン（USB）に記憶した刺しゅう模様
⑨ SD カードに記憶した刺しゅう模様

2 **次に表示される模様カテゴリー一覧で模様のカテゴリを選びます。**



3 **次に表示される模様一覧画面で模様キーを押して、模様を選びます。**

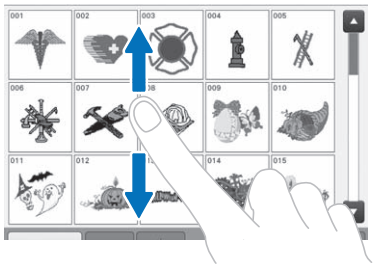
■ 模様一覧画面



① 模様キー
模様キーを押すと、その模様の情報が表示されます。
② 模様の縦の長さ
③ 模様の横の長さ
④ 色替え回数
⑤ 、⑥ 複数のページがあるとき、▲ ▼を押して目的のページを表示します。
⑦ カテゴリーを選び直したいときは、戻るを押します。模様選択画面に戻ります。
⑧ 押すと、選択が確定され、編集画面に進みます。

お知らせ

●模様一覧に複数のページがあるとき、模様キーエリアをスクロールして次のページを表示させることができます。

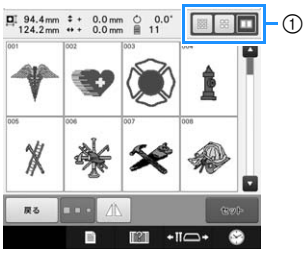


■ 模様キーの大きさを変える

模様キーの大きさを「小」「標準」「大」から選択できます。
購入時は、「標準」に設定されています。



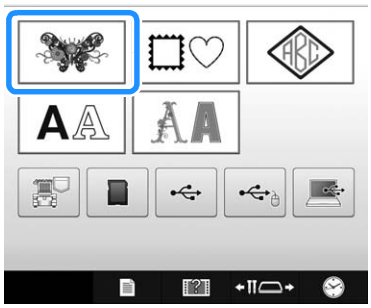
① 模様キーサイズ「小」



① 模様キーサイズ「大」

刺しゅう模様

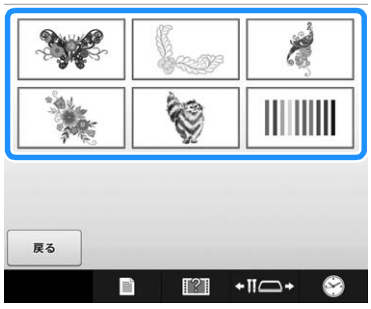
1 を押します。



→ 刺しゅう模様の模様カテゴリー一覧が表示されます。

2 **模様カテゴリーを選びます**

選びたい模様のカテゴリーキーを押します。



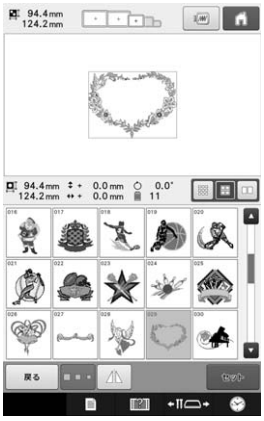
→ 刺しゅう模様一覧が表示されます。

3 模様を選びます。

選びたい模様キーを押します。



→ 模様表示エリアに模様が表示されます。



- まちがえて模様を選んだときや模様を選び直したいときは、選びたい模様キーを押し直します。

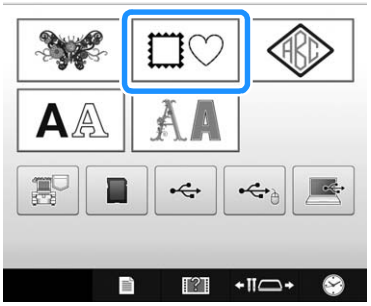
4 セット を押します。

これで模様の選択が確定されます。

→ 編集画面が表示されます。

枠模様

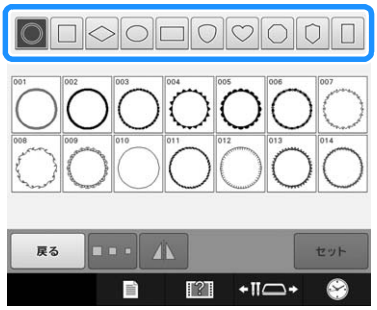
1 □♡ を押します。



→ 枠模様一覧が表示されます。

2 上段で枠の形を選びます。

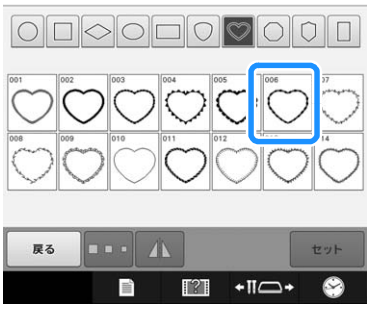
選びたい枠キーを押します。



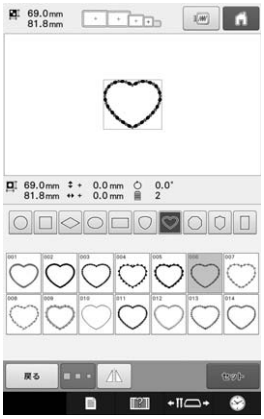
→ 下段に枠の模様が表示されます。

3 下段で枠模様を選びます。

選びたい模様キーを押します。



→ 模様表示エリアに模様が示されます。



- まちがえて模様を選んだときや模様を選び直したいときは、選びたい模様キーを押し直します。

4 セット を押します。

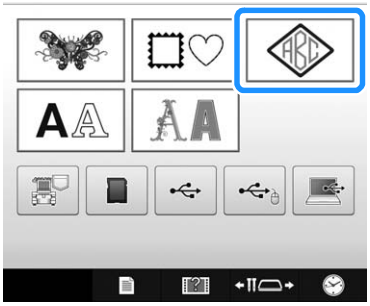
これで模様の選択が確定されます。

→ 編集画面が表示されます。

モノグラムと枠デザイン

2 つまたは 3 つの文字、またはフレーム模様を組み合わせてモノグラムを作ることができます。

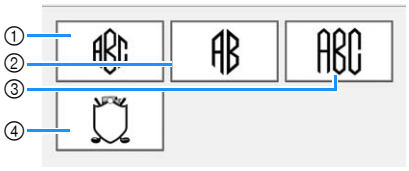
1 を押します。

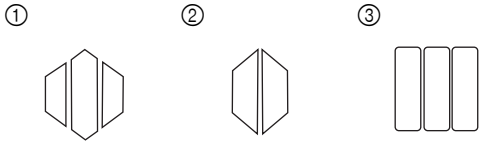


→ デザイン選択画面が表示されます。

2 モノグラムデザインを選びます。

希望の文字スタイルのボタンを押します。





→ テキスト入力画面が表示されます。

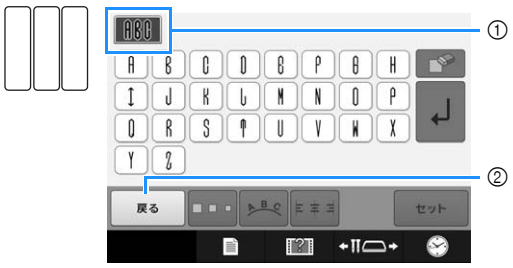
- ④ を選んだ場合は、枠模様一覧が表示されます。枠内で文字を組み合わせて模様を作る場合は、文字か枠か、どちらを先に選んでも構いません。モノグラムのパーツを選んだ順が、ぬい順となります。この例では、まず文字を選んでいきます。

3 文字を選びます。

1 つの文字に対し、まず対応する字形タブを押した上で、文字を入力します。配置したい文字数分、字形タブ選択、文字入力を繰り返します。





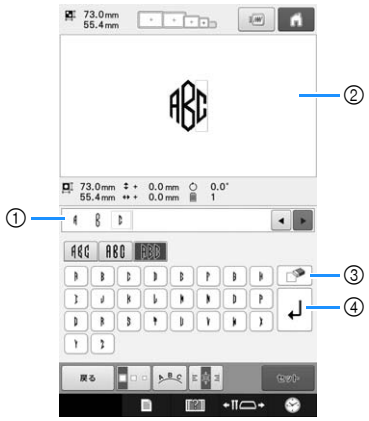


* 文字の形がすべて同じであるため、字形タブを都度選ぶ必要（選択肢）はありません。

① 字形タブ

② 文字のフォントを変更するには、戻る を押してデザイン選択画面に戻ってください。

→ 選んだ文字が、テキストプレビューエリアと模様表示エリアに表示されます。



① テキストプレビューエリア

② 模様表示エリア

③ 誤った文字を選んだ場合や、他の文字を選んだ場合は、 を押して文字を削除し、文字を押し直してください。

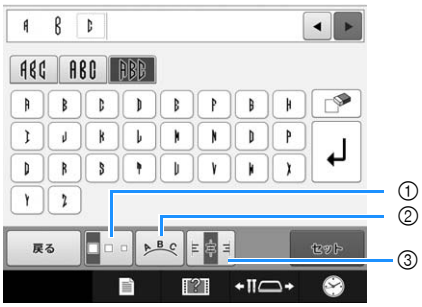
④ 改行キー

お知らせ

- デザインによっては、文字数があらかじめ設定されていますが、設定された文字数を超えても文字を入力することができます。選んだ文字が多すぎる場合は、 を押して文字を削除します。
- モノグラム作成ではない他の文字模様の場合と同様に、お好みで複数の文字を選んで使用することができます。

4 **必要に応じて文字の編集をしてください。**

- 文字の編集について詳しくは、P.163「文字模様」を参照してください。



① 文字の大きさを変更します。
② 文字の配列を調整します。
③ 文字揃えを変更します。

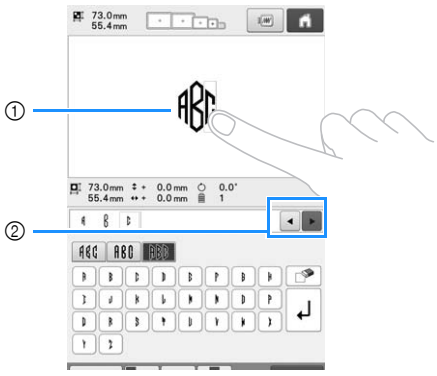
■ 文字の大きさを変更する

最初の文字を選んだ後、その文字が希望の大きさになるまで を押します。

- 次に選ぶ文字も、ここで新たに設定した大きさになります。
- 文字を組み合わせた後では、入力したすべての文字の大きさを変えることができなくなります。（模様全体の大きさは、編集画面で変更することができます。）

■ 文字を選択する

テキストプレビューエリアと模様表示エリアの両方で、文字を選択することができます。



① 直接文字を選択します。
② ◀ ▶ を押してカーソルを移動し、文字を選択します。

5 **セット を押します。**

これにより、文字選択が確定します。

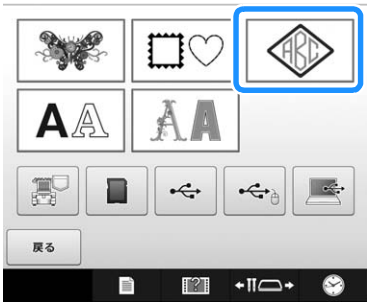
→ 編集画面が表示されます。
次に、文字を枠と組み合わせます。

6 **追加 を押します。**



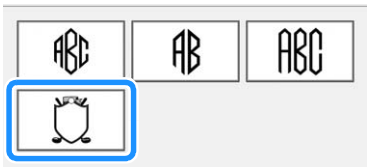
→ 模様一覧選択画面が表示されます。

7 **を押します。**



→ デザイン選択画面が表示されます。

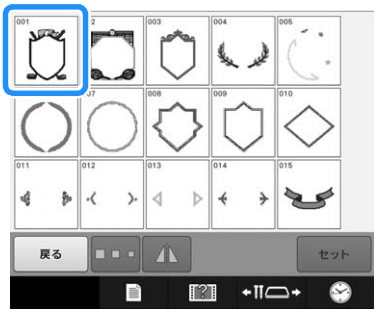
8 **を押します。**



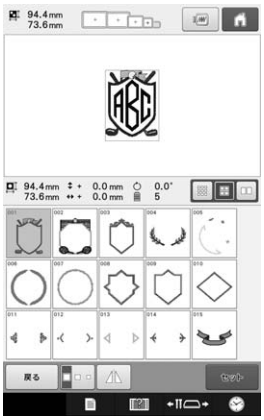
→ 枠模様一覧が表示されます。

9 **模様を選びます。**

希望の模様を押します。



→ 選んだ枠模様が模様表示エリアに表示されます。

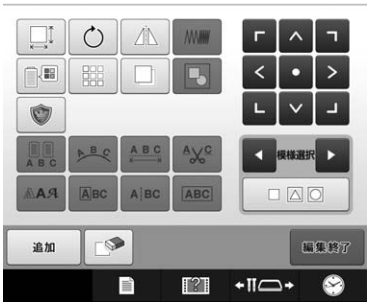


● 誤った模様を選んだ場合や、他の模様を選んだ場合は、希望の枠模様を押し直してください。

10 **セット を押します。**

これにより、枠選択が確定します。

→ 編集画面が表示されます。



お知らせ

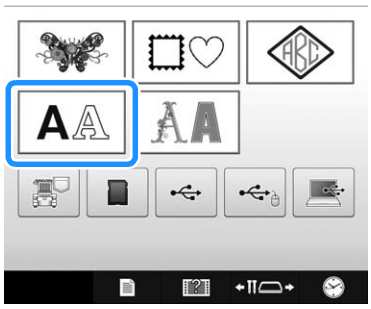
- 大きさや形によって、▯▯では使用できない枠模様があります。
- この枠模様は、使用できる模様のごく一部です。3 文字モノグラム模様以外の文字模様を組み合わせて使用することもできます。

文字模様

37 書体が内蔵されています。

例) Lucky Color

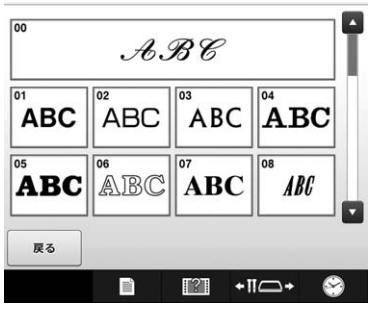
1 **AA を押します。**



→ 書体選択画面が表示されます。

2 **書体を選びます。**

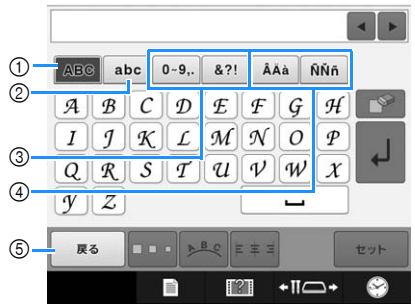
選びたい書体キーを押します。



● 次のページを見るときは▲または▼を押します。

→ 文字入力画面が表示されます。

3 選びたい文字種が表示されていないときは、選びたい文字種のタブを押します。



① 大文字
② 小文字
③ 数字・記号
④ 欧州特殊文字
⑤ 書体を選び直すときに押します。
→ タブキーに示されている文字種の文字入力画面が表示されます。

- 書体を選び直したいときは、戻るを押します。書体選択画面に戻ります。

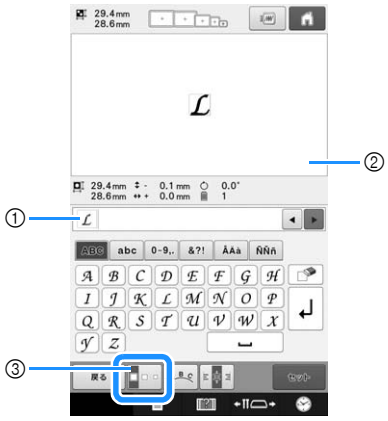
4 文字を選びます。

選びたい文字キーを押します。



→ 選んだ文字が、テキストプレビューエリアと模様表示エリアに表示されます。

5 1文字目を選んでから を押し、希望の大きさにします。



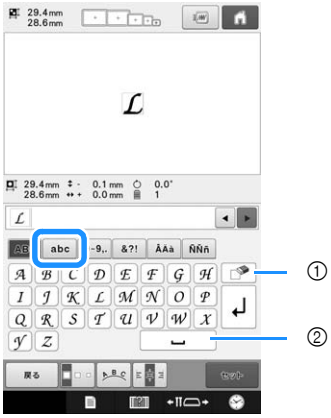
① テキストプレビューエリア
② 模様表示エリア
③ 押すと、大きさを変更できます。

- 大きさを変えると、次に選ぶ文字は同じ大きさになります。
- 文字を組み合わせた後で、まとめて大きさを変えることはできません。（編集画面で大きさを変更することはできます。）

お願い

- および のミニサイズ文字は、大きさを変更することができません。ミニサイズ文字は、書体選択画面の 4 ページにあります。

6 abc を押して、「ucky」と順に押します。



① まちがえて文字を入力したときや文字を入力し直したいときは、[⌫]を押して文字を取り消してから入力し直します。[⌫]を押すと、文字列の最後の文字から 1 文字ずつ取り消されます。

② スペースを入れるには、[␣]を押します。

7 ↵ を押して改行します。



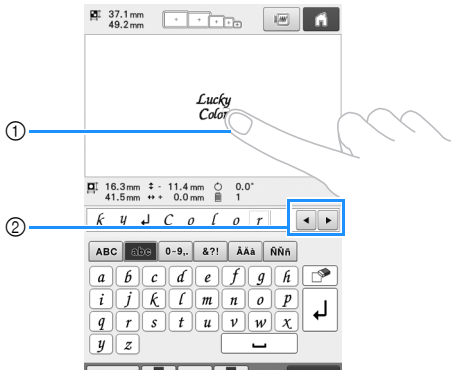
8 ABC を押して、「C」を押します。



9 abc を押して、「olor」と順に押します。



10 入力後でも、文字を選択すると、文字サイズの変更などの編集ができます。



① 直接文字を選択します。

② [◀] [▶]を押してカーソルを移動し、文字を選択します。

11 すべての文字を入力し終わったら、セット を押します。

これで模様の選択が確定します。

→ 編集画面が表示されます。

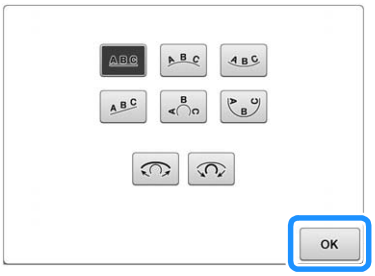
お知らせ

●文字の色は黒に設定されています。色を変えたいときは、P.191「一文字ずつ色を変える」、P.192「模様の色を変える」をしてください。

■ 配列を変更する

を押すと、次の画面が表示されます。希望の配列のキーを押します。

配列が決まったら、OK を押します。文字入力画面に戻ります。



	直線に配列します。
	ゆるい曲線の外側に配列します。
	ゆるい曲線の内側に配列します。
	斜線に配列します。
	急な曲線の外側に配列します。
	急な曲線の内側に配列します。
	曲線の配列を選んだ場合、押すごとに曲線の度合いを弱く（ゆるく）できます。
	曲線の配列を選んだ場合、押すごとに曲線の度合いを強く（急に）できます。

- この画面で配列を変更すると、より多くの文字を入力することができます。

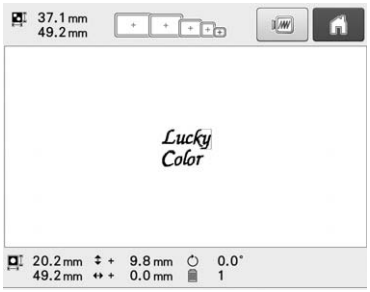
お知らせ

●文字の途中で改行している場合、配列の変更は選択している文字を含む行のみに適応されます。

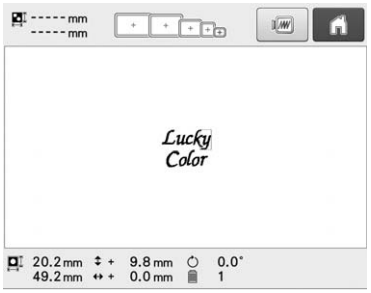
■ 文字揃えを変更する

を押すと、文字揃えを変更できます。希望の文字揃えになるまで、を押してください。

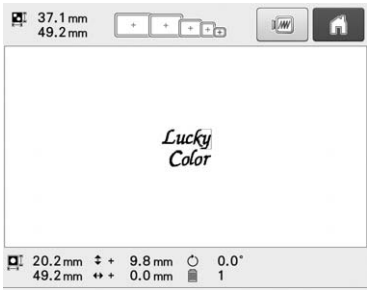
が表示されている場合は、文字は左揃えで並んでいます。



が表示されている場合は、文字は中央揃えで並んでいます。



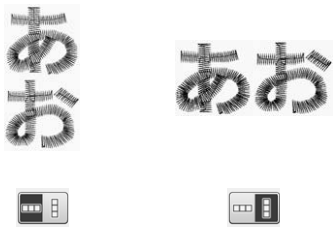
が表示されている場合は、文字は右揃えで並んでいます。



■ 横書き／縦書きを切り替える

日本語フォントを選んだとき、を押すと、日本語の文字（ひらがな／カタカナ／漢字）の横書き／縦書きが切り替わります。





装飾アルファベット

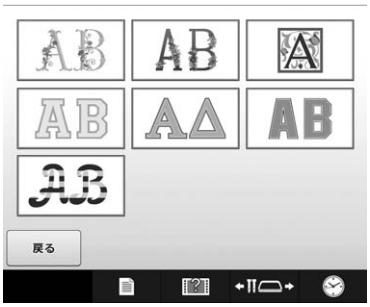
1 AA を押します。



→ 装飾アルファベットカテゴリー一覧が表示されます。

2 **装飾アルファベットカテゴリーを選びます。**

選びたい模様カテゴリーのキーを押します。



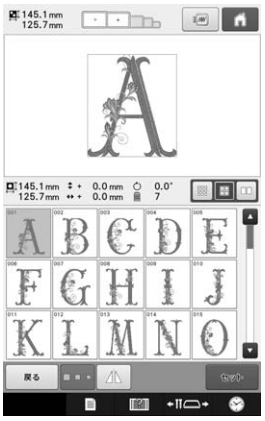
→ 一覧が表示されます。

3 **模様を選びます。**

選びたい模様キーを押します。

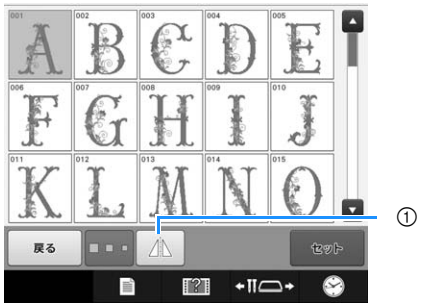


→ 模様表示エリアに模様が表示されます。



- まちがえて模様を選んだときや模様を選び直したいときは、選びたい模様キーを押し直します。

4 **必要に応じて、模様を編集します。**



① 押すと、模様を反転できます。

5 セット を押します。

これで模様の選択が確定されます。

→ 編集画面が表示されます。

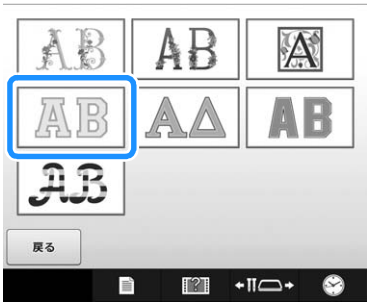
■ アップリケアルファベット

1 AA を押します。



→ 装飾アルファベットカテゴリー一覧が表示されます。

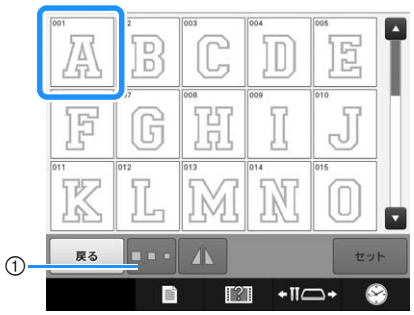
2 AB を押します。



→ アップリケ模様の一覧が表示されます。

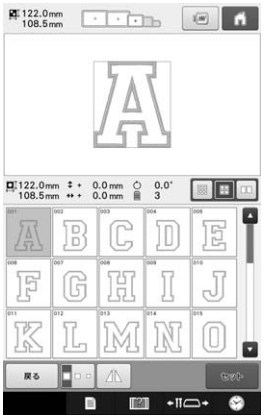
3 下段で模様を選びます。

選びたい模様キーを押します。



① 押すと、サイズを変更できます。

→ 模様表示エリアに模様が表されます。



● まちがえて模様を選んだときや模様を選び直したいときは、選びたい模様キーを押し直します。

4 セット を押します。

これで模様の選択が確定されます。

→ 編集画面が表示されます。

お知らせ

●ぬい方については、P. 246「アップリケ模様のぬい方」参照してください。

刺しゅう模様をミシンに記憶する

編集した模様やよく使う模様をミシンに記憶しておくことができます。例えば、名前や、回転させたり大きさを変更したりした模様、縫製位置を変更した模様などをミシンに記憶しておくと便利です。合計で約 10MB の模様を保存することができます。

お願い

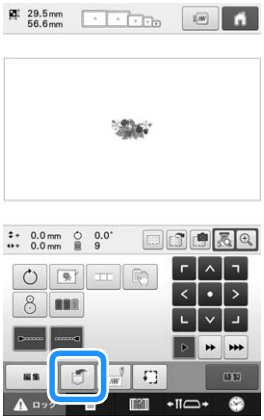
●「記憶中」の画面が表示されているときは、絶対に電源スイッチを切らないでください。記憶されている模様データが消えるおそれがあります。

お知らせ

●模様の記憶には数秒かかります。

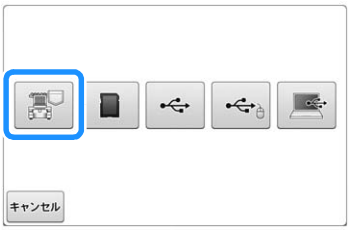
●記憶した模様の呼び出しかたは、P.173「ミシンに記憶した刺しゅう模様を呼び出す」を参照してください。

1 記憶したい模様を表示した状態で、縫製画面で を押します。



2 を押します。

- 記憶をやめる場合は キャンセル を押します。



→ 記憶されると、自動的に元の画面に戻ります。

■ メモリーがいっぱいの場合

次の画面が表示された場合は、すでに保存されている模様の数が、保存可能な最大数に達しているか、保存しようとしている模様の容量が大きすぎるため、保存できません。 OK を押してすでに保存されている模様を削除すると、新しい模様が保存できます。詳細は、P. 173「ミシンに記憶した刺しゅう模様を呼び出す」参照を参照してください。



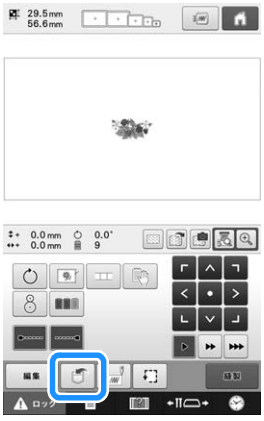
刺しゅう模様を USB メディア／SD カードに記憶する

刺しゅう模様を USB メディア／SD カードに記憶するときは、USB メディア／SD カードをミシンの USB ポート／SD カードスロットに接続します。

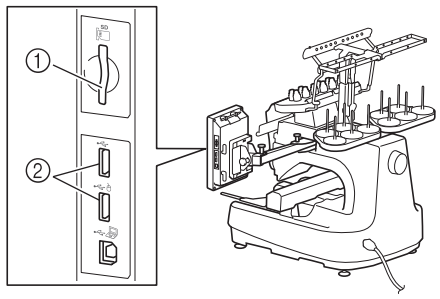
お知らせ

- 市販の USB メディアが使用できますが、USB メディアの種類によっては、このミシンで使用できないことがあります。使用可能な USB メディアについての詳細は、ブラザーソリューションセンター（ http://support.brother.co.jp/ ）でご確認ください。
- USB メディアの種類に応じて、直接ミシンの USB ポートに接続するか、もしくは USB メディア呼び出し／書き込み装置をミシンの USB ポートに接続してください。
- USB メディア／SD カードの抜き差しは、ミシンの電源の入／切に関係なく、いつでもできます。

1 縫製画面で、記憶させたい模様を表示した状態で を押します。



2 USB メディア／ SD カードをミシンの USB ポート／ SD カードスロットに差し込みます。

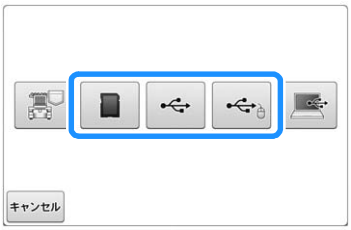


① SD カードスロット
② USB ポート

お願い
- ●USB ポートには、USB メディア以外のものは絶対に差し込まないでください。故障の原因となります。
- ●SD カードスロットには、SD カード以外のものは絶対に差し込まないでください。故障の原因となります。

3 、または を押します。

＊ キャンセル を押すと、保存せずに元の画面に戻ります。



→「記憶中」の画面が表示されます。記憶されると、自動的に元の画面に戻ります。

お願い
- ●「記憶中」の画面が表示されているときは、絶対に USB メディア／ SD カードを抜き差ししないでください。記憶されている模様データが消えることがあります。

刺しゅう模様をパソコンに記憶する

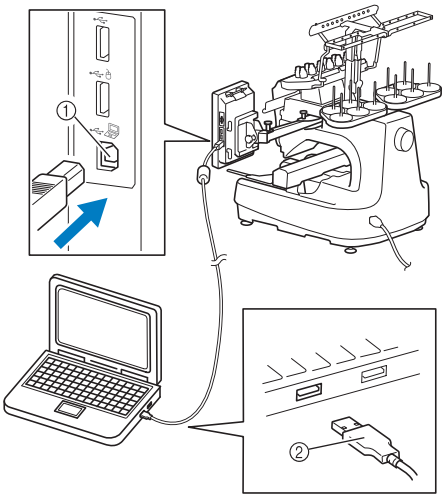
付属の USB ケーブルでミシンとパソコンに接続し、刺しゅう模様を一時的に呼び出して、パソコンの「リムーバブルディスク」フォルダーに保存します。「リムーバブルディスク」には約 10MB の刺しゅう模様を保存できます。ただし、ミシンの電源を切ると保存された刺しゅう模様は削除されます。

パソコンと OS について詳細は、P. 157「ミシンとパソコンの接続」参照を参照してください。

お願い
- ●「記憶中」の画面が表示されているときは、絶対に電源スイッチを切らないでください。記憶されている模様データが消えるおそれがあります。

1 付属の USB ケーブルでパソコンとミシンを接続します。

- USB ケーブルは、パソコンやミシンの電源の ON ／ OFF に関係なく、それぞれの USB ポートにつなぐことができます。

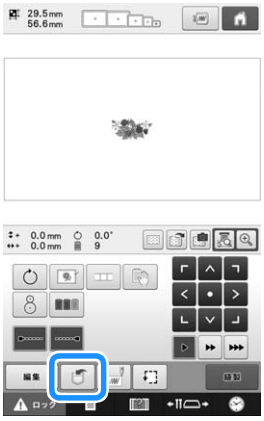


① パソコン接続用の USB ポート
② USB ケーブルコネクタ
→ パソコンの「コンピューター（マイコンピュータ）」に「リムーバブルディスク」のアイコンが表示されます。

お願い
- ●USB コネクタは差し込む向きが決まっています。入らないときは無理に差し込まず、コネクタの向きを確認してください。
- ●パソコンの USB ポートの位置については、パソコンの取扱説明書を参照してください。

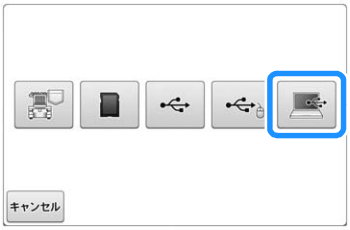
2 パソコンの電源を入れて「コンピューター（マイコンピュータ）」を選びます。

3 縫製画面で、記憶させたい模様を表示した状態で を押します。



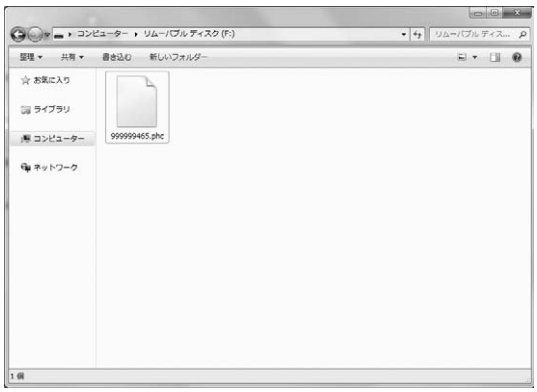
4 を押します。

- キャンセル を押すと、保存せずに元の画面に戻ります。



→ 模様は、「コンピューター（マイコンピュータ）」の「リムーバブルディスク」に一時的に保存されます。

5 「リムーバブルディスク」内にある模様の .phc ファイルを選び、ファイルをパソコンにコピーしてください。



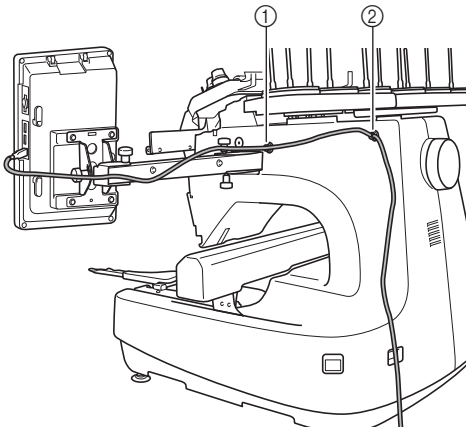
USB コードクランプを使用して USB 接続する

ミシンをパソコンに接続する場合は、付属の USB コードクランプを使い、コードがキャリッジの邪魔にならないように配線します。

付属のコードクランプ



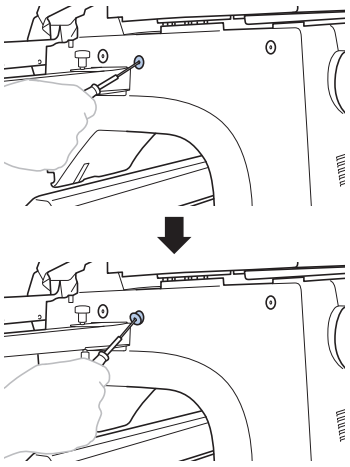
USB コードクランプの取り付け位置



① ミシン側面の前ネジ穴
② ミシン側面の後ろネジ穴

1 付属の針交換ドライバーで、ミシン側面の前ネジ穴をカバーしている保護キャップを外します。

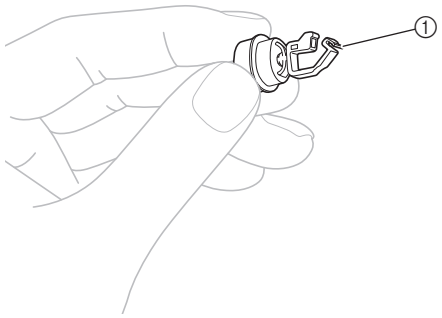
- 針交換ドライバーの先を保護キャップの穴に入れて引っかけ、保護キャップを引き抜きます。



お願い
- 針交換ドライバーを保護キャップの穴の奥まで入れないでください。ミシンや針交換ドライバーが破損するおそれがあります。

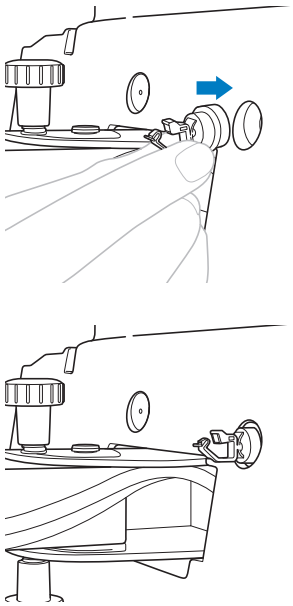
2 USB コードクランプを開きます。

● 爪でつまみを押して開きます。



① つまみ

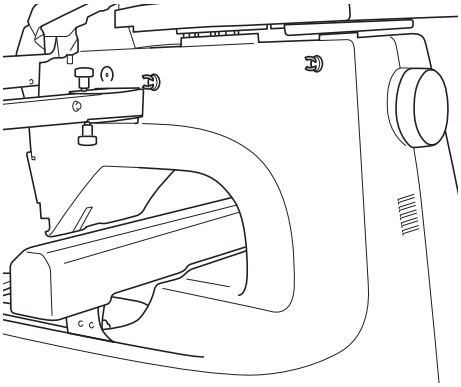
3 USB コードクランプのクリップの端を持ち、保護キャップを外したネジ穴に確実に差し込みます。



4 手順 1 から 3 と同様に、ミシン側面の後ろネジ穴の保護キャップを外し、USB コードクランプを差し込みます。

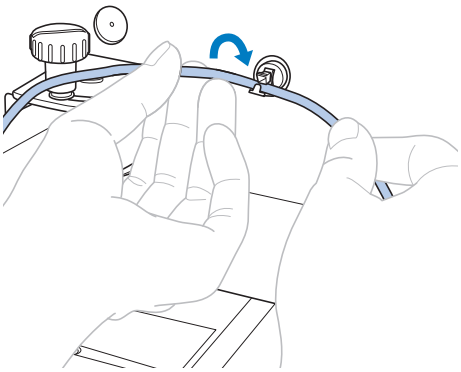
5 USB コードクランプがミシン側面の前ネジ穴と後ろネジ穴に、確実に差し込まれていることを確認します。

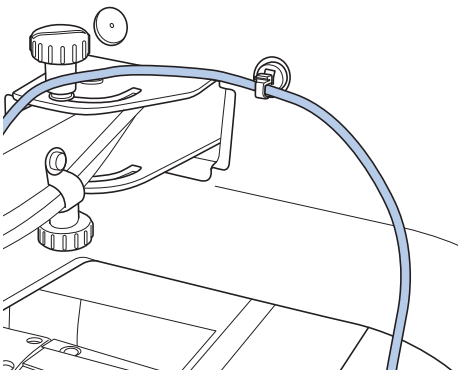
● USB コードクランプの差し込みが不十分な場合は、確実に差し込んでください。



6 USBケーブルをUSBコードクランプに通し、クランプを確実に閉じます。

●USB ケーブルをクランプに通すとき、無理な力をかけないでください。クランプが破損するおそれがあります。





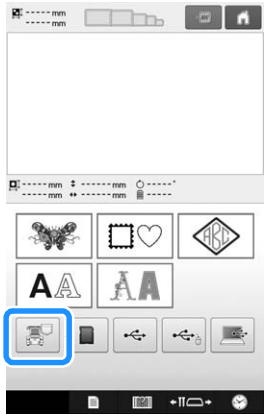
7 手順 5 と同様の手順で、後ろの USB コードクランプに USB ケーブルを通します。

8 ミシンの操作の邪魔にならないよう、USB コードクランプ間の USB ケーブルを調整します。

お知らせ
●手順 1 で外した保護キャップは、紛失しないよう付属の付属品ケースに入れて保管してください。

ミシンに記憶した刺しゅう模様を呼び出す

1 を押します。



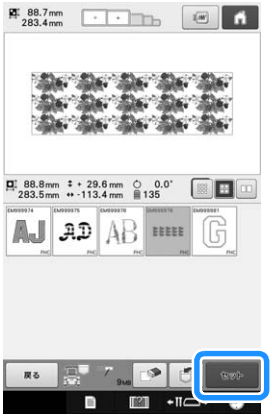
→ ミシンに保存されている模様が表示されます。

2 呼び出したい模様キーを押します。



3 セット を押します。

＊ 模様を削除するには を押します。



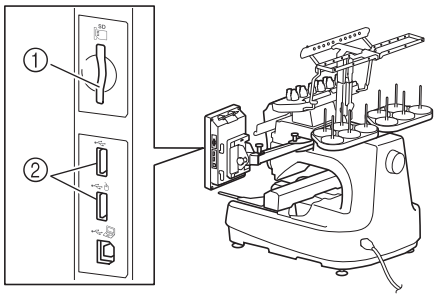
→ 縫製画面が表示されます。

USB メディア／ SD カードから刺しゅう模様を呼び出す

USB メディア／ SD カードに記憶した刺しゅう模様を呼び出します。模様が USB メディア／ SD カードのフォルダーに格納されている場合は、各フォルダーを検索して刺しゅう模様を見つけてください。

お願い
●処理速度は、データ量によって異なります。

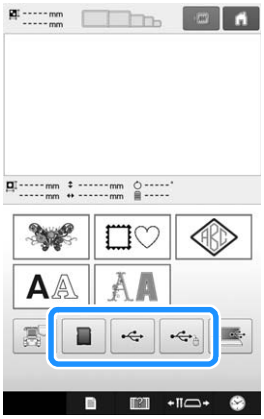
1 USB メディア／ SD カードをミシンの USB ポート／ SD カードスロットに差し込みます。



① SD カードスロット
② USB ポート

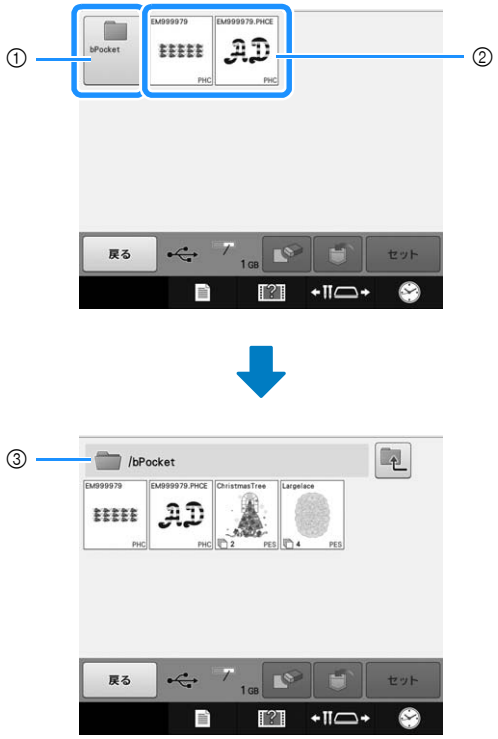
5

2 、 または を押します。



→ 刺しゅうデータと、最上位フォルダー内のフォルダが表示されます。

3 **複数の模様がサブフォルダーに分類されている場合は、 を押します。**



① フォルダー名
② USB メディア／SD カード内の刺しゅう模様
③ パス

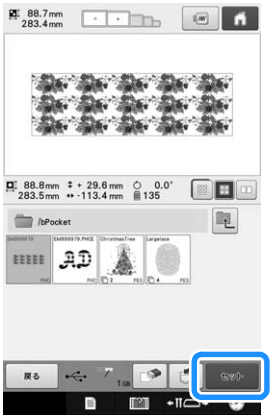
＊ パスは一覧の一番上に表示され、現在のフォルダーを示します。
＊ フォルダー内の刺しゅう模様とサブフォルダーが表示されます。
＊ 前のフォルダーに戻るには、 を押します。
＊ フォルダーを作成する際はパソコンを使ってください。本機ではフォルダーを作成することはできません。

4 **呼び出したい模様キーを押します。**

＊ 戻る を押すと元の画面に戻ります。

5 セット **を押します。**

＊ を押すと、USB メディア／SD カードから模様が削除されます。



→ 縫製編集画面が表示されます。

パソコンから刺しゅう模様を呼び出す

使用可能なパソコンの OS については、P. 157「ミシンとパソコンの接続」参照を参照してください。

1 **付属の USB ケーブルを、パソコンの USB ポートおよびミシンの USB ポートに差し込みます。（P.169「刺しゅう模様を USB メディア／SD カードに記憶する」を参照してください。）**

2 **パソコン上で、「コンピューター（マイ コンピューター）」を開き、「リムーバブル ディスク」を開きます。**



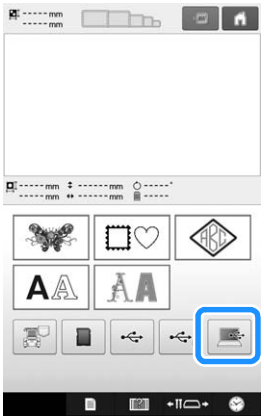
3 「リムーバブルディスク」に、模様データをコピーします。



→「リムーバブルディスク」に入れた模様データが、ミシンへ書き込まれます。

お願い
- 書き込みの最中は、USB ケーブルを抜かないでください。
- 「リムーバブルディスク」内にフォルダーを作らないでください。フォルダーが表示できないため、フォルダー内の模様データは呼び出せません。

4 を押します。



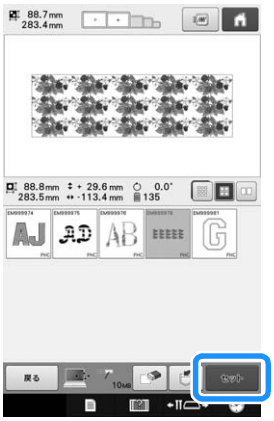
→ 模様一覧が表示されます。

5 呼び出したい模様キーを押します。



6 セット を押します。

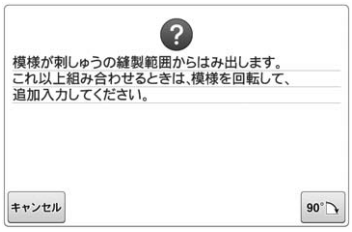
＊ を押すと、パソコンから模様が削除されます。



→ 縫製編集画面が表示されます。

■ ヨコ 360mm× タテ 200mm よりも大きな模様について

ヨコ 360mm× タテ 200mm よりも大きな模様を選択すると、以下のメッセージが表示されます。



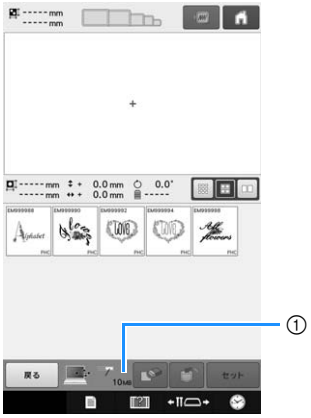
90° を押して、模様を 90 度回転させてから開いてください。
90 度回転させてもヨコ 360mm× タテ 200mm よりも大きな模様のデータの場合は、以下のメッセージが表示されます。



OK を押して模様一覧画面に戻ってください。

■ 呼び出したい模様を呼び出せないときは

パソコンからの模様データの呼び出しは、パソコンから直接データを読み込むのではなく、模様データをミシンに一時的に書き込み、その書き込まれた模様データを呼び出しています。合計で約10MB の模様を「リムーバブルディスク」にコピーすることができます。そのデータ量を超えると模様データを呼び出すことができません。



① ミシンの USB エリアの空き容量を示します。その範囲の容量の模様データを追加して呼び出す（一時的に書き込む）ことができます。

空き容量より大きい容量の模様を呼び出したいときは、現在書き込んでいる模様を削除してから呼び出したい模様をフォルダーに入れます。

1 パソコンの「リムーバブルディスク」の中の不要な模様データを削除します。

模様データを選んでゴミ箱に入れるか、クリックをして削除を選びます。

2 「リムーバブルディスク」に呼び出したい模様をコピーします。

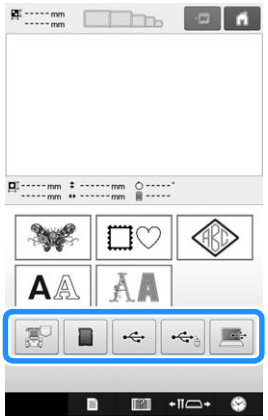
→ ミシンへの書き込みが終了すると、ミシンの画面にその模様キーが表示されます。

3 模様が書き込めない場合、手順 1 ～ 2 を繰り返します。

呼び出した模様を他の記憶先に記憶する

ミシン、USB メディア、SD カード、パソコンに記憶した刺しゅう模様は、お互いに他の記憶先に転送することができます。

1 模様選択画面で、呼び出したい模様が保存されている先のキーを押します。



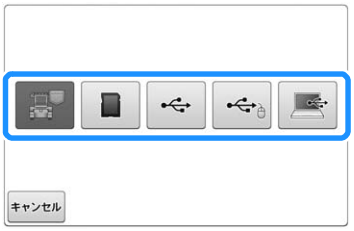
2 キーを押して、記憶したい模様を選択します。



3  **を押します。**



4 **記憶先を選択します。**



→ 模様が記憶されます。

お知らせ

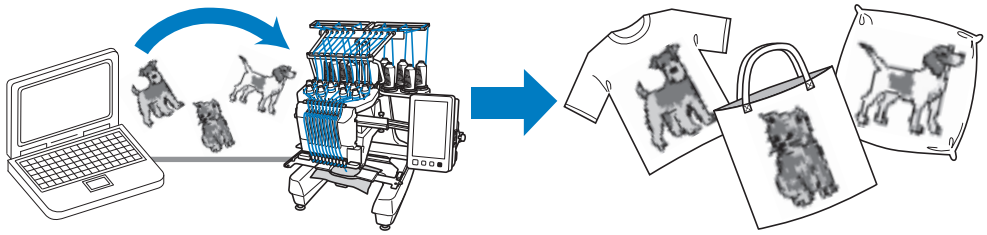
●USBメディア／SDカードに記憶する場合は、「bPocket」フォルダの中に保存されます。

Link 機能～パソコンからミシンへ刺しゅうデータを転送する～

このミシンは、Link 機能に対応しています。この機能を使用すると、Link 機能付きの刺しゅう編集ソフトウェア（刺しゅう PRO NEXT およびそれ以降のバージョンなど）で編集した刺しゅう模様を、パソコンから複数の刺しゅうミシンへ転送することができます。1 台の刺しゅうミシンへ 100 個の刺しゅう模様を転送することができます。また、転送中の模様の刺しゅう状態をパソコンの画面で見ることもできます。
付属の USB ケーブルで、ミシンとパソコンを接続してください。

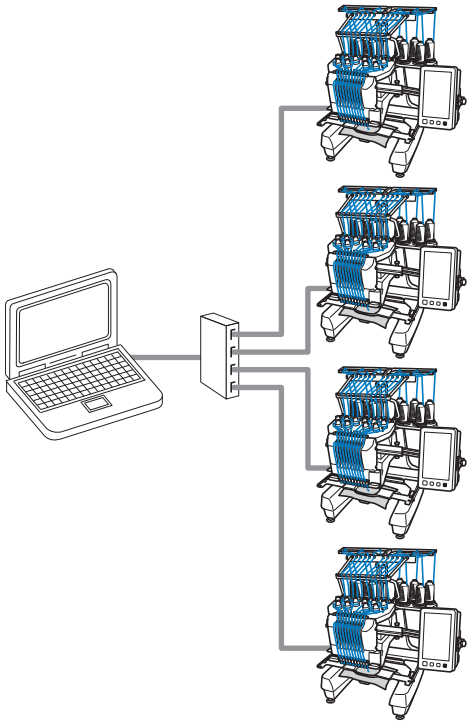
Link 機能を使ってできる操作

■ 複数の刺しゅう模様を接続された刺しゅうミシンに送る



■ 刺しゅうミシン（このミシン）の縫製状態をパソコンからチェックする

（複数のミシンの接続例）



お知らせ

●複数のミシンをパソコンに接続する場合は、市販の USB ハブを使用してください。電源内蔵タイプの USB ハブを使用することをお勧めします。USB 延長ケーブルやリピーターケーブルは使用しないでください。
USB ハブについて詳しくは、USB ハブの操作説明書を参照してください。

Link 機能を使って刺しゅうする

まず、刺しゅう編集ソフトウェアを使用してパソコンで刺しゅうミシンに転送する刺しゅう模様を作ります。

お願い
- Link 機能を使って刺しゅうできるのは、PES 形式（.pes）と PEN 形式（.pen）の刺しゅうデータです。
- Link 機能は、分割模様（P. 249 参照）には対応していません。
- 刺しゅうミシンに送信する模様の大きさに合った刺しゅう枠を取り付けてください。

1 を押し、◀ または ▶ を押して、設定画面の 5 ページを表示します。

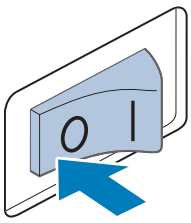
2 Link（リンク）の ON を押して、Link 機能を有効にします。



→ 以下のメッセージが表示されたら、OK を押します。

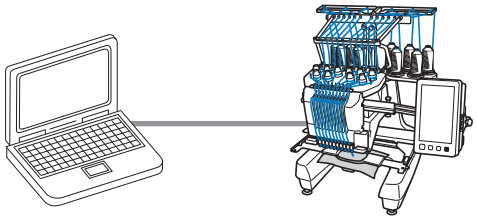


3 ミシンの電源を切ります。

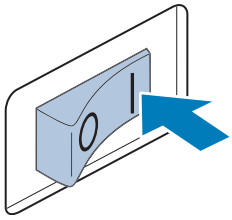


4 付属の USB ケーブルで、ミシンとパソコンを接続してください。

付属の USB コードクランプを使って、USB ケーブルを配線してください。（P. 171「USB コードクランプを使用して USB 接続する」参照）



5 ミシンの電源を入れます。



6 刺しゅう PRO NEXT やそれ以降のバージョンなど、Link 機能付きの刺しゅう編集ソフトウェアを使用し、刺しゅう模様を Link モードのミシンに送信します。

7 以下のメッセージが表示されたら、OK を押します。



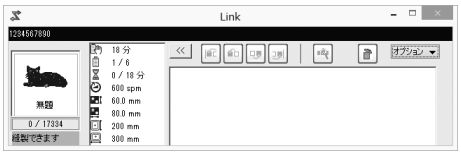


→ ミシンがパソコンに接続されている間は、ミシンの液晶画面にメッセージが表示されます。



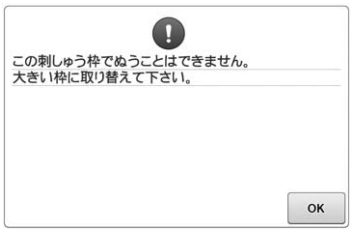
お願い

●刺しゅう編集ソフトウェアについて詳しくは、付属の取扱説明書を参照してください。



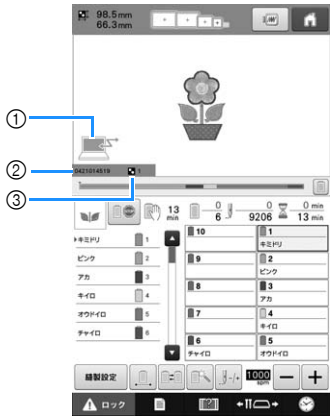
この Link ダイアログボックスは、刺しゅう PRO NEXT のものです。

●以下のエラーメッセージが表示された場合は、ミシンに取り付けられた刺しゅう枠の種類が模様の大きさに合っていません。模様の大きさに合った刺しゅう枠と取り替えてください。



8 ミシンに刺しゅう模様が転送されると、縫製画面が表示されます。

→ 刺しゅう模様が、Link 機能のアイコン付きで模様表示エリアに表示されます。



① Link 機能のアイコン
② 10 桁のミシン ID
③ 処理待ち中の模様の数

● 模様を消すときは、[ ]を押します。

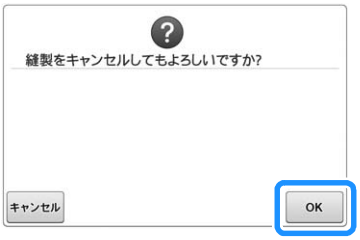
お知らせ

●刺しゅうミシンをパソコンに接続している間は、刺しゅう編集ソフトウェアの機能を使用してミシンの状態が表示されます。複数の刺しゅうミシンを同時に接続している場合は、ミシンの画面に表示されている 10 桁のミシン ID を使用してミシンの状態をチェックしてください。パソコンでは、以下の情報を見ることができます。

・ ミシンの状態
・ ミシンから取得した縫製中の刺しゅうデータの情報（次にミシンが停止するまでの時間、色替え数、縫製時間、最大縫製速度、模様の大きさ、ミシンで使用中の枠サイズ）

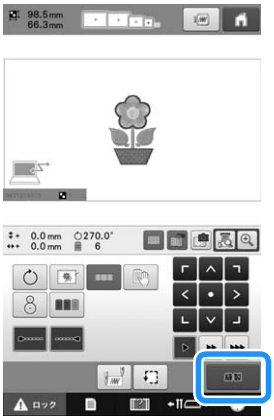
9 刺しゅう模様の刺しゅう設定を変更するには、[縫製設定]を押してください。

● 以下のメッセージが表示されたら、[OK] を押します。[キャンセル]を押すと、縫製画面に戻ります。



→ 縫製設定画面が表示されます。

10 必要に応じて設定を変更した後、[ ]を押し、縫製画面に戻ります。



11 ロック を押してから、スタート／ストップスイッチを押して刺しゅうを開始します。

→ 刺しゅうが終わったら、以下のメッセージが表示されます。



12 コンピューターから送られた別の模様を開くには、OK を押し、手順 8 から繰り返して刺しゅうを続けます。

刺しゅうを停止するか、同じ模様をもう一度刺しゅうするには キャンセル を押します。

お願い

●刺しゅうが終わった後、OK を押して縫製を続けた場合でも、手順 10 で指定した縫製画面設定が記憶されます。

お知らせ

●刺しゅう中に刺しゅうミシンの電源を切ると、次に電源を入れたとき、続きからぬうことができます。

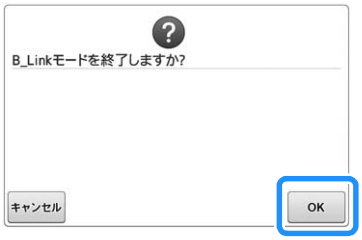
Link 機能を解除する

1 を押し、◀ または ▶ を押して、設定画面の 5 ページを表示します。

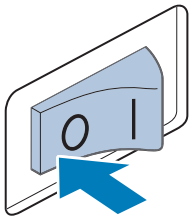
2 Link（リンク）の OFF を押して、Link 機能を無効にします。



→ 以下のメッセージが表示されたら、OK を押します。



3 ミシンの電源を切ります。



5

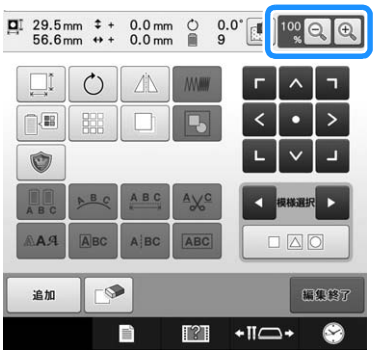
刺しゅう模様を個別に編集する（編集画面）

「編集画面」では個々の模様の編集を行います。編集結果は模様表示エリアで確認できます。

画面の模様を拡大表示する

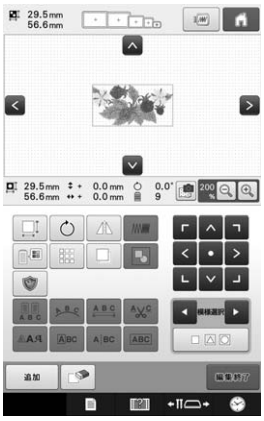
最大で通常表示の 2 倍で、模様を拡大表示できます。

1 100% を押します。



→ 模様表示エリアが拡大表示に切り替わります。

2 を押すたびに、拡大倍率が 125%、150%、200% と大きくなります。



- 模様表示エリアの ∧ < > ∨ を押すと、表示されていない範囲を表示できます。

お知らせ

●模様のない余白部分をタッチしても、表示エリアを動かすことができます。

3 通常表示に戻すときは、拡大倍率が 100% になるまで を押します。

模様を組み合わせる

刺しゅう模様と枠模様、内蔵の文字と別売の刺しゅうカードの模様など、いろいろな模様の組み合わせが簡単にできます。

1 追加 を押します。



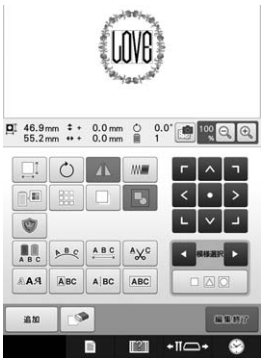
→ 模様選択画面に戻ります。



- 模様選択画面で模様の追加をやめる場合は、戻る を押します。編集画面に進みます。模様を選んでいないときは、使用できません。

2 模様を選んで、セット を押します。

P. 158 ～ 176 の手順で模様を選び、追加します。



- 模様を選ぶと、常に模様表示エリアの中心に配置されます。

3 組み合わせたい模様分、手順❶～❷を繰り返します。

お知らせ
- 個々の模様の位置の調整や編集は、編集画面でできます。模様を選ぶごとに表示される編集画面でも、組み合わせをしたいすべての模様を選び終わってから表示される編集画面でも、同じようにできます。

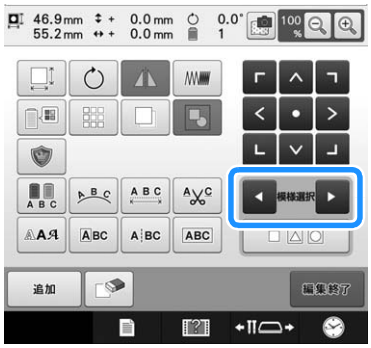
編集する模様を選ぶ

複数の模様を組み合わせている場合は、いくつかある模様パーツのうち、編集対象となる模様を選びます。

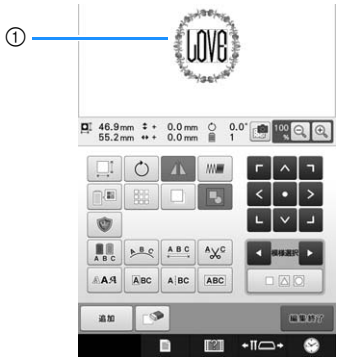
1 ◀または▶を押します。

赤い枠で囲まれている模様が編集対象となる模様です。

編集したい模様が赤枠で囲まれるまで、◀または▶を押します。



→ 模様を選んだ順または逆順で、模様が選ばれていきます。



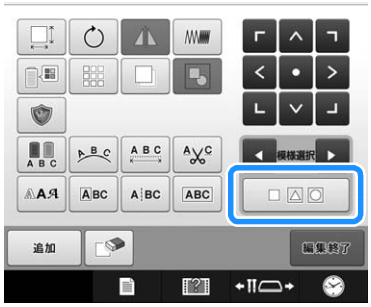
① 編集対象を示す赤い枠

お知らせ
- 編集画面では、複数の模様を組み合わせている場合は、❶編集する対象となる模様を選んで、❷その模様を編集する、が編集の基本手順になります。

■ 複数の模様を一度に選ぶ

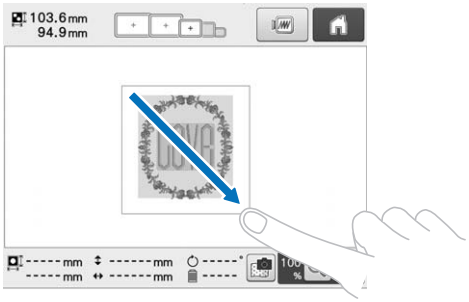
組み合わせた模様をまとめて移動したいときなど、複数の模様をまとめて選ぶとスムーズに編集できます。

1 □△○を押します。



→ 複数選択画面が表示されます。

2 画面上で、選択したい模様を囲むようにドラッグし、複数模様を選択します。



お知らせ
- 複数選択画面から複数の模様を選択することができます。◀または▶を押して、まとめて選択したい模様を確認し、セットを押して選択します。



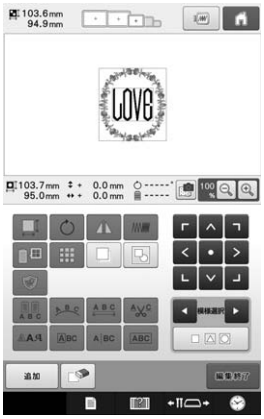
選ばれた模様は赤く囲われます。

- □△○を押すと、模様表示エリアにある全ての模様を選択できます。
- □△○を押すと、選択されたすべての模様が解除されます。
- 画面上の模様をタッチしても選択することができます。
- 複数選択画面を表示したまま、  で模様を移動することができます。

5

3 OK を押して編集画面に戻ります。

- 複数選択されている模様がすべて赤枠で囲まれます。

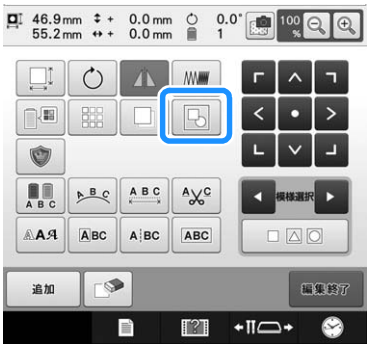


複数選択した模様をグループ化する

P.183「複数の模様を一度に選ぶ」で複数選択した模様をグループ化して、一つの模様として編集できます。

1 を押します。

→ 選択されている模様がグループ化されます。



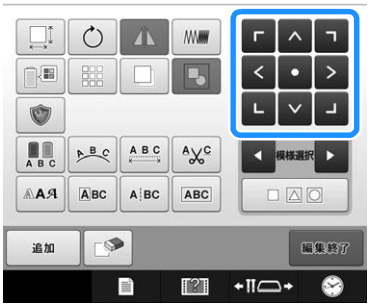
- もう一度を押すと、グループ化を解除できます。グループ化された模様がいくつかある場合は、選択している模様のグループ化が解除されます。

グループ化　　グループ化解除

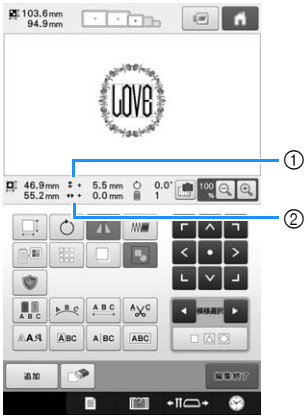
位置を移動する

刺しゅう枠のどの位置に縫製するかを決めます。模様を組み合わせている場合は、個々の模様を移動してレイアウトします。

1 移動させたい方向の矢印キーを押します。



→ 矢印の方向に模様が移動します。

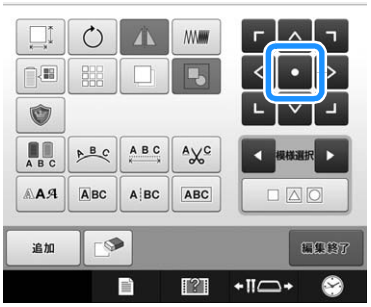


① 移動したときの縦の移動距離を示します。
② 移動したときの横の移動距離を示します。

お知らせ

- を押して、組み合わせた模様をグループ化できます。(P. 184「複数選択した模様をグループ化する」参照)

- 移動する前の位置（刺しゅう枠の中心）に戻したときは、を押します。



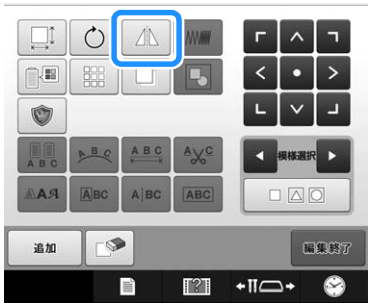
模様は、ドラッグして移動することもできます。USB マウスを接続している場合は、移動したい模様にマウスポインターを合わせ、左ボタンを押しながら、模様をドラッグします。

お知らせ

- 各編集キーを押して表示される画面の矢印キーでも、移動できます。
- 縫製設定画面の矢印キーは、枠を移動して縫製位置を決めるために使います。
- 指でタッチして好きな位置に移動することもできます。

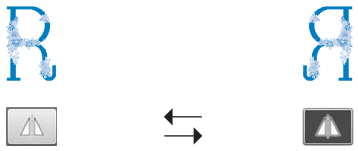
左右反転する

1 を押して、にします。



→ 模様が左右反転します。

- キーを 1 回押すごとに、切り替ります。

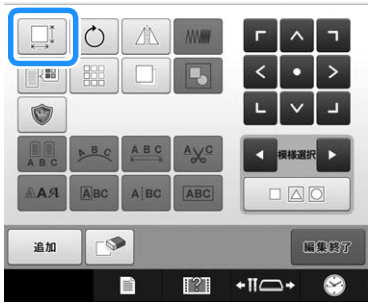


左右反転解除　　左右反転する

大きさを変える（通常モード）

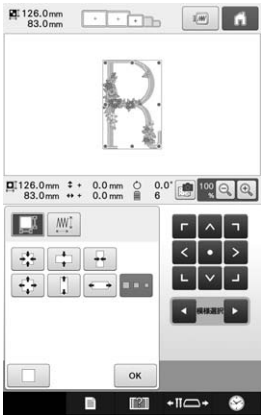
縮小／拡大率 90 ～ 120% の間で、大きさを変更できます。針数を変えずに拡大／縮小します。

1 を押します。



→ 次の画面が表示されます。

- 模様表示画面に、模様回転ハンドルが表示されます。大きさを変えながら、模様を回転することができます。模様の回転について詳しくは、P.188「回転する」を参照してください。



例／元の大きさ

縦横比を変えずに縮小

縦方向のみ縮小

横方向のみ縮小

縦横比を変えずに拡大

縦方向のみ拡大

横方向のみ拡大

通常モード
針数を変えずに拡大／縮小します。

針数再計算モード
糸密度を保持して拡大／縮小します。

大きさを変える模様を選択します。

矢印キーの方向に、模様を移動できます。

押すと、元の大きさに戻ります。

OK　押すと、この画面を閉じます。

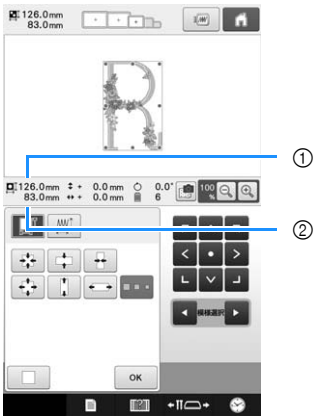
文字模様の時のみ有効
押すと、文字模様のサイズを切り替えることができます。

2 が選択されていない場合は、を押します。

新しく模様を選んだ場合は、が選択されています。そのまま手順 3 へ進みます。

3 **各キーを押して、希望の大きさにします。**

キーを押すごとに、変更後の大きさを示します。



キーを押して大きさを変更した後に、模様の大きさが表示されます。

① 縦の長さ

② 横の長さ

- 模様や文字によって、拡大できる模様の大きさが異なります。
- 模様や文字によっては、90 度回転するとさらに拡大されるものもあります。
- 模様を回転すると、縦、横の方向が反転する場合があります。
- 模様を元の大きさに戻すには、[ ] を押します。

4 **必要に応じて、矢印キーを押して模様の位置を調整します。**

操作のしかたは、P. 184 を参照してください。

5 **変更し終わったら、[OK] を押します。**

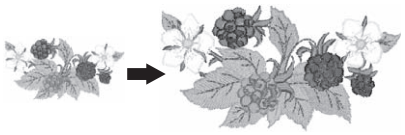
→ 編集画面に戻ります。

⚠ 注意

- **模様の大きさを変えたときは、使用できる枠の表示を確認して使用してください。表示される枠以外の刺しゅう枠を使用すると枠が押えに当たり、ケガの原因となります。**

糸密度を保持したまま大きさを変える（針数再計算モード）

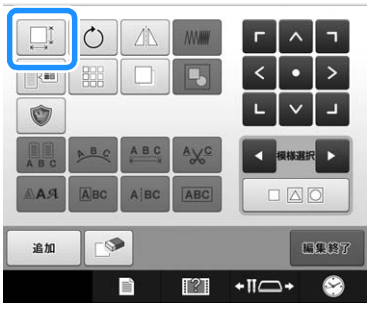
糸密度を保持したまま、模様の大きさを変更できます。
この機能を使うと、通常のサイズ変更時より大きな割合で模様を拡大／縮小できます。



お願い

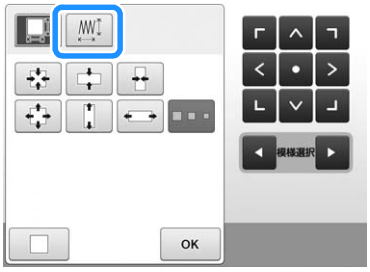
- 刺しゅうの仕上がりを確認するため、本ぬいをする前に、実際の布地、色糸と同じものを使用してためしぬいをしてください。
- アルファベット、枠模様、繰り返し模様（ボーダー模様）は、この機能を使用できません。ただし、この機能で大きさを変更した模様を使って、繰り返し模様を作ることは可能です。
- 針数が多い場合（100,001 針以上）は、糸密度を保持したまま模様の大きさを変更することはできません。糸密度を保持したままサイズ変更をする場合の最大針数は、模様のデータサイズにより異なります。
- この機能で糸密度を変えずに大きさを拡大／縮小できますが、すべての針落ち位置を正しく維持することはできません。ためしぬいの結果によっては、通常モード（[ ]）で大きさを変更してください。

1 **[ ] を押します。**



→ 次の画面が表示されます。(P. 185 参照)

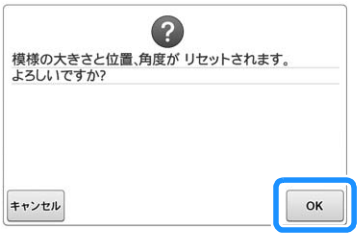
2 が選択されていない場合は、を押し、針数再計算モードにします。



お知らせ

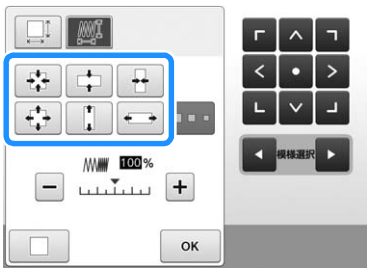
- が表示されない場合は、この機能は使用できません。

3 次のメッセージが表示されたら、OK を押します。



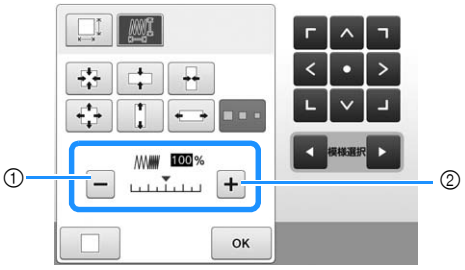
→ 模様が、オリジナルの大きさ、角度、位置にリセットされます。

4 各キーを押して、希望の大きさにします。(P. 185 参照)



お知らせ

- 針数計算モードでは、模様は 60 ～ 120%の間で拡大、縮小ができます。
- −、+を押すと、糸密度を指定できます。80 ～ 120% の間で 5% ごとに設定できます。



① 糸密度を粗くします。
② 糸密度を細かくします。

5 変更し終わったら、OK を押します。

→ 編集画面に戻ります。

お願い

- 模様によっては、適切な糸密度で刺しゅうできないことがあります。本ぬいをする前に、実際の布地、針、色糸と同じものを使用してためしぬいをしてください。
- 拡大すると、ピッチ（ぬい目）が粗くなることがあります。糸密度を細かくすると、仕上がりがよりきれいになります。
- 縮小すると、ピッチ（ぬい目）が細かくなることがあります。糸密度を粗くすると、仕上がりがよりきれいになります。

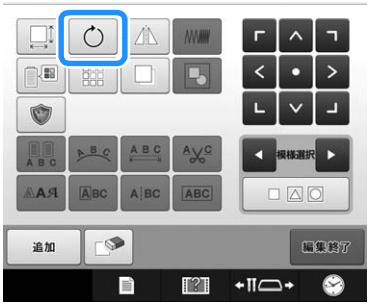
⚠ 注意

- **模様の種類や縮小度合いによっては、糸密度が細かすぎる場合や3回以上の重ねぬいをする場合があり、糸切れや針折れが発生するおそれがあります。そのような場合は、模様を少し拡大してください。**
- **模様の大きさを変えたときは、使用できる枠の表示を確認して使用してください。表示される枠以外の刺しゅう枠を使用すると枠が押えに当たり、ケガの原因となります。**

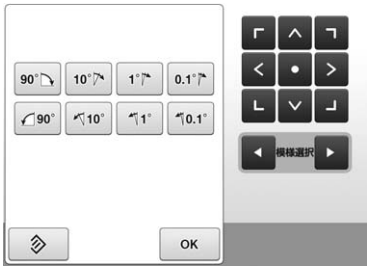
回転する

模様は好みの角度、方向に回転することできます。

1 を押します。



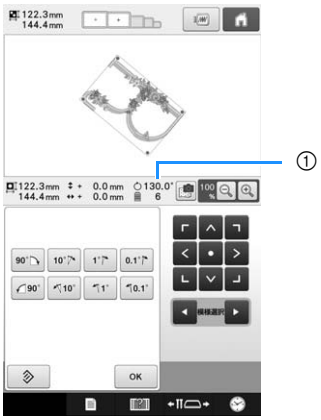
→ 次の画面が表示されます。



- 各キーについて詳しくは、P.106「角度を調整する」を参照してください。

2 **各キーを押して、希望の角度にします。**

キーを押すごとに模様が回転します。



① キーを押すごとに、変更後の回転角度を示します。

- 元の角度（0 度）に戻したい場合は、 を押します。

3 **必要に応じて、矢印キーを押して模様の位置を調整します。**

操作のしかたは、P. 184 を参照してください。

4 **変更し終わったら OK を押します。**

→ 編集画面に戻ります。

⚠ 注意

- **模様の角度を変えたときは、使用できる枠の表示を確認して使用してください。表示される枠以外の刺しゅう枠を使用すると枠が押えに当たり、ケガの原因となります。**

お知らせ

- 縫製設定画面の を使うと、組み合わせた模様全体の回転ができます。(P. 206「すべて回転する」参照)
- 大きな模様や、縫製範囲の端にレイアウトされている模様などで、回転すると縫製範囲からはみ出る場合は、キーを押しても希望の角度に回転できないことがあります。

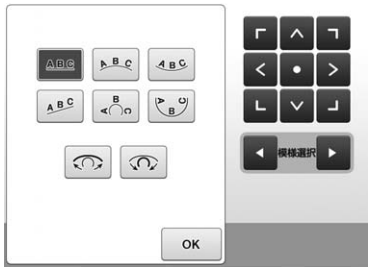
文字の配列を変更する

文字を水平、斜め、円弧に配列することができます。

1 を押します。



→ 次の画面が表示されます。



- 各キーについて詳しくは、P.166「配列を変更する」を参照してください。

2 **希望の配列キーを押します。**

3 **曲線の配列を選んだ場合は、曲線の度合いを調整できます。必要に応じて、 を押して調整します。**

お知らせ

- [ABC] を選んだときは、[ ]、[ ] はそれぞれ、[ ]、[ ] にキーが変わります。傾きの度合いを調整できます。

4 **必要に応じて、矢印キーを押して模様の位置を調整します。**

操作のしかたは、P. 184 を参照してください。

5 **変更し終わったら、[OK] を押します。**

→ 編集画面に戻ります。

お知らせ

- P. 166 で文字を選ぶときに設定した配列は、ここで変更することができます。

文字間隔を変更する

文字間隔を広げたり、狭くしたりできます。

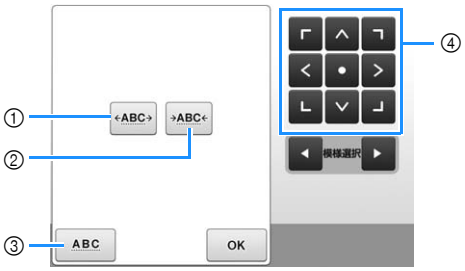
1 **[ABC] を押します。**



→ 文字間隔調整画面が表示されます。

2 **各キーを押して、希望の文字間隔にします。**

キーを押すごとに、文字間隔が少しずつ広くまたは狭くなります。



① 文字間隔を広くします。
② 文字間隔を狭くします。
③ 標準の文字間隔（元の文字間隔）を選択します。
④ 矢印キーの方向に、模様を移動できます。

3 **必要に応じて、矢印キーを押して模様の位置を調整します。**

操作のしかたは、P. 184 を参照してください。

4 **変更し終わったら、[OK] を押します。**

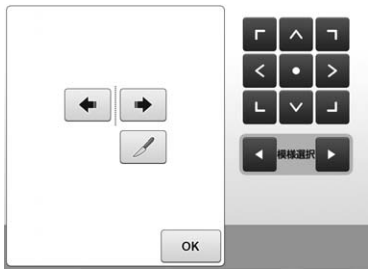
組み合わせた文字模様を分割する

すべての文字を入力した後、組み合わせた文字模様を分割し、文字間隔を調整したり、模様を個別に編集したりできます。

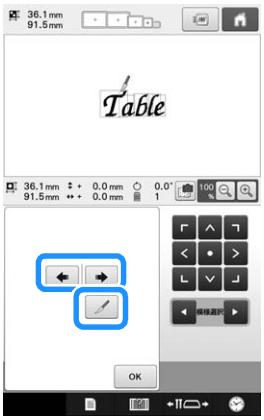
1 **[ABC] を押します。**



→ 次の画面が表示されます。

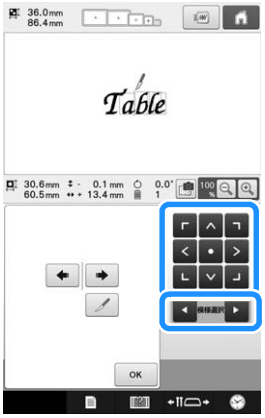


2 **[←][→] で分割する場所を選び、[ ] を押します。この例では、模様は「T」と「a」との間で分割されます。**

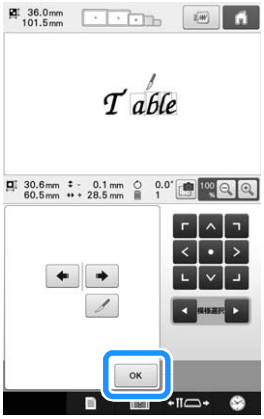


5

3 ◀または▶で模様を選び、で文字間隔を調整します。



4 OK を押します。



文字間で糸を切る

文字間糸切りを設定すると、文字間の渡り糸がなくなり、縫製後の渡り糸の処理を省くことができます。ただし、文字ごとに糸切りを行うので縫製時間が長くなります。

1 **必要に応じて、文字間糸を切るよう設定します。**

を押して にします。



- キーを 1 回押すとに、切り替わります。

糸を切らない ⇄ 糸を切る

文字模様を結合する

別々に入力した 2 行の文字列を、1 行に結合することができます。結合する順序は指定することができます。ただし、改行機能を使った改行を含む文字列は結合できません。

1 ABC を押します。



→ 次の画面が表示されます。



お知らせ

- 選択されている文字列が、連番「1」となります。

2 **結合したい文字列を選択します。**

- 選択するには、画面上で文字列をタッチするか、◀ ▶を押して文字列を選択した後、セット を押します。



→ 2 つの文字列が、仮に連番「1」、「2」となります。

3 [1 2] または [2 1] を押して、２つの文字列の並び順を選択します。



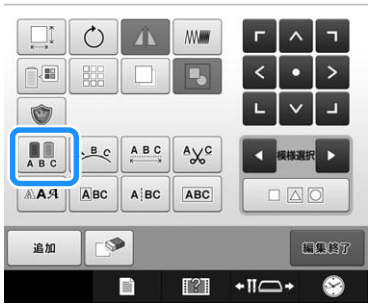
4 [OK] を押して、元の画面に戻ります。



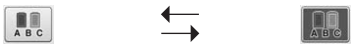
一文字ずつ色を変える

P. 163 の、文字模様で選択した文字は、黒色に設定されています。文字の色を変えたいときは、配色キーで変更しますが、１文字ずつ色を変えたいときは、色替えキーを「ON」にしてから１文字ずつ色を設定します。

1 [A B C] を押して [A B C] にします。



- キーを１回押すごとに、切り替わります。



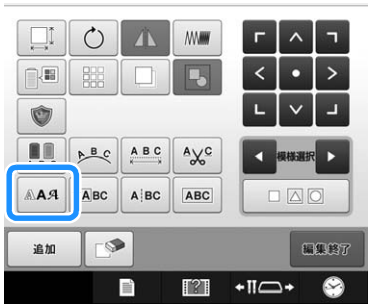
色替え off　　色替え on

- 色の変更は、P.192「模様の色を変える」を参照してください。

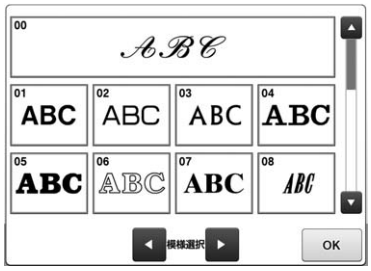
文字フォントを変更する

模様選択の際に選んだフォントを、編集画面で変更することができます。

1 [A あ] を押す。



2 [模様選択] でフォントを変更したい文字模様を選択し、希望のフォントを選びます。



3 [OK] を押します。

個別に文字のサイズとフォントを変える

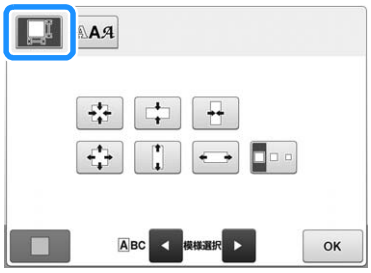
文字模様を個別で編集して、サイズとフォントを変更できます。

1 [ABC] を押す。

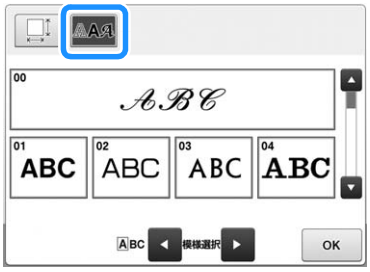


2 OK で個別に編集したい文字を選択します。

3 で文字のサイズを選択し、希望の大きさに変更します。



4 を押して、希望のフォントを選択します。

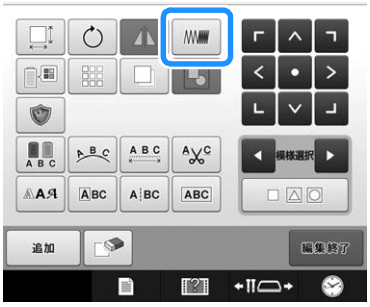


5 OK を押します。

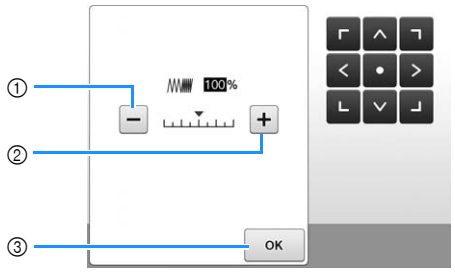
糸密度を変える（文字・枠模様の一部のみ）

文字・枠模様の一部のみ糸密度を変えることができます。
80 ～ 120% の間で 5% ごとに設定できます。

1 を押します。



→ 次の画面が表示されます。



① 糸密度を粗くします。
② 糸密度を細かくします。
③ 押すと、この画面を閉じます。

■ 糸密度を粗く／細かくする



2 **各キーを押して、希望の糸密度にします。**

キーを押すごとに、少しずつ粗くまたは細かくなります。

- 元の糸密度（標準）に戻したい場合は、100% にします。

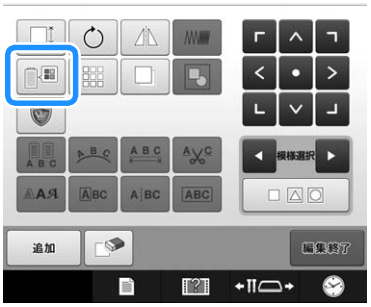
3 **変更し終わったら、OK を押します。**

→ 編集画面に戻ります。

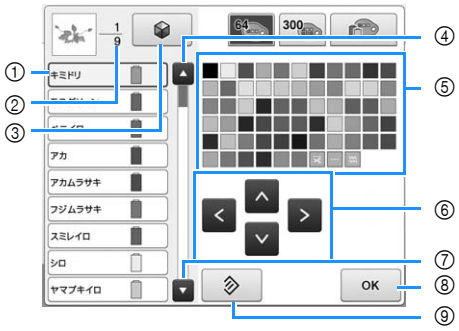
模様の色を変える

模様の色を変えて、画面で確認することができます。
色を変えると、同じ模様でも雰囲気が変わり、楽しむことができます。
この機能のみ、編集の対象になっている模様だけでなく、すべての模様色を変更することができます。

1 を押します。



→ 糸色編集画面が表示されます。



① 糸色順表示の青枠でハイライトされた糸色が、色を変える対象となります。
② 色替回数を示します。上段は糸色順表示の 1 番上の色の部分の順番、下段が総色替数を示します。
③ カラーシャッフル機能を使います。ミシンが提示する新しい配色からお好みの配色を選び、模様全体の色調を変更します。(P. 194「カラーシャッフル機能を使って、新しい配色を設定する」参照)
④ 糸色順表示を戻します。
⑤ 色パレット
この中から色を選びます。
⑥ 色パレットの色を選ぶときに使います。
⑦ 糸色順表示を進めます。
⑧ 色を選んだら、押します。
⑨ 押すと、元の色に戻ります。

2 色を変更したい糸色を、糸色順表示から選んで押します。

● 変更したい糸色が隠れている場合は、右横のスクロールバーで表示させます。

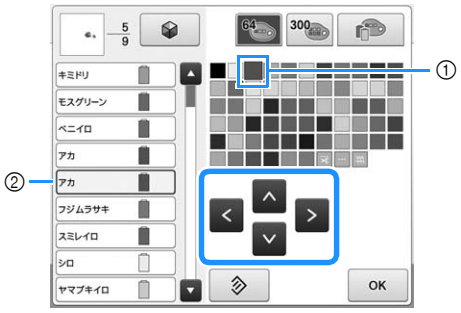


① スクロールバー

お知らせ

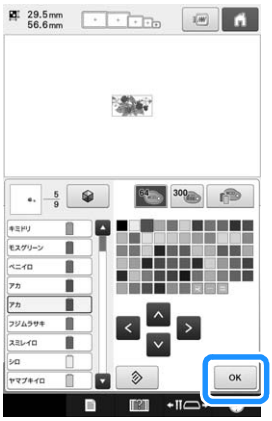
●模様を直接押して色を変えたい模様の部分を選択することもできます。

3 ∧ ＜ ＞ ∨ を押すか、希望の色を直接押して、パレットの中から新しい色を選びます。



① 大きく表示されている□が選ばれている色です。
② 選んだ色の糸色名が表示されます。
→ 模様表示エリアでは、糸色が変更された状態で模様を確認することができます。

4 すべて変更し終わったら、OK を押します。



→ 色の変更が確定されます。
→ 編集画面に戻ります。

お知らせ

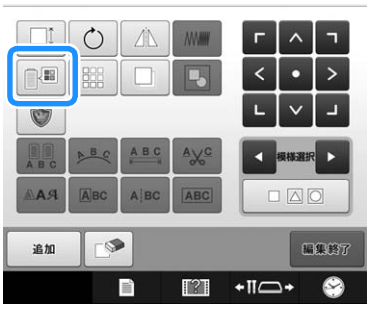
●色パレットは、お手持ちの糸色などを自由に組み合わせて作り変えることができます。お手持ちの糸を色パレットに登録し、そのパレットを使って模様の色を変更すると、お手持ちの糸色で糸こまが割り当てられ、画面に、より実際の仕上がりに近い色で模様を表示させることができます。(P. 201「ユーザーパレットを作る」参照)

カラーシャッフル機能を使って、新しい配色を設定する

■ カラーシャッフル機能について

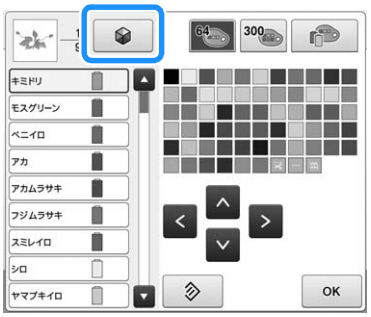
選択した模様に、ミシンが新しい配色を提示します。4 つの配色モード（ランダム、ビビッド、グラデーション、ソフト）の中からお好みモードを選ぶと、そのモードの色合いに変更された見本イメージが表示されます。

1 を押します。



→ 糸色編集画面が表示されます。

2 を押します。



お願い

- 模様によっては、この機能を使用できないものがあります。（例：繰り返し模様）。
  がグレー表示になっている場合は、別の模様を選んでください。
- ユーザーパレットを作成していない場合は、
  がグレー表示になります。ユーザーパレットを作成するか、64 色パレットを使用してください。（P. 201「ユーザーパレットを作る」参照）

3 糸色グループを選びます。

- 次の 3 つの糸色グループから、配色に使う糸色を選びます。
  ①糸立台に割り当てられている糸色
  ② 64 色パレット（プリセット）
  ③ユーザーパレット（300 色：カスタマイズ可）。
- お手持ちの糸ブランドの糸色をユーザーパレットに設定すると、オリジナルの色パレットを使って模様を作ることができます。



4 使用する糸色数を選び、お好みの配色モードを選びます。



① 刺しゅう模様に使用する糸色の数
② 配色モード

- 「ランダム」か「グラデーション」を選択する場合は、P. 195 の「「ランダム」か「グラデーション」を選んだ場合」の手順に従って操作してください。

お願い

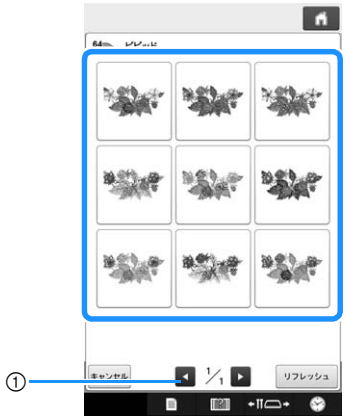
- 選択した糸色グループの色数より多い糸色数は選べません。

お知らせ

- 手順 4 で指定する糸色数は、選択した模様の糸替回数以下に設定してください。
- 「PES」形式の模様を呼び出して使う場合、設定画面の PES 糸コード優先が「ON」に設定されていると、ミシンのパレットに登録されていない糸色は配色されません。
  選択した PES 形式の模様の糸色をすべて使って配色したい場合は、PES 糸コード優先を「OFF」に設定してください。（P.232「「PES」形式データの糸色情報を優先させる」）

5 表示された見本イメージの中から、お好みの配色を選びます。

- リフレッシュ を押すと、新しい配色見本が追加されて表示されます。

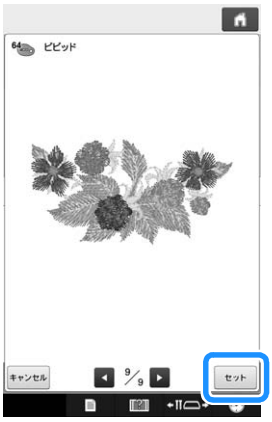


① リフレッシュ を押した後、現在表示しているページより前のページの配色見本を見たいときに押します。

お願い
- 画面に表示できる配色見本のページ数は 10 ページまでです。10 ページを超えると、リフレッシュ を押すごとに古いページから順に削除されます。

6 配色を確認し、セット を押します。

- キャンセル を押すと、1 つ前の画面に戻ります。
- セット を押すまで、5 で模様を選択したページの配色見本から、模様を選択できます。
- ほかの配色見本を表示するには、◀ または ▶ を押します。



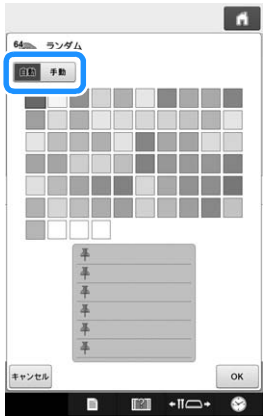
→ 色編集画面に戻ります。

お願い
- カラーシャッフル機能を操作中は、設定画面の次の設定は変更できません。
  - 糸ブランド選択
  - 糸こま固定（手動針棒設定）
  - PES 糸コード優先設定

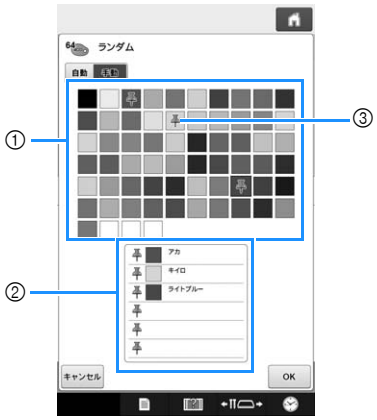
■「ランダム」か「グラデーション」を選んだ場合

1 自動 手動 を押して、使用するパレットモードを選択します。

→ 使用する糸色を選択しない場合は、「オート」を選択します。

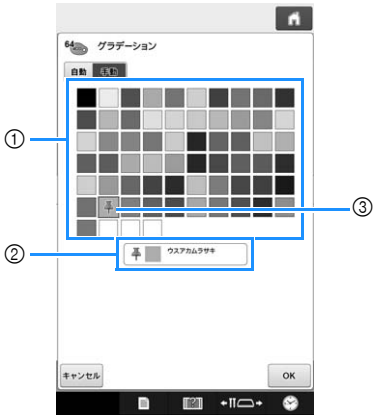


「ランダム」の場合
6 色までの糸色を選択できます。
選択した糸色を使った、ランダムな配色が生成されます。



① パレットから糸色を選択します。
② 選択した糸色が表示されます。
③ 配色に使用されている色にピンマークがつきます。不要な色のピンマークを消したい場合は、ピンマークのついた色を 2 回タッチします。

「グラデーション」の場合
希望の糸色を一色だけ選択できます。
選択した糸色を使った、グラデーションが生成されます。



① パレットから糸色を選択します。
② 選択した糸色が表示されます。
③ 配色に使用されている色にピンマークがつきます。不要な色のピンマークを消したい場合は、ピンマークのついた色を 2 回タッチします。

2 OK **を押します。**

→ 生成された配色の見本イメージが表示されます。
● P. 195 5 の手順から操作を続けてください。

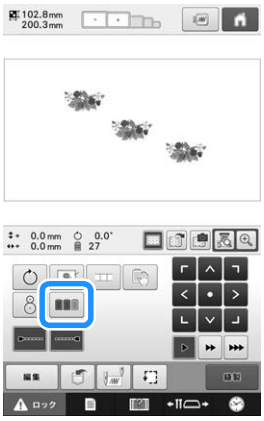
糸色並べ替え

糸こま交換の回数を最小限にして刺しゅうすることができます。
刺しゅうを始める前に、▮▮▮を押して縫製順を糸色で並べ替えます。

縫製画面



縫製設定画面



縫製画面



縫製色順が糸色で並べ替えられました。

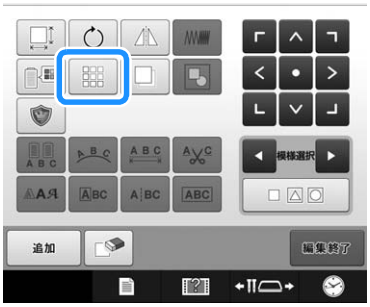
糸色並べ替えをキャンセルして、縫製色順に刺しゅうするには▮▮▮を押します。

お知らせ
●糸色並べ替え機能は、模様が重なっている場合は使用できません。

繰り返し模様（ボーダー模様）を作る

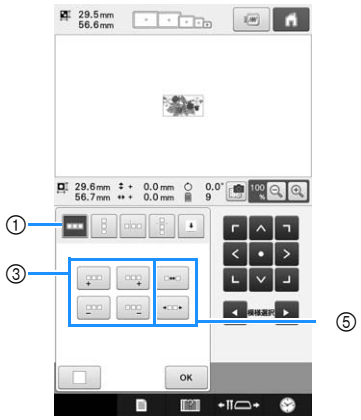
指定した回数分繰り返して、模様全体をコピーします。

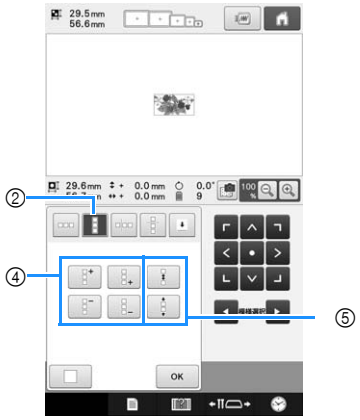
1  を押します。



→ 次の画面が表示されます。

2 模様を繰り返す方向を選びます。

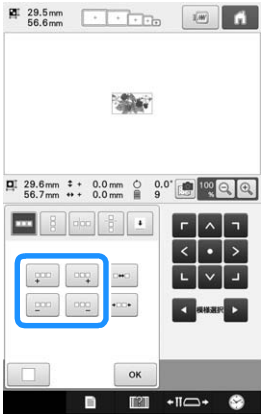




① 水平方向
② 垂直方向
③ 水平方向の繰り返しと削除のキー
④ 垂直方向の繰り返しと削除のキー
⑤ 間隔キー
→ 水平、垂直繰り返し／削除のキーは、選んだ方向によって切り替わります。

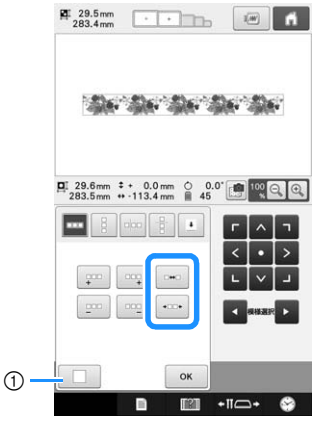
3  を使うと左端に模様が繰り返され、  を使うと右端に模様が繰り返されます。

- 左端の模様を削除するには、  を押します。
- 右端の模様を削除するには、  を押します。



4 繰り返した模様の間隔を調整します。

- 間隔を広げるには、  を押します。
- 間隔を狭めるには、  を押します。



①  を押すと、繰り返しがリセットされます。

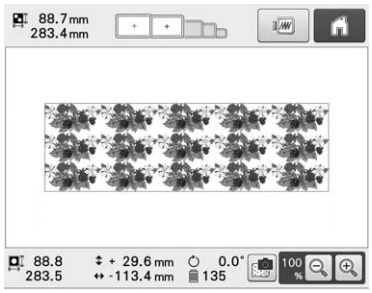
お知らせ
●模様の間隔の調整ができるのは、赤枠の内側のみです。

5 手順 2 から 4 を繰り返して、繰り返し模様を仕上げます。

6 変更し終わったら、OK を押します。
編集画面が再度表示されます。

お知らせ

●2 つ以上の模様がある場合は、すべての模様が赤い枠の中で 1 つの模様としてグループ化されます。



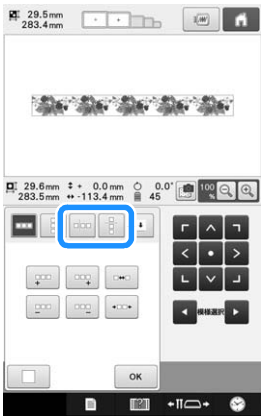
●模様を繰り返す方向を変更すると、赤枠内の模様が 1 つの繰り返し単位として自動的にグループ化されます。繰り返し模様の 1 つの要素の繰り返し方法については、次項「繰り返し模様の 1 つの要素を繰り返す」を参照してください。

■繰り返し模様の 1 つの要素を繰り返す

分割機能を使用すると、繰り返し模様の 1 つの要素を選び、その要素だけを繰り返すことができます。この機能を使用すると、複雑な繰り返し模様をデザインできます。

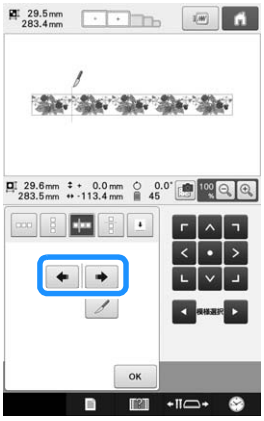
1 **繰り返し模様を切り取る方向を選びます。**

- 水平方向に切り取るには を押します。
- 垂直方向に切り取るには を押します。



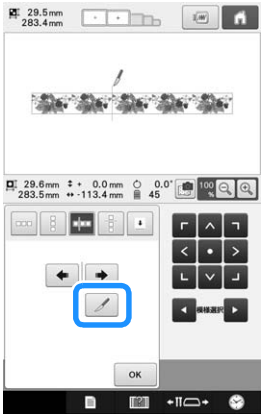
→ 水平、垂直繰り返し／削除の表示は、選んだ方向によって切り替わります。

2 **または で、切り取り線を選びます。**



→ 切り取り線が移動します。

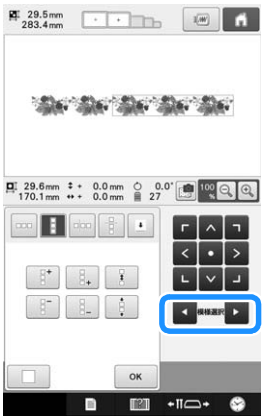
3 **を押します。**



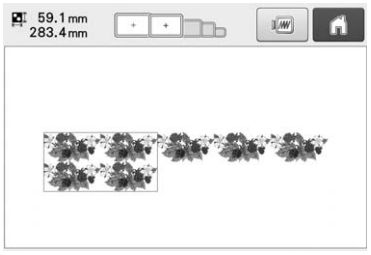
→ 繰り返し模様が要素に分割されます。

4 **を押します。**

5 **または で、繰り返す要素を選びます。**



6 任意の方向に要素を繰り返します。



7 変更し終わったら、OK を押します。

編集画面が再度表示されます。

お願い

- 繰り返し模様を分割した要素に切り取った後は、元の繰り返し模様に戻すことはできません。
- 各要素は編集画面で個別に編集できます。P.183「編集する模様を選ぶ」を参照してください。

■ 糸印を付ける

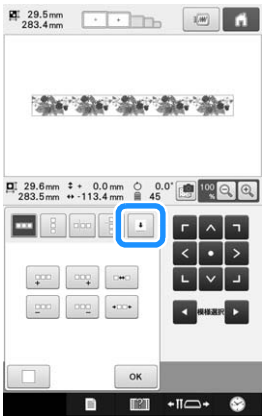
模様を続けてぬうときに糸印を付けておくと、模様合わせが簡単にできます。模様が終わると、最後の糸で矢印の形の糸印がぬわれます。模様を続けてぬうときには、矢印の尖端に次の模様位置を合わせます。

お知らせ

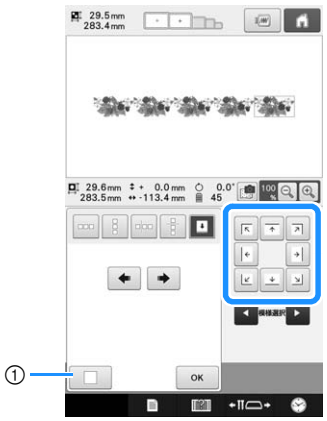
- 個別の模様を繰り返しぬうときは、模様の周囲のみに糸印をぬうこともできます。

1 を押します。

2 を押します。



3 で、ぬう糸印を選びます。



① 押すと糸印設定がキャンセルされます。

お知らせ

- 2 つ以上の要素がある場合は、◀、▶、または ⬅、➡ を押して、糸印を付けたい模様を選びます。

4 OK を押します。

お願い

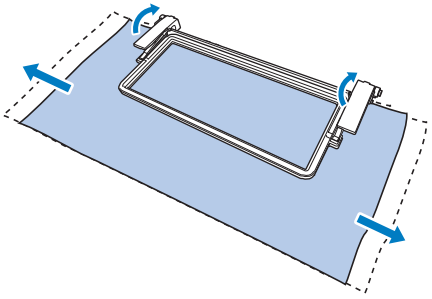
- 縫製設定画面で組み合わせた繰り返し模様を回転させると、糸印は削除されます。

■ 繰り返して模様を刺しゅうする

繰り返し模様を作成後、刺しゅう枠に布地を張り替えながら模様を繰り返し縫製して、繰り返し模様を刺しゅうします。

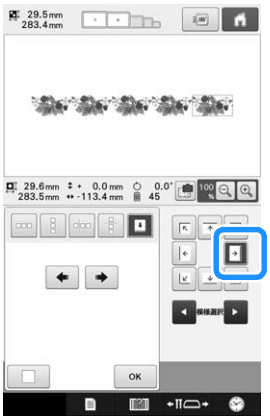
お知らせ

- 別売のボーダー枠を使用すると、ボーダー枠をミシンから取り外さずに、簡単に布地の張り位置をずらすことができます。



1 繰り返し模様を作り、ぬい終わりの模様の右中央に糸印を付けます。

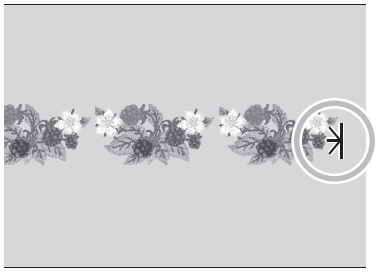
(P. 199「糸印を付ける」参照)



2 OK を押し、縫製 を押します。

3 ロック を押し、スタート／ストップスイッチを押してぬい始めます。

→ ぬい終わりに、最後の糸色で糸印がぬわれます。

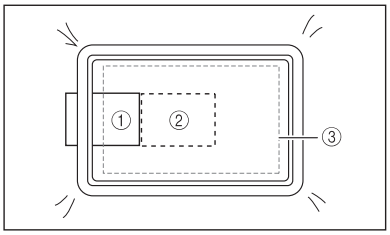


4 刺しゅう枠を外します。

5 布地を移動して、刺しゅう枠に張り直します。

お願い

●次の模様をぬう位置が刺しゅう枠の縫製範囲に収まるように、布地の位置を調整してください。

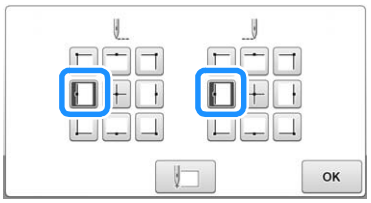


① ぬい終わった最初の模様の縫製位置
② 次にぬう模様の縫製位置
③ 刺しゅう枠の縫製範囲

6 ミシンに刺しゅう枠をセットして、縫製設定画面で を押します。



7 を押して、ぬい始め位置を模様の左中央に設定します。



8 OK を押します。

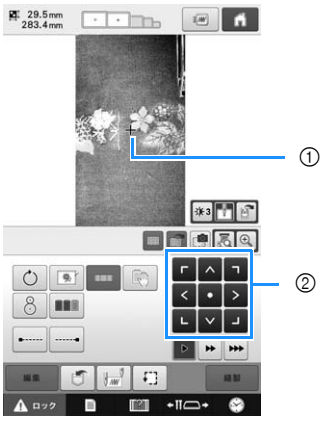
9 を押します。

● 内蔵カメラを使用しないで刺しゅう位置を合わせる場合は、P.105「思い通りの位置にぬうには」を参照してください。

10 を押して、針落ち点を表示します。



11 移動キーを押して、布地の糸印がカメラ画像の針落ち点に重なるまで、刺しゅう枠を移動します。



① 布地の糸印
② 移動キー

- [縫製範囲] を押して、縫製範囲を確認します。

お知らせ

- [拡大] を押すと、拡大表示に切り替わります。少しずつ刺しゅう枠を移動しながら、針落ち位置の位置合わせを微調整できます。

12 移動キーで刺しゅう位置を合わせられない場合は、布地を張り替えてから再度位置を合わせてください。

お願い

- 組み合わせをした繰り返し模様の位置を合わせてから、縫製設定画面で模様を回転させないでください。カメラ画像で糸印とぬい始め位置を合わせても、縫製設定画面で模様を回転すると、模様を正確に整列させてぬうことができません。

13 [OK] を押して、元の画面に戻ります。

14 糸印を取り除きます。

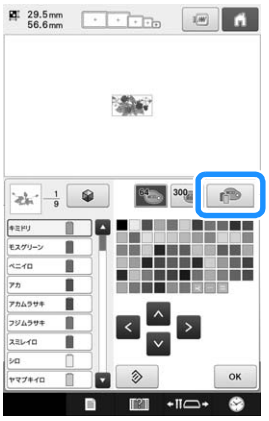
15 [縫製] を押します。

16 [ロック] を押し、スタート／ストップスイッチを押してぬい始めます。

ユーザーパレットを作る

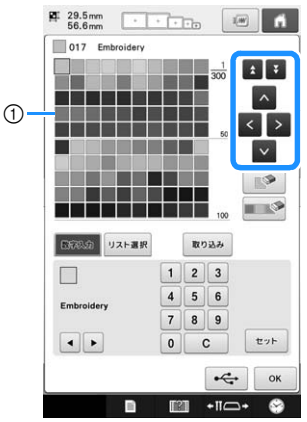
お手持ちの糸だけを使った「ユーザーパレット」を作ることができます。糸ブランド 9 社の糸色リストから、お手持ちの糸の糸色を選んで、色パレットに設定します。
ユーザーパレットを作る前に、模様を選択し編集画面を表示してください。(P. 53 ～ 80 参照)

1 [編集] を押して、[ユーザーパレット] を押します。



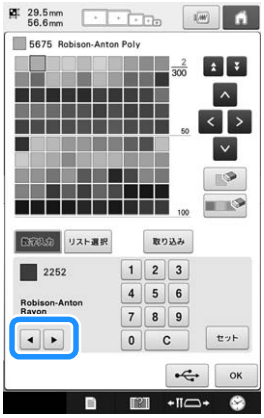
2 [∧]、[<]、[>]、[∨] で、ユーザーパレットのどこに色を追加するかを選びます。

- 直接画面を押し、ユーザーパレットの色枠（□）を選ぶことができます。
- ユーザーパレット上の [⏫] または [⏬] を押すと、一度に 100 色をスクロールできます。



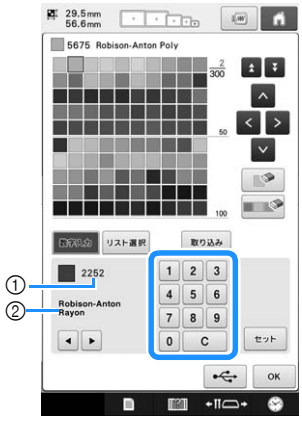
① ユーザーパレット

3 ◀または▶で、ミシンの糸ブランドのいずれかを選びます。



4 1、2、3、4、5、6、7、8、9、0キーを使って、糸色の４桁の番号を入力します。

- まちがえた場合は、C を押して入力した番号を消し、正しい番号を入力し直してください。



① 入力された糸色番号
② 糸のブランド

5 セットを押します。



① 選ばれた糸色

→ 選ばれた糸色がユーザーパレットに設定されます。

お願い

- セットを押さなければ、糸色番号は変更されません。

6 ここまでの手順を繰り返して、お好みの色をすべて指定します。

- 指定した色をパレットから削除するには、  を押します。
- 指定したすべての色をパレットから削除するには、  を押します。

お願い

- ユーザーパレットを作るときは、色を設定後、∧ < > ∨を押すか、直接色枠（□）を押して、次にどの色枠に色を設定するか選択してください。自動的に次の色枠へは進みません。

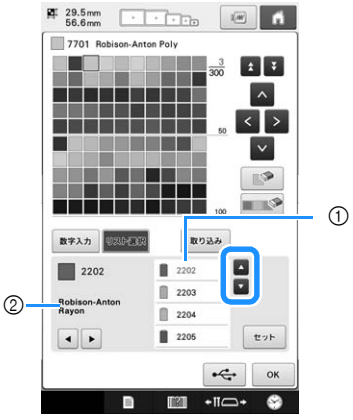
7 OK を押して、元の画面に戻ります。

■ 一覧からユーザーパレットに色を追加する

1  を押して、  を押します。

2 リスト選択を押して糸の一覧を表示します。

3 ▲または▼で、糸色を選びます。



① 糸色番号
② 糸のブランド

4 セット を押します。

5 ここまでの手順を繰り返して、お好みの色をすべて指定します。

- 指定した色をパレットから削除するには、 を押します。

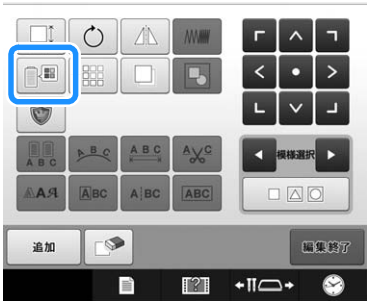
> **お願い**
> ●ユーザーパレットを作るときは、色を設定後、 を押すか、直接色枠（□）を押して、次にどの色枠に色を設定するか選択してください。自動的に次の色枠へは進みません。

6 OK を押して、元の画面に戻ります。

ユーザーパレットから色を選ぶ

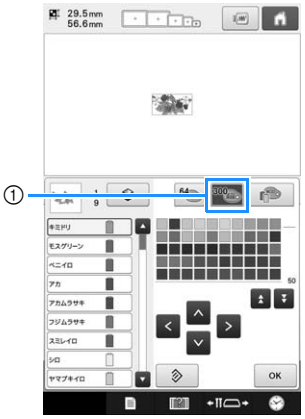
ユーザーパレットに設定した最大 300 色の糸色から 1 色を選ぶことができます。

1 を押します。



→ 64 色の刺しゅう糸色リストが表示されます。

2 300 を押します。

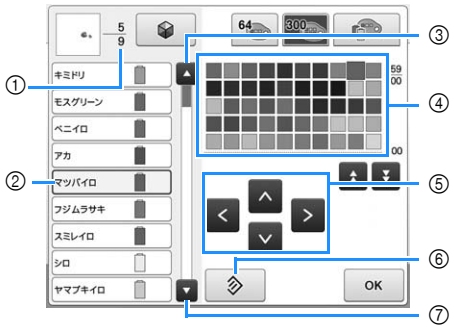


① 糸色変更キー

→ 糸色（300 色の刺しゅう糸）画面が表示されます。

3 、、、で、ユーザーパレットから新しい色を選びます。

- または で、ユーザーパレットをスクロールします。
- を押すと、元の糸色設定に戻せます。
- 直接画面を押して、糸色（300 色の刺しゅう糸）リストから色を選ぶこともできます。



① 糸色変更の数を示します。上の値は糸色順表示の選択されている色のぬい順を示し、下の値は、糸色変更の総回数を示しています。
② 糸色順表示の青枠でハイライトされた糸色順表示は、色が変更されている部分です。
③ 糸色順表示の 1 つ前の糸色に移動します。
④ 糸色リストです。このリストから色を選びます。
⑤ これらの矢印を使用して、糸色リスト内の色選択を進めます。
⑥ このキーを押すと元の色に戻ります。
⑦ 糸色順表示の次の糸色に移動します。
→ 画面には変更された色が表示されます。

4 OK を押します。

ユーザーパレットを保存する／呼び出す

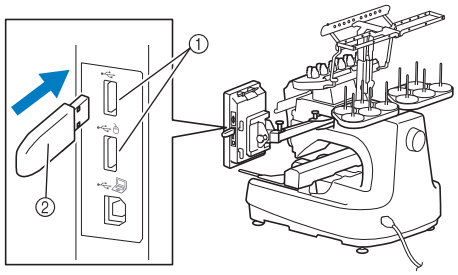
ユーザーパレットは、データファイルとして USB メディアへ保存することができます。また保存されたデータは、USB メディアから呼び出すことができます。

> **お願い**
> ●ユーザーパレットファイルは、USB メディアへのみ保存できます。ミシンの内蔵メモリおよびパソコンへは保存できません。
> ●ユーザーパレットファイルは、.pcp 形式で保存されます。

■USB メディアにユーザーパレットを保存する

1 USB メディアを、ミシンの USB ポートに差し込みます。

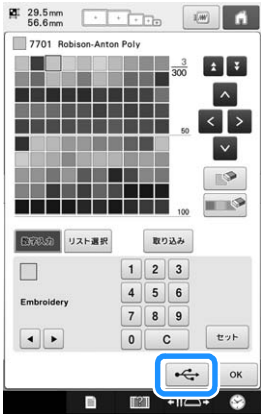
USB メディアの接続について詳しくは、P.89「USB メディアを使う場合」を参照してください。



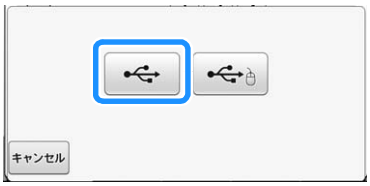
① USB ポート
② USB メディア

2 編集画面で、  を押し、  を押します。

3  を押します。



4  を押した後、保存するポートを選びます。



→「記憶中」と画面に表示されます。保存が完了すると、自動的に元の画面に戻ります。

お願い
●「記憶中」と画面に表示されているときは、絶対に USB メディアを抜かないでください。保存中のデータの一部または全部が消えることがあります。

■USB メディアからユーザーパレットを呼び出す

1 ユーザーパレットが保存されている USB メディアを、ミシンの USB メディアポートに差し込みます。

お願い
●一度に USB メディアから呼び出すことができるファイルは 1 つです。1 つの USB メディアに、2 つ以上の .pcp データを保存しないでください。

2 編集画面で、  を押して、  を押します。

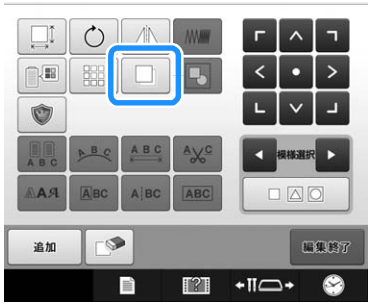
3  を押します。

→「記憶中」と表示されます。呼び出しが完了すると、自動的に元の画面に戻ります。

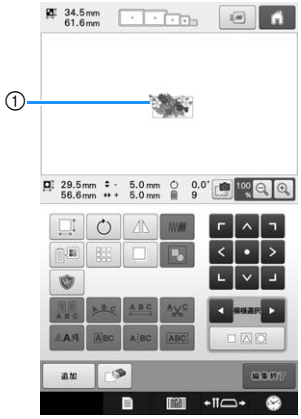
お願い
●「記憶中」と画面に表示されているときは、絶対に USB メディアを抜かないでください。呼び出し中のデータの一部または全部が消えることがあります。
●呼び出したユーザーパレットを削除したいときは、  を押します。すべての色が削除されます。

模様を複製する

1 □を押します。



→ 複製された模様は、元の模様の少し右下に、重なるように配置されます。



① 複製された模様

模様を削除する

1 を押します。



→ 次の画面が表示されます。

2 OK を押します。



→ 模様が削除されます。

● 削除をやめる場合は、キャンセルを押します。

お願い

●複数の模様が表示されている場合は、選んだ模様のみが削除されます。

5

刺しゅう模様全体を編集する（縫製設定画面）

縫製設定画面では、編集画面で組み合わせをしなかった場合は 1 つの模様に対して、組み合わせをした場合は模様全体を 1 つの模様として編集します。
また矢印キーは、編集画面では模様を移動するために使いましたが、縫製設定画面では枠を移動するために使います。キーを押すと、枠が動きますので注意してください。

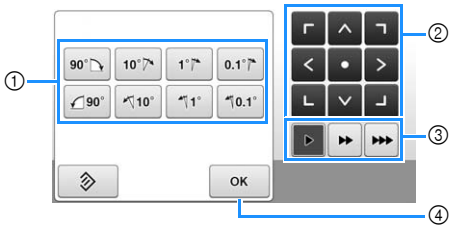
すべて回転する

模様全体を回転します。

1 **を押します。**



→ 次の画面が表示されます。



① 回転することができます。
② 枠を移動することができます。
③ 枠を移動するときの移動の速さを選択できます。(P. 105 参照)
④ 押すと、この画面を閉じます。

2 **各キーを押して、希望の角度にします。**

操作のしかたは、P. 106 を参照してください。

3 **必要に応じて、矢印キーを押して枠の位置を調整します。**

操作のしかたは、P. 105 を参照してください。

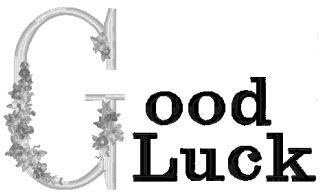
4 **変更し終わったら、OK を押します。**

→ 縫製設定画面に戻ります。

組み合わせの編集

花アルファベット模様に文字を組み合わせてを編集してみましょう。

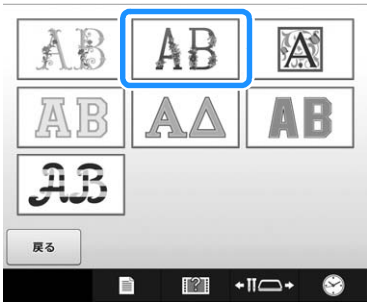
例)



1 [AA]を押します。



2 [AB]を選びます。

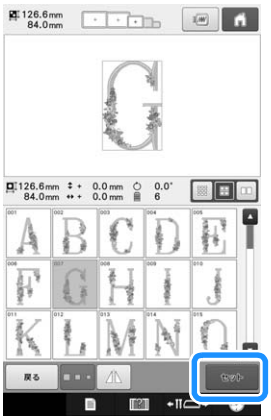


3 [G]を選びます。



→ 模様は刺しゅう範囲の中心にレイアウトされます。

4 模様を選んだら、[セット]を押します。



→ 編集画面が表示されます。

5 [追加]を押します。

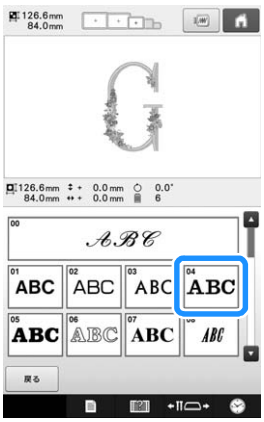


→ 模様選択画面が表示されます。

6 [AA]を押します。



7 ABC を押します。



8 「ood」を入力します。

小文字タブキーを押して小文字入力画面を表示させてから、「o」、「o」、「d」を押します。



→ 選んだ文字は、刺しゅう範囲の中心に表示されます。

- 大きさを変えたい場合は、「o」を選んでから を押して大きさを選択してください。
- 配列を変えたい場合は を押して変更してください。

9 を押して改行を入れます。



10 「Luck」を入力します。



11 を押して、文字を左揃えにします。



12 文字を選んだら、セット を押します。

→ 編集画面が表示されます。

13 を押して、バランスよく文字が入るように文字の位置を調節します。



14 全体のバランスを見て、編集し直したいときは◀ ▶を押すと、編集できる模様の対象を変えることができます。



例)  のサイズを小さくしたいとき。

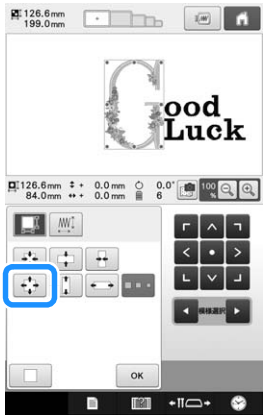
15 ◀ ▶を押して、赤い枠を  に移します。



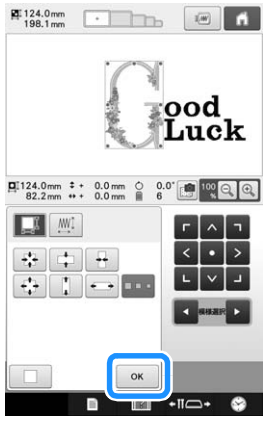
16  を押します。



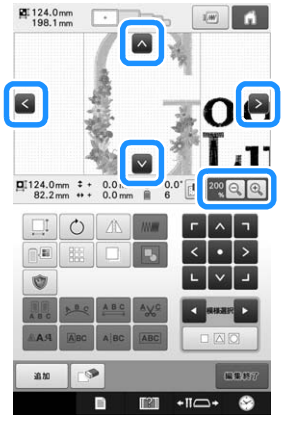
17  を押して、サイズを小さくします。



18 サイズを小さくしたら OK を押して、編集画面に戻ります。



- 続けて他の模様を修正したいときは、再度◀ ▶を押して修正します。
- 文字や全体が分かりにくいときは  を押して模様を拡大し、∧ ＜ ＞ ∨を押して確認してください。



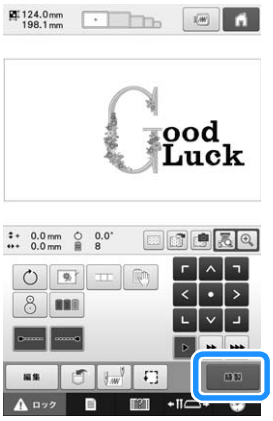
お知らせ

●組み合わせた模様をグループ化したいときは、  を押してください。(P. 184「複数選択した模様をグループ化する」参照)

19 すべての編集が終わったら、編集終了 と 縫製 を押します。



→ 縫製設定画面が表示されます。



- 編集 を押すと編集画面に戻り、編集をし直すことができます。

カメラを使って模様をつなぐ

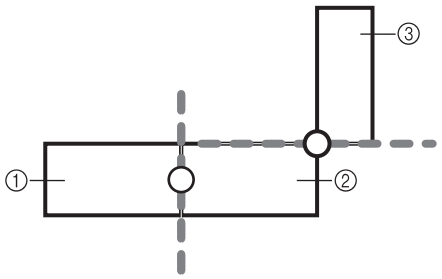
糸印の代わりに内蔵カメラを使用して、刺しゅう模様をつなぐことができます。
カメラを使用する場合、ヨコ 33mm× タテ 17mm の範囲で模様をつなぐことが可能です。刺しゅうの大きさに合わせて、適切な刺しゅう枠を選んでください。特大枠（ヨコ 360mm× タテ 200mm）を使用することをお勧めします。

お願い

- この機能で模様つなぎをする場合、S 枠（ヨコ 60mm× タテ 40mm）、帽子枠、シリンダー枠、縦長枠、クランプ枠、ネーム枠、丸枠は使用できません。
- この機能は、刺しゅう PRO バージョン 7 以降で作成した分割模様には適用できません。
- ミシンが Link モードに設定されている場合は、この機能は使用できません。

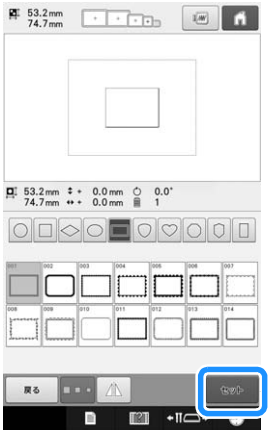
3 つの模様をつなげる

例：

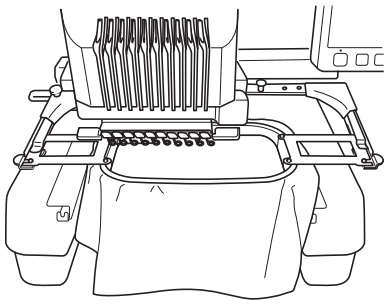


① 模様 A
② 模様 B
③ 模様 C

1 **はじめに模様 A を選び、セット を押します。**



2 **L 枠（ヨコ 180mm× タテ 130mm）に布地を張り、枠をミシンにセットします。**



3 **編集終了 を押して、縫製設定画面に進みます。**
を押します。

- 模様をつなぐためには、必ず を選択してください。

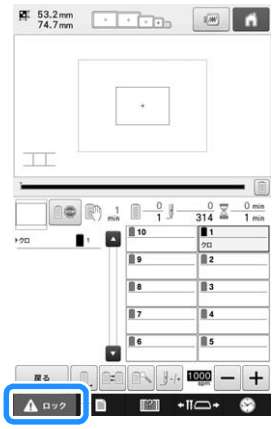


→ 画面左下に が表示されます。
が に変わります。

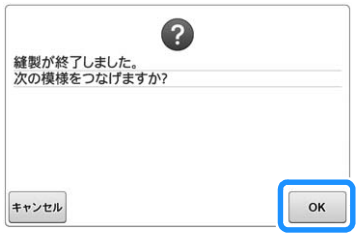
お知らせ

- 模様つなぎ中は、ミシンに模様を記憶することはできません。

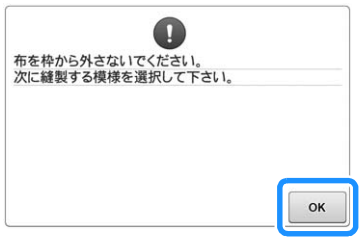
4 縫製、ロックを順に押し、スタート／ストップスイッチを押して、１番目の模様をぬい始めます。



5 １番目の模様がぬい終わると、次のメッセージが表示されます。OK を押します。

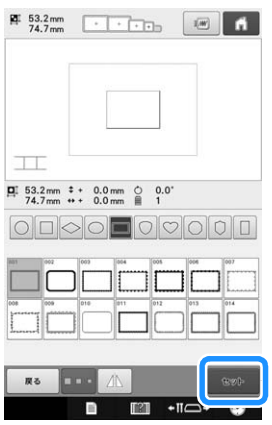


6 次のメッセージが表示されたら OK を押します。

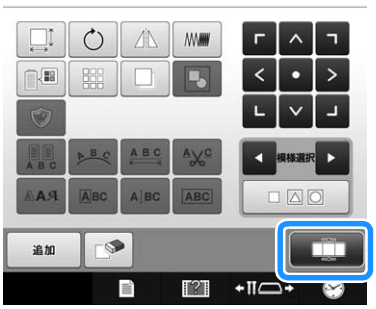


→ メッセージが表示されます。OK を押すと、キャリッジが移動します。

7 ２番目の模様 B を選び、セットを押します。

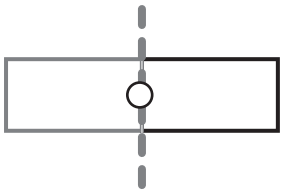


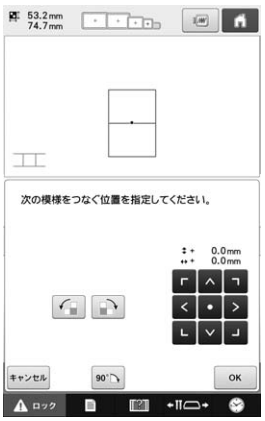
8 を押し、模様のつなぎ方を選びます。



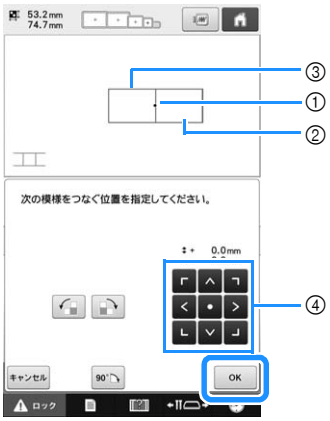
→ 模様つなぎ設定画面が表示されます。

9 １番目と２番目の模様をつなぐ位置を選び、OK を押します。この例では、１番目の模様の右辺を選びます。





- ２番目の模様の位置は、以下のキーを使って調整できます。



① つなぐ位置をタッチします。
② ２番目の模様 B
③ １番目の模様 A
④ ２番目の模様を移動します。

	1 番目の模様を中心として、2 番目の模様を時計回りに回転します。
	1 番目の模様を中心として、2 番目の模様を反時計回りに回転します。
90°	2 番目の模様を時計回りに 90° 回転します。

→ メッセージが表示され、OK を押すと、キャリッジが移動します。

お願い

- 2 番目の模様は、調整なしで自動的に 1 番目の模様に結合されます。2 番目の模様の位置は、を使って調整してください。
- 2 番目の模様の位置は、指または付属のタッチペンでも移動できます。
- 模様をつなぐ位置を変更する場合、1 番目の模様の中心を基準にしたいときは、、または 90° を使用してください。

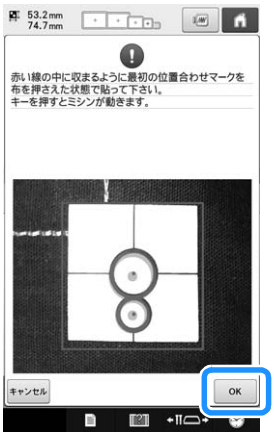
10 位置合わせシールを、2 つ用意します。

内蔵カメラが位置合わせのマークを検出できるように、画面の指示に従って、シールを 2 つ布地に貼ります。

お願い

- 位置合わせシールは、付属のものを使用してください。または、お買い上げの販売店で専用シール (EPS2) を購入してください。上記以外のシールを使用すると、カメラがシールを検出できないことがあります。

11 1 つ目の位置合わせシールを、画面を見ながら、布地に貼り、OK を押します。

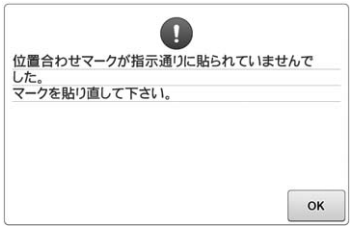


→ 内蔵カメラが、1 つ目の位置合わせシールの検出を開始します。

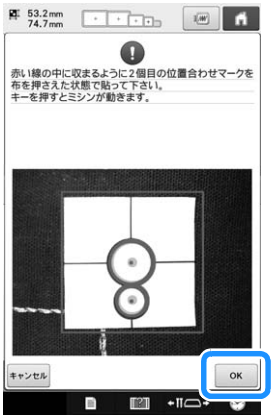
お願い

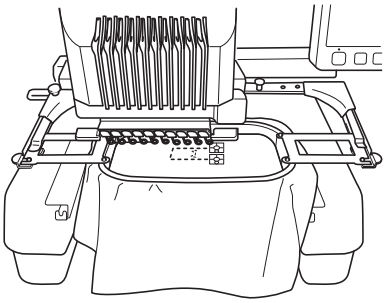
- 位置合わせシールは、常に新しいものを使用してください。一度使用したシールは、はがれやすくなります。検出中にシールがはがれると、模様をつなぐことができません。はがれてしまった場合は、新しいシールを使用して、作業をはじめからやり直してください。
- 位置合わせシールを布地へ貼る際は、指先で四隅をしっかりと押さえ付けてください。シールがしっかり貼られていない場合、カメラが誤検出する可能性があります。
- 次のメッセージが表示された場合は、位置合わせシールを正しい位置へ貼り直してください。その際、大きな円が上側にあることを確認してください。





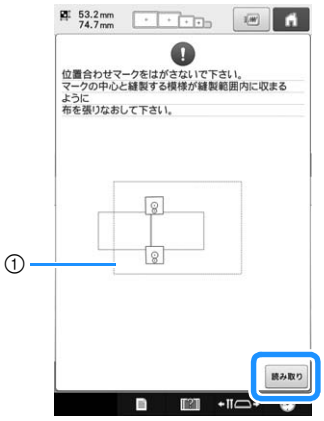
12 2 つ目の位置合わせシールを、画面を見ながら、布地に貼り、[OK] を押します。





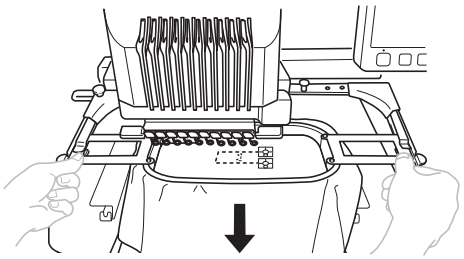
→ カメラが 2 つ目の位置合わせシールの検出を開始します。

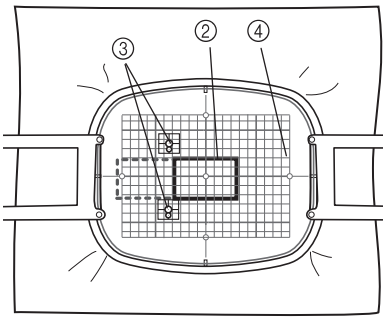
13 2 つの位置合わせシールが検出されると、次のメッセージが表示されます。



① 縫製範囲

2 つの位置合わせシールがはがれないように注意して、ミシンから刺しゅう枠を取り外し、布地を張り直します。その際、2 番目の模様と 2 つのシールが、刺しゅう枠の縫製範囲に収まっていることを確認してください。刺しゅう枠をミシンへセットして、[読み取り] を押します。

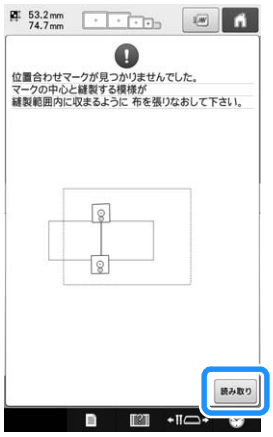


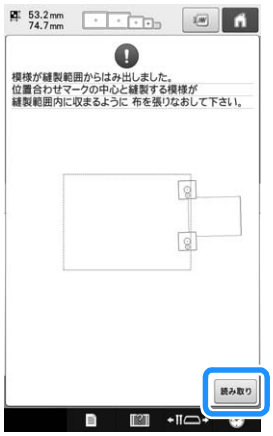


② 次に刺しゅうする模様の位置
③ シールの大きい円の中心
④ 刺しゅうシート
→ カメラが、2 つの位置合わせシールの検出を開始します。

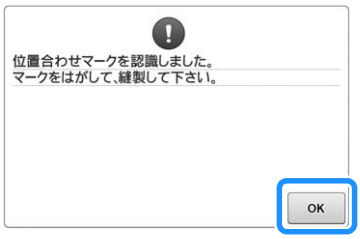
お願い

- 次に刺しゅうする模様とシールの大きな円の中心が縫製範囲に収まらない場合は、大きな刺しゅう枠を使用してください。大きな刺しゅう枠が使用できない場合は、手順 14 へ進み、その後 P.217「位置合わせシールの位置を変更する」に従ってシールを貼り直してください。
- 作業中にシールがはがれると、模様をつなぐことができません。その場合は、作業をはじめからやり直してください。
- 以下のいずれかのメッセージが表示された場合は、布地を張り直してください。画面の指示に従って、次に刺しゅうする模様と 2 つの位置合わせシールを縫製範囲に収めます。読み取り を押して検出を開始します。

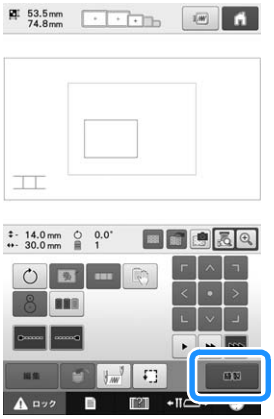




14 2 つの位置合わせシールが検出されると、次のメッセージが表示されます。OK を押し、シールを取り除きます。



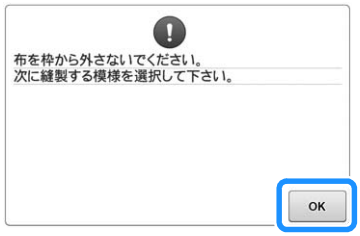
15 縫製、ロック を順に押し、スタート／ストップスイッチを押して 2 番目の模様をぬい始めます。



→ 2 番目の模様がぬい終わると、次のメッセージが表示されます。OK を押します。

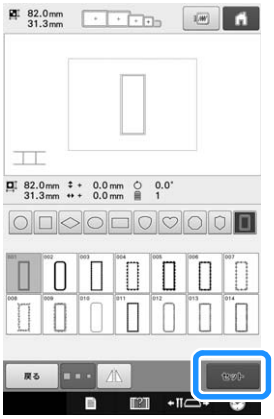


16 次のメッセージが表示されたら、OK を押します。

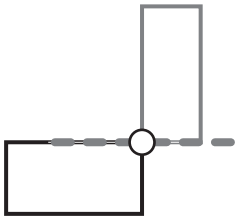


→ メッセージが表示します。OK を押すと、キャリッジが移動します。

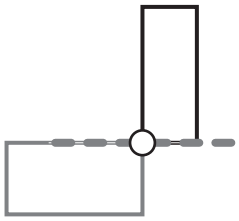
17 3 番目の模様 C を選び、セット を押します。



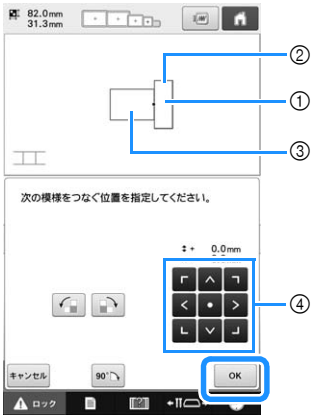
18 を押して、模様つなぎ設定画面を表示します。この例では、2 番目の模様の右辺の上点を選びます。



19 3 番目の模様をつなぐ位置を選び、OK を押します。この例では、2 番目の模様の右上を選びます。



● 直角つなぎの基準を選択した場合は、自動的に模様が回転して表示されます。



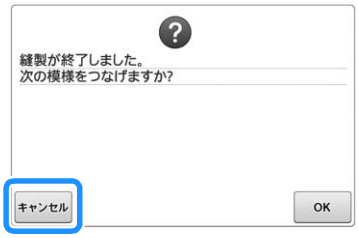
① つなぐ位置をタッチします。
② 3 番目の模様 C
③ 2 番目の模様 B
④ 3 番目の模様を移動します。

20 画面の指示に従い、2 番目と 3 番目の模様について、手順 10 から 14 までを繰り返します。

21 縫製 を押します。

22 ロック を押し、スタート／ストップスイッチを押して 3 番目の模様をぬい始めます。

→ 3 番目の模様がぬい終わると、次のメッセージが表示されます。キャンセル を押して、模様つなぎ機能を終了します。

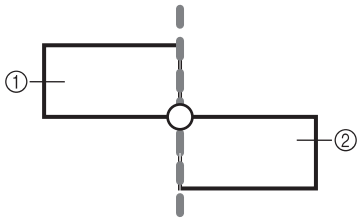


→ 縫い終わると、画面左上に表示されていた が消えます。

3 つの模様をつなぐことができました。
模様を消す場合は を押してください。

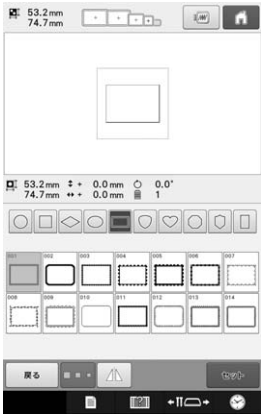
位置合わせシールの位置を変更する

つなげたい模様や位置合わせシールが縫製範囲にうまく収まらない場合は、シールの貼り位置を変更する必要があります。P. 214 の手順 12 の後に表示される画面指示に従って、シールを移動してください。
例として、M 枠（100mm×100mm）を使用して下記のように模様をつなぐ場合は、手順 12 のあとにシールを移動するための指示画面が表示されます。



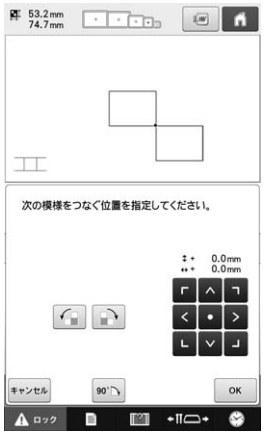
① 模様 A
② 模様 B

1 「3 つの模様をつなげる」の手順 1 から 12 に従って、M 枠（100mm ×100mm）を使用して、1 番目の模様を刺しゅうして 2 番目の模様をつなげます。

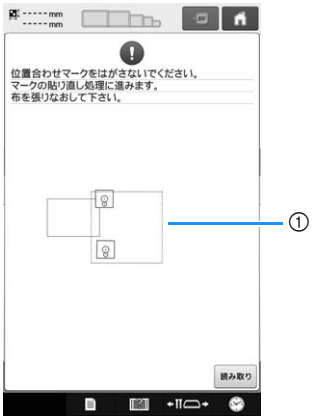


お願い

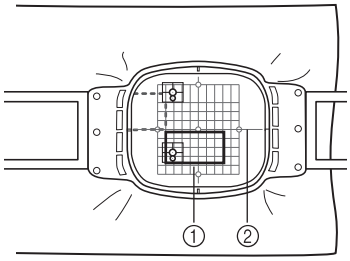
- この例では、「3 つの模様をつなげる」の手順 1 から 12 で選択している模様位置は、次の画面のとおりつながるように変更してください。



2 2 番目の模様、または布地に貼られた位置合わせシールが縫製範囲を超えそうな場合、手順 13 として次のメッセージが表示されます。指示に従い、読み取り を押します。



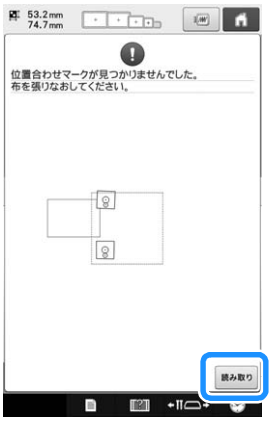
① 縫製範囲



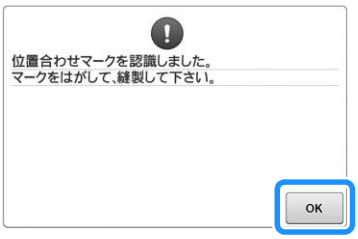
① 次に刺しゅうする模様の位置
② 刺しゅうシート

お願い

●次のメッセージが表示されたら、画面の指示に従って、布地を張り直して OK を押してください。



3 シールの位置が検出されると、次のメッセージが表示されます。OK を押し、シールを取り除きます。

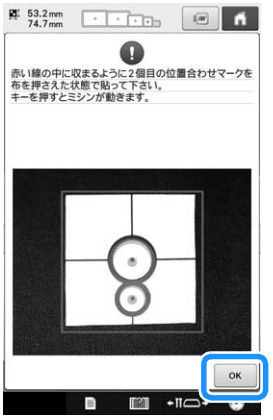


4 画面の指示に従ってシールを貼り直します。指示どおりに貼り直すと、2 番目の模様と 2 つの位置合わせシールは縫製範囲に収まります。



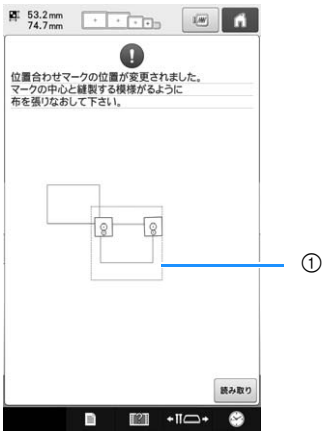
→ OK を押すと、カメラが 1 つ目の位置合わせシールの検出を開始します。

5 2 つ目のシールを貼り、OK を押します。

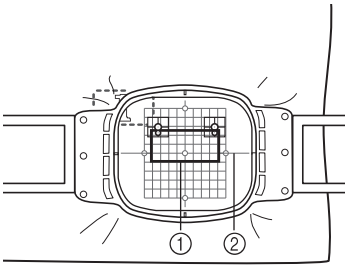


→ カメラが 2 つ目の位置合わせシールの検出を開始します。

6 2 つの位置合わせシールが検出されると、次のメッセージが表示されます。シールがはがれないように注意して、画面に表示された例のように布地を張り直します。



① 縫製範囲



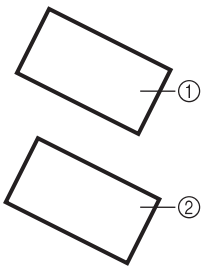
① 次に刺しゅうする模様の位置
② 刺しゅうシート

7 OK を押した後、P. 215 の手順 14 以降の作業を続けます。

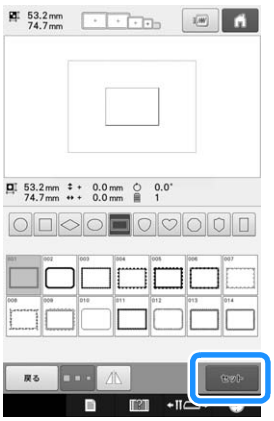
回転した模様をつなぐ

模様を回転することで、模様つなぎのデザインの幅が広がります。ここでは、回転した模様のつなぎ方を説明します。

① 1 番目の模様
② 2 番目の模様

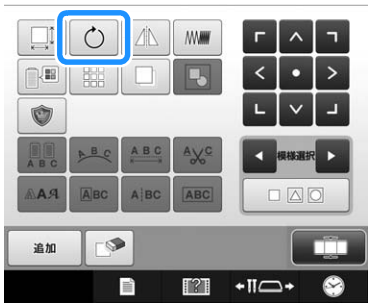


1 模様を選び、セット を押します。

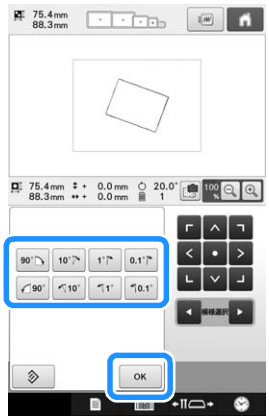


→ 編集画面が表示されます。

2 を押します。



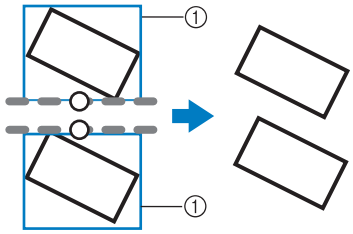
3 模様を回転させ、OK を押します。



お願い

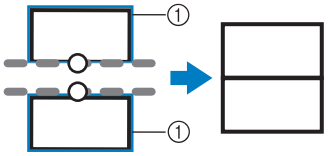
●模様は編集画面で回転させてください。この場合の基準辺と基準点は、模様が内接する最小の長方形（回転なし）にそって設定されます。

長方形と回転した模様



① 長方形

長方形と模様（回転なし）



① 長方形

●縫製設定画面の を押して回転させると、つないだ模様全体が回転します。

4 を押して縫製設定画面に進みます。

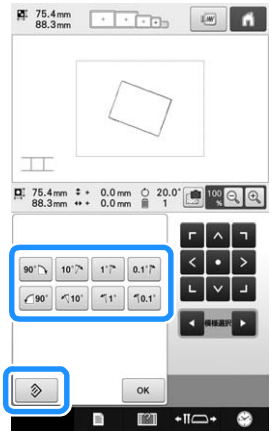
5 を押します。

6 「練習してみましょう（3 つの模様をつなげる）」の手順 4 から 6 に従って、1 番目の模様を刺しゅうします。

7 2 番目の模様を選び、 を押します。

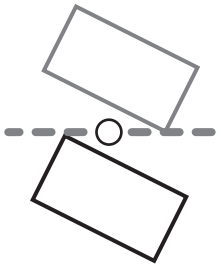
8 編集画面で を押します。

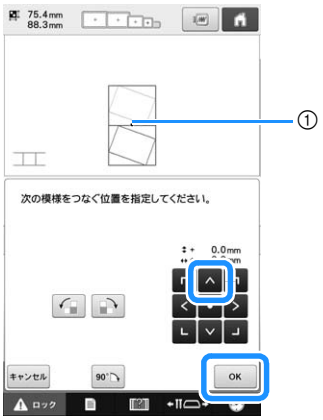
9 1 番目の模様と同じ角度で回転させ、 を押します。



10 を押します。

11 2 番目の模様をつなげる位置を選び、 を押します。





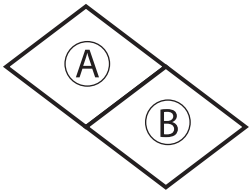
① つなぐ位置をタッチします。

→ メッセージが表示されます。 を押すと、キャリッジが移動します。

12 「3 つの模様をつなげる」の手順 10 以降の手順に従って、模様をつなぎます。

辺にそって模様をつなぐ

つなぐ模様をスライドすることで、刺しゅうのデザイン性に広がりが出ます。ここではそれぞれの辺にそって複数の模様をスライドしてつなげる方法を説明します。模様をつなげるまえに、しつけ設定を使って模様をスライドする距離を確認しましょう。



A: 1 番目の模様
B: 2 番目の模様

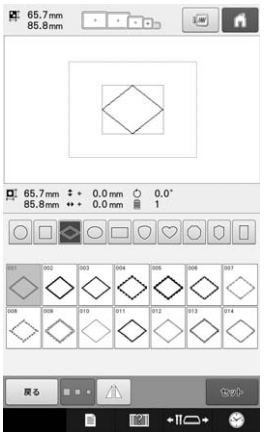
■ 模様をスライドする距離を測る

お願い
●次の手順 1 から 4 は、模様をスライドする距離を測るための手順です。仕上がりの状態を確認するため、実際の布地、色糸と同じものを使用してためしぬいをしてください。

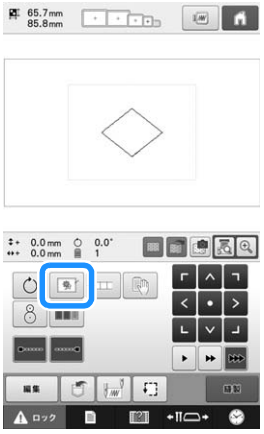
1 設定画面のしつけ設定を「0.0」に設定します。



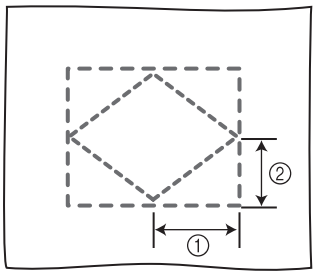
2 スライド距離を測定するため、スライドしたい模様を選びます。



3 縫製設定画面で を押し、しつけ設定を選びます。



4 模様をぬった後、刺しゅう枠から布地を外して、模様をスライドする距離を測ります。



① 水平方向：42.8mm
② 垂直方向：32.8mm

ためしぬい

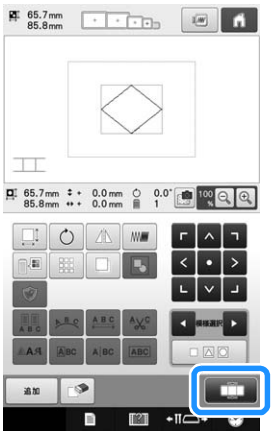
模様をスライドする距離が正しいかを確認するため、ためしぬいをしてください。

1 模様を選び、縫製設定画面へ進みます。

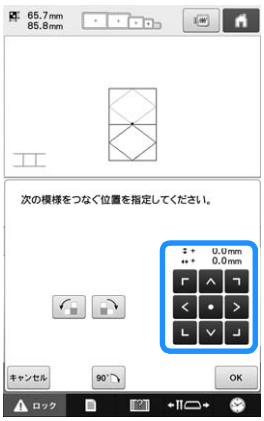
2 縫製設定画面で [ ] を押します。

3 1 番目の模様をぬいます。

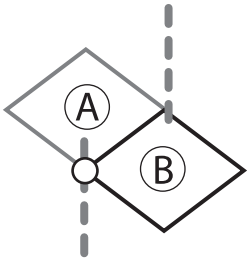
4 「3 つの模様をつなげる」の手順 5 から 8 に従って、2 番目の模様を選びます。

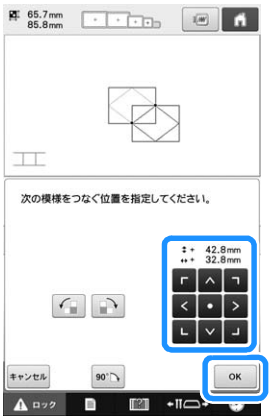


5 「模様をスライドする距離を測る」で測った距離に従って、模様を移動し、[OK] を押します。



6 模様をスライドする距離を設定して [OK] を押します。





→ メッセージが表示されます。[OK] を押すと、キャリッジが移動します。

7 「3 つの模様をつなげる」の手順 10 以降の手順に従って作業を続けます。

お願い

●ためしぬいの結果を確認して問題なければ、本ぬいを行ってください。ためしぬいの結果、スライド距離を調整したい場合は、手順 6 の設定値を変更してください。

レジューム機能

模様つなぎ機能を使用中にミシンの電源を切った場合、再度電源を入れたときにミシンが自動的に中断された作業を再開します。再開する工程は、電源が切られたときの作業段階によって、以下のように分けられます。

例：2 つ模様をつなぐとき

1 番目の模様を選択し、  を押す
1 番目の模様の縫製開始
↓

1 番目の模様の縫製終了（A）
この枠内の工程途中でミシン本体の電源を
切った場合、再度電源を入れると
ミシンは (A) の工程から再開します。



↓
2 番目の模様を選択する
↓
 を押す
↓
模様をつなぐための
基準辺と基準点を設定する
↓
カメラが位置合わせシール（2 箇所）の
検出開始
↓

位置合わせシールの検出完了（B）
この枠内の工程途中でミシン本体の電源を
切った場合、再度電源を入れると
ミシンは (B) の工程から再開します。



↓
布地の張り替え
↓

位置合わせシール（2 箇所）の検出完了



↓
2 番目の模様の縫製開始
↓
2 番目の模様の縫製終了

第 6 章

基本設定とヘルプ機能

P. 48 で紹介した設定キー、ミシンの使い方キーの使用方法を説明します。ミシンの基本設定の変更をしたり、画面上で操作のしかたなどを調べたりできます。

設定キーの使い方 226
設定画面の見方 226
ガイド表示を切り替える 229
糸色表示を切り替える 231
「PES」形式データの糸色情報を優先させる 232
縫製エリアの表示色／模様キーの表示色を変更する 233
渡り糸切り／ DST 設定 233
小ピッチのステッチを削除する 234
糸残り量を設定する 234
刺しゅうしつけ距離を変更する 234
エコモードまたは電源オフサポートモードを設定する 235
スクリーンセーバーの設定を変更する 235
オープニング画面を設定する 237
糸立 LED を設定する 237
針もとライトの明るさを調整する 237
スピーカー音量を変更する 238
糸センサーを設定する 238
USB マウス使用時のポインターの形を変える 238
長さの単位を切り替える 238
画面の明るさを調整する 239
言語を切り替える 239
ミシンの使い方キーの使い方 240
使い方を見る 240
操作説明の動画を見る 241
MPEG-4（MP4）動画を再生する 242

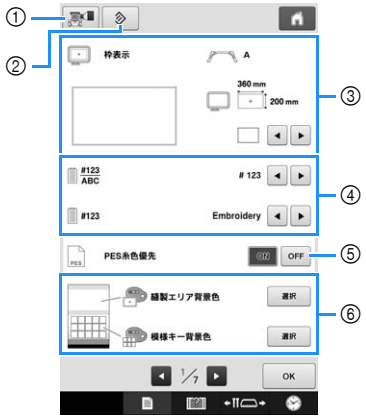
設定キーの使い方

(設定) キーを押すと、いろいろなミシン本体の基本設定を変えることができます

設定画面の見方

設定画面は 7 ページあります。画面下の◀、▶を押して、目的のページを表示します。OK は全ページで表示されます。

■ 1 ページ



① USB メディアに現在の設定画面を画像として保存できます。

② このキーのあるページの設定項目を工場出荷時の内容に戻します。

③ 模様表示エリアのガイド（中心表示（針位置）、グリッド）表示を設定できます。(P. 229 参照)

④ 糸色表示の変更
ぬい順表示や糸替え表示、糸色順表示の色情報は、糸名、糸ブランドおよび糸番号または縫製時間に切り替えることができます。(P. 231 参照)

⑤ PES 糸コード優先
ミシン設定、あるいは刺しゅう編集ソフトウェアの設定に従い、「PES」形式データの糸色を表示することができます。(P. 232 参照)

⑥ 縫製エリアの表示色／模様キーの表示色
刺しゅうの色に応じて、縫製エリアおよび模様キーの表示色を変更すると、より見やすく、選びやすくなる場合があります。(P. 233 参照)

■ 2 ページ



⑦ 渡り糸切り／DST 設定
渡り糸の糸切りする／しないを設定できます。タジマフォーマット（.dst）の刺しゅうデータを使う場合は、ジャンプコード数の指定により糸切りする／しないを設定できます。(P. 233 参照)

⑧ 小ピッチ削除
小ピッチのステッチを削除するときの、ピッチの長さを設定できます。(P. 234 参照)

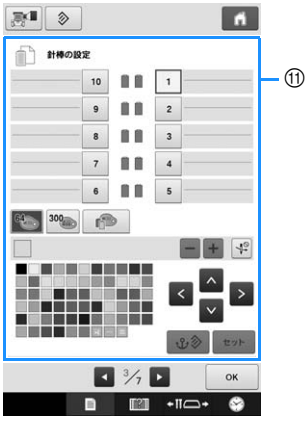
⑨ 糸残り量の設定
糸切り後に針穴に残る（針穴から出ている）上糸の長さを設定できます。(P. 234 参照)

⑩ しつけ設定
模様としつけぬいとの距離を指定します。(P. 136 参照)

お願い

●⑦DST 設定および ⑧ 小ピッチ削除は、新たに設定を変更した場合、それが適用されるのは次の刺しゅうからになります。

■3ページ



⑪ 糸こま固定
特定の針棒に任意の糸色を設定できます。ここで設定された針棒は、解除するまで設定された糸色が割り当てられます。また、特定の針棒に縫製最高速度と、糸通し禁止を設定できます。この機能は縫製画面からは設定できません。設定のしかたは、P.151「手動針棒／縫製速度設定」を参照してください。

■4ページ



⑫ エコモードまたは電源オフサポートモードを設定します。(P. 235「エコモードまたは電源オフサポートモードを設定する」参照)

⑬ スクリーンセーバー
スクリーンセーバーに切り替わるまでの時間を選び、スクリーンセーバーの画像を変更します。(P. 235 参照)

⑭ オープニング画面
ミシンの電源を入れたときにオープニング画面を表示するかしないか（ON／OFF）を設定することができます。

⑮ 糸立 LED 設定
糸立 LED の設定を変更できます。縫製の糸色を表示したり、エラーの内容や糸コマ交換をお知らせします。(P. 237 参照)

⑯ ライト
針もとライトの明るさを調整することができます。(P. 20 または P. 237 参照)

⑰ スピーカー
操作音および警告音の音量を調節できます。(P. 21 または P. 238 参照)

■ 5 ページ



⑱ Link（リンク）
Link 機能の ON ／ OFF が設定できます。
(P. 178 参照)

⑲ 手動糸色割付
手動糸色割付機能の ON ／ OFF が設定できます。
(P. 140 参照)

⑳ 糸センサー
糸センサーの ON ／ OFF を設定します。 (P. 238 参照)

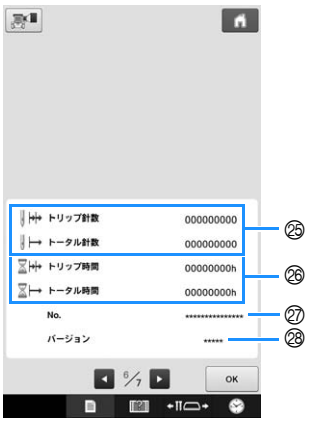
㉑ マウスポインター
USB マウスを使用している場合は、ポインターの形を変更します。 (P. 238 参照)

㉒ 単位
画面に表示される長さの単位を設定できます。
(P. 238 参照)

㉓ 画面の明るさ
液晶画面の明るさが調整できます。
(P. 239 参照)

㉔ 言語
言語の切り替えができます。指定した言語でキーやメッセージが表示されます。 (P. 239 参照)

■ 6 ページ



㉕ トータル針数カウンターは、ぬわれた針数の総数を示し、トリップ針数カウンターは、ミシンの前回のメンテナンス以降にぬわれた針数を示します。

㉖ トータル時間カウンターは、ミシンがこれまでに使用された総時間を示し、トリップ時間カウンターは、前回のメンテナンス以降にミシンが使用された時間を示します。

＊ ㉕、㉖ のカウンター数値は、ミシンの定期メンテナンスを受けられる時期の目安としてご利用ください。

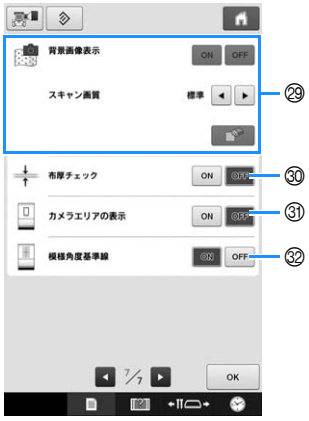
㉗「プロダクト No. ##」は、このミシンの番号です。

㉘ バージョン
このミシンにインストールされているソフトウェアのバージョンを示します。 (P. 306 参照)

お願い

●ミシンのアップデートについては、「PR/VR 専用ダイヤル」にお問い合わせいただくか、「http://support.brother.co.jp/」をご覧ください。

■7ページ



㉙ 背景画像表示
背景に布地を表示する／しないを設定できます。
詳しくは、P.109「布地を表示して縫製位置を合わせる」を参照してください。

㉚ 布厚チェック
布地をスキャンして背景画像として表示するとき、厚手の布地を使う場合に、カメラが布地を正しく認識できるように布地の厚さを確認します。
詳しくは、P.111「厚い布地をスキャンする場合」を参照してください。

㉛ 縫製設定画面で、カメラに表示される範囲を青い枠で示します。

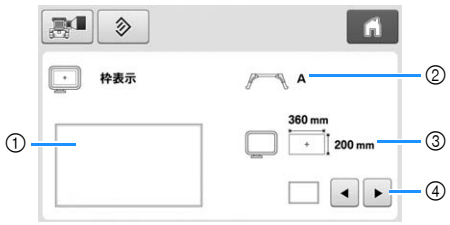
㉜ カメラ画面にグリッド線を表示します。模様の角度を調整するのに便利です。

次の項から、各設定の説明をします。設定をし終わったら、OK を押して、設定画面を開く前の画面に戻ってください。

お知らせ
●縫製中に変更できない設定もあります。

ガイド表示を切り替える

模様表示エリアに表示されるガイドは、表示を切り替えることができます。台枠と刺しゅう枠の種類は、実際にセットしている台座と刺しゅう枠を自動で認識して表示します。
設定画面の１ページで設定します。



① 設定するガイドがどのように表示されるか、ここで確認します。

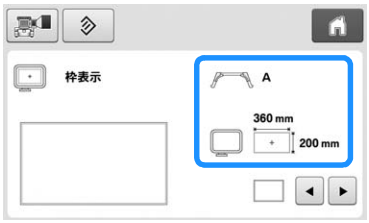
② 台枠の種類
台枠の種類を表示します。

③ 枠範囲
実際にセットしている刺しゅう枠の大きさを表示します。

④ 中心表示、グリッド表示
中心表示、グリッド表示の種類と表示／非表示を設定します。

■台枠の種類

設置されている台枠を自動で認識して表示します。
台枠が設定されていない場合、「帽子枠／シリンダー枠」が表示されます。



台枠 A（付属）	A
台枠 B（付属）	B
台枠 C（別売）	C
台枠 D（別売）	D
台枠 E（別売）	E
帽子枠／シリンダー枠（別売）	

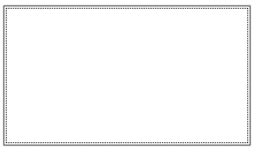
P.97「刺しゅう枠／台枠の種類と用途」を参照してください。

■ 刺しゅう枠のサイズ

設置されている刺しゅう枠を自動で認識して表示します。

A

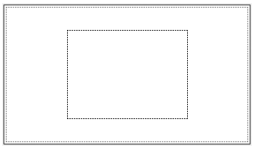
特大枠
[360mm × 200mm]



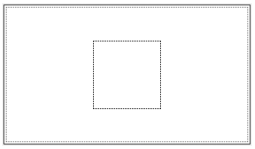
LL 枠（別売）
[300mm × 200mm]



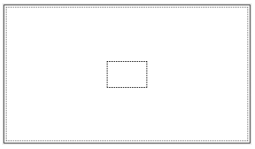
L 枠
[180mm × 130mm]



M 枠
[100mm × 100mm]

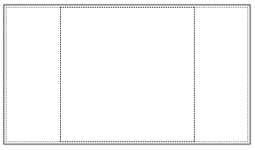


S 枠
[60mm × 40mm]

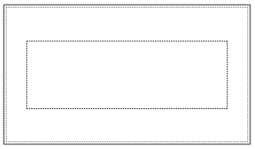


B

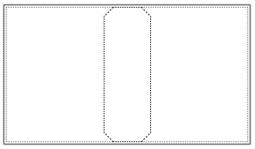
キルト枠（別売）
[200mm × 200mm]



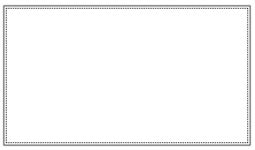
ボーダー枠（別売）
[300mm × 100mm]



縦長枠
[70mm × 200mm]



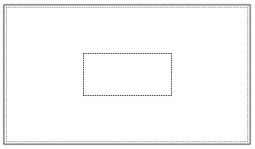
ジャンボ枠（別売）
[360mm × 360mm]



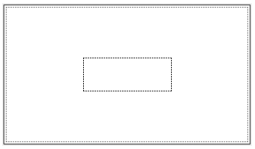
帽子枠ワイドタイプ
（別売）
[360mm × 60mm]



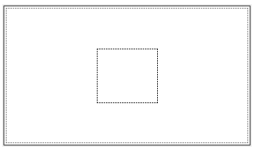
帽子枠 2（別売）
[130mm × 60mm]



帽子枠（別売）
[130mm × 50mm]

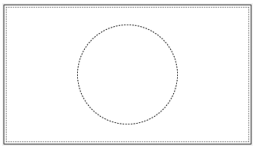


シリンダー枠（別売）
[90mm × 80mm]

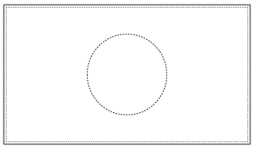


C

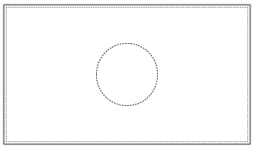
丸枠（別売）
[160mm 径]



丸枠（別売）
[130mm 径]

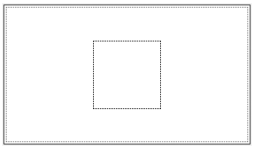


丸枠（別売）
[100mm 径]

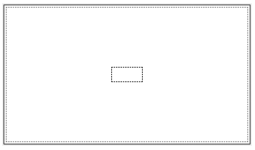


D

クランプ枠 M
[100mm × 100mm]

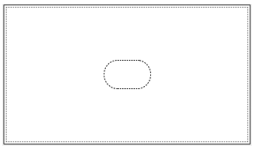


クランプ枠 S ／ SL ／ SR
[45mm × 24mm]

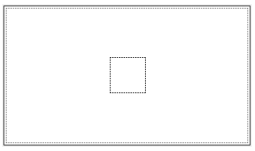


E

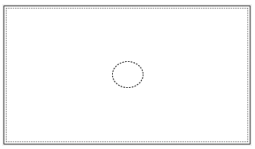
ネーム枠（70）
[70mm × 41mm]



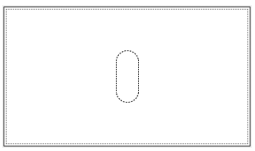
ネーム枠（50）
[50mm × 50mm]



ネーム枠（44）
[44mm × 38mm]



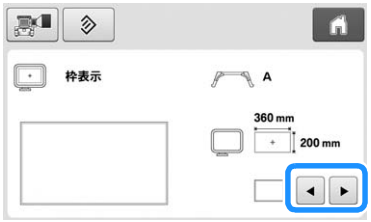
ネーム枠（縦向き）
[38mm × 75mm]



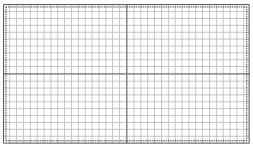
■ 中心表示、グリッド

中心表示は、赤色の＋マークで表示されます。購入時は、「OFF」に設定されています。

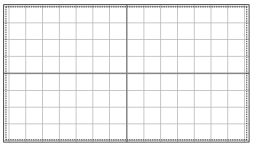
1 ◀または▶で、中心表示とグリッドの種類と表示／非表示を選びます。



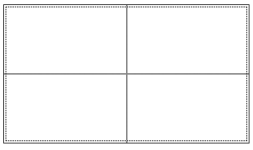
グリッド線
（10mm 幅）のみ



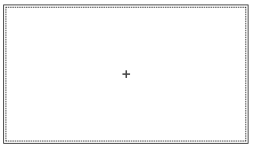
グリッド線
（25mm 幅）のみ



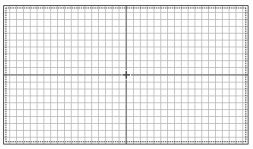
十字線のみ



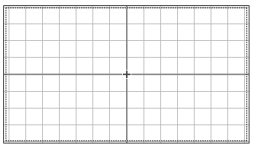
中心表示のみ



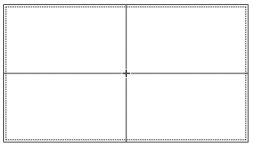
中心表示とグリッド線
（10mm 幅）



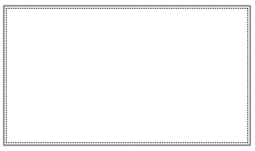
中心表示とグリッド線
（25mm 幅）



中心表示と十字線



表示なし



糸色表示を切り替える

糸色の名前、刺しゅう糸番号または刺しゅう時間を表示させることができます。
購入時は、糸色番号（#123）に設定されています。
設定画面の 1 ページで設定します。

1 ◀または▶を押すと、糸色の名前、刺しゅう糸番号または刺しゅう時間が表示されます。



6

2 糸番号［#123］が表示されているときに◀または▶で、次の 6 種類の刺しゅう糸ブランドから選びます。



■ 表示例

糸色番号（#123）

ブラザー刺しゅう糸（ウルトラポス）

513 Embroidery	1
515 Embroidery	2
807 Embroidery	3
800 Embroidery	4

カントリー糸

444 Country	1
446 Country	2
158 Country	3
149 Country	4

Madeira Poly（Polyester）

1848 Madeira Poly	1
1770 Madeira Poly	2
1986 Madeira Poly	3
1637 Madeira Poly	4

Madeira Rayon（Rayon）

1049 Madeira Rayon	1
1369 Madeira Rayon	2
1081 Madeira Rayon	3
1037 Madeira Rayon	4

Sulky（Rayon）

1177 Sulky	1
1176 Sulky	2
1511 Sulky	3
1037 Sulky	4

Robison-Anton（Polyester）

5622 R-A Poly	1
9091 R-A Poly	2
5561 R-A Poly	3
5678 R-A Poly	4

糸色名

キミドリ	1
モスグリーン	2
ベニイロ	3
アカ	4

時間

2	min	1
1	min	2
1	min	3
1	min	4

お知らせ

- 通常、ぬい順表示や模様表示エリアの模様の糸色は、専用色（ミシン内蔵の色パレットの色）で表示されます。ぬい順表示や色替え表示、糸色順表示の糸番号は、その色に一番近い、ここで設定したブランドの色番号が表示されます。したがって、仕上がりの色とは多少色味が異なっていることがあります。
- 液晶画面で表現される色と実際の糸色は異なることがあります。

「PES」形式データの糸色情報を優先させる

ミシン設定、または刺しゅう PRO・ハートステッチズ DL（刺しゅう編集ソフトウェア）の設定に従い、「PES」形式データの糸色を優先して表示することができます。
（糸色のミシン設定については、P.231「糸色表示を切り替える」を参照してください。）
設定画面の 1 ページで設定します。
ON：刺しゅう PRO・ハートステッチズ DL（刺しゅう編集ソフトウェア）に従った糸色情報の表示
OFF：ミシン設定に従った糸色情報の表示
購入時は、「ON」に設定されています。

1 ON または OFF を押して設定します。



- 1 回押すごとに ON ／ OFF が切り替わります。

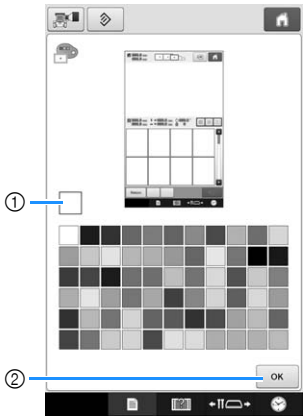
縫製エリアの表示色／模様キーの表示色を変更する

模様の色に応じて、66 色の中から背景色が選べます。縫製エリアの表示色と模様キーの表示色には、異なる色を選ぶことができます。
購入時は、白に設定されています。
設定画面の 1 ページで設定します。

1 選択 を押します。



2 66 色から表示色が選べます。



① 選択された色

② OK を押すと設定画面に戻ります。

お知らせ
- この設定はミシンの電源を切った後も、保持されます。

渡り糸切り／DST 設定

渡り糸の糸切りする／しないを設定できます。タジマフォーマット（.dst）の刺しゅうデータを使う場合は、ジャンプコード数の指定により糸切りする／しないを設定できます。
ON： 次のラインで指定された数に基づいて、糸切りコードに変換する
OFF： 糸切りコードに変換しない
購入時は「ON」、ジャンプコード回数「3」に設定されています。
設定画面の 2 ページで設定します。

お願い
- 新たに設定を変更した場合、それが適用されるのは次の刺しゅうからになります。

1 ON または OFF を押して設定します。



- 1 回押すごとに ON ／ OFF が切り替わります。

お願い
- アルファベットの文字模様は、渡り糸切りを設定することはできません。(P. 190「文字間で糸を切る」参照)

お知らせ
- タジマフォーマット（.dst）の刺しゅうデータ以外のデータでは、ジャンプコード回数を指定することはできません。

■ タジマフォーマット（.dst）の刺しゅうデータを使用する場合

2 **「ON」に設定したときは＋ －を押し、フィード回数を選びます。**

希望の数値を表示させます。



- 指定できる範囲は 1 ～ 8 です。
  例えば、3 が指定されると、連続した 3 つのジャンプコードが糸切りコードに変換されます。しかし、連続した 2 つのジャンプコードは糸切りコードに変換されず、渡り（ジャンプ）ぬいのようにぬわれます。

お願い
- 特定のタジマフォーマットを作成したときに使用した番号と、同じジャンプコード番号を設定してください。ジャンプコード番号が合わないと、糸切りされないはずのところでされる、糸切りされるはずのところでされない、ということがあります。

小ピッチのステッチを削除する

当社正規の模様以外の刺しゅうデータを使用すると、ピッチが細かすぎる場合があり、糸切れや針折れが発生するおそれがあります。このようなことを防ぐために、あらかじめ細かいピッチのステッチを削除するように設定することができます。ここで設定したピッチ以下のステッチが削除されます。
購入時は 0.3mm に設定されています。
設定画面の 2 ページで設定します。

1 **＋または－で、ピッチの大きさを選びます。**

希望の大きさを表示させます。



- 指定できる範囲は、長さの単位が mm の場合は 0 ～ 1mm、インチの場合は 0 ～ 0.04 インチです。

お願い
- 新たに設定を変更した場合、それが適用されるのは次の刺しゅうからになります。

糸残り量を設定する

糸切り後に針穴に残る（針穴から出ている）上糸の長さを、「糸切り標準」、「糸切り長く」から選ぶことができます。
購入時は、「糸切り標準」に設定されています。
設定画面の 2 ページで設定します。

1 **◀または▶で、糸残り量を選びます。**

希望の長さを表示させます。



- 糸切り後の糸残りが短く、次にうまくぬえない場合は、「糸切り長く」に設定してください。
- 金糸、銀糸を使う場合は、「糸切り長く」に設定してください。

刺しゅうしつけ距離を変更する

刺しゅう模様としつけぬいの距離は、0.0mm から 12.0mm の間で設定できます。
購入時は 5.0mm に設定されています。この機能を使用する場合は、P. 136「刺しゅうのしつけぬい」参照を参照してください。
設定画面の 2 ページで設定します。

1 **－ ＋を押して、模様としつけぬいの距離を設定します。**



エコモードまたは電源オフサポートモードを設定する

エコモードまたは電源オフサポートモードを設定すると、ミシンの電力を節約することができます。特定の時間、本機を使用しないでいると、次のいずれかのモードに入ります。

エコモード：

スリープモードに入ります。刺しゅうを続けるには、画面に触れるか、スタート／ストップスイッチを押します。

電源オフサポートモード：

一定期間後に電源が切れます。刺しゅうを再開するには、一度電源を切り、再度電源を入れます。

ミシンの状態	エコモード	電源オフサポートモード
設定可能な時間	OFF、10 ～ 120 (分)	OFF、1 ～ 12 (時間)
スタート／ストップスイッチ	緑色の点滅	緑色のゆっくりした点滅
停止する機能	ライト、画面表示	全機能
復帰後	停止前の動作から再開します。	電源を切る必要があります。

これらのモードから復帰するには、スタート／ストップスイッチを押すか、画面に触れてください。

設定画面の 4 ページで設定します。

1 ◀または▶でモードに入るまでの時間を選びます。



お願い

- ミシンがエコモードまたは電源オフサポートモードに入っている間に電源を切った場合は、約 5 秒待ってから再度電源を入れてください。

スクリーンセーバーの設定を変更する

■ スクリーンセーバーが表示されるまでの時間を設定する

ミシンを一定時間操作しないと、スクリーンセーバーが起動します。

「切」(0) から「60」分までの間で、1 分単位で指定することができます。

購入時は、「5 分」に設定されています。

設定画面の 4 ページで設定します。

1 ◀または▶で、時間を選びます。



■ スクリーンセーバーの画像を変更する

ミシンのスクリーンセーバーにお好みの画像を使用することができます。

スクリーンセーバー画像を変更する前に、パソコンか USB メディアにその画像を保存してください。

購入時は、ミシンにあらかじめ設定されている画像が使用されます。

設定画面の 4 ページで設定します。

対応している画像ファイル

ファイル形式	JPEG 形式（.jpg）
ファイルサイズ	1 ファイル最大 2MB
解像度	800 × 1280 ピクセル以下（幅が 800 ピクセルより大きいときは自動的に 800 ピクセルまで縮小されます。）
設定できるファイル数	5 ファイルまで

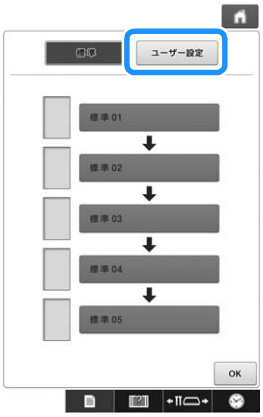
お願い

- スクリーンセーバー画像は、著作権に抵触しない範囲でご使用ください。
- SD カードに保存された画像は、スクリーンセーバーに選択することはできません。パソコンか USB メディアを使用してください。
- ファイル選択時、ミシンからはパソコン、または USB メディアのフォルダー階層を認識することができます。

1 選択 を押します。



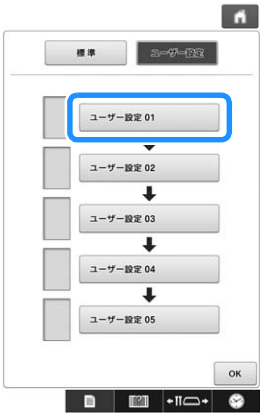
2 ユーザー設定 を押します。



3 画像が保存されているUSBメディアまたはパソコン（USBケーブルを使用）をミシンのUSBポートに接続します。

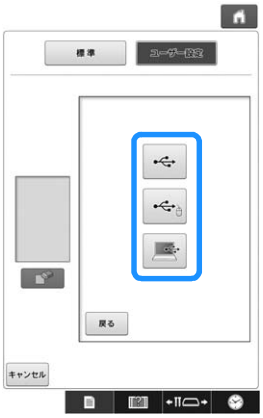
- USBの接続方法については、P. 88を参照してください。

4 ユーザー設定 01 を押し、最初の画像を選びます。



- この画面の一覧に画像が表示されます。番号を選んで画像を指定します。

5 接続されている装置を選びます。



- 1番目（上）のUSBポートにUSBメディアを接続している場合は を押します。
- 中央ポートにUSBメディアを接続している場合は を押します。
- USBケーブルを使用してパソコンを接続している場合は を押し、パソコンのデスクトップに表示されている「リムーバブルディスク」に設定しようとしている画像をコピーします。

→ 画面に画像の一覧が表示されます。

- を押すと、選んだ画像を削除します。
- 戻る を押すと、前画面に戻ります。

6 ファイル名を押して画像を選んでから セット を押します。



→ 選択された画像がミシンに記憶されます。

- 戻る を押すと、前画面に戻ります。

7 手順 4 に戻って、次（残り）の画像を選びます。

オープニング画面を設定する

ミシンの最初の画面を設定することができます。オープニング画面を「ON」に設定すると、ミシンの電源を入れた時にオープニング画面が表示されます。画面に触れると最初の模様選択画面が表示されます。
購入時は、「ON」に設定されています。
設定画面の 4 ページで設定します。

1 ON または OFF を押して設定します。



糸立 LED を設定する

ミシンが止まったときや糸こま交換が必要なとき、エラーが発生したときなどに、糸立 LED が光って知らせてくれます。「OFF」または「1」「2」に設定できます。
設定画面の 4 ページで設定します。

1 ◀ または ▶ で、設定を選びます。



OFF	糸立 LED 機能を OFF にします。
1	ぬい始め、糸こま交換時、エラー発生時など、特別な状態を示して、点灯します。
2	糸色と特別な状態を示して、常に点灯します。

■ 糸立 LED の点灯／点滅について

x2→	糸こま交換を示します。(糸色の類似色で点灯します。黒色の場合は消灯します。)
x2 ↔ x2	糸切れエラーを起こした糸こまを示します。
x2 ↔ OFF	縫製エラー
	縫製終了

針もとライトの明るさを調整する

針もとライトの「OFF」(消灯) または、明るさを「1」から「5」の照度で調整できます。購入時は、「5」に設定されています。
設定画面の 4 ページで設定します。

1 + または − で、「OFF」または明るさを選びます。



→ お好みの明るさになっているかどうか、針もとライトを確認してください。

スピーカー音量を変更する

操作音（画面のキーや操作パネルのボタンを押したときに鳴る音）やアラーム音（エラーの発生を通知する音）の音量を変更することができます。
スピーカー音量は、「OFF」か「1」～「5」の範囲で設定できます。「OFF」を選択すると、スピーカーから音が聞こえなくなります。
購入時は、「5」に設定されています。
設定画面の 4 ページで設定します。

1 **−または＋で、スピーカー音量を選びます。**



→ キーを押して操作音を鳴らし、希望の音量が選択されていることを確認してください。

糸センサーを設定する

糸センサーが「OFF」に設定されていると、糸が切れるか、ボビンに糸がなくなっても、刺しゅうが終わるまでミシンは停止しません。糸センサーは、「OFF」に設定する必要がある場合を除き、必ず「入」に設定してください。
購入時は、「ON」に設定されています。
設定画面の 5 ページで設定します。

1 **ONまたはOFFを押して設定します。**



お願い
●通常は、糸センサーを「ON」に設定します。糸センサーが「OFF」に設定されていると、上糸がからまってもミシンが検出できません。糸がからまったままミシンの使用を続けると、ミシンが破損するおそれがあります。

USB マウス使用時のポインターの形を変える

USB マウスを接続しているときに表示されるポインターの形を選択することができます。
背景の色に応じて、3 種類の形の中から選べます。
購入時は、▶ に設定されています。
設定画面の 5 ページで設定します。

1 **◀または▶で、3 種類（▶、▷、▶）の中からポインターの形を選びます。**



お知らせ
●この設定はミシンの電源を切った後も、保持されます。

長さの単位を切り替える

長さの単位を、mm、inch から選ぶことができます。
購入時は、「mm」に設定されています。
設定画面の 5 ページで設定します。

1 **◀または▶で、単位を選びます。**
希望の単位を表示させます。



画面の明るさを調整する

液晶画面の明るさが調整できます。数字が大きい方が明るくなります。
購入時は、「4」に設定されています。
設定画面の５ページで設定します。

1 **−または＋で、明るさを調整します。**

画面を見ながら、希望の明るさになるように調整します。



言語を切り替える

画面の表示言語を選ぶことができます。
購入時は、「日本語」に設定されています。
設定画面の５ページで設定します。

1 **◀または▶で、言語を選びます。**

希望の言語を表示させます。



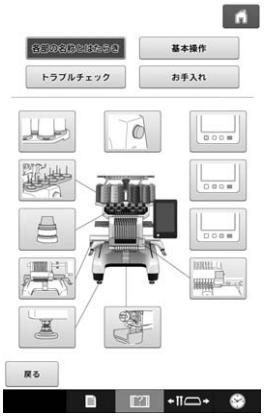
ミシンの使い方キーの使い方

このミシンに、ミシンの基本操作など取扱説明書に準じた内容が記憶されています。(ミシンの使い方キー）を押して「使い方」または「動画」を選ぶと、その内容を確認することができます。

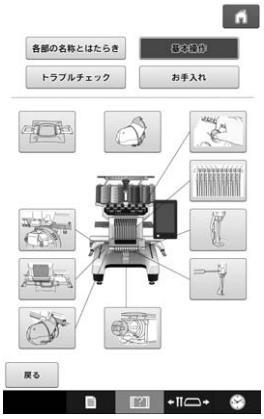
使い方を見る

■ 各項目の内容

各部の名前とはたらき
ミシンの重要な部品とそれぞれのはたらきを表示して説明します。



基本操作
基本的な糸かけおよび枠張りの操作方法などを図示します。



トラブルチェック
問題解決のための基本的なガイドです。

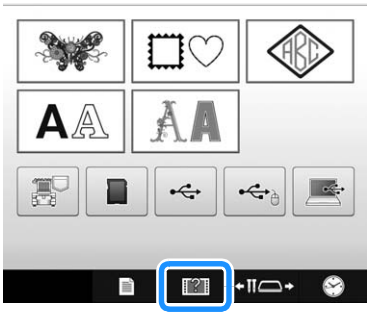


お手入れ
ミシンのメンテナンス方法を示します。



例）上糸の通し方を知りたいとき

1 を押します。



→ ミシンの使い方画面が表示されます。

2 使い方 を押します。



3 基本操作 を押します。



→ 基本操作の一覧が表示されます。

4 を押します。



→ 上糸通しの手順が表示されます。

5 説明を読みます。

＊ ▶ を押すと、次のページが表示されます。

＊ ◀ を押すと、前のページが表示されます。

6 OK を押して元の画面に戻ります。

操作説明の動画を見る

このミシンでは、操作説明の動画を見ることができます。文とイラストによる「使い方」とあわせて、操作の理解にお役立てください。

1 を押します。

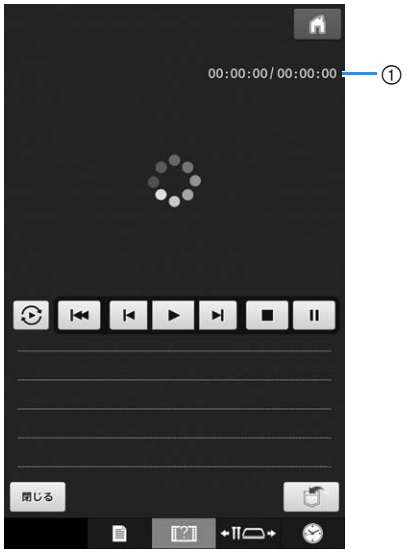
2 動画 を押します。

3 見たい動画のタイトルを押します。



→ 選んだ動画が再生されます。

4 動画を再生します。



① 経過秒数／トータル秒数

操作キー

▶	再生
■	停止
⏸	一旦停止
⏮	10 秒戻る
⏭	10 秒送る
⏮	はじめに戻る
🔁	繰り返し
	ビデオ削除（ミシン本体から再生している場合）
	ミシンに保存（USB メディアから再生している場合）

お知らせ

●よく見るビデオは、ミシンの（お気に入り）に保存し、そこから再生することができます。

5 動画の再生が終わったら、閉じるを押します。

MPEG-4（MP4）動画を再生する

ご自分の MP4 動画を、USB メディアから再生できます。また、例えば、作品づくりの参考になる MP4 動画をミシンに保存し、見たいときに再生することもできます。

再生できる動画

MP4 形式：Video - H.264 ／ MPEG-4 AVC、Audio - AAC
サイズ：450（縦）×800（横）

お知らせ

●MP4 動画のサイズは、画面に合わせて拡大・縮小されます。

●MP4 ファイルの種類によっては、再生できないことがあります。

1 を押します。

2 動画を押します。

3 動画が保存されているデバイスを選択します。



：操作説明の動画を再生します。

：ミシンに保存した動画（お気に入り）を再生します。

：USB ポートに接続した USB メディアから動画を再生します。

：マウス用 USB ポートに接続した USB メディアから動画を再生します。

：ミシンに挿入した SD カードから動画を再生します。

＊ 前の画面に戻るには、戻る を押します。

4 再生したい動画を選択します。



＊ 前の画面に戻るには、戻る を押します。

5 動画を再生します。

＊ 操作キーで操作します。（P. 241「操作説明の動画を見る」参照）

お願い

●ミシンには、約 1GB までの MP4 動画が保存できます。保存できる容量を超える場合は、不要な動画を削除してください。

6 動画の再生が終わったら、戻る を押します。

第 7 章

付録

応用ぬいのテクニックや、きれいな刺しゅうに仕上げるためのポイント、ミシンのお手入れと困ったときの対処方法などを紹介します。

アップリケぬい 246
アップリケ模様のぬい方 246
枠模様を使ってアップリケをするには（1） 247
枠模様を使ってアップリケをするには（2） 248
分割模様をぬう 249
豆知識 252
内蔵模様で糸調子を確認する 252
布地のラインに合わせて模様をぬう 253
色パレットについて 254
タジマフォーマット（.dst）の刺しゅうデータの色について 255
きれいな刺しゅうに仕上げるために 256
糸 256
接着芯 256
枠張りのテクニック 257
布／接着芯の適合表 258
付属のテーブルを取り付ける 259
テーブルの取り外し方 261
別売のジャンボ枠で刺しゅうする 262
帽子枠（別売）を使う 266
帽子枠と付属品 266
帽子の種類 267
布地に関する注意 268
帽子枠を使うための準備 268
帽子枠のセットのしかた 273
台枠の取り付け方 279
刺しゅうデータ作成上の注意 280
お手入れ 282
画面の汚れの掃除 282
本体表面の掃除 282
釜の掃除 282
針板まわりの掃除 283
ボビンケースの掃除 284
上糸の糸道の掃除 285
ミシンに注油する 286
メンテナンスメッセージについて 287
困ったとき 288
トラブルチェック機構 288
トラブルチェック 289
エラーメッセージ 297
キーを押しても反応しないときは 304
仕様 305
本体仕様 305
ミシンのソフトウェアをアップグレードする 306
USB メディアを使用したアップグレード手順 306
パソコンを使用したアップグレード手順 307
索引 309

アップリケぬい

アップリケのぬい方を説明します。

アップリケ模様のぬい方

刺しゅうの中にはアップリケを使用した模様があります。糸替え表示に「アップリケピース」、「アップリケノイチ」、「アップリケ」と表示された場合は、以下の手順でアップリケをします。「アップリケピース」、「アップリケノイチ」、「アップリケ」は同じ針棒に割り振られます。

* 糸色表示設定によって 1 1 または 1 のように表示されることがあります。

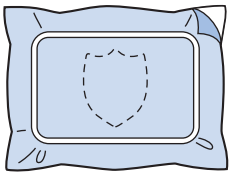


① ミシンが停止する位置に マークが表示されます。

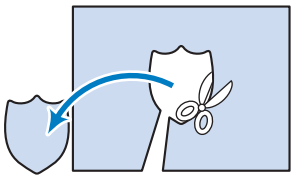
■ アップリケの手順

1 アップリケをしたい布地の裏側に、接着芯を貼ります。

2 手順 1 のアップリケ布を刺しゅう枠に張り、「アップリケピース」をぬいます。アップリケピースの切り取り線をぬってミシンは止まります。

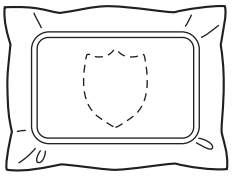


3 刺しゅう枠からアップリケ布を外し、ぬい目の上をていねいに切り取ります。

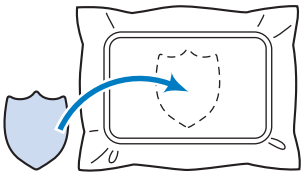


- このときぬい目よりも内側を切ると、アップリケをするときに布地に糸がかからなくなりますので、ぬい目の上をていねいに切ってください。この作業をていねいに行わないと仕上がりが汚くなります。また、糸はきれいに取り除いてください。

4 アップリケの土台布を刺しゅう枠に張り、「アップリケノイチ」をぬいます。アップリケの位置をぬって、ミシンは止まります。

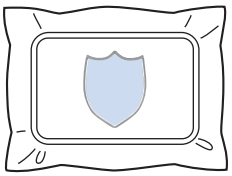


5 切り取ったアップリケピースの裏側に、のりまたはスプレーのりを薄く付け、手順 4 の「アップリケノイチ」に合わせて貼り付けます。



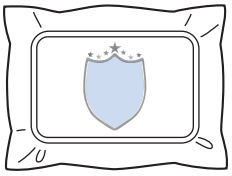
- 可溶性の布を使ってアップリケピースを土台布に貼り付ける場合は、土台布を刺しゅう枠から外さずにアイロンをかけてください。

6 アップリケピースを貼り付けたら、「アップリケ」をぬいます。アップリケができます。



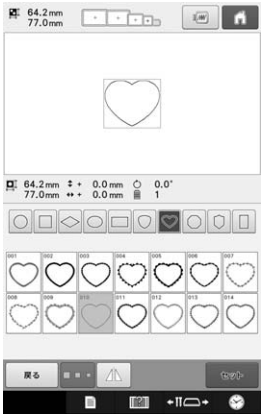
- 模様によっては、「アップリケ」が表示されないものがあります。この場合、「アップリケ」ぬいは、刺しゅうの１部分として糸色で表示され、その糸色でぬわれます。

7 残りの刺しゅうをぬいます。

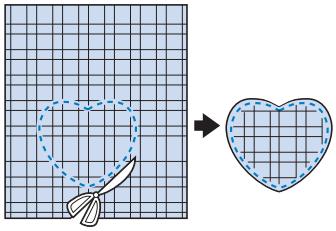


枠模様を使ってアップリケをするには（1）

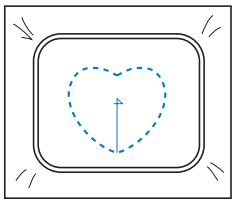
同じ形で同じ大きさの直線ぬいとサテンぬいの枠模様を使って、アップリケをします。



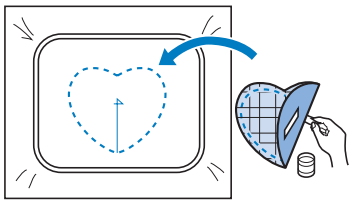
1 直線ぬいの枠模様を選び、アップリケ布に刺しゅうをします。ぬい目の外側をていねいに切り取ります。



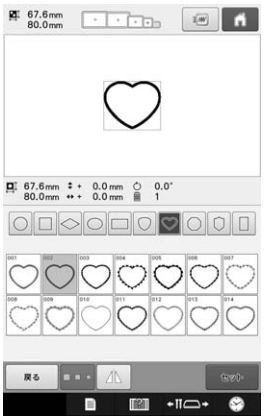
2 土台布にも同じように刺しゅうをします。

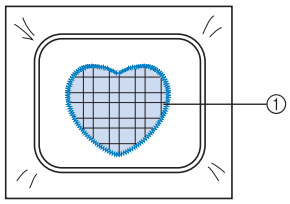


3 手順❶で切り取ったアップリケ布の裏側に薄く、のりまたは布用スプレーのりを付け、土台布のぬい目に合わせて貼り付けます。



4 同じ形のサテンぬいの枠模様を選び、手順❸の布に刺しゅうをするとアップリケができます。





① アップリケ

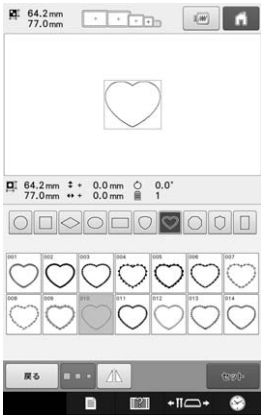
お願い

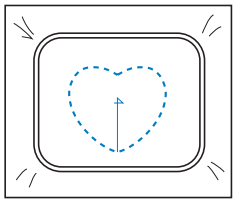
- 直線ぬいの枠模様を選んだときに、大きさやぬう位置を変えた場合は、サテンぬいの枠模様も同じ大きさ、同じ位置になるように変えてください。

枠模様を使ってアップリケをするには（2）

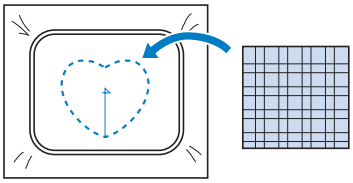
もう１つのアップリケの方法です。この方法では布地は張り替える必要がありません。同じ形で同じ大きさの直線ぬいとサテンぬいの枠模様を使ってアップリケをします。

1 直線ぬいの枠模様を選び、土台布に刺しゅうをします。

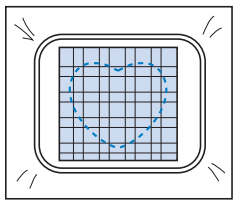




2 手順❶の刺しゅうの上にアップリケ布を置きます。このとき、ぬい目がアップリケ布からはみ出ないようにしてください。

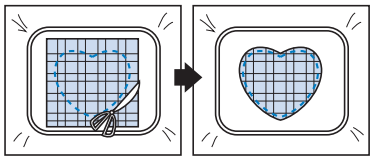


3 アップリケ布の上からもう１度、同じ枠模様を刺しゅうします。



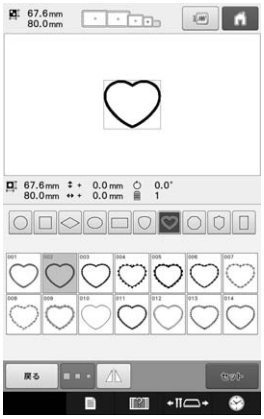
- 中心の十字をぬう前に、ミシンを止めてください。

4 刺しゅう枠を外し、ぬい目の外側を切り取ります。



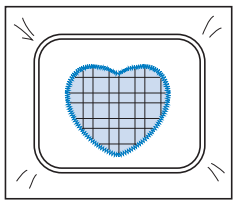
お願い
- 布地は刺しゅう枠にはめたまま、切ってください。また、張られている布地に無理な力をかけると、布地がたるんでしまうので注意してください。

5 同じ形のサテンぬいの枠模様を選びます。



お願い
- 直線ぬいの枠模様を選んだときに、大きさやぬう位置を変えた場合は、サテンぬいの枠模様も同じ大きさ、同じ位置になるように変えてください。

6 手順❹の刺しゅう枠をセットし、刺しゅうをするとアップリケができます。

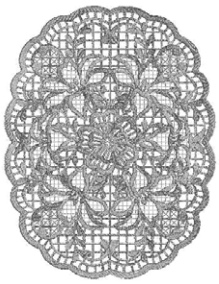


分割模様をぬう

刺しゅう PRO バージョン 7 以降で作成した分割模様をぬうことがきます。大型の刺しゅう模様の場合は、刺しゅう枠よりも大きな刺しゅうデザインが複数のセクションに分割され、それぞれのセクションをぬい終わった後にそれを組み合わせて 1 つの模様を作ることになります。

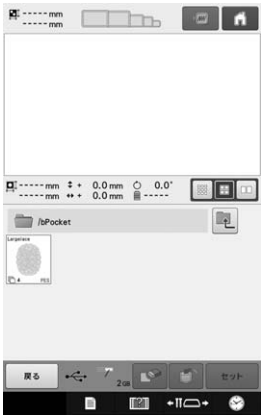
分割模様の作成およびより詳しいぬい方については、刺しゅう PRO に付属している取扱説明書を参照してください。

以下の手順は、USB メディアから下図の分割模様を呼び出し、刺しゅうする方法を説明しています。



1 作成した分割模様が保存されたメディアをミシンに接続し、刺しゅうしたい分割模様を選びます。

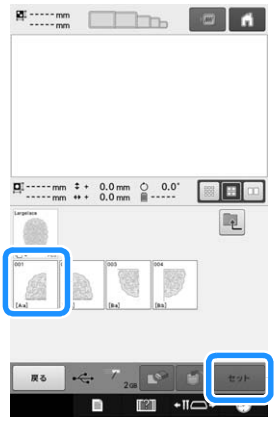
- 模様の呼び出しについて詳しくは、P.173「USB メディア／ SD カードから刺しゅう模様を呼び出す」、P.174「パソコンから刺しゅう模様を呼び出す」を参照してください。



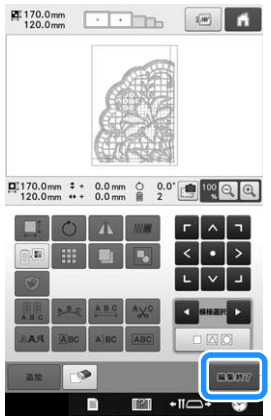
→ 分割模様の場所を選択するための画面が表示されます。

2 刺しゅうする部位を選んで、[セット]を押します。

- 部位をアルファベット順に選びます。
- 通常の模様キーの大きさでは、最大で 10 の部位を 1 つのページに表示できます。模様の部位数が 11 以上の場合は、▲または▼でページを切り替えてください。模様キー（大）では、最大で 4 つの部位を 1 つのページに表示できます。模様キー（小）では、21 の部位を 1 つのページに表示できます。



3 必要に応じて、模様を編集し、[編集終了]を押します。

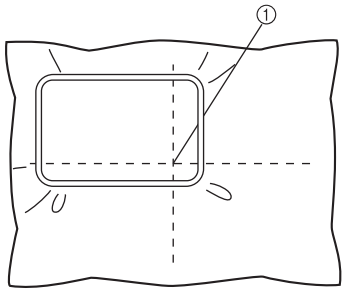


- 詳しくは、P.182「刺しゅう模様を個別に編集する（編集画面）」を参照してください。

4 模様の大きさを確認した上で、適切な布地と刺しゅう枠を選びます。

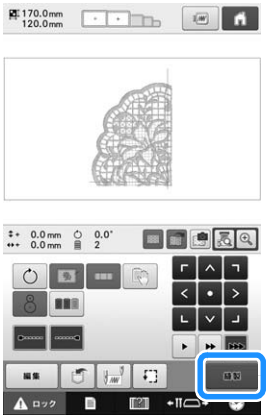
- 組み合わされた模様の大きさに合った布地を選ぶようにしてください。

5 布地の適切な部分に刺しゅう枠をセットします。この場合は、布地の左上の部分に刺しゅう枠をセットします。



① 布地の中央

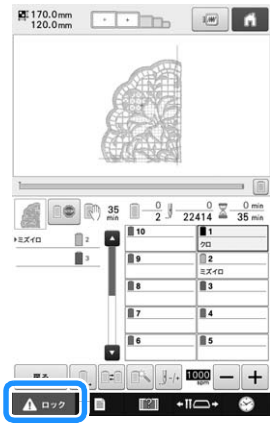
6 [縫製]を押します。



お知らせ

- [回転]を押すと、模様を左または右方向に回転させることができます。

7 [ロック]を押し、スタート／ストップスイッチを押してその模様部位の刺しゅうを始めます。



お願い

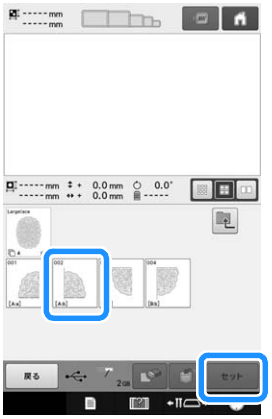
- 模様部位の最後のぬい目は、位置合わせの印となります。このぬい目を使用して、隣の模様部位を配置します。

8 刺しゅうが終わったら、以下の画面が表示されます。[OK]を押します。



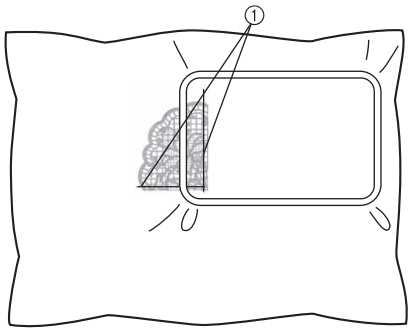
→ 分割模様の部位を選択するための画面が表示されます。

9 [模様]を押し、模様の次の部位を選んでから[セット]を押します。



10 編集終了 を押して、縫製 を押します。

11 位置合わせのぬい目に合わせて次のデザイン部位の布地を刺しゅう枠にセットします。この場合は、手順 6 で刺しゅうしたデザイン部位の右側に刺しゅう枠の左側を合わせます。



① 位置合わせ用のぬい目

お願い

●位置合わせ用のぬい目が刺しゅう領域の中にすべて入るようにします。刺しゅうシートを刺しゅう枠の内側にセットし、グリッドを位置合わせ用のぬい目に合わせると簡単に配置することができます。

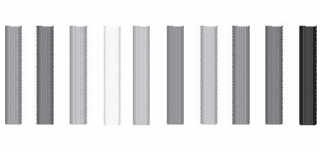
12 手順 7 から 10 を繰り返し、模様の残りの部位を組み合わせていきます。

豆知識

さらにこのミシンを使いこなしていただくための操作を紹介します。

内蔵模様で糸調子を確認する

糸調子確認用の模様をぬって、糸調子を確認しましょう。

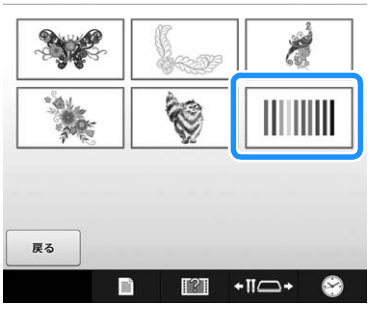


1  を押します。



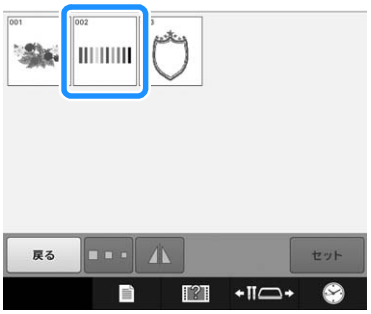
→ 刺しゅう模様のサブカテゴリー一覧が表示されます。

2  を押します。

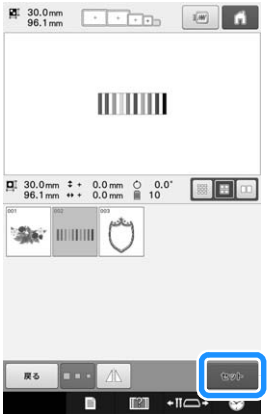


→ 模様一覧が表示されます。

3  を押します。



4 セットを押します。



5 編集終了を押します。



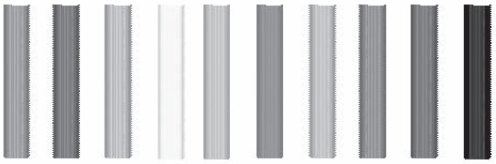
6 縫製を押します。



7 ロック（ロック解除キー）、スタート／ストップスイッチを押して、ぬいます。



8 糸調子を修正します。下糸は、布の裏側からぬい幅の約 3 分の 1 になるようにします。



お願い
- 調整が必要な場合は、P. 131、132 の説明を参照してください。

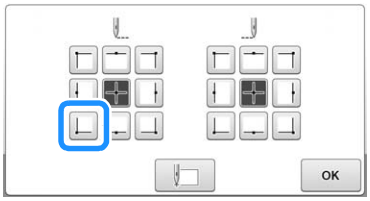
布地のラインに合わせて模様をぬう

ぬい始め／終わり位置設定で模様の細かな位置を確認することができます。
例えば、布地の柄のラインに沿って文字模様をぬうときに、ぬい始め／終わり設定のぬい始め位置を左下に設定して位置を確かめてから、再度ぬい始め位置を設定し直します。今度は右下に設定して位置を確かめます。最初の点と次の点を結ぶ直線が文字のベースラインになります。そのラインが文字を沿わせようとしている布地の柄とずれていたら、位置の調整が必要です。

1 縫製設定画面で を押します。

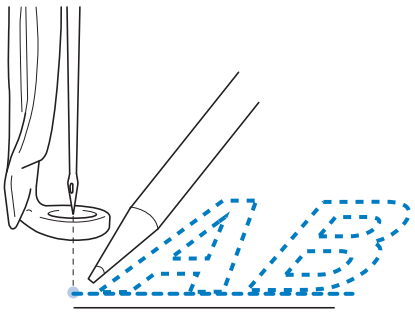


2 ぬい始め位置を左下に設定します。

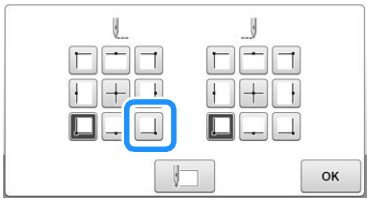


→ 枠が移動して、ぬい始めの位置が針落ち位置にきます。

3 チャコペンなどで、その位置に印を付けます。

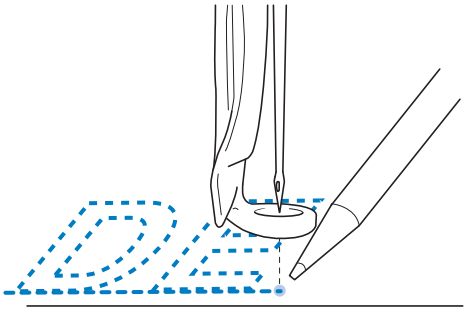


4 ぬい始め位置を右下に設定します。



→ 枠が移動して、ぬい始め位置が針落ち位置にきます。

5 チャコペンなどで、その位置に印を付けます。



6 刺しゅう枠をミシンから外して、最初の点と最後の点を結んで確認します。

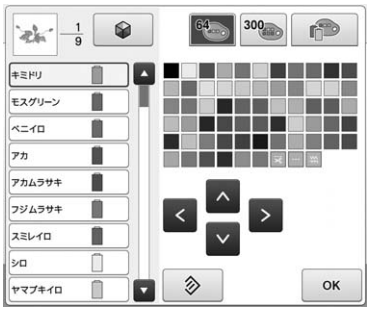


- ずれていたり、交差していたら、布地の張り直しか、模様の位置調整が必要です。

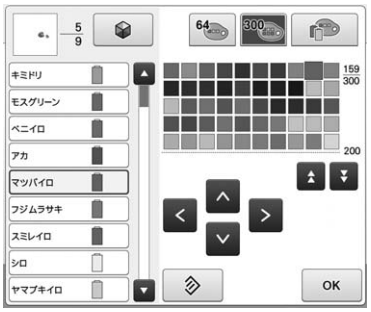
色パレットについて

ミシン内蔵の色パレットとユーザーパレットについて補足説明します。
通常、ぬい順表示や糸替え表示、糸色順表示の糸こま、模様表示エリアの模様の糸色は、専用色（ミシン内蔵の色パレットの色）で表示されます。
ぬい順表示や糸替え表示、糸色順表示の糸番号は、その色に一番近い、設定画面の 1 ページで設定したブランドの色番号が表示されています。したがって、仕上がりの色とは多少色味が異なっていることがあります。
それに対し、お手持ちの糸を任意に設定するユーザーパレットは、ミシンに内蔵されている色ライブラリーから 1 色ずつブランド名とその糸番号で糸色を指定して作る色パレットですので、その糸色オリジナルの色で表示されます。
ユーザーパレットを設定した上で、このパレットから糸色を選んで模様の色を変更すると、より仕上がりに近い色で模様を確認できます。
お手持ちの糸色を登録し、是非、ご活用ください。
（P.201「ユーザーパレットを作る」および、P. 203「ユーザーパレットから色を選ぶ」参照）

通常色表示（購入時）の色パレット

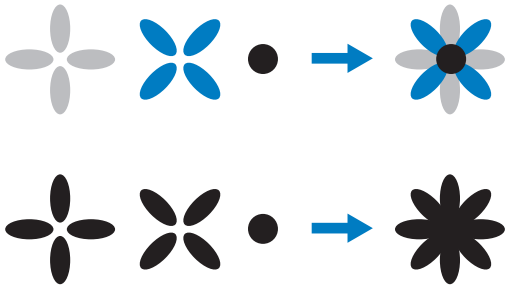


ユーザーパレット



タジマフォーマット（.dst）の刺しゅうデータの色について

タジマフォーマット（.dst）には、模様の色情報がありません。形だけの部分の集合で作られています。
例えば、次の刺しゅうデータは、タジマフォーマット（.dst）では、



となっています。
そこで、模様の部分を分かりやすくするため、このミシンでタジマフォーマットデータを扱うときは、自動的に当社指定の糸色順で色が付けられて表示されます。この糸色は、模様のデザインに関係なく、適当な色が部分のぬい順に従って付けられていますので、例えば、果物のオレンジの色が青になっていたり、模様のデザインによっては違和感のある色付けになってしまうこともあります。
LED ライトもぬい順に従って色を示すので、実際に使用する糸色ではない場合があります。
タジマフォーマットデータを扱うときは、画面上ででき上がりイメージを確認しながら、糸色編集画面で色を変更してお使いください。

タジマフォーマットデータを頻繁に扱う場合は、手動糸色割付を使うことをお勧めします。糸こまに設定した色に従って、直接、糸色設定を変更できます。設定画面で手動糸色割り当てを「ON」に設定します。(P. 140「各針棒の糸色を選択する／管理する（手動糸色割付)」参照)

きれいな刺しゅうに仕上げるために

よりきれいな刺しゅうに仕上げるために、糸、刺しゅう枠、接着芯について、注意していただきたいことを説明します。

糸

刺しゅう糸は高価なものですので、取り扱いには万全の注意を払ってください。どんなに良い糸でも、きちんと縫製するためには正しく保管する必要があります。特に、糸がお客様のもとへ届いてから実際にミシンでご使用になるまでの期間は注意してください。刺しゅう糸は、過度の熱や光、または湿気のように、損傷を与えるようなものがない環境で保管してください。

刺しゅう糸は、できるだけ清潔でほこりのない場所に保管してください。また、煙や蒸気、ガスの出る場所も避けてください。ガスヒーターのような家庭用の器具、またはディーゼルエンジンから出るガスによって、糸が黄色くなることがあります。

直射日光は、刺しゅう糸にとって有害となります。糸の入った箱は、開けたままにして直射日光にさらされないようにしてください。直射日光に長期間さらしておくと、刺しゅう糸が色あせするおそれがあります。

温度や湿度もまた、刺しゅう糸にとって有害となることがあります。温度は 15 ～ 25 ℃、湿度は 40 ～ 60% が理想的な保存条件です。カビを防ぐために、これらの条件をできるだけ一定に保つようにしてください。高温すぎる場所に保存すると、糸が弱くなり最終的には糸が切れるおそれがあります。湿気が多いと、糸の品質に悪影響を及ぼすことがあります。確実に糸が傷まないよう保管するには、保存している未使用の糸を頻繁にチェックして、保存状態・条件が良好かどうかを確認してください。

保存状態の良い糸を使用すると、制作時間を向上させることができます。（糸の強度、密度や重量は、縫製のしやすさと縫製中の糸切れ回数、ならびに作品の仕上がりにも影響します。）

糸切れの回数は、生産量に影響します。糸が切れてから通し直す時間が約 20 秒かかると仮定すると、糸切れ 1 回につき 1 日（7.5 時間）最低でも 0.07 %の生産減になります。1 日につき糸切れ回数を 14 回削減すると、生産を 1%以上向上させることがきます。

接着芯

接着芯は、刺しゅうする布を固定させるために使用します。誤った種類の接着芯を使用すると、布が刺しゅう枠内で動いてしまい、刺しゅうがずれるおそれがあります。接着芯は、タオル地やコーデュロイ、ピケニットのような毛羽のある布を刺しゅうするときには、必ず使用してください。縫製する布の種類に応じて、種類別の接着芯を使用します。

刺しゅうに使える接着芯は、切るタイプ、はがすタイプ、溶けるタイプ、粘着タイプの 4 種類があります。この 4 種類は、それぞれ重さとサイズ、生地が異なります。特定の布に使用する接着芯を選ぶときは、デザインのぬい目数、ぬい方とサイズを考慮してください。

また、接着芯が伸びないことを確認してください。種類によっては、垂直方向や水平方向には伸びなくても、対角線方向に伸びるものがあります。このような種類の接着芯は使用しないでください。縫製中に伸びて、デザインがずれることがあります。

1. **ポリエステル製メッシュの切るタイプの接着芯**
接着芯がぬった表面に透けないため、薄い色の布に使用します。仕上がったものを軽くてやわらかいタッチで安定させたい場合、例えば、赤ちゃんの衣服などにこの種類の接着芯が適しています。

2. **切るタイプの接着芯**
普通～重いニットに適しており、織物にも使用できます。ぬい目数が多くても耐えることができ、2 ～ 3 枚重ねて使用することで、さらに膨大なぬい目数にも耐えることができます。また、衣服の内側を外側と同じように見栄え良くしたい場合は、切るタイプの黒い接着芯が適しています。黒い接着芯は、白い接着芯に比べて透けにくいため、あわい色や薄い色の衣服に使用することをお勧めします。

3. **粘着タイプ（はがして貼る）の接着芯**
曲げにくい（固め）布に使用します。この接着芯は粘着面を上にして枠の下側に付け、縫製する部分の外側の表面に布を接着できるようにします。刺しゅうが終わったら、布を外し余分な部分は捨ててください。これを繰り返します。

4. **はがすタイプの接着芯**

キャンバス地やポプリン、デニムのような普通の重さの織物と、丈夫な布に使用します。この接着芯は、2 枚以上重ねて使用することで、多くのぬい目数に耐えることができます。この種類の接着芯は織り込まれていないので、縫製が終わった後に、刺しゅうデザインの端から簡単にはがすことができます。はがすタイプの接着芯にも黒色があります。

5. **水に溶けるタイプの接着芯**

タオルのような素材を刺しゅうするときに、毛羽が縫製のじゃまにならないようにするために使用します。毛羽のあるタイプで刺しゅうできる布は、タオル地やコーデュロイ、ベルベット、フェイクファー等があります。これらの布は、毛羽の繊維が刺しゅうデザインのぬい目からはみ出て、仕上がりが悪く見えることがあります。それを防ぐために、水に溶けるタイプの接着芯を使うことによって、表のぬい目をきれいに仕上げます。このタイプの接着芯は、レースや他のモチーフを刺しゅうするときに、仕上がり部分のみの接着芯として使用することもできます。刺しゅうが完成した後に簡単に布からはがして取ることができ、残った部分も水で洗い流すことができます。

枠張りのテクニック

「よい仕事にはよい道具を使いなさい」というのは、私たちが常に耳にする言葉です。これは、刺しゅう業界にも言えることです。間違った種類の刺しゅう枠を使用すると、縫製時にデザインが揃わなかったり、制作したものが破れたりすることがあります。完璧なデザインでも、それに合うように設計された枠のサイズや種類、手法を誤って使ったために、結果が台なしになることがあります。

■ 枠の基本

筒枠 - この種類の枠を使用すると、筒状の布や筒状に縫製した衣類を刺しゅうすることができます。布の裏側まで糸を通すことなく、布の表面に刺しゅうすることができます。

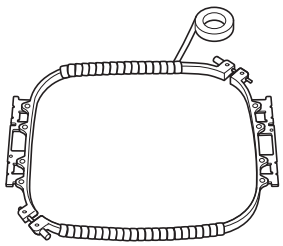
帽子枠 - これらは、帽子を固定するための特別な刺しゅう枠です。帽子に刺しゅうする場合は、この刺しゅう枠を使用してください。(P. 266 参照)

刺しゅう枠と接着芯 - 刺しゅう枠に張った布と接着芯は、完全に平らで、しわやすき間が入らないように注意してください。しわやすき間を取り除くときは、布と接着芯を一緒に伸ばしてください。布と接着芯を伸ばすときに、強く引っ張りすぎないよう注意してください。伸ばしすぎると、枠を取り外したときに、完成したデザインにしわが入ることがあります。また、デザインとデザインの間に割れ目ができることがあります。

内枠と外枠の調節 - 外枠は調節ネジで調節することができます。布を張った後、内枠をはめたときにたるみを感じたら、調節ネジを締めてください。ただし、きつく締めすぎると布にしわが入ったり、調節ネジのネジ山がすり減ったりするおそれがありますので、注意してください。

■ 厚手の布地に刺しゅうするときは

布地が外枠と内枠の間ですべり、正しく刺しゅう枠に張れないときは、マスキングテープやバイアステープを外枠に巻いてください。テープの摩擦で、布地がすべりにくくなります。



布／接着芯の適合表

布／衣服	裏張りの枚数	表張りの枚数	詳細
タオル地	はがすタイプ　1 枚	水に溶ける タイプ　1 枚	密度または縦ぬい幅を大きくしてください。細かい模様や小さな文字は、毛羽の輪に引っかかりやすくなります。
サテンのジャケット	厚い裏地　なし 薄い裏地 または裏地　なし はがすタイプ　1 枚 はがすタイプ　1 枚	なし	布が枠の中ですべるとまっすぐぬえなくなりますので、マスキングテープや布のバイアステープを内枠に巻いてください。こうすると表面が粗くなるため布がつかみやすく、また、枠が焼けるのを最小限にすることもできます。
綿の敷布	はがすタイプ　1 枚	なし	密度の濃いものや、細かいデザインの場合は、裏張りを増やしてください。この場合は、厚い裏張り 1 枚ではなく、薄い裏張りを 2 枚使ってください。
デニム	はがすタイプ　1 枚	なし	針が熱くなったり糸が切れたりするときは、縫製速度を遅くしてください。
帽子	任意	任意	バックラムの裏張りを使用すると針が鈍くなりやすいので、通常よりも頻繁に針を交換するようにしてください。軽い裏張りを使用すると、糸切れが減り、糸調子を整えられます。コーデュロイや帽子の前面には表張りを使ってください。
ドレスシャツ（織物）	はがすタイプ　1 枚	なし	密度の高いものや、細かいデザインの場合は、裏張りを増やしてください。この場合は、厚い裏張り 1 枚ではなく、薄い裏張りを 2 枚使ってください。
ゴルフシャツ	切るタイプ　1 枚	任意	細かい模様や小さな文字の多いデザイン、またピケニットには表張りを使用してください。
カントンフリース	はがすタイプ　1 枚	任意	かご織りや、はっきりしたあや織りのような織物には表張りを使用してください。
キャンバス地	はがすタイプ　1 枚	なし	枠をきつく取り付けてください。
コーデュロイ	はがすタイプ　1 枚	水に溶ける タイプ　1 枚	ぬい目の密度が高いものやぬい目数が多い場合は、表張り同様に、ぬい目が布の中に沈まないようにしてください。
肌着やシルク	はがすタイプ（軽）　1 枚または 2 枚	任意	縫製速度を遅くしてください。糸調子をゆるめてください。細かい模様や小さな文字のあるデザインには、表張りを使用してください。織り目の細かい布には細い糸を使用してください。細かい模様や文字には極端に狭い縦ぬいを避け、ぬい幅を広げるか、さやぬいをしてください。布からやさしく裏張りと表張りを取り除いてください。（無理に引きはがさないでください。）
ニット	切るタイプまたは粘着性のはがすタイプ　1 枚	水に溶ける タイプ　1 枚	かさばるものや穴の多いニットには裏張りに色の合った、織り目の詰まったオーガンジーまたはカーテンの布を使ってください。
スウェットシャツ	切るタイプ（軽）または粘着性のはがすタイプ　1 枚	任意	細かいデザインには切るタイプ（軽）の接着芯を 2 枚重ねてください。極端に厚い、また細かいデザインの付いた布には表張りを使ってください。
T シャツ	切るタイプ（軽）または粘着性のはがすタイプ　1 枚	任意	細かい模様や小さな文字のあるデザインには、表張りを使用してください。糸調子が弱すぎます。ぬい目の密度が高いデザインは避けてください。

お願い

●布／接着芯の適合表は、布地と接着芯の多くの組み合わせの中から、最適な組み合わせを選ぶための目安としてご利用ください。布地と接着芯の組み合わせが不確かである場合は、実際の衣類で本ぬいする前に、ためしぬいをしてください。

付属のテーブルを取り付ける

別売のボーダー枠、キルト枠、平枠、ジャンボ枠を使用する際は、刺しゅう枠を支えるためにテーブルを取り付けてください。

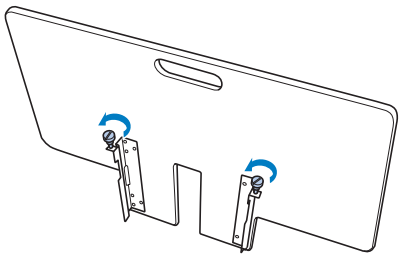
⚠ 注意

● 別売のボーダー枠、キルト枠、平枠、ジャンボ枠を使うときは、テーブルを取り付けてください。テーブルを取り付けないと、刺しゅう枠と布地の重みで枠が傾き、刺しゅうの仕上がり品質が低下します。

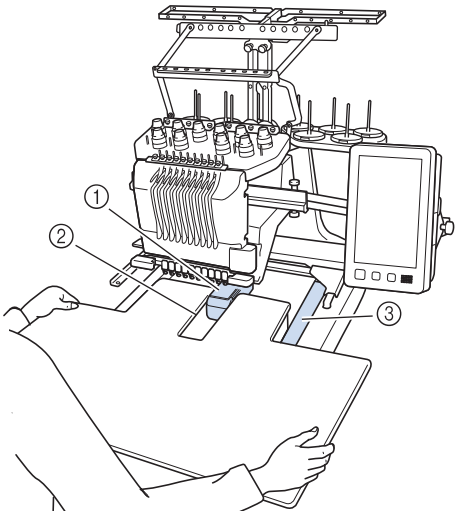
お願い

- テーブルを持ち運ぶ際は、両手でしっかりと持ってください。
- 刺しゅう枠をセットする前にテーブルを取り付けてください。
- ミシンに取り付けたテーブルの上に重い物を置いたり、上から押さえつけたりしないでください。
- テーブルの取り付けが不要な刺しゅう枠を使用する場合、テーブルを取り外してください。筒状の物・バッグや帽子をぬう場合は、テーブルを使用することができません。

1 2本のつまみボルトを5～6回、回してゆるめます。

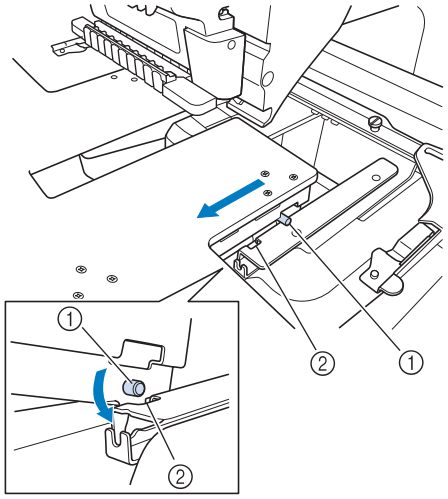


2 テーブルの中心の切り込みが、ミシン台に入るように置いて、テーブル支え板と水平に持ちます。



① ミシン台
② テーブルの切り込み
③ テーブル支え板

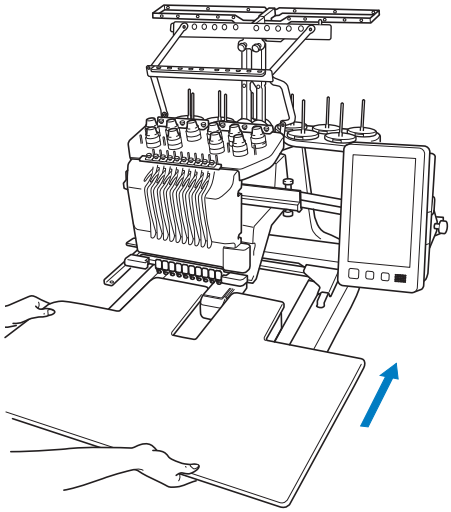
3 テーブル裏側に 2 箇所ある取り付け金具のピンがテーブル支え板の切り込みと位置が合うまで、テーブルをゆっくりと引き出します。



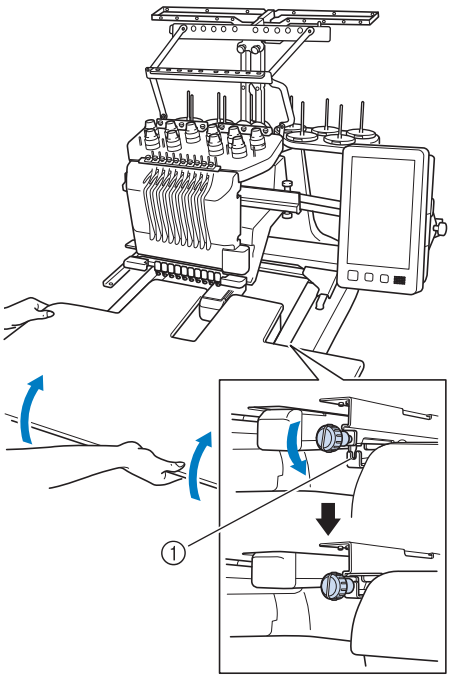
① ピン
② 切り込み

4 テーブルが水平になるように支えながら奥に押し込みます。テーブルの端がミシンに軽く当たるまで押します。

- テーブルがスムーズに動かない場合は、軽く持ち上げてから押し込んでください。

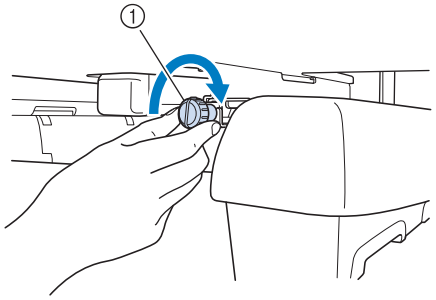


5 テーブルを軽く持ち上げ、下を見ながら、テーブル支え板の前方にあるミゾにつまみボルトが入るように下げます。



① 前方のミゾ

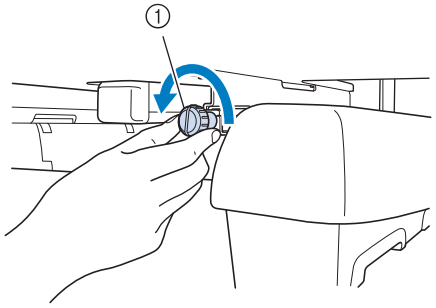
6 2 本のつまみボルトを締めて、テーブルを固定します。



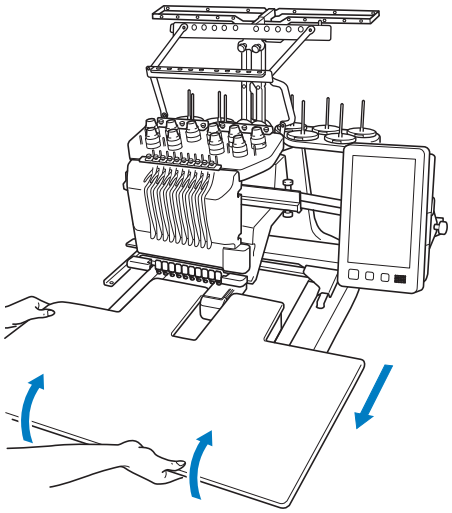
① つまみボルト

テーブルの取り外し方

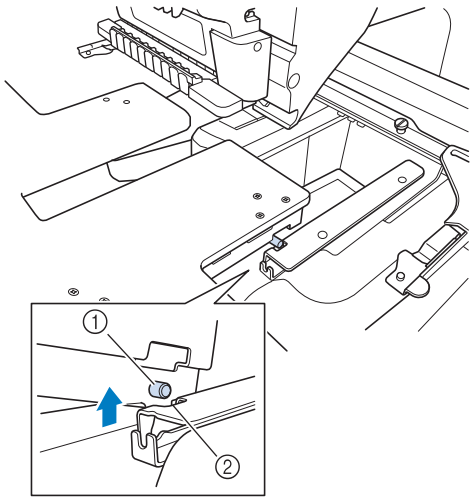
1 2 本のつまみボルトをゆるめ、テーブルを持ち上げてから、手前に引き出します。



① つまみボルト

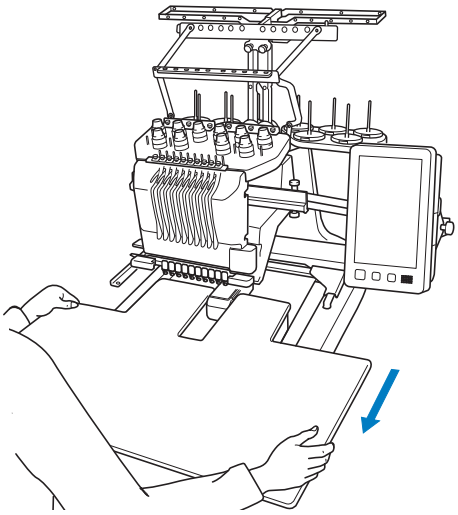


2 テーブル支え板の切り込みから、テーブルのピンがそれぞれ見えたら、切り込みからピンが出てくるようにテーブルを持ち上げます。



① ピン
② 切り込み
→ ミシンからテーブルを取り外します。

3 ミシンにぶつけないように注意しながら、テーブルを引き出します。



4 テーブルのつまみボルトを締めます。

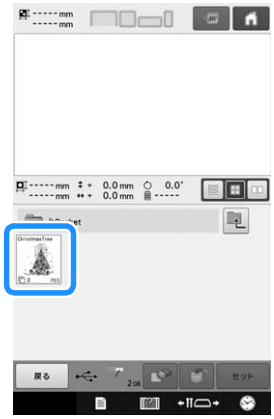
別売のジャンボ枠で刺しゅうする

ジャンボ枠（別売オプション）を使って刺しゅうする模様は、刺しゅう編集ソフトウェア刺しゅう PRO NEXT 9.21 以降のバージョンで作ることができます。刺しゅう PRO NEXT のバージョンを確認の上、必要に応じて最新のプログラムにアップデートしてください。
刺しゅう編集ソフトウェアでジャンボ枠用の模様を作ると、1 つの組み合わせ模様に縫製されるように、自動的に 2 つの部位に分割されます。ジャンボ枠を使うと、刺しゅう枠の布地の張り替えをしないで、最大ヨコ 350mm× タテ 350mm の模様を刺しゅうすることができます。

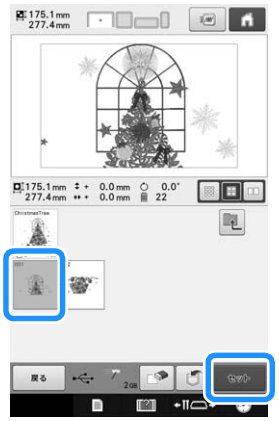
刺しゅう PRO NEXT でジャンボ枠用の模様を作成する方法に関しては、ブラザーソリューションセンター（http://support.brother.co.jp/）を参照してください。
ジャンボ枠用の模様を作成後は、次の説明に従って、外部メモリーを使いミシンに転送し、刺しゅうします。

1 ジャンボ枠用の模様が記録されているメディアをミシンに接続し、模様選択画面でその模様を選びます。

- 模様の呼び出しについて詳しくは、P.173「USB メディア／ SD カードから刺しゅう模様を呼び出す」を参照してください。



2 を押して最初にぬう部位を選び、セット を押します。



お願い

- ジャンボ枠用模様をぬう前に、別売のジャンボ枠を用意してください。
- 別売のジャンボ枠の購入については、販売店にお問い合わせください。



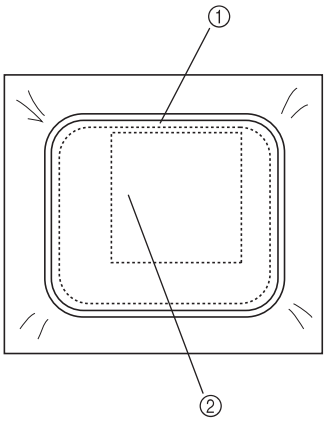
- 布地や衣類をジャンボ枠に張った後は、補助テーブルに対して枠が水平になるように、内枠が外枠より低い位置にあることを確認してください。

3 模様の大きさを確認し、別売のジャンボ枠に十分な大きさの布地を張ります。

- 別売のジャンボ枠の布地の張り方については P.101「布地の張り方」を参照してください。

お願い

●布地を張る際は、模様と枠の内側に 1cm 以上のスペースができるように模様を配置してください。



① 1cm 以上
② 模様がぬわれる範囲

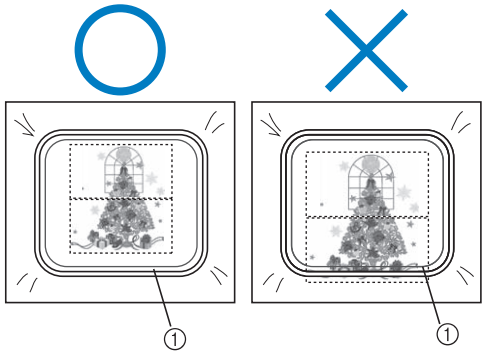
4 ジャンボ枠をミシンにセットします。

5 縫製 を押します。



お願い

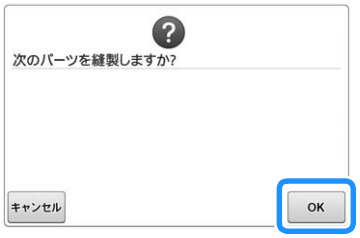
●2 つ目の部位の縫製範囲が、ジャンボ枠からはみ出ていないことを確認してください。縫製範囲を超えて位置を変更することはできません。



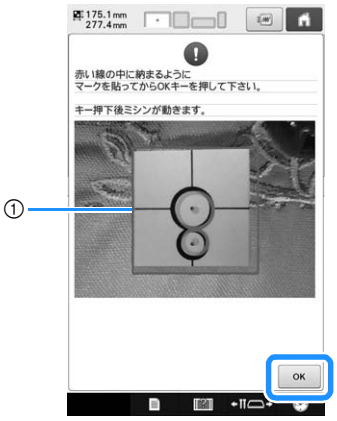
① 縫製範囲

6 ロック を押し、スタート／ストップスイッチを押して 1 つ目の部位をぬい始めます。

7 1 つ目の部位がぬい終わると、次のメッセージが表示されます。OK を押します。

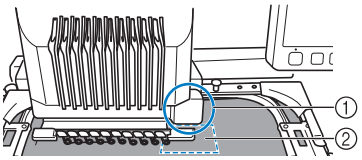


8 画面に、針位置を検出する領域が赤い枠で囲まれて表示されます。画面を見ながら、赤い枠内に収まるように、刺しゅう位置合わせシールを布地に貼り、OK を押します。



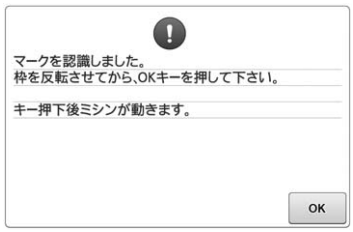
① 赤い四角

- 検出する領域は、内蔵カメラの下です。



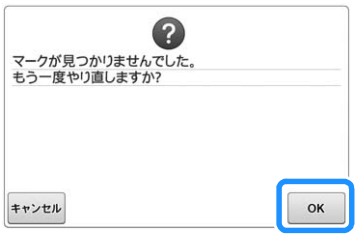
① 内蔵カメラはこのボックス内にあります。
② ここに刺しゅう位置合わせシールを貼ります。

9 内蔵カメラが刺しゅう位置合わせシールを検出すると、次のメッセージが表示されます。

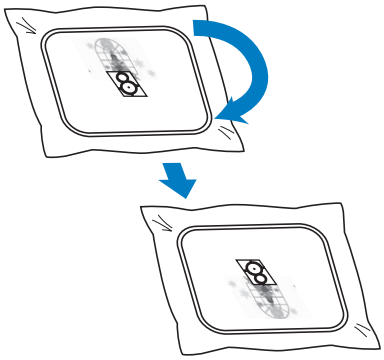


お願い

●内蔵カメラが刺しゅう位置合わせシールを検出できないときは、次のメッセージが表示されます。OK を押して、再度手順 8 からやり直してください。

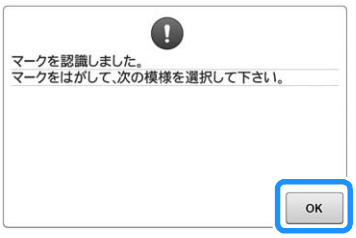


10 ミシンからジャンボ枠を外し、180 度回転させて、ミシンにセットし直します。



11 OK を押して、刺しゅう位置合わせシールの位置の検出を開始します。

12 内蔵カメラが刺しゅう位置合わせシールを検出すると、次のメッセージが表示されます。OK を押します。

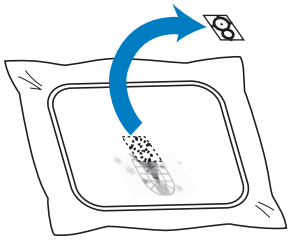


お願い

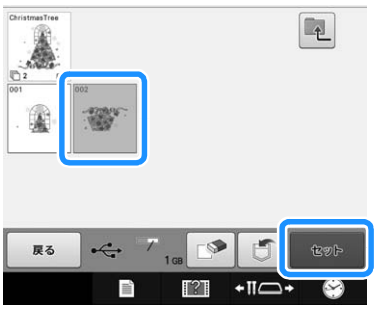
●内蔵カメラが刺しゅう位置合わせシールを検出できないときは、次のメッセージが表示されます。OK を押して、再度手順 8 からやり直してください。



13 刺しゅう位置合わせシールを布地からはがします。



14 を押して次にぬう部位を選択し、セット を押します。



15 編集 を押します。

16 ロック を押し、スタート／ストップスイッチを押して 2 つ目の部位をぬい始めます。



帽子枠（別売）を使う

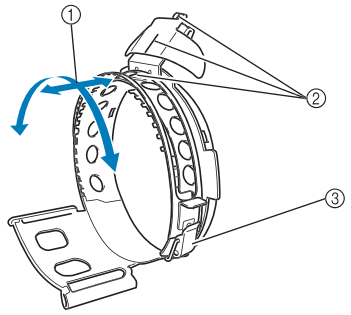
別売の帽子枠を使うと、帽子に刺しゅうをすることができます。帽子枠の使い方を説明します。

帽子枠と付属品

以下の帽子枠、帽子枠ドライバー、ゲージと付属品が揃っているか確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

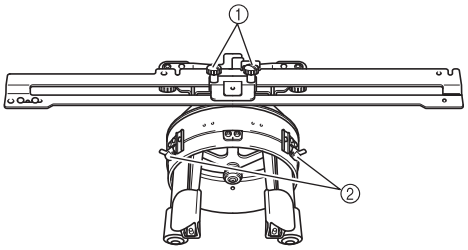
帽子枠

① 刺しゅう範囲（ヨコ 360mm× タテ 60mm）
② 刺しゅう範囲の中心を示すマーク
③ パチン錠



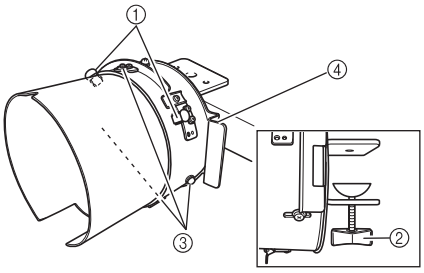
帽子枠ドライバー／つまみボルト 4 本

キャリッジに帽子枠をセットするために、台枠を外してこの帽子枠ドライバーを取り付けます。
① この穴をつまみボルトで締め付けると可動部を固定できます。帽子枠ドライバーを保管するときに使います。
② 留具
帽子枠を 2 つの留具で固定します。

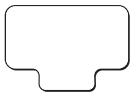


ゲージ

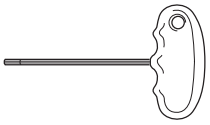
帽子枠に帽子をセットするときに使用します。
① 留具
帽子枠を 3 つの留具で固定します。
② 取付金具
つまみボルトを締め付けて、机などに取り付けます。
③ 調節ネジ
帽子のタイプに合わせてゲージのサイズを切り替えます。
④ レバー
レバーを引いて、帽子をセットしやすい位置に帽子枠を回転させます。



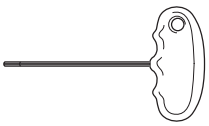
調整シート



T 型六角レンチ（3mm）



T 型六角レンチ（2.5mm）



● 帽子枠ドライバーのリングと L 型取付金具の高さを調整するときに使用します。（P. 270 参照）

お知らせ

- 帽子枠を取り付ける前に、必ず帽子枠ドライバーのリングと L 型取付金具の高さを調整してください。（同じミシンを使用する場合は、初回以降の調整は不要です。）
- 帽子枠ドライバーのリングとL型取付金具の高さを調整した後、別のミシンで使用する場合は、調整し直してください。ミシンによって高さが異なります。詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

お願い

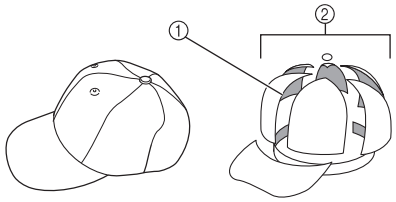
- ミシンに帽子枠をセットすると、適応刺しゅう枠表示は次のように替わります。

1	ヨコ 130mm× タテ 50mm
2	ヨコ 130mm× タテ 60mm
3	ヨコ 360mm× タテ 60mm

帽子の種類

このミシンで刺しゅうする帽子は、次の種類の帽子をお勧めします。

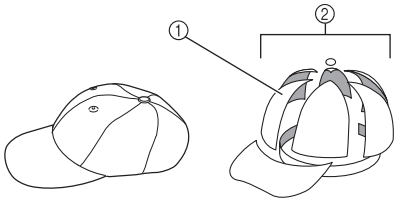
■ 標準タイプ（円筒型）



① 正面：円筒型
② 6 分割

オットー社型番（例）	OTTO27-007	
裏側のメッシュの有無（硬い／やわらかい）	あり 硬い	なし やわらかい
張り方の難易度	容易（推奨）	やや容易
使用芯数	1 ～ 2 枚	2 ～ 3 枚

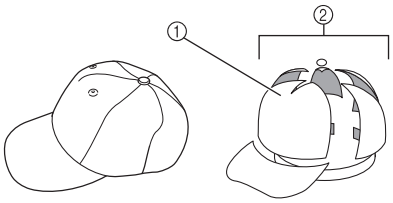
■ ロープロタイプ（球面型）



① 正面：球面型
② 6 分割

オットー社型番（例）	OTTO23-225	OTTO18-203
裏側のメッシュの有無（硬い／やわらかい）	あり 硬い	なし やわらかい
張り方の難易度	難しい （布地が硬く、張りにくい）	やや容易
使用芯数	1 ～ 2 枚	2 ～ 3 枚

■ ゴルフタイプ

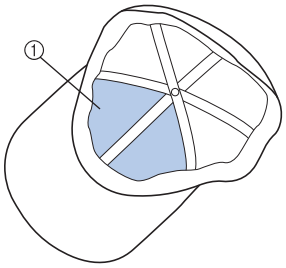


① 正面分割なし
② 5 分割

オットー社型番（例）	OTTO37-024
裏側のメッシュの有無（硬い／やわらかい）	あり 硬い
張り方の難易度	やや容易
使用芯数	1 ～ 2 枚

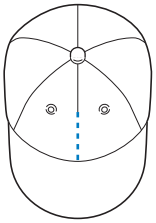
お知らせ

- メッシュの有無は、① の部分を確認してください。（下図はメッシュ有）



お願い

- ゴルフタイプの場合、帽子枠に張るときに目印となる、帽子の中心線がありません。張る前に、チャコペンなどで中心に目印を付けてください。



■ 刺しゅうできない帽子

- サンバイザーなど、帽子の正面の高さが 50mm 以下の帽子
- 子供用帽子
- ヒサシの長さが 80mm より大きい帽子

布地に関する注意

■ 推奨布地

- 木綿 35%、ポリエステル 65%
- 木綿 100%
- ウール 80%、ナイロン 20%
- ウール 15%、アクリル 85%

■ 推奨できない布地

枠に張りにくく、しわや布縮みが起きやすく、柄がずれやすい布地。

- ポリエステルフォーム
- 伸び縮みのする布地
- メルトンウール
- ナイロン 100%
- スエード

帽子枠を使うための準備

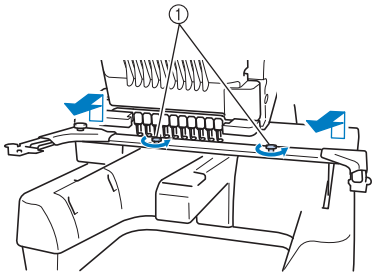
■ 帽子枠ドライバーを取り付ける

キャリッジから台枠を外して、帽子枠ドライバーを取り付けます。台枠を外す前に、刺しゅう枠を外しておいてください。(P. 76「刺しゅう枠の外し方」参照)

⚠ 注意

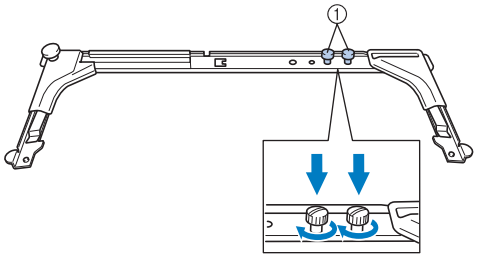
- **枠台を外す前に、電源を切ってください。**

1 **2 本のつまみボルトをゆるめ、台枠とつまみボルトを取り外します。**



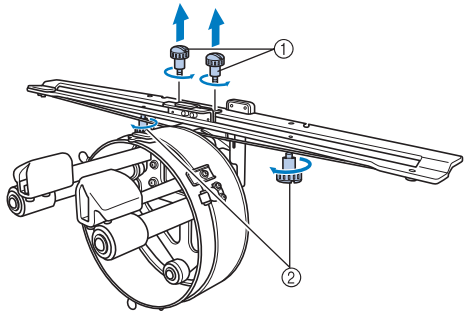
① つまみボルト

- 取り外したつまみボルトは、台枠に取り付けておきます。



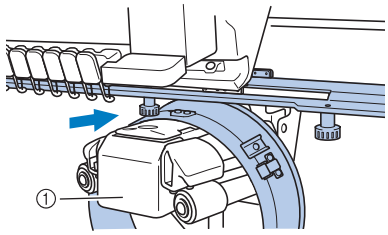
① 2 本のつまみボルトはなくさないように付けておきます。

2 **帽子枠ドライバーの上の 2 本のつまみボルトを外し、下の 2 本のつまみボルトをゆるめます。**



① 上のつまみボルト
② 下のつまみボルト

3 帽子枠ドライバーのリング内にミシンベッドを通します。

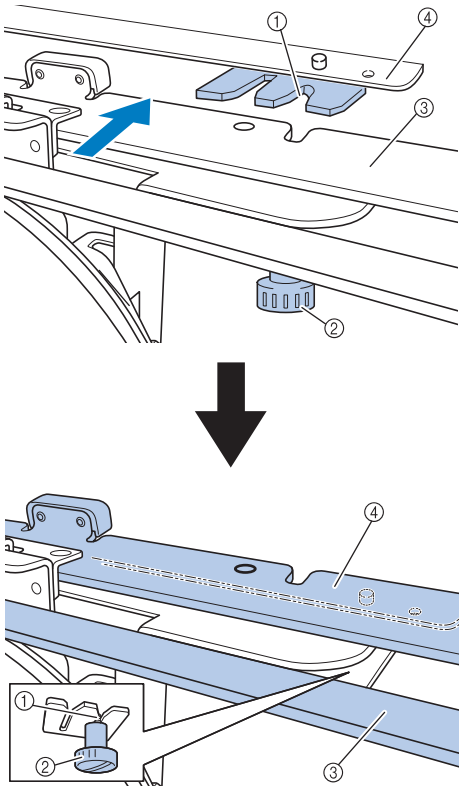


① ミシンベッド

お願い
●帽子枠ドライバーが押えなどまわりの部品に当たらないよう、注意してください。

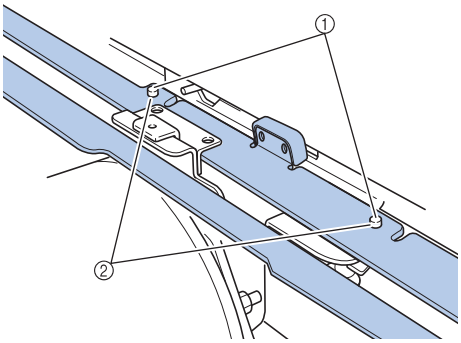
次の手順 4 ～ 7 で、帽子枠ドライバーをキャリッジにセットします。

4 帽子枠ドライバーの下のつまみボルト 2 本が、キャリッジの切り欠きにはさみ込まれるようにして、帽子枠ドライバーの取付プレートを X キャリッジの上に重ねます。



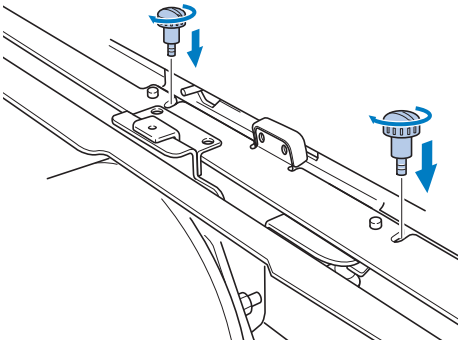
① キャリッジの切り欠き
② 帽子枠ドライバーのつまみボルト
③ 帽子枠ドライバーの取付プレート
④ X キャリッジ

5 X キャリッジのピンに、帽子枠ドライバーの取付プレートの穴を差し込みます。

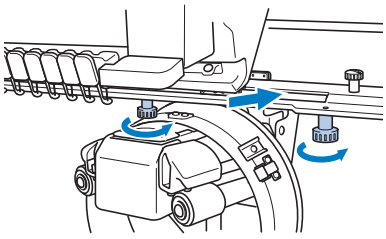


① X キャリッジのピン
② 帽子枠ドライバーの取付プレートの穴

6 手順 2 で外した 2 本のつまみボルトを締めます。

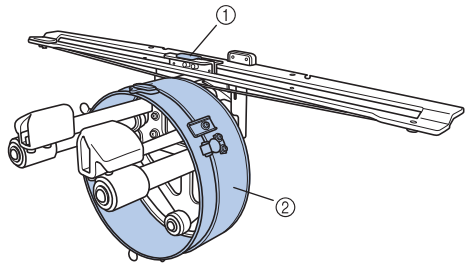


7 帽子枠ドライバーが奥までしっかり入るように押さえながら、下の 2 本のつまみボルトを締め、帽子枠ドライバーを固定します。



→ これで帽子枠ドライバーがセットできました。

■ 帽子枠ドライバーを調整する



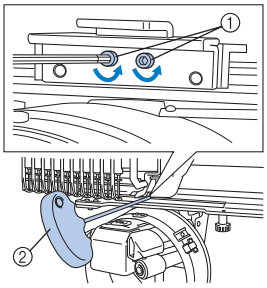
① L 型取付金具
② リング

お知らせ
●帽子枠ドライバーの調整は、同じミシンを使用する場合、初回以降の調整は不要です。

1 ミシンの電源スイッチの「I」側を押し、電源を入れます。キャリッジが初期設定の位置に移動したら、電源を切ります。

お願い
●帽子枠ドライバーは、必ず初期設定の位置で調整してください。

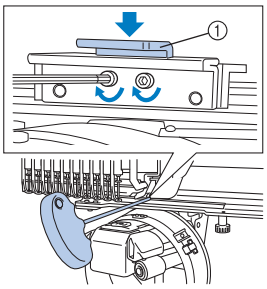
2 2 本の六角ネジを、付属の T 型六角レンチ（2.5mm）で 1 回、矢印の方向に回してゆるめます。



① 六角ネジ
② 付属の T 型六角レンチ（2.5mm）

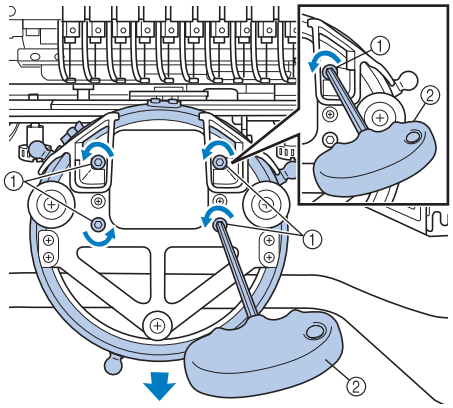
お願い
●六角ネジは、完全に外さないでください。

3 L 型取付金具がミシンベッドに当たるように調整した後、2 本の六角ネジを T 型六角レンチ（2.5mm）でしっかりと締め付けます。



① L 型取付金具

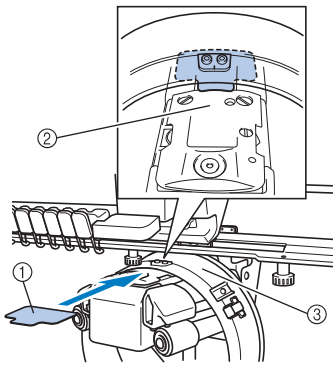
4 リング内側の 4 本の六角ネジを、付属の T 型六角レンチ（3mm）で 1 回、矢印の方向に回してゆるめます。



① 六角ネジ
② 付属の T 型六角レンチ（3mm）
→ 六角ネジがゆるむと、リングが下へ下がります。

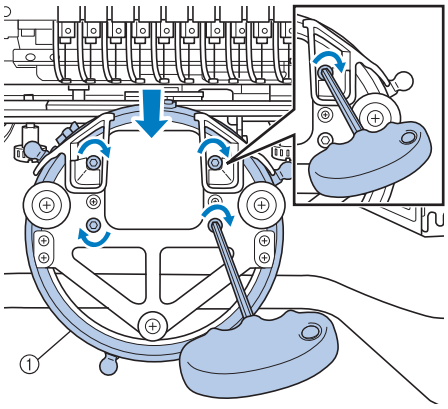
お願い
●六角ネジは、完全に外さないでください。

5 調整シートを、ミシンベッドと帽子枠ドライバーのリングの間に差し込みます。



① 調整シート
② ミシンベッド
③ 帽子枠ドライバーのリング

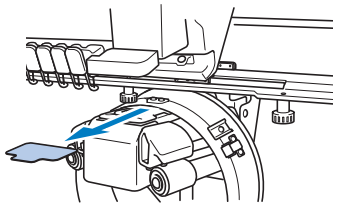
6 リングを軽く押し下げた後、リング内側の4本の六角ネジを、T型六角レンチ（3mm）でしっかりと締め付けます。



⚠ 注意

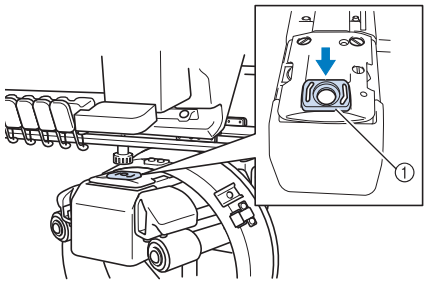
- 六角ネジはしっかりと締め付けてください。ネジがしっかり締め付けられていないと、帽子枠ドライバーの破損の原因となります。

7 手順 5 で差し込んだ、調整シートを取り外します。



■針板カバーを取り付ける

針板に針板カバーを取り付けます。

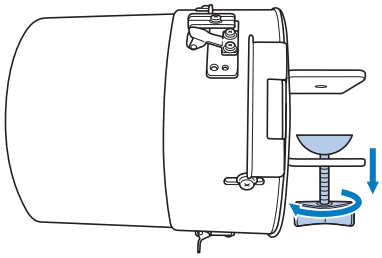


① 針板カバー

■ゲージを準備する

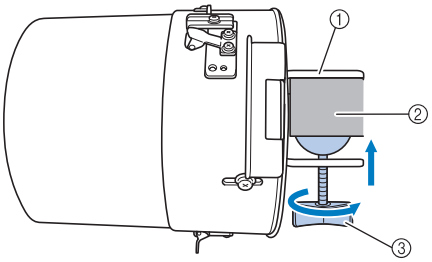
ストッパーを下げ、ゲージを机などに取り付けます。

1 ゲージのつまみボルトをゆるめ、取付箇所の厚みより大きめに取付金具を開きます。



- 取付金具は厚さ 9 ～ 38mm のものへ取付可能です。

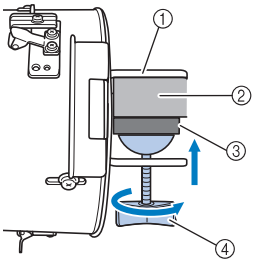
2 取付金具を取付箇所に十分にはめ込んで、つまみボルトを締めます。



① 取付金具
② 取付プレート（作業台、机など）
③ つまみボルトを締めます。

お知らせ

- 取付金具と取付プレートの間にすきまができる場合は、取付プレートの下に付属の調整シートを差し込んでください。



① 取付金具
② 取付プレート（作業台、机など）
③ 調整シート
④ つまみボルト

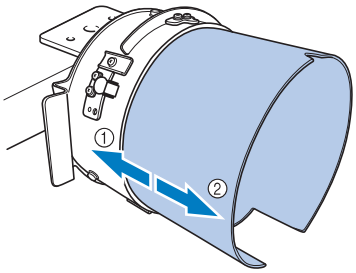
3 **ガタつきがないか、確認します。**

ガタつくときは、取り付け直します。

お願い

- ●取付金具は十分にはめ込み、つまみボルトをしっかりと締め付け、確実に取り付けてください。
- ●強度の弱い箇所（しなる、曲がる、反る）には、取り付けないでください。
- ●ゲージを外すときは、落下に注意してください。

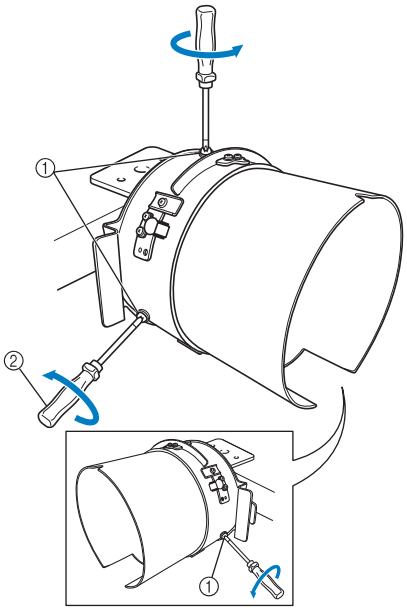
4 **帽子のタイプ（サイズ）に合わせてゲージのサイズを切り替えます。**



① ロープロタイプ（球面型）
② 標準タイプ（円筒型）

■ 標準タイプの場合

ゲージ外側の調節ネジ３本（上、左右）を、プラスドライバーで 2、3 回、回してゆるめます。

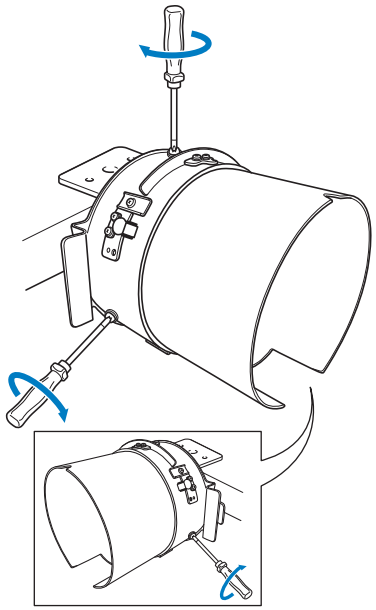


① 調節ネジ
② プラスドライバー

お願い

- ●調節ネジ３本（上、左右）は、完全に外さないでください。紛失するおそれがあります。少しゆるめる程度に回してください。

ゲージを手前に引き、調節ネジ３本（上、左右）をプラスドライバーで締めます。



→ ゲージの準備ができました。

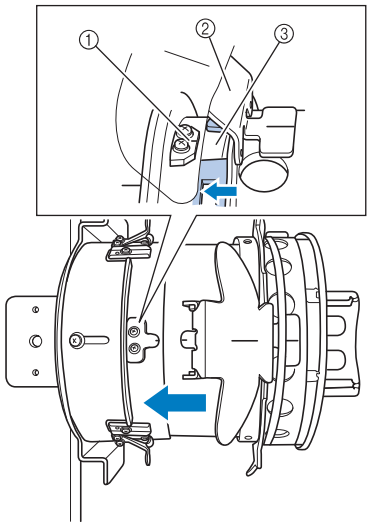
帽子枠のセットのしかた

ゲージにセットした帽子枠に帽子をセットし、ゲージから帽子枠を外します。そして、帽子枠を帽子枠ドライバーに取り付けます。

■ 帽子枠をゲージにセットし、帽子を帽子枠にセットする

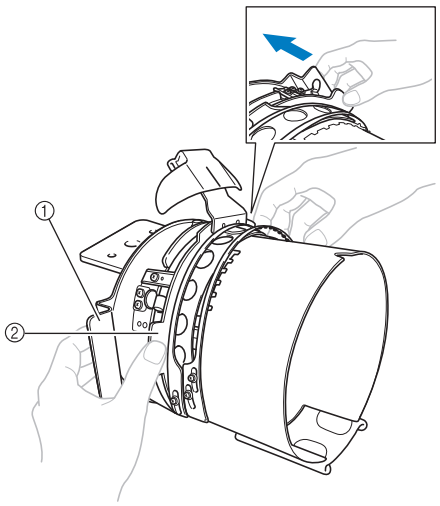
1 ゲージに帽子枠をセットします。

帽子枠のヒサシ押えの付け根にある切り欠きを、ゲージの台形金具に合わせて、ゲージの上に帽子枠をすべらせます。



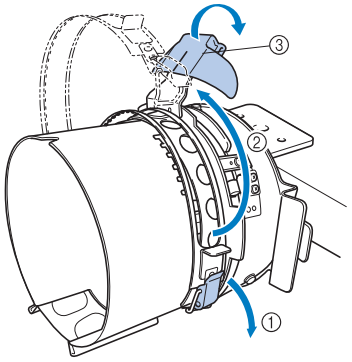
① ゲージの台形金具
② ヒサシ押え
③ 切り欠き

2 ゲージの左右のハンドルに指をかけ、親指で帽子枠の左右のハンドルを押して、ゲージに帽子枠を押し込みます。



① ゲージのハンドル
② 帽子枠のハンドル
→ 2 つの保持具がパチンと閉まり、帽子枠が固定されます。

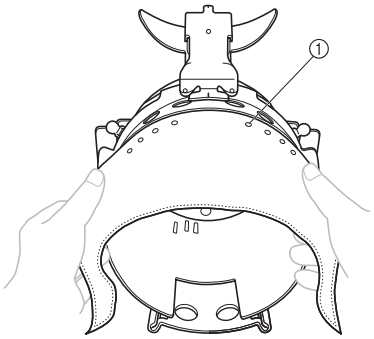
3 帽子枠のパチン錠を外し、フタ枠を開きます。ヒサシ押えも開きます。



① パチン錠を外します。
② フタ枠を開きます。
③ ヒサシ押え

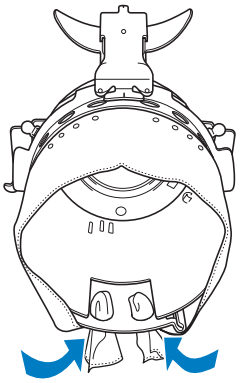
4 接着芯の中心とヒサシ押えの中心を揃えます。

10cm×51cm の接着芯を使用してください。



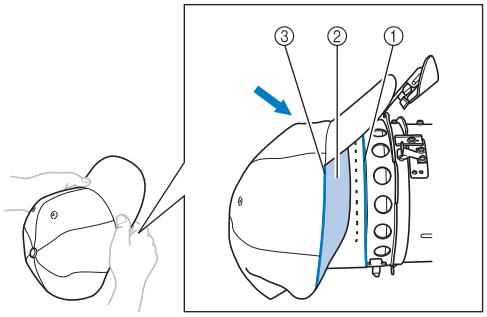
① ツメ
● 接着芯からツメが出るように、しっかりと固定してください。

5 接着芯の両端を帽子枠の下部の穴に入れ、接着芯を固定します。



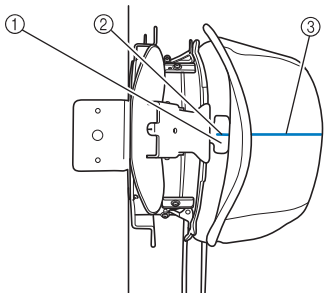
6 帽子内側のアセトリを立て、帽子を帽子枠にかけます。

帽子の両サイドを両手で持ち、下枠の奥のヘリとヒサシの付け根を合わせます。



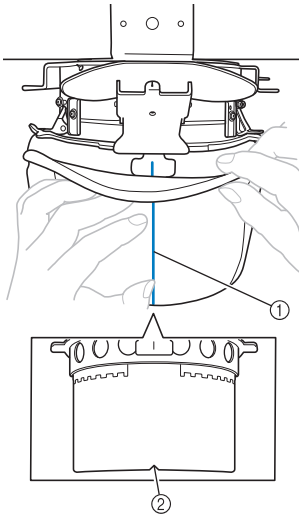
① 下枠の奥のヘリ
② アセトリ
③ ヒサシの付け根

このとき、帽子の中心線と帽子枠のアセトリ留めの中心線を合わせながら、アセトリをアセトリ留めの下側にもぐり込ませます。



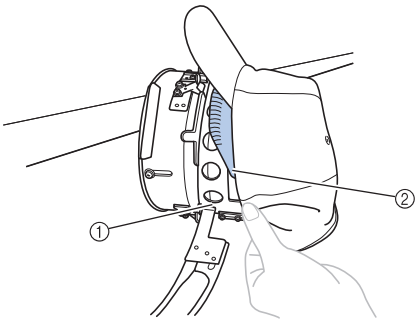
① アセトリ留め
② アセトリ留めの中心線
③ 帽子の中心線

7 帽子の中心線とゲージの凹みを合わせます。



① 帽子の中心線
② ゲージの凹み

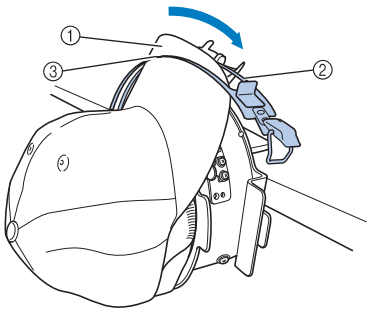
8 フタ枠を閉じる前に、アセトリの端がフタ枠の蝶番やかけ具ではさまれないように、アセトリの端を帽子に押し込みます。



① フタ枠の蝶番
② 図のようにアセトリを折り込みます。

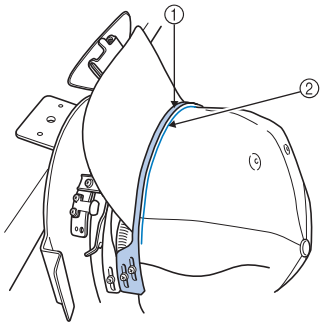
- アセトリをきちんと折り込みことで、はさみしわを防げます。

9 帽子のヒサシを、内側のフタ枠と外側のフタ枠の間にはさむようにして、フタ枠を閉じます。



① ヒサシ
② 内側のフタ枠
③ 外側のフタ枠

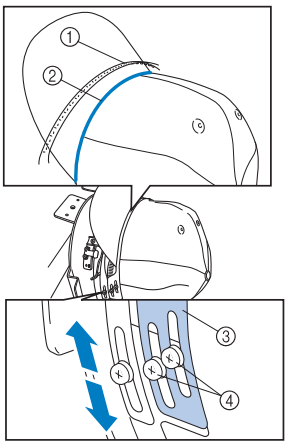
10 フタ枠の歯と帽子のヒサシの付け根をきれいに合わせます。



① フタ枠の歯
② ヒサシの付け根

お願い

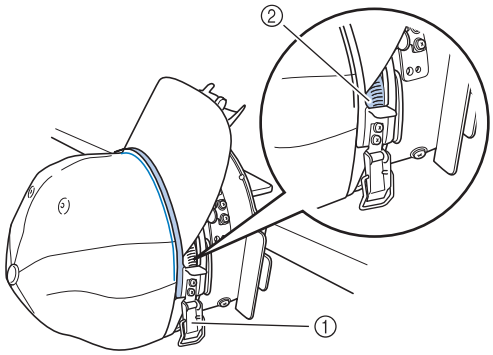
●帽子の形状に合わせて、フタ枠の歯が帽子のヒサシの付け根にぴったり合うように、外側のネジ 2 本をゆるめて外側のフタ枠の位置を調整することができます。



① フタ枠の歯
② ヒサシの付け根
③ 外側のフタ枠
④ 外側のネジ

11 パチン錠でフタ枠をしっかりと閉じます。

そのとき、パチン錠に干渉しないように、アセトリの端を帽子に押し込みます。

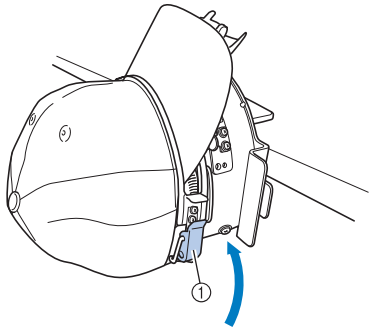


① パチン錠
② 図のようにアセトリを折り込みます。

お願い

●パチン錠を留める前に、帽子がずれていないこと、はさみしわがないことを確認してください。必要に応じて、帽子の位置を調整してください。

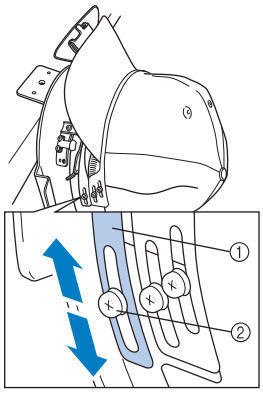
12 パチン錠の留金具を留めます。



① パチン錠の留金具

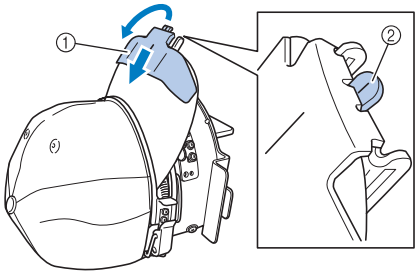
お願い

●帽子の布地が厚くてフタ枠が閉まらない場合や、布地が薄くてフタ枠の閉まりがゆるい場合は、内側のネジをゆるめて内側のフタ枠を調整することができます。



① 内側のフタ枠
② 内側のネジ

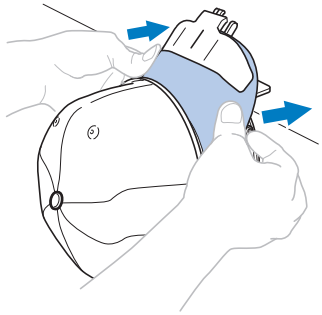
13 ヒサシ押えをいっぱいまで持ち上げて、ヒサシにかぶせます。ヒサシ押えを押し下げ、ヒサシをしっかりと押さえつけます。



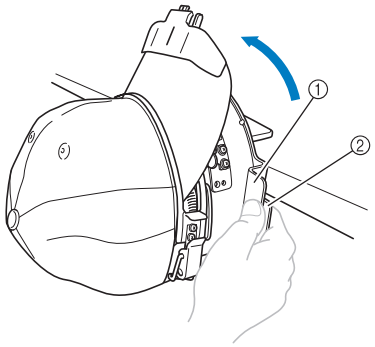
① ヒサシ押え
② ヒサシ押えの中心線

● ヒサシ押えの中心線が見えるまで、ヒサシ押えはしっかりと下げてください。

14 図のように、ヒサシがふくらまないように、両手で形を整えます。

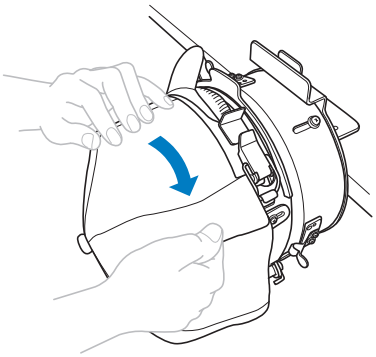


15 ゲージ右側のハンドルの裏側のレバーを手前に引きながら、帽子枠を左に回転させます。90 度回転したら、その位置で帽子枠が固定されるよう、レバーを放します。



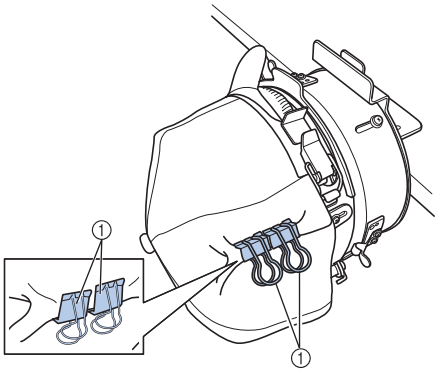
① ハンドル
② レバー

16 帽子の中央から端に向かって引っ張り、たるみを取り除きます。



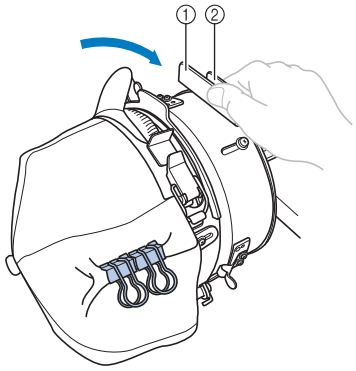
17 クリップで帽子を固定します。

クリップのつまみ部分は内側に折り込んでください。つまみ部分が外側に向いていると、ミシンの押えに接触するおそれがあります。



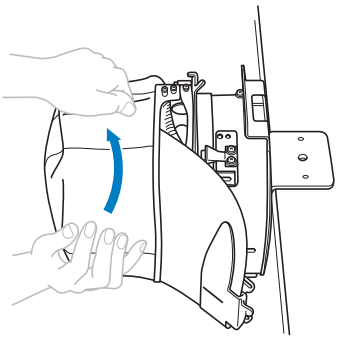
18 ゲージ右側のハンドルの裏側のレバーを手前に引きながら、帽子枠を右に回転させます。

180 度回転したら、その位置で帽子枠が固定されるよう、レバーを放します。

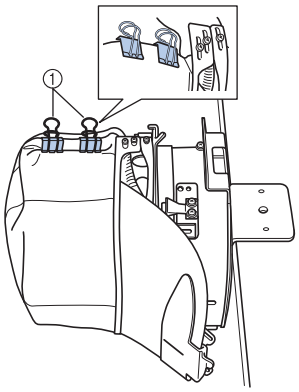


① ハンドル
② レバー

19 反対側と同様に、帽子の中央から端に向かって引っ張り、たるみを取り除きます。



20 クリップで帽子を固定します。



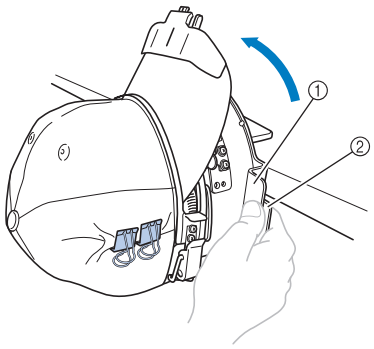
① クリップ

- クリップのつまみ部分は内側に折り込んでください。つまみ部分が外側に向いていると、ミシンの押えに接触するおそれがあります。

→ これで帽子が帽子枠にセットできました。

21 帽子枠を、正位置へ回転させます。

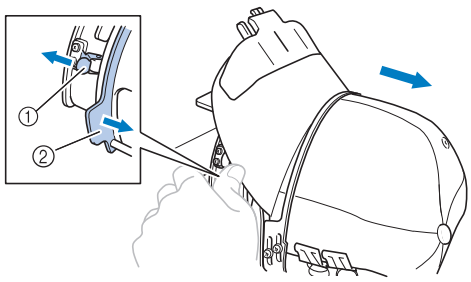
- ゲージ右側のハンドルの裏側のレバーを手前に引きながら、帽子枠を左に回転させます。90 度回転したら、その位置で帽子枠が固定されるよう、レバーを放します。



① ハンドル
② レバー

22 帽子枠をゲージから取り外します。

図のように、帽子枠の左右のハンドルを両手をつかみ、ゲージの 2 つの留具を親指で押します。ゆっくりと手前に引き、刺しゅう枠を引き抜きます。



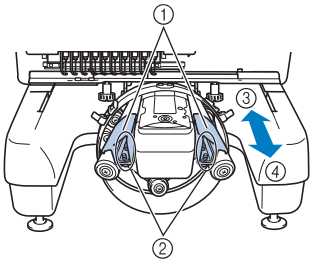
① 留具
② ハンドル

■帽子枠をミシンにセットする

帽子枠をミシンにセットするには、帽子枠ドライバーが必要です。帽子枠をミシンにセットする前に、キャリッジに帽子枠ドライバーを取り付けてください。(P. 268「帽子枠ドライバーを取り付ける」参照)
帽子枠をセットする前に、帽子の種類（サイズ）がぴったりと合うように、帽子枠の支柱を調整してください。帽子の大きさに応じて、前後に支柱を移動して調整します。

1 帽子枠の支柱 4 つのネジを 2、3 回、回してゆるめ、帽子の張りが保たれる位置へ支柱を移動します。

- ネジは、完全に外さないでください。紛失するおそれがあります。少しゆるめる程度に回してください。

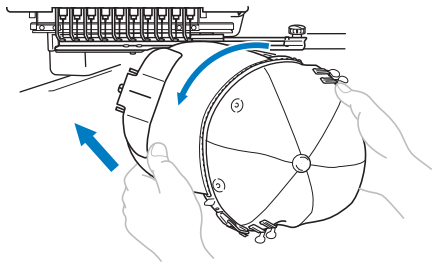


① 帽子枠の支柱
② ネジ
③ 低位置（浅い帽子）
④ 標準位置（深い帽子）

- 支柱は、左右同じ位置になるように調整してください。

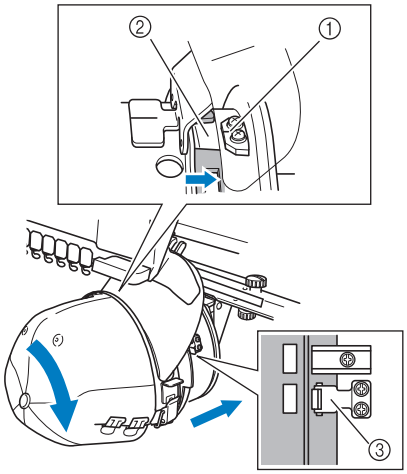
② 帽子枠ドライバーに帽子枠をセットします。

帽子のヒサシがミシンに当たらないように、帽子枠を左に回して挿入します。ヒサシを右に回して挿入しないでください。帽子枠がミシンに当たります。



- 帽子枠が押えなどまわりの部品に当たらないよう、注意してください。

刺しゅう面が上になるよう帽子枠を起こした後、帽子枠ドライバーの輪と帽子枠の輪を合わせます。左右にずらしながら、帽子枠ドライバーの台形金具と帽子枠の切り欠きを合わせ、帽子枠を押し込みます。



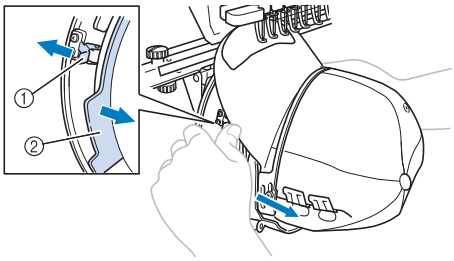
① 帽子枠ドライバーの台形金具
② 帽子枠の切り欠き
③ 留具
→ 2 つの留具で帽子枠が固定され、帽子枠がセットできました。これで、刺しゅうをぬうことができます。

■ 帽子枠の外し方

ぬい上がったら、帽子枠を取り外し、帽子を外します。

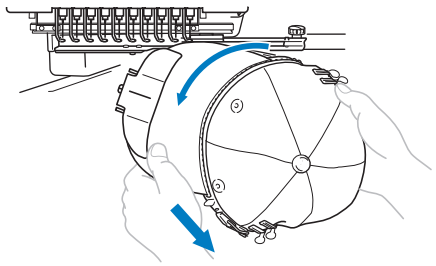
① 帽子枠を帽子枠ドライバーから取り外します。

図のように、帽子枠の左右のハンドルを両手をつかみ、ゲージの 2 つの留具を親指で押します。ゆっくりと手前に引き、刺しゅう枠を引き抜きます。



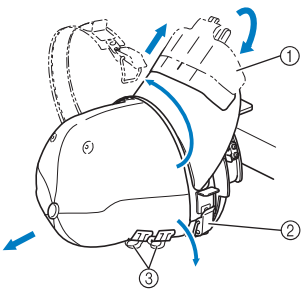
① 留具
② ハンドル

帽子枠を外す前に、帽子のヒサシがミシンに当たらないように、帽子枠を左に回してください。



- 帽子枠が押えなどまわりの部品に当たらないよう、注意してください。

② ヒサシ押えを外した後、帽子枠のパチン錠を外し、最後にクリップを外して帽子を外します。

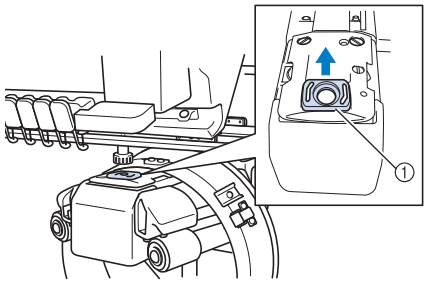


① ヒサシ押え
② パチン錠
③ クリップ

台枠の取り付け方

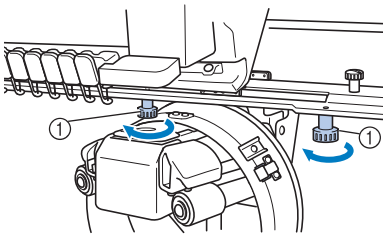
帽子枠を使い終わったら、針板カバーと帽子枠ドライバーを外し、台枠を取り付けます。

1 **針板カバーを取り外します。**



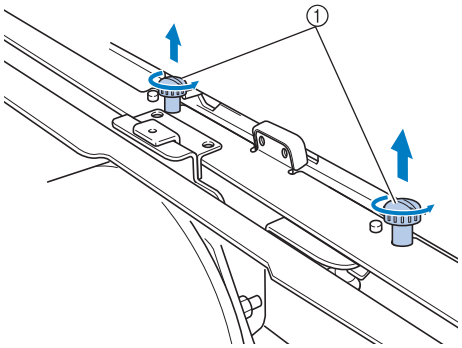
① 針板カバー

2 **下の 2 本のつまみボルトをゆるめます。**



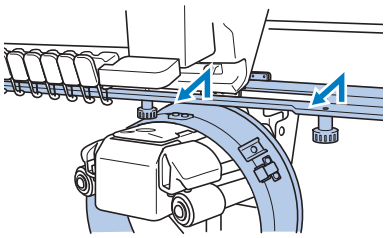
① つまみボルト

3 **上の 2 本のつまみボルトを外します。**



① つまみボルト

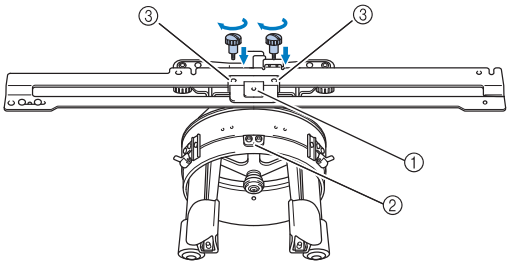
4 **帽子枠ドライバーを取り外します。**



お願い

●帽子枠ドライバーが押えなどまわりの部品に当たらないよう、注意してください。

5 **帽子枠ドライバーのアセトリ留めの穴と台形金具の中心線の位置を合わせ、天面の穴に、手順 3 で外した 2 本のつまみボルトを締め付けます。**

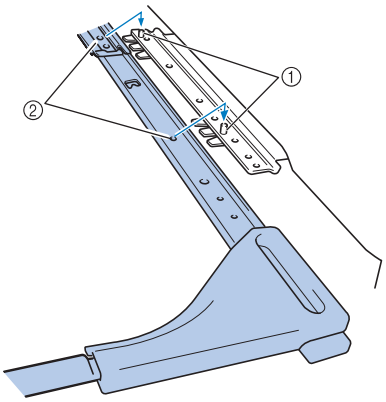


① アセトリ留めの穴
② 台形金具の中心線
③ 天面の穴

● つまみボルトが元々付いていた帽子枠ドライバーの穴（P. 268 手順 2 で外した穴）に締め付けます。

→ 帽子枠ドライバーの可動部が固定されます。

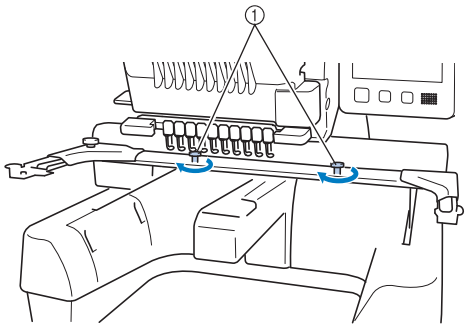
6 **X キャリッジのピンと台枠の穴を合わせ、2 本のつまみボルトで留めます。**



① X キャリッジのピン
② 台枠の穴

7

7 刺しゅう枠ホルダーを 2 本のつまみボルトで固定します。



① ミシン付属のつまみボルト（P. 268 手順 **1** で外したつまみボルト）を使います。

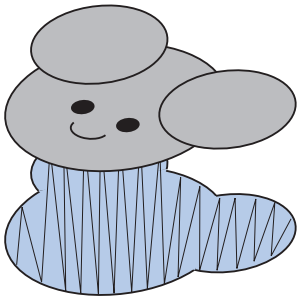
⚠ 注意

- つまみボルトは、付属の丸型ドライバーで確実に締めてください。

刺しゅうデータ作成上の注意

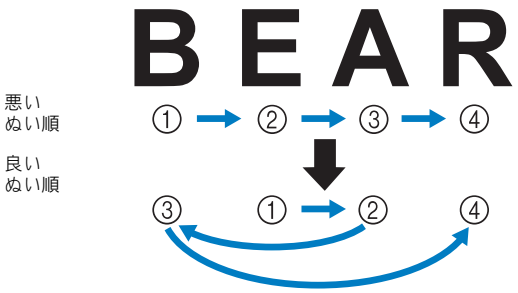
布じわや布縮みによる柄ずれを防ぐため、帽子用の刺しゅう模様データを作成するときに、次の点に注意してください。

1 必ず、地ぬい（下打ち）を入れます。



2 中心から左右両サイドに向かってぬわれるよう、ぬい順、ぬい方向を指定します。

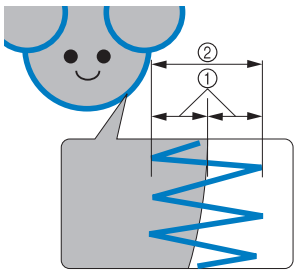
このミシンでは、模様の組み合わせ時に模様を選んだ順が、ぬい順となります。下記の例の場合は、「E」→「A」→「B」→「R」の順で模様を選び、「BEAR」と配置してください。



お願い

- 端から端への単方向でぬわないでください。布じわや布縮みの原因となります。

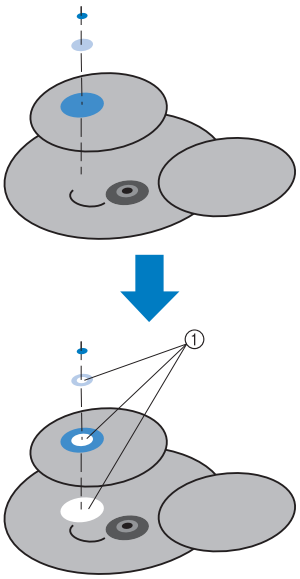
3 模様の輪郭をフチぬいするときは、模様に 1mm 以上重なるよう、サテンぬいのぬい幅を 2mm 以上に指定してください。また、1 模様（文字）ごとにフチぬいを行い、渡り糸の処理をすると、より確実に仕上がります。



① 1mm 以上
② 2mm 以上

⚠ 注意

● 4回以上の重ねぬいはしないでください。



① 重なっている部分をぬわないよう、
データ作成時に注意してください。

お手入れ

簡単なミシンのお手入れ方法を説明します。故障の原因となる場合がありますので、いつも清潔にしておきましょう。

画面の汚れの掃除

液晶画面が汚れた場合は、乾いたやわらかい布地等で軽くふき取ってください。有機溶剤や洗剤は使用しないでください。

本体表面の掃除

軽い汚れは、やわらかい乾いた布でふき取ります。ひどい汚れは、中性洗剤を薄めて布に浸して固くしぼり、ふき取ります。洗剤でふいた後は、乾いた布でふき取ります。

⚠ 注意

- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。

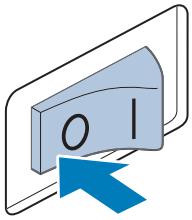
お願い

- ベンジン、シンナーなどは絶対に使わないでください。

釜の掃除

釜には糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良になる場合があります。定期的に掃除をしてください。
付属のミシンブラシを用意します。

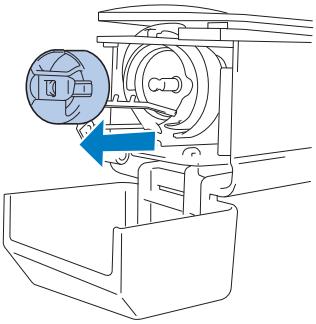
1. 電源スイッチの「O」側を押し、電源を切ります。



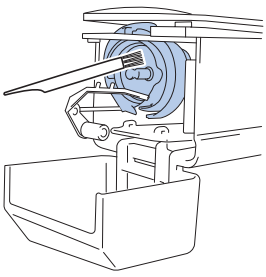
⚠ 注意

- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。

2. 釜カバーを開け、ボビンケースを取り出します。（P. 40 参照）



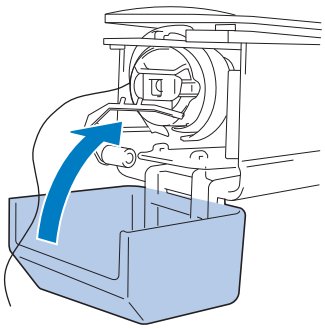
3. 付属のミシンブラシで、釜周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



⚠ 注意

- 釜に傷が付いているときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

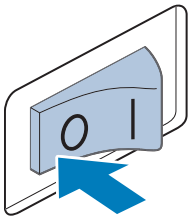
4 掃除し終わったら、ボビンケースをセットし、釜カバーを閉めます。(P. 45 参照)



針板まわりの掃除

移動刃、固定刃、糸保持板の周囲に糸くずやほこりがたまると、糸切り不良が発生したり、部品が破損するおそれがあります。月に 1 回は掃除してください。
Z 型ドライバー、付属のミシンブラシを用意します。

1 電源スイッチの「O」側を押し、電源を切ります。

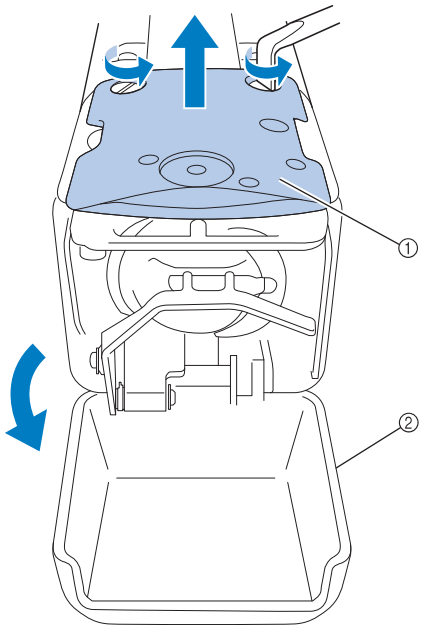


⚠ 注意

- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。

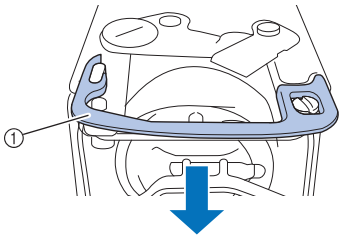
2 針板を外します。

Z 型ドライバーでネジをゆるめ、針板を外し、フックカバーを開けます。



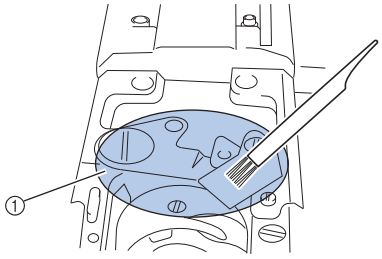
① 針板
② 釜カバー

3 針板スペーサーを外します。



① 針板スペーサー

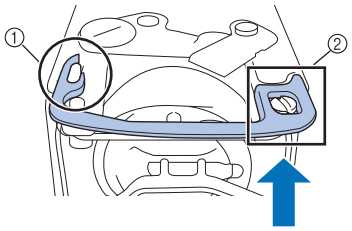
4 付属のミシンブラシで、移動刃、固定刃、糸保持板の周囲に付いた糸くずやほこりを取り除きます。



① このあたりの糸くずを取り除きます。

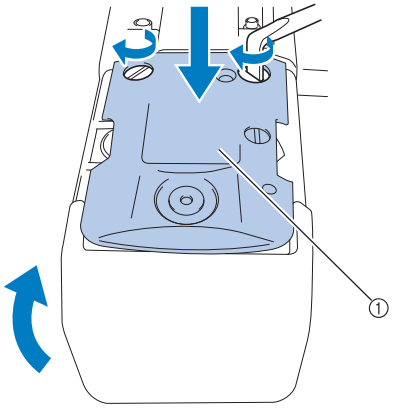
5 **掃除し終わったら、スペーサーを元に戻します。**

スペーサーの左端を楕円形の突起部にひっかけ、スペーサーの右端をネジ頭の周りに置きます。次に、スペーサーの右端を矢印の方向に押し込みます。



① 楕円形の突起部
② ネジ頭

6 **掃除し終わったら、手順 2 と逆の手順で針板を取り付け、釜カバーを閉じます。**

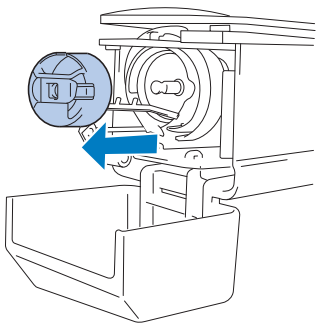


① 針板

ボビンケースの掃除

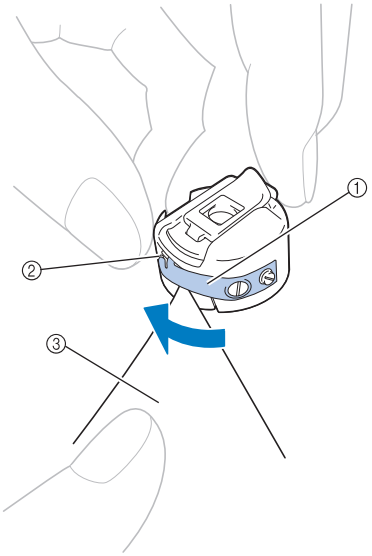
ボビンケースの調子バネの糸穴の周囲は、糸のワックスやゴミがたまりやすく、糸調子不良の原因となります。そのため、ボビンを交換するときは毎回掃除してください。
名刺と同等の厚さの紙を用意します。

1 **釜カバーを開け、ボビンケースを取り出し、ボビンを取り出します。(P. 40 参照)**



2 **調子バネの下に紙を差し込み、ゴミをかき出します。**

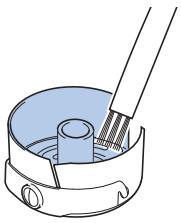
糸穴の周辺は、紙の角でこするようにしてゴミをかき出します。



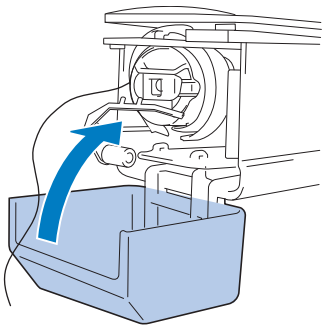
① 調子バネ
② 糸穴
③ 紙

お願い
●調子バネを曲げないように注意してください。また、厚紙や、定規など紙以外のもので掃除をしないでください。

3 **付属のミシンブラシで、ボビンケース内側の糸くずやほこりを取り除きます。**



4 **掃除が終わったら、ボビンをボビンケースに入れ、ボビンケースをセットし、釜カバーを閉めます。(P. 45 参照)**



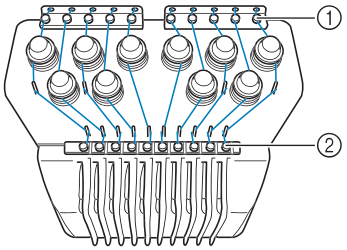
上糸の糸道の掃除

上糸の糸道の糸案内や糸調子つまみにほこりや糸くずがたまると、刺しゅう中に糸が切れるおそれがあります。糸道を定期的に掃除してください。

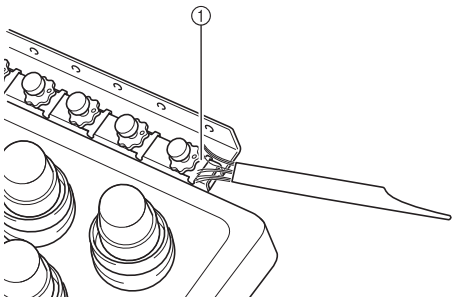
■ 糸案内を掃除する

1 **付属の掃除ブラシを使用し、糸案内プレートの下から糸くずやほこりを取り除きます。**

上糸案内と中糸案内の両方の糸案内プレートを掃除してください。



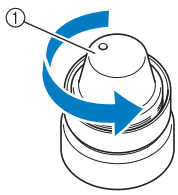
① 上糸案内
② 中糸案内



① 糸案内プレート

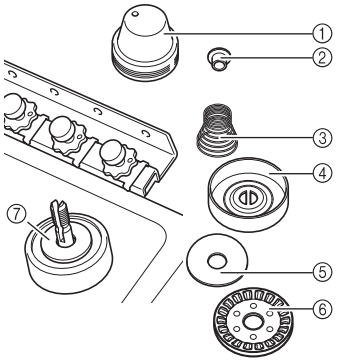
■ 糸調子つまみを分解して掃除する

1 **下図のように、ダイヤルを反時計回りに回すと、糸調子ダイヤルを取り外せます。**



① 糸調子ダイヤル

2 **付属の掃除ブラシを使用し、糸調子ダイヤルの内側の 2 つのフェルトワッシャー（上と下）から糸くずやほこりを取り除きます。**

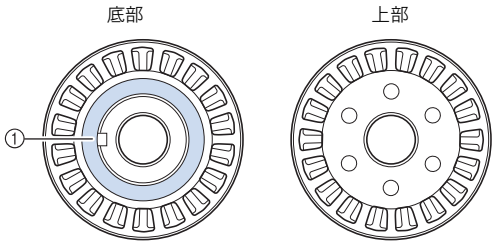


① 糸調子ダイヤル
② ナイロン製のショルダーワッシャー
③ 糸調子バネ
④ 糸調子ベースバネ
⑤ フェルトワッシャー（上）
⑥ 回転調子皿
⑦ フェルトワッシャー（下）

3 **糸調子ダイヤルを組み立て直します。**

お願い

●糸調子ダイヤルを組み立て直すときに、回転調子皿の取り付け方向が逆にならないよう注意してください。
底部にマグネットが付いています。



① マグネット

●糸調子ダイヤルを組み立て直すときに、パーツをなくしたり、組み立て順を誤ったりしないよう注意してください。糸調子つまみの組み立てに誤りがあると、ミシンが誤動作するおそれがあります。

7

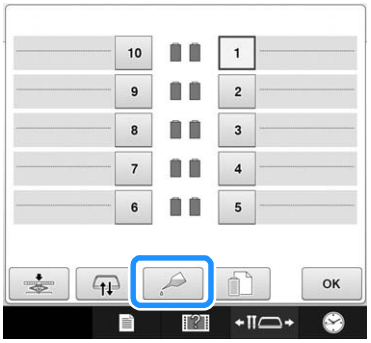
ミシンに注油する

機械部品の寿命を延ばし、正常に動作するために注油が必要です。初めて使うときは、その前に必ず注油してください。
その後は、毎日ミシンをご使用になる前に、釜のレース部に一滴注油してください。

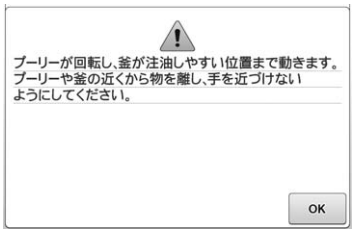
■ レース部に注油する

1 を押します。

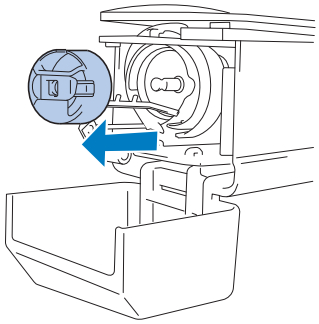
2 を押します。



→ 次のメッセージが表示されます。



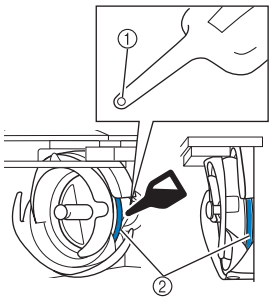
3 釜カバーを開け、ボビンケースを取り出します。(P. 40 参照)



4 を押します。

→ レース部が注油に適した場所へ移動します。

5 釜のレース部に 1 滴注油します。



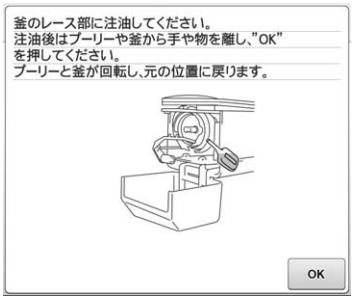
正面図　側面図

① 小さい穴を空けます。
② この部分に注油します。

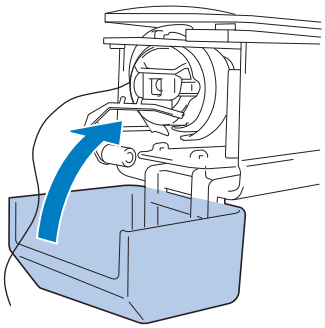
- 付属の油差しの先に、小さい穴を空けてから注油してください。

6 次の画面が表示されたら を押します。

→ レース部が元の位置に戻ります。

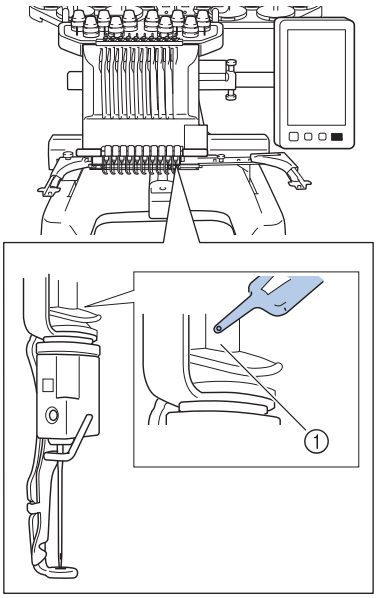


7 注油し終わったら、ボビンケースをセットし、釜カバーを閉めます。(P. 45 参照)



■針棒に注油する

縫製画面で、針棒を 1 本ずつ選び、プーリーを反時計回りに回し、ロック位置まで下げます。
(P. 106「位置を合わせるコツ」参照) 図のように、針棒のフェルト上に一滴注油してください。



① フェルト

- 油をさしすぎないでください。ぬうときに油が布に垂れる場合があります。

お願い

- 毎日、釜のレース部に一滴注油してください。
- ミシンを 40 ～ 50 時間ご使用するごとに、針棒のフェルト上に一滴注油してください。
- 注油にはミシン用油を使用してください。その他の油を使用すると、故障の原因となります。
- 油をさしすぎると、生地や糸の汚れの原因となりますので注意してください。油をさしすぎた場合は、布地等でふき取ってください。
- 縫製時に糸切れ不良が発生したり、釜の動作音が増大したりした場合は、釜のレース部に注油してください。

メンテナンスメッセージについて



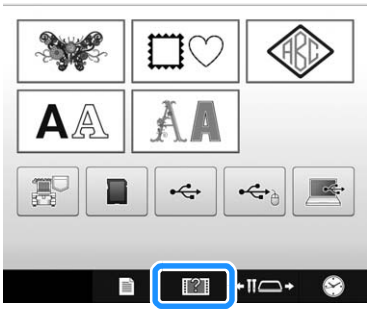
このメッセージが表示されたら、ミシンを正規販売店かお近くの正規サービスセンターに持ち込み、定期メンテナンスチェックを受けることをお勧めします。OK を押すと、このメッセージは消え、ミシンを使い続けることができますが、適切なメンテナンスが実行されるまで、このメッセージは繰り返し表示されます。
適切なメンテナンスで、継続して快適にミシンをご使用いただけるようになります。

困ったとき

トラブルチェック機構

このミシンには、ぬっていて困ったときのために簡単なトラブルチェック機構が付いています。当てはまる項目を押して、原因を確かめてください。

1 [ ] を押します。



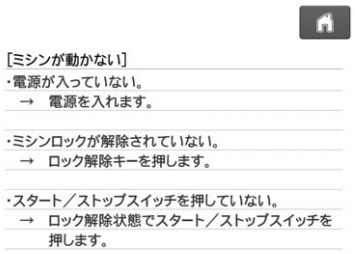
2 [使い方] を押し、次に [トラブルチェック] を押します。



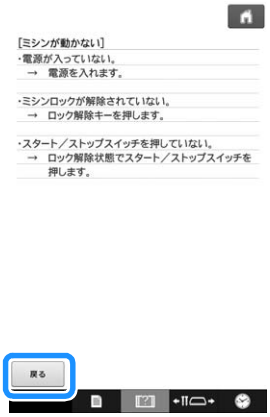
3 トラブルの内容に当てはまる項目を選びます。



4 表示されたチェック項目を点検してください。



5 確認し終わったら、[戻る] を押します。



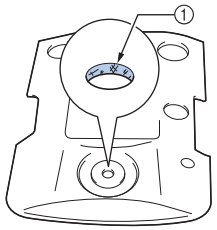
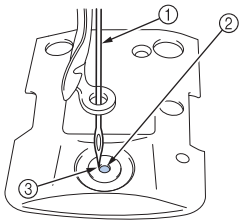
6 [戻る] を押します。

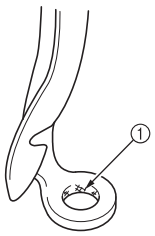
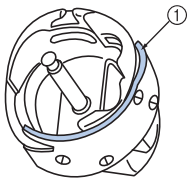


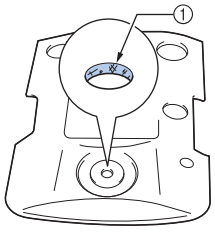
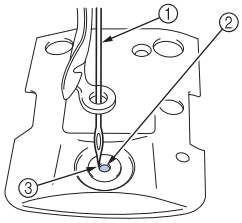
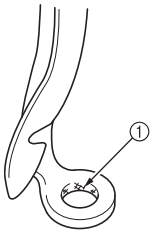
→「使い方」と「動画」のページに戻ります。

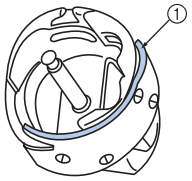
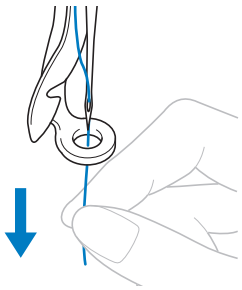
トラブルチェック

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に以下の項目を確認してください。
それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」ご相談ください。

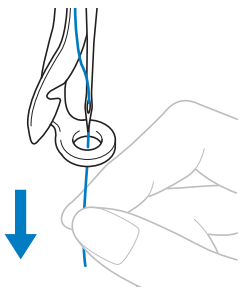
こんなとき	原因	対処のしかた	参照ページ
ミシンが動かない	電源が入っていない。	電源を入れます。	P. 46
	ミシンロックが解除されていない。	ロック解除キーを押します。	P. 72
	スタート／ストップスイッチを押していない。	ロック解除状態でスタート／ストップスイッチを押します。	P. 72
刺しゅう枠をセットできない	取り付ける刺しゅう枠に適した台枠でない。	使用する刺しゅう枠用の台枠を取り付ける。	P. 96
刺しゅう枠の取り付け、取り外しができない	刺しゅう枠の取り付け、取り外しが難しい位置で、キャリッジが止まった。	針棒 / 枠移動キーを押して、取り付け、取り外しがしやすい位置にキャリッジを移動します。	P. 96
平枠、キルト枠、ジャンボ枠で大きな布地に縫製中、縫製が中断した	押えが模様のまわりの布地に引っかかった。	針棒 3 番～ 7 番を使用し、刺しゅう枠の中央付近で刺しゅうしてください。	P. 117、140
針が折れる	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P. 94
	針の止めネジがゆるんでいる。	針交換ドライバーを使って止めネジをしっかり締めます。	P. 94
	針が曲がっている。 針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P. 37、94
	針板の穴の周辺に傷がある。  ① 傷	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―
	針板の穴に針が接触している。  ① 針 ② 針板の穴 ③ 接触	針を交換します。 お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	P. 94
	押えの取り付けが高い 針が押えに接触している。	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―

こんなとき	原因	対処のしかた	参照ページ
針が折れる	押えの穴の周辺に傷がある。  ① 傷	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―
	釜の糸すべり面に傷がある。  ① 糸すべり面	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―
	ボビンまたはボビンケースが正しくセットされてない。	ボビンまたはボビンケースを一旦外して、セットし直してください。	P. 40、45
	釜が正しくセットされていない。	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―
	釜止めが正しく付いていないため、内釜が回っている。	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―
	上糸が正しくかけられていない。 上糸がどこかに引っかかっている。	上糸を押えの下から手で引いてスムーズに糸が出るか確認します。スムーズに糸が出ない場合は、糸が正しくかかっていません。上糸を正しくかけ直します。糸が針棒糸案内にかかっていることを確認します。	P. 64-67
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P. 132
	このミシン専用のボビンを使用していない。	このミシン専用のボビンを使用します。	P. 37
	針と釜の出合が正しくない。	釜の調整が狂っています。お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―
	針棒ケースにガタつき（前後・左右）がある。	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―
	刺しゅうデータの糸密度が細かすぎる。 3 回以上の重ねぬいをしている。	当社正規データ作成装置（刺しゅう PRO など）で、刺しゅうデータの糸密度や重ねぬい設定を修正します。	P. 156

こんなとき	原因	対処のしかた	参照ページ
自動糸切りで糸が切れない	針板まわり（移動刃、固定刃、糸保持板）に糸くずやほこりなどがたまっている。	針板まわりの糸くずやほこりを取り除いてください。	P. 283
	このミシン専用のボビンケースを使用していない。	このミシン専用のボビンケースを使用してください。	―
	回転調子皿に糸くずやほこりがたまっている。	糸調子ダイヤルのつまみを外し、中のフェルトに付着している糸くずやほこりを取り除いてください。	P. 285
自動糸切り後、上糸が短く切れて針から抜けてしまう	針板まわり（移動刃、固定刃、糸保持板）に糸くずやほこりなどがたまっている。	針板まわりの糸くずやほこりを取り除いてください。	P. 283
上糸が切れる	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P. 94
	針の止めネジがゆるんでいる。	針交換ドライバーを使って止めネジをしっかり締めます。	P. 94
	針が曲がっている。 針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P. 37、94
	針板の穴の周辺に傷がある。  ① 傷	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―
	針板の穴に針が接触している。  ① 針 ② 針板の穴 ③ 接触	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―
	押えの取り付けが高い。 針が押えに接触している。	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―
	押えの穴の周辺に傷がある。  ① 傷	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―

こんなとき	原因	対処のしかた	参照ページ
上糸が切れる	メタリック糸など、弱い糸を使用している。	縫製速度を遅くします。	P. 147
	釜の糸すべり面に傷がある。  ① 糸すべり面	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―
	糸がからまって、釜などに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。釜に詰まっていた場合は、掃除します。	P. 282
	外釜と内釜の遊びが大きい。	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―
	外釜がスムーズに回転していない。	糸くずを取り除いて掃除し、注油します。	P. 282、286
	釜止めと釜のすき間が正しく調整されていない。	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―
	上糸が正しくかけられていない。 	上糸を押えの下から引いて、スムーズに糸が出るか点検します。スムーズに糸が出ない場合は、糸が正しくかかっていません。上糸を正しくかけ直します。糸が糸案内の正し位置を通っていることを確認します。	P. 64-67
	上糸が糸道上または糸道中の糸案内を通っていない。	糸が正しく糸道上または糸道中の糸案内を通っていることを確認します。	P. 65-66
	糸に結び目やこぶがある。	その部分を取り除きます。	―
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P. 132
	糸調子が適当でない。 ボビンケースから糸がスムーズに出ていない。	正しい下糸調子にします。	P. 131
	ボビンケースに傷がある。	新しいボビンケースと交換します。	P. 40
	下糸が正しく巻かれていない。	ボビンの径に対して 80% の巻き量で、糸が平均に巻かれているか点検します。正しく巻かれているボビンと交換するか、糸を巻き直します。	P. 42
	このミシン専用のボビンを使用していない。	このミシン専用のボビンを使用します。	P. 37
	自動針穴糸通し装置が破損している。	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―

こんなとき	原因	対処のしかた	参照ページ
上糸が切れる	針に粘着剤などが付着している。	針を交換します。	P. 94
	布地の張りが弱い。	たるみのないようにしっかり布地を刺しゅう枠に張り直します。	P. 56、101
	糸の品質が悪い。	撚りが甘い糸や古く弱い糸を、品質の良い糸と交換します。	―
	刺しゅうデータにゼロステッチが含まれている。	ゼロステッチを削除します。	P. 234
	刺しゅうデータが非常に細かいぬいピッチが連続して作られている。	小ピッチステッチを削除します。	P. 234
	刺しゅうデータの糸密度が細かすぎる。 3 回以上の重ねぬいをしている。	当社正規のデータ作成装置（刺しゅう PRO など）で、刺しゅうデータの糸密度や重ねぬい設定を修正する。	P. 156
	回転調子皿に糸くずやほこりがたまっている。	糸調子ダイヤルのつまみを外し、中のフェルトに付着している糸くずやほこりを取り除いてください。	P. 285
下糸が切れる	下糸のセットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P. 45
	ボビンに傷があり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換します。	P. 40
	ボビンケースに傷がある。	ボビンケースを交換します。	P. 40
	糸がからまっている。	からんだ糸を取り除き、釜を掃除します。	P. 282
	このミシン専用のボビンを使用していない。	このミシン専用のボビンを使用してください。	P. 37
	回転調子皿に糸くずやほこりがたまっている。	糸調子ダイヤルのつまみを外し、中のフェルトに付着している糸くずやほこりを取り除いてください。	P. 285
ぬい目がとぶ	上糸の通し方がまちがっている。	上糸を正しく通します。	P. 64
	針が曲がっている。 針先がつぶれている。	新しい針と交換します。	P. 37、94
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	P. 94
	針板の下や釜にほこりなどがたまっている。	針板の下や釜を掃除します。	P. 282、283
	針と釜の出合が正しくない。	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―
	糸のねじれが強すぎる、またはゆるすぎる。	ねじれが適切でないと、正しいループの形ができません。新しい糸こまを使用します。	―
刺しゅう模様がくずれる。	糸がからまっている。	釜などにからんだ糸をピンセットなどで取り除きます。	―
	刺しゅう枠に布地がきちんと張られていない。（布地の張り方がゆるいなど）	布地の張り方がゆるいと、模様くずれやぬい縮みの原因となります。刺しゅう枠に布地を正しく張ります。	P. 56、101
	刺しゅうのサイズに対して大きい刺しゅう枠を使用している。	刺しゅうの大きさに合った刺しゅう枠を使用します。	P. 96
	台枠のつまみボルトがゆるんでいる。	付属の丸型ドライバーで、2 本のつまみボルトをしっかりと締め直してください。	P. 33

こんなとき	原因	対処のしかた	参照ページ
刺しゅう模様がくずれる	接着芯を貼っていない。	特に伸びる布地、薄い布地、目の粗い布地、ぬい縮みしやすい布地には、必ず刺しゅう用接着芯を貼ります。 ＜帽子枠使用時＞ やわらかい素材の帽子の場合は固めの芯を使用します。	P. 100
	刺しゅう枠が正しくキャリッジにセットされていない。	刺しゅう枠を正しくキャリッジにセットします。台枠の左右のアームのピンが、刺しゅう枠の取付部の穴にきちんと入っているか確認します。	P. 58
	キャリッジや刺しゅう枠が周辺に置いてある物に当たっている。	キャリッジや刺しゅう枠が物にぶつかると模様くずれの原因になります。刺しゅう枠	―
	布地が引っかかっている、またははさみ込まれている。	ミシンを止めて布地を正しい位置に直します。	―
	刺しゅう枠を取り外している途中でキャリッジが動いた。	ぬっている途中で押えに物がぶつかったり、キャリッジが動いたりすると模様くずれの原因になります。 ぬっている途中で刺しゅう枠を外したり、セットしたりするときには注意してください。キャリッジが動いてしまった場合は、電源を入れ直します。ミシンを止めたときの状態をミシンが記憶しており、正しい位置に戻ります。	―
	デザインが正しく作成されていない。	伸縮性のある布や毛羽立った布を使用するときと同様に、デザインを伸ばして補正したり下張りを使用する必要があります。	―
セットした刺しゅう枠のサイズを正しく認識しない	台枠のつまみボルトがゆるんでいる。	付属の丸型ドライバーで、2 本のつまみボルトをしっかりと締め直してください。	P. 33
刺しゅう枠の原点位置が横にずれる	台枠のつまみボルトがゆるんでいる。	付属の丸型ドライバーで、2 本のつまみボルトをしっかりと締め直してください。	P. 33
上糸のぬい目が浮く（ルーピングの発生）	上糸調子が弱い。 	押えの穴に上糸を通した後、手で糸を引いて糸調子を確認します。迷う場合は浮き目が発生してない他の針棒と比較してみましょう。	―
上糸のぬい目が浮く（ルーピングの発生）	糸調子つまみの締め込み量に見合った糸調子になっていない。	糸調子が出ていない場合は、糸調子つまみの前後にあるサブテンションの糸調子皿に、糸のワックスやゴミが入って糸調子皿が浮いている場合がありますので、掃除します。	P. 285
	糸調子皿付近で糸が正しく通されていない。	糸調子皿を掃除してください。 上糸を通し直し、糸を引いてみて糸調子皿が回転することを確認してください。	P. 285
	糸の品質が悪い。	ほかの糸に替えてぬってみましょう。糸を替えて問題なければ、糸品質に原因があります。品質の良い糸と交換します。	―
ぬっているときの音が高いガタガタと音がする	釜の部分に糸くずが巻きこまれている。	釜の掃除をします。	P. 282
	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を調べて通し直します。	P. 64
	釜に傷がある。	釜を交換します。 お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―
	注油が不足している。	注油します。	P. 286

こんなとき	原因	対処のしかた	参照ページ
自動糸通しができない	針が正しい位置にない。	針棒移動キーを押して、糸通しをしたい針棒を縫製位置に移動します。	P. 71
	このミシン専用の針を使っていない。	このミシン専用の針と交換します。	P. 37、94
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	P. 37、94
	自動針穴糸通し装置の糸通し用のフックが曲がっている。	お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	―
糸調子が合わない	上糸の通し方がまちがっている。	上糸を通す順序を調べて通し直します。	P. 64
	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P. 45
	下糸の糸調子が合っていない。	下糸の糸調子を調節します。	P. 131
	回転調子皿に糸くずやほこりがたまっている。	糸調子ダイヤルのつまみを外し、中のフェルトに付着している糸くずやほこりを取り除いてください。	P. 285
刺しゅうを始めたとき、上糸が針から外れる	糸切り後に針穴に残る上糸の長さが短い。	設定画面の 2 ページで、糸切り後に残る上糸の長さを「糸切り長く」に設定します。	P. 234
刺しゅうを始めたとき、上糸が下糸に届かない	下糸がない、ボビンから下糸が送られない、または送られた糸が短すぎる。	ボビンを正しくセットします。	P. 45
糸が切れていないのに、糸切れエラーになりミシンが停止する	回転調子皿にかかっている糸が外れ、回転調子皿にある糸センサーが糸送りを感知できず、糸切れエラーが起きてミシンが停止した。	回転調子皿に正しく糸をかけます。再度糸をかけ直しても糸切れエラーが起きる場合は、センサーが破損している可能性があります。お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。	P. 66
糸が擦り切れる	回転調子皿に糸くずやほこりがたまっている。	糸調子ダイヤルのつまみを外し、中のフェルトに付着している糸くずやほこりを取り除いてください。	P. 285
渡り糸が長い	回転調子皿に糸くずやほこりがたまっている。	糸調子ダイヤルのつまみを外し、中のフェルトに付着している糸くずやほこりを取り除いてください。	P. 285
布に針による傷か穴がある	針がとがってない	針を交換します。針がとがっていないと布を押し上げ、布に傷がつきます。	P. 37、94
	布が弱すぎる。	弱い布は、針が通るだけで破損することがあります。布の表面に接着芯を使用します。	P. 258
布にしわが寄っている	糸調子が強すぎる。	布の種類と使用する糸に応じて、糸調子を調節します。特にポリエステル製の糸は、糸調子を強くすると伸びやすくなります。縫製が終わると、糸が元に戻りぬいしわの原因となります。	P. 132
	枠の取り付け方が正しくない。	伸縮性のない織物などは、枠をきつめに取り付けます。取り付け方が弱いと布にこぶができることがあります。やわらかいニット地には、安定した裏張りを使ってしっかりと伸ばし、枠を取り付けます。布を伸ばしすぎると、枠を外したときにしわが入ることがあります。	P. 257
	縦ぬいが長すぎる。	全体ぬい、または多数列の縦ぬいでデザインし直します。	―
	針がとがっていない。	針を交換します。針がとがっていないと布を押し下げ、布に傷がつきます。	P. 37、94
	デザインが細かすぎる。	特定部分のぬい目が多くなりすぎると、布にしわが入ることがあります。5 ～ 10% 程度ぬい目の数を減らします。	P. 234
液晶画面が見にくい	液晶が明るすぎる、または暗すぎる。	画面の明るさを調整をします。	P. 239

こんなとき	原因	対処のしかた	参照ページ
糸こま交換時、LED が点滅後、糸色を示さない	次の糸色は、黒色が割り当てられている。	次の糸色に黒色が割り当てられている場合は、LED ライトは黒色を示して消灯します。 点滅後、消灯します。	P. 121
厚手の布地に刺しゅうするとき、正しく布地を刺しゅう枠に張れない	布の厚みで、布地が外枠と内枠の間ですべってしまう。	マスキングテープやバイアステープを外枠に巻いてください。テープの摩擦で、布地がすべりにくくなります。	P. 257
液晶画面のカメラ画像がぶれる	温度が低いところでミシンを使用した。	温度が低いところでミシンを使用すると、カメラ画像がぶれることがあります。 これは故障ではありません。電源を入れて、そのまま少し時間をおいてから、内蔵カメラを使用してください。	―

⚠ 注意

- **このミシンには、糸切れ確認装置が付いています。上糸が通されていない状態で、ミシンロック解除後スタート／ストップスイッチを押しても、ミシンは正常に作動しません。**
- **運転中に停電が発生した場合**
  - **電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。**
  - **再度、運転する場合は、運転の手順に従って正しく行ってください。（P. 46 参照）**

エラーメッセージ

ミシンが正しく準備できていない状態でスタート／ストップスイッチを押したときや、まちがった操作をしたときは、ミシンは停止し、ブザーとエラーメッセージでお知らせします。エラーメッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

表示中のメッセージは、OK を押すか、対処をしてから OK を押すと消えます。エラーメッセージが再度表示される場合は、お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。



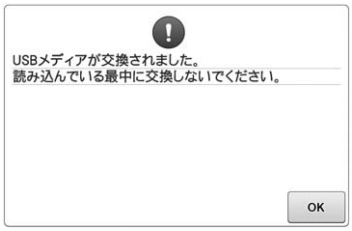
Linkモードでパソコンからのデータを呼び出せない
ミシンの電源を切り、USB接続を確認してください。USBコードを確実に接続して、電源を入れ直します。
(P. 178参照)



USBに接続している



USB メディアエラー
OK を押して、もう一度操作してください。または、USBメディアが破損している可能性があります。



USB メディアの模様一覧画面を表示中に、USB メディアを抜いて、または入れ替えて模様を選んだ
元のUSB メディアを差し込んで模様を選ぶか、新しいUSBメディアの模様一覧画面を表示させて模様を選んでください。



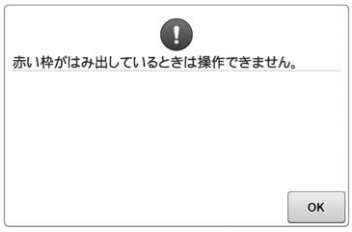
USB メディアが差し込まれていない状態で、を押した
USB メディアを差し込んでください。



USB メディアがライトプロテクトされている状態で、模様を記憶しようとした
ライトプロテクトを解除して記憶してください。



USB メディアがライトプロテクトされている状態で、模様を消去しようとした
ライトプロテクトを解除して消去してください。



模様が赤い枠の外にある状態で編集しようとした
赤い枠の中に模様を移動させてください。



糸がからむ、針が曲がるなどの異常が発生した
ミシンが異常を検知して止まりました。糸が正しくかかっているか（P. 64参照）、針が曲がっていないかを確認してください。



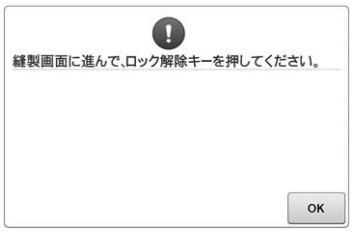
ミシンが刺しゅう位置合わせマークを認識した
刺しゅう位置合わせシールをはがし、OK を押して操作を続けてください。



刺しゅう位置合わせマークを認識できない
選択したエリアに、刺しゅう位置合わせシールが貼ってあるかどうかを確認してください。問題が改善されない場合は、シールの位置を変えてください。



針板まわり（移動刃、固定刃、糸保持板）に糸くずやほこりなどがたまっている
針板まわりの掃除をしてください。(P. 283参照)



縫製画面または縫製設定画面以外の画面が表示されているときに糸切りスイッチを押した
縫製画面または縫製設定画面に進んでください。



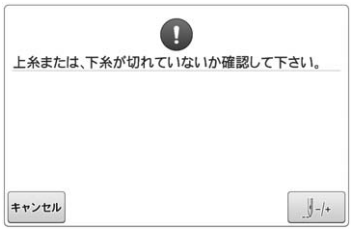
ロック解除をせずに糸切りスイッチを押した
ロック を押してから、糸切りしてください。



糸案内支持棒が折りたたまれたままである
糸案内を準備してください。(P. 31「糸案内を準備する」参照)



糸色変更中に、 が押された



上糸が切れたり、糸が糸調子つまみや糸案内から外れたりして、上糸が正しく通っていない
上糸の通し方を確認して正しくセットし直してください。

下糸が切れた、またはなくなった
下糸があること、ボビンから下糸が約50mm 出ていることを確認してください。なくなっていれば新しい下糸をセットしてください。(P. 45 参照)

回転調子皿に糸くずやほこりがたまっている
糸調子ダイヤルのつまみを外し、中のフェルトに付着している糸くずやほこりを取り除いてください。(P. 285参照)

糸調子が強い
上糸調子、下糸調子を確認し、調整してください。(P. 131参照)

***その他複数の原因が考えられるため、トラブルチェックー覧表も参照してください**
上糸が切れる (P. 291参照)
下糸が切れる (P. 293参照)

*** を押すと、ぬい目を戻したり、進めたりすることができます。(P. 123参照)**



が押されたため、選択中の模様が削除されようとしている



画像を削除しようとした



を押してカメラモードにしたとき、使用できないキーを押した

を押して、カメラモードを解除してください。



コピープロテクトがかかっている模様をUSBメディアまたはパソコンに保存しようとした

この模様は著作権法により、USBメディアおよびパソコンに保存して再生／編集することはできません。ミシン本体のメモリーに保存してください。



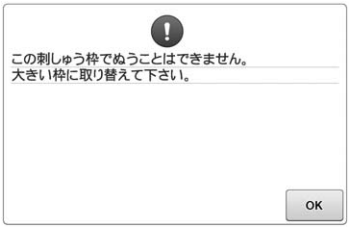
差し込んだUSB メディアは使用できない

USB メディアを交換してください。



このミシンでは扱えない刺しゅうカードの模様を呼び出そうとした

著作権がある模様の刺しゅうカードの中には、扱えないものがあります。



台枠のつまみボルトがゆるんでいる

付属の丸型ドライバーで、2本のつまみボルトをしっかりと締め直してください。 (P. 58参照)

セットしている刺しゅう枠が小さい

使用可能な刺しゅう枠を確認して、大きい枠をセットし直してください。 (P. 56 参照)



このミシン用にダウンロードされたものではない模様を呼び出そうとした



模様のステッチが多すぎて使用できない

50万ステッチを超えている模様は表示できません。刺しゅうソフトを使用して、ステッチの数を減らしてください。



分割模様を、別の模様に組み合わせようとした

この模様は組み合わせることができません。



模様を101個以上組み合わせようとした

模様の組み合わせは100個までです。



選んだファイルがこのミシンでは対応していない
対応している画像ファイルの仕様を確認してください。
(P. 235参照)



模様データの総容量が制限を超えた
これ以上組み合わせられません。



ミシンがメンテナンスを必要としている
(P. 287参照)



設定したぬい始め位置でぬうことができない
ぬい始め位置を変更するか、枠を移動して縫製位置を変更してください。
(P. 143 参照)



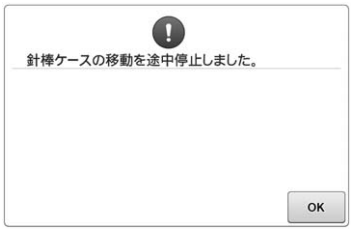
自動針穴糸通し装置が正常に動作しなかった
自動針穴糸通し装置に糸がからんでいる場合は、糸を取り除いてから、
OK を押します。



自動針穴糸通し装置で糸を通している途中で、他の操作をした
糸通しボタンを押して糸通しを完了してから、次の作業を行ってください。
(P. 68 参照)



針棒ケース停止位置不良
OK を押すと、自動復帰します。



針棒ケースが移動中に停止した
OK を押すと、自動復帰します。



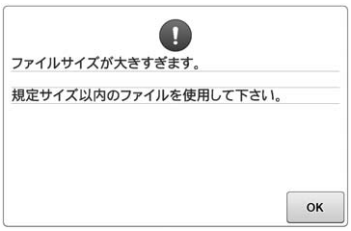
針棒ケースが開始位置に移動できなかった
OK を押すと、自動復帰します。



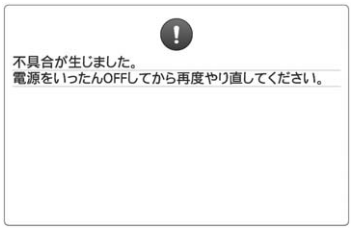
針棒ケースモーターロック
OK を押すと、自動復帰します。



ピッカーが正常に動作しなかった
ピッカーに糸がからんでいる場合は、糸を取り除いてから、OK を押します。



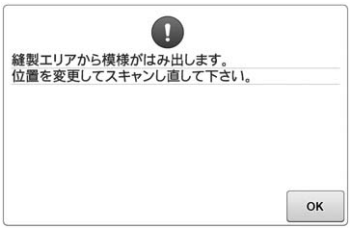
ファイルサイズが規定を超えている
ファイルサイズを確認してください。



ミシンが不具合を検知した
電源を一旦切り、再度入れてください。



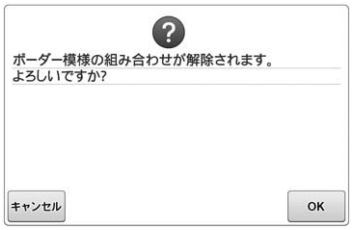
針停止位置不良
プーリーの印が真上にくるように回してから、OK を押します。



刺しゅう位置合わせシールが刺しゅう枠の近くまたは縫製範囲外にあり、内蔵カメラで模様の位置合わせができない
刺しゅう位置合わせシールの位置を変更して、位置合わせを再度行ってください。



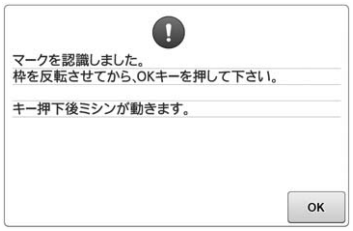
縫製画面上で 戻る が押された
縫製設定画面に戻るには、OK 押してください。刺しゅうがキャンセルされます。



繰り返し模様（ボーダー模様）を縫製設定画面で回転しようとした



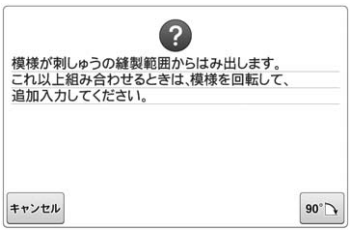
別売のジャンボ枠用の模様をぬうとき、刺しゅう位置合わせマークを検出できない
P. 263の手順 8 から操作し直してください。



Linkモードでパソコンと通信できなかった
一旦電源を切り、再度入れてください。



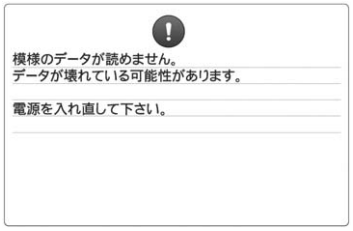
文字数が多くて曲線の配列ができない
文字数を少なくしてください。



セットされている刺しゅう枠に対し、組み合わせた模様が大きすぎる
模様を90度回転させた上で、模様を追加してください。



組み合わせた模様は最も大きい刺しゅう枠でもぬうことができない
模様の組み合わせを変えてください。



呼び出そうとした模様データに異常がある
模様データを確認してください。
・模様データが破損している。
・他社製のデータ作成装置で作成されたデータを呼び出そうとした。
(P. 156参照)
ミシンを正常な状態に戻すため、電源を入れ直してください。



記憶された模様を呼び出している



ミシンのメモリーがいっぱいで模様が記憶できない
不要な模様を削除してください。



USB メディアのメモリーがいっぱいで模様が記憶できない
模様を消去するか、USB メディアを交換してください。



刺しゅうが完了していない状態で電源が切られ、再び入れられた
刺しゅうを再開するときは、OK を押してください。電源が切られる前の縫製画面が表示されたら、ぬい目を戻して刺しゅうを再開してください。
(P. 129参照)



糸が、糸切り糸かけの溝を正しく通っていない
糸を溝に正しく通してください。

ワイパーに糸がからんでいる
糸を取り除いてください。

針板まわり（移動刃、固定刃、糸保持板）に糸くずやほこりなどがたまっている
針板まわりの掃除をしてください。
(P. 283参照)

次の画面が表示されたときは、お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。



















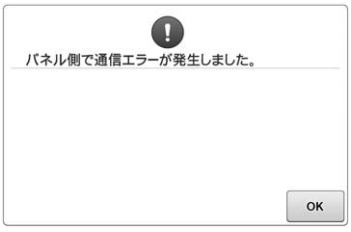




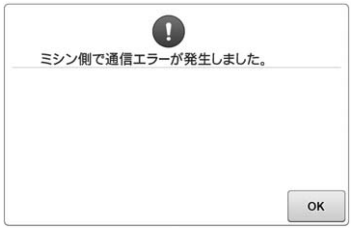














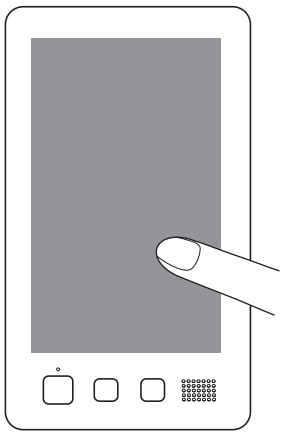




キーを押しても反応しないときは

画面上のキーを押しても変化がない（入力できない）場合や、キーがずれている場合は、次の手順で画面の調整をしてください。

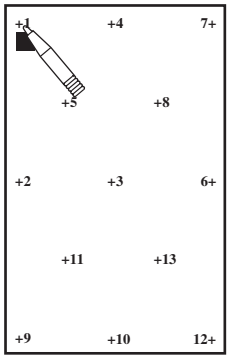
1 **画面（どの部分でもよい）を押しながら、電源スイッチを入れ直します。**



- 次の画面が表示されるまでずっと画面を押し続けてください。
- スタート／ストップスイッチは点灯しません。

→ 次の画面が表示されます。

2 **画面の四隅と中央に表示されている13の十字ポイントを、付属のタッチペンを使って 1 から 13 の順で軽く押していきます。**



⚠ 注意

- 必ず付属のタッチペンを使用して調整してください。シャープペンシル、ドライバーなどの先のとがったものや硬いもので押さないでください。また、画面に無理な力をかけないでください。故障の原因となります。

3 **調整が成功すると、画面に「SUCCESS」と表示されます。これを確認して調整は完了です。**

- ポイントのいずれかが正しく押されずに調整に失敗すると、最後の 13 を押したときチャイム音が鳴って、画面に「ERROR」と表示されます。もう一度、画面に表示された数字から順に丁寧にポイントを押し直してください。

お願い

- 調整をしてもキー入力ができない場合、または調整ができない場合は、お買い上げの販売店、または「PR/VR 専用ダイヤル」にご相談ください。

4 **調整が終わったら、電源スイッチを入れ直します。**

仕様

本体仕様

項目	仕様
製品質量	42.5 kg
本体寸法	幅561mm×奥行589mm×高さ790mm
ぬい速度	最大／筒：毎分1000針、帽子：毎分600針 速度／最大：毎分1000針、最小：毎分400針
定格電圧／消費電力	100V（50／60Hz）／116W
釜型	垂直回転釜
釜寸法	標準サイズ
針	HA130EBBR / #11
針数	10本
糸調子	手動
帽子ぬい	（別売り）ヨコ360mm×タテ60mm
筒ぬい	（4種類の刺しゅう枠が使用できます） ヨコ360mm×タテ200mm ヨコ180mm×タテ130mm ヨコ100mm×タテ100mm ヨコ60mm×タテ40mm
糸切り	あり／上糸・下糸
糸センサー	あり／上糸・下糸
自動針穴糸通し	あり
パソコン通信	USB ポート
使用可能メディア	USBメディア／SDカード

ミシンのソフトウェアをアップグレードする

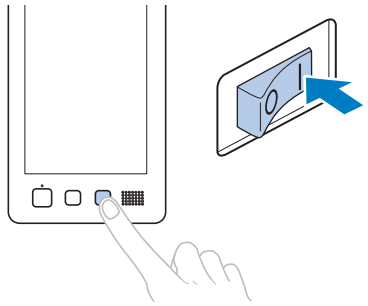
USB メディアまたはパソコンを使用して、ミシンにインストールされているソフトウェアをアップグレードすることができます。アップグレード情報については、お近くの販売店または「PR/VR 専用ダイヤル」にお問い合わせいただくか、ブラザーソリューションセンター （http://solutions.brother.co.jp/） で今後掲載される情報を参照してください。

ウェブサイトまたは次の手順に従って、ファイルをダウンロードしてください。USB を使用して、アップグレード／更新ソフトウェア（**********.upf）をダウンロードできます。

お願い
●USB メディアを使用してソフトウェアをアップグレードする場合は、今回のアップグレードに使用する USB アップグレードファイル以外のデータが保存されていないことを確認してください。

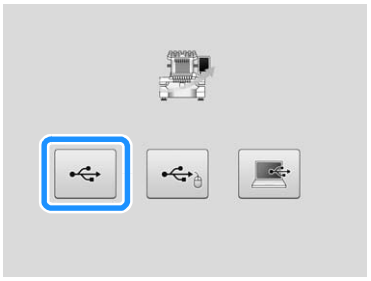
USB メディアを使用したアップグレード手順

1 **自動針穴糸通しスイッチを押しながら、電源を入れます。**

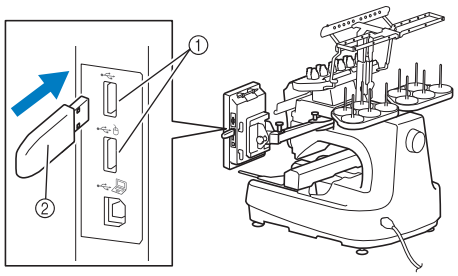


→ 以下の画面が液晶画面に表示されます。

2 **を押します。**



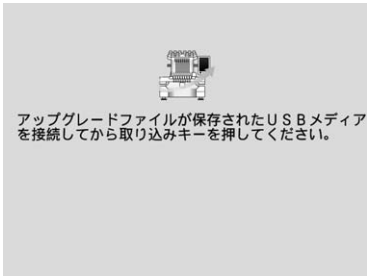
3 **ミシンの USB ポートに USB メディアを差し込みます。メディアには、アップグレードファイル以外のデータが入っていない状態にしてください。**



① USB ポート
② USB メディア

お願い
●USB メディアを差し込むと、アクセスランプが点滅します。メディアの認識には 5、6 秒かかります。（この時間は、USB メディアによって異なります）。

4 取り込み を押します。



→ アップグレードファイルがダウンロードされます。

お願い
●エラーが発生すると、赤い文字のエラーメッセージが表示されます。ダウンロードが成功すると、以下のメッセージが表示されます。



5 USB メディアを取り外し、ミシンの電源を一旦切ってから再び入れます。

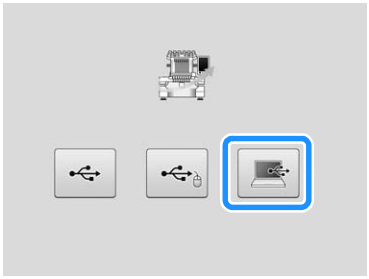
パソコンを使用したアップグレード手順

お願い
●USB ケーブルを使用する場合は、パソコンに USB メディアを差し込まないでください。

1 自動針穴糸通しスイッチを押しながら、電源を入れます。

→ 以下の画面が液晶画面に表示されます。

2 を押します。



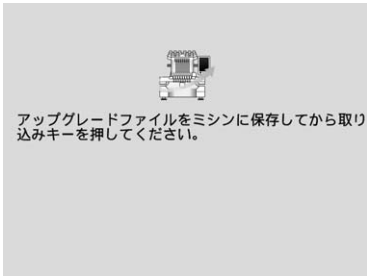
3 USB ケーブルをパソコンとミシンのそれぞれ対応する USB ポートにつなぎます。

→「コンピューター（マイコンピュータ）」に「リムーバブルディスク」が表示されます。

4 アップグレードファイルを「リムーバブルディスク」にコピーします。



5 取り込み を押します。



→ アップグレードファイルがダウンロードされます。

お願い

●エラーが発生すると、赤い文字のエラーメッセージが表示されます。ダウンロードが成功すると、以下のメッセージが表示されます。



6 USB ケーブルを抜き、ミシンの電源を一旦切ってから再び入れます。

索引

数字

10 本針ミシン 9

A

AC アダプター 41

D

DST 87
DST 設定 ..... 226、233

L

Link（リンク） 178

P

PES 糸コード 232

S

SD カード ..... 88、169、173

T

T シャツ 258

U

USB ポート 88
　パソコンをつなぐ 89
　マウスをつなぐ 90
　USB メディアをつなぐ 89

あ

アップリケアルファベット 168
アップリケ模様 246

い

一時停止 74
　糸替え 148
　ポーズ位置指定 148
一時的針棒設定キー ..... 86、150
糸 ..... 64、256
糸案内 ..... 20、65
糸案内ピン 20
糸案内を組み立てる 31
糸色表示 231
変更する
　糸色表示 231
移動キー ..... 80、83、105、184
糸替え表示 86
糸切りスイッチ ..... 21、75
糸切り設定キー 190
糸こま 121
　簡単交換 122
　交換 121
糸こま交換マーク ..... 85、120
糸印 199
糸センサー 238
糸立 LED ..... 121、237
糸立台 ..... 20、32
糸調子 131
糸調子つまみ ..... 20、132
糸通し
　上糸設定 62
　下糸 40
　針穴 68
糸通しをする 71
糸残り量 234
糸残り量の設定 226
糸道上 20
糸道上糸調子つまみ 132
糸道中 20
糸密度 ..... 186、192
糸密度キー ..... 81、192
イメージキー ..... 79、80、83
色替え数 ..... 79、82
色パレット ..... 201、254

う

上糸 ..... 38、62、64

え

液晶画面（タッチパネル） ..... 21、38、78
エコモード 235
エラーメッセージ 297

お

オープニング画面 237
大きさキー ..... 79、81、185
大きさ（縦） ..... 79、80
大きさ（横） 79
お手入れ ..... 240、282

か

回転キー ..... 81、82、83、188、206
回転角度 80
回転調子皿 66
ガイド表示 229
拡大表示 182
確認する
　糸こま交換 120
　仕上がりイメージ 54
　針棒と糸色 62
各部のなまえとはたらき ..... 20、240
釜 282
釜カバー／釜 20
画面 ..... 38、78
画面の見方 48
画面早見表 78
カラーシャッフル 194
カラーシャッフル機能 194
換気口 21
カントンフリース 258

き

記憶キー 169
基本手順 39
キャリッジ 20
キャンバス地 258

く

繰り返し模様（ボーダー模様） 197
グループ化 184

け

ゲージ ..... 266、271
言語 228
言語の切り替え 239

こ

コーデュロイ 258
ゴルフシャツ 258
コンピューター
　ポート 89

さ

削除
　小ピッチのステッチ 234
　模様 205
削除キー ..... 80、165
サテンジャケット 258
左右反転キー ..... 81、185

し

仕上がりイメージ 54
刺しゅう
　基本操作 72
刺しゅう位置 105
刺しゅう位置合わせシール .....115、213、217、263
刺しゅう糸 64
刺しゅうシート 102
刺しゅうする
　小さい布地にぬう 103
　斜めに繰り返す 144
　布地の隅にぬう 103
　文字をつなげる 145
　リボンテープにぬう 103
刺しゅうデータ 156
刺しゅう模様 158
　選び方 51
　編集 53
刺しゅう枠
　種類 97
　取り付け方 58
　布地の張り方 56
　外し方 76
刺しゅう枠表示 56
刺しゅうを再開する 129
刺しゅうをぬう 72
下糸 37
下糸案内 20
下糸を準備する 42
しつけぬい 136
自動止めぬい 142
自動針穴糸通しスイッチ .....21、68
自動針穴糸通し装置 68
ジャンプコード 233
ジャンボ枠 262
手動糸色割付 140
手動針棒設定 .....151、227
仕様 .....9、305
小ピッチ削除 .....226、234
シルク 258

す

スウェットシャツ 258
スクリーンセーバー 235
スタート／ストップスイッチ .....21、73
ステッチシミュレーター画面 54
スピーカー 21
スピーカー音量 238

せ

設置 27
接着芯 .....100、256、258
設定キー 226
セットキー 79
選択
　刺しゅう模様 .....51、183
前面 20

そ

操作画面の流れ 49
操作パネル .....20、21、30
掃除する
　糸道 285
　釜 282
　画面 282
　注油 286
　針板まわり 283
　ボビンケース 284
　本体表面 282
　メンテナンスメッセージ 287
装飾アルファベット 167

た

台枠 96
　取り付け方 .....33、279
　外し方 268
タオル地 258
タジマフォーマット .....157、233、255
タッチペンホルダー 21
ためしキー .....61、83

ち

中心からの距離（縦） 80
中心からの距離（横） 80
中心表示 231
注油する 286
調整する
　位置 184
　糸調子 131
　角度 106
　画面 304
　画面の明るさ 239
　刺しゅう位置 105
　操作パネル 30
　帽子枠 270
　縫製速度 147
調節する
　脚 29

つ

次のページへキー 79

て

テーブル 259
停止予約キー .....86、148、150
適応枠表示 .....56、80、82
デニム 258
電源オフサポートモード 235
電源コード .....41、46、77
電源スイッチ .....21、46、77
電源プラグ 21

と

途中からぬい直す 126
止めぬいキー .....83、142
トラブルチェック .....240、288
ドレスシャツ（織物） 258

な

内蔵カメラ .....20、112、211
内蔵ソフトのアップグレード 306
　パソコンを使う 307
　USB メディアを使う 306
長さの単位 .....228、238

に

日時設定 .....47、48
ニット 258

ぬ

ぬい順数 85
ぬい始め／終わり位置設定キー .....83、143、144
ぬい目戻る／進むキー .....86、123、126
ぬい目を戻してぬう .....123、126
ぬう
　アップリケぬい 246
　ベースラインを決めてぬう 253
布厚センサー .....111、229
布地
　大きい／小さいとき 103
　刺しゅう枠から外す 76
　注意事項 38
　注意事項（帽子） 268
布地を張る .....56、101、257
布／接着芯の適合表 258

は

バージョン .....228、306

背景画像表示 ....109、229
配色キー ....81、192、194
背面 21
配列キー ....81、166、188
始めからぬい直す 126
パソコン
　接続 156
肌着やシルク 258
針 37
　糸通し 68
　交換 94
針数 85
針数再計算モード 186
針棒 64
針棒／枠移動キー 48
針棒キー ....63、86
針棒ケース 20
針棒をロックする 106
針もとライト ....20、237

ふ

プーリー 21
付属品 22
部分表示 85
分割模様 249

へ

別売品 25
変更する
　位置合わせシールの位置 217
　糸こま 121
　糸密度 192
　ガイド表示 229
　言語 239
　刺しゅう位置 105
　しつけ距離 234
　長さの単位 238
　文字間隔 189
　文字のサイズ 191
　文字の配列 188
　文字フォント 191
　模様の色 192
　模様の大きさ ....185、186
編集 ....53、182、206
　組み合わせ 207
編集画面 ....53、80、182
編集キー 83
編集終了キー 80

ほ

ボーダー枠 199
帽子 258
　ゴルフタイプ 267
　標準タイプ（円筒型） 267
　模様作成時の注意 280
　ロープロタイプ 267
帽子枠 266
　準備 268
　セット方法 273
　外し方 278
帽子枠ドライバー 268
　調整方法 270
　取り付け方 268
縫製位置
　合わせる 109
縫製エリアの表示色 233
縫製画面 ....62、85
縫製キー 83
縫製最高速度 147
縫製最高速度設定キー 86
縫製時間 85
縫製設定画面 ....60、82、206
縫製速度 147
ボビン 37
　取り出し方 40
ボビンケース ....40、284

ま

マウスポインターの形 238
前のページへキー 79

み

右側面 21
ミシンの使い方キー 240
ミシンを使いこなす 252

め

綿の敷布 258

も

文字間キー 189
文字模様 163
文字模様を分割する 189
文字をつなげる 145
戻るキー ....78、79、86
モノグラムと枠デザイン 161
模様一覧画面 ....51、79
模様選択画面 ....51、78
模様選択キー 183
模様つなぎ 211
模様と文字を組み合わせる 207
模様の移動 184
模様の色を変える 192
模様の大きさ ....80、82
模様の回転 ....106、188、206
模様の反転 185
模様の複製 205
模様の呼び出し
　USB メディア／SD カード 173
　パソコン 174
　ミシンのメモリー 173
模様表示エリア 82
模様を選ぶ 158
模様を組み合わせる 182
模様をつなぐ 211
　回転した模様 219
模様を保存する
　USB メディア／SD カード 169
　パソコン 170
　ミシンのメモリー 168

ゆ

ユーザーパレット ....201、203

り

リンク（Link 機能） 178

れ

レベル座 20
連続刺しゅう（1 色） 150

ろ

ロック解除キー ....72、86
ロック機能 72

わ

枠模様 160
渡り糸切り 233

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「PR/VR専用ダイヤル」にお問い合わせください。

■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低８年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「PR/VR専用ダイヤル」にご相談ください。

■ PR/VR専用ダイヤル

本製品の使い方やアフターサービスについてご不明の場合は
お買い上げの販売店または「PR/VR専用ダイヤル」までお問い合わせください。

〒467-8577　愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

PR/VR専用ダイヤル　　Tel：050-3786-3125
050（ゼロ ゴー ゼロ）で始まる電話番号です。
Fax：052-824-3031

受付時間: 月曜日～金曜日　9:00～12:00　13:00～17:30
休業日: 土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- 「PR/VR専用ダイヤル」は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
- ミシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「PR/VR専用ダイヤル」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、製品に関する様々な情報を掲載しております。
http://www.brother.co.jp/

ブラザーソリューションセンターでは、製品に関するサポート情報を掲載しております。
http://support.brother.co.jp/

ブラザー工業株式会社

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1　〒467-8561

884-T13
Printed in Taiwan

XG5977-001